

# 横 町 遺 跡

— 新環状・西関東道路建設に伴う発掘調査報告書 —

2002・3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

# 横 町 遺 跡

— 新環状・西関東道路建設に伴う発掘調査報告書 —

2002・3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

# 序

本書は、新環状・西関東道路建設に伴い平成11年度に発掘調査された春日居町横町遺跡の発掘調査報告書であります。今回の調査は本線の交差点予定部分にかかったため通常の本線部分に比べやや広く調査し、約4,000m<sup>2</sup>を対象といたしました。

本遺跡は、平成10年度の試掘調査によって初めてその存在が確認された訳ですが、その段階では平安時代末頃の遺物が若干出土したことから、対象域内の微高地上に小規模な集落が存在する程度と予想しておりました。

本調査に先立って再度試掘調査を行い、さらに対象域を絞り込むと同時に、より詳細なデータを得ましたが、これにより平安時代末だけでなくこれまで春日居町地域ではほとんど確認例のない弥生時代後期の遺物が予想外に多く出土し、その時期の集落も予想されました。

調査の結果、弥生時代後期の住居跡12軒、平安時代後期の住居跡25軒と溝2条、時期不明の土坑、さらにそれらより新しく位置づけられる建物状の土坑配列などが確認されました。遺物ではそれぞれの時期の住居跡や溝に伴う弥生土器・土師器・灰釉陶器などが出土し、甲府盆地北部でのさまざまな新知見を得る事ができました。弥生時代では後期前半という時期の集落の調査例は非常に少なく、遺物の面からもこれまでの不足を補う貴重な資料が得られました。また、わずか1点でそれも底部あたりの小破片にすぎませんが、弥生時代後期に位置づけられる小型の土製品が確認されました。このような資料はこれまで県内では全く未確認であったことから、周辺資料と対比した結果、山梨県周辺では長野県北部～東部の箱清水式土器文化圏というごく限られた範囲にのみ散見される土製品であることが明らかとなりました。平安時代の集落からも多くの遺物が出土し、とくに灰釉陶器と平安時代末期の土師器との伴出関係など興味深い資料が得られました。

本報告書が多くの方々の研究資料としてご利用いただければ幸甚です。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2002年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所長 大塚 初重

# 例 言

- 1 本書は、平成 11 年度に新環状・西関東道路建設に伴い発掘調査された春日居町横町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、県土木部の委託を受けて県教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査及び出土品の整理は山梨県埋蔵文化財センターで行い、長沢宏昌・三森鉄治が担当した。
- 4 本報告書の編集は長沢が行った。第 1 章・第 2 章を三森が、第 3 章・第 5 章を長沢が執筆した。なお、自然科学分析は(株)パリノサーヴェイに委託し、その成果は第 4 章に示した。
- 5 写真撮影は遺構を長沢・三森が、遺物を写真家・小川忠博が行った。
- 6 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 7 発掘調査および本報告書の作成にあたり、以下の方々にお世話になった。記して謝意を表する次第である。  
齊藤 孝正(文化庁)  
内田 裕一(春日居町教育委員会)  
小林 秀夫(長野県埋蔵文化財センター)  
百瀬 長秀(長野県埋蔵文化財センター)  
堀内規矩雄(長野県立歴史館)  
小山 岳夫(御代田町教育委員会)  
羽毛田卓也(佐久市教育委員会)  
江川 幸子(松江市教育委員会)

# 目 次

序	
例言	
第1章 調査概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査組織.....	1
第2章 遺跡周辺の環境.....	2
第3章 遺構と遺物.....	3
第1節 遺構・遺物の概要.....	3
第2節 弥生時代住居跡.....	3
第3節 弥生時代遺物集中区.....	6
第4節 平安時代住居跡.....	7
第5節 土坑.....	11
第6節 溝.....	14
第7節 遺構外出土遺物.....	14
第4章 自然科学分析.....	97
第5章 調査の成果と課題.....	99

# 挿 図 目 次

- |        |                       |        |               |
|--------|-----------------------|--------|---------------|
| 第 1 図  | 遺跡位置図                 | 第 42 図 | 出土遺物 4        |
| 第 2 図  | 道路センターラインと調査区域        | 第 43 図 | 出土遺物 5        |
| 第 3 図  | 調査全体図                 | 第 44 図 | 出土遺物 6        |
| 第 4 図  | 1号住居跡                 | 第 45 図 | 出土遺物 7        |
| 第 5 図  | 2号住居跡                 | 第 46 図 | 出土遺物 8        |
| 第 6 図  | 3号住居跡                 | 第 47 図 | 出土遺物 9        |
| 第 7 図  | 13号住居跡                | 第 48 図 | 出土遺物 10       |
| 第 8 図  | 14号住居跡                | 第 49 図 | 出土遺物 11       |
| 第 9 図  | 15号住居跡                | 第 50 図 | 出土遺物 12       |
| 第 10 図 | 16号住居跡                | 第 51 図 | 出土遺物 13       |
| 第 11 図 | 18号住居跡                | 第 52 図 | 出土遺物 14       |
| 第 12 図 | 26号住居跡                | 第 53 図 | 出土遺物 15       |
| 第 13 図 | 27号住居跡 32号住居跡         | 第 54 図 | 出土遺物 16       |
| 第 14 図 | 35号住居跡                | 第 55 図 | 出土遺物 17       |
| 第 15 図 | 弥生時代遺物集中区             | 第 56 図 | 出土遺物 18       |
| 第 16 図 | 弥生時代遺物集中区微細図          | 第 57 図 | 出土遺物 19       |
| 第 17 図 | I-26 グリッド弥生土器集中区      | 第 58 図 | 出土遺物 20       |
| 第 18 図 | 4号・9号・11号・12号・37号住居跡  | 第 59 図 | 出土遺物 21       |
| 第 19 図 | 4号・9号・11号・12号住居跡カマド   | 第 60 図 | 出土遺物 22       |
| 第 20 図 | 5号住居跡                 | 第 61 図 | 出土遺物 23       |
| 第 21 図 | 6号住居跡                 | 第 62 図 | 出土遺物 24       |
| 第 22 図 | 7号・8号住居跡              | 第 63 図 | 出土遺物 25       |
| 第 23 図 | 10号住居跡                | 第 64 図 | 出土遺物 26       |
| 第 24 図 | 17号住居跡                | 第 65 図 | 出土遺物 27       |
| 第 25 図 | 19号・20号住居跡 23号土坑      | 第 66 図 | 出土遺物 28       |
| 第 26 図 | 21号・22号・23号住居跡        | 第 67 図 | 出土遺物 29       |
| 第 27 図 | 24号住居跡                | 第 68 図 | 出土遺物 30       |
| 第 28 図 | 25号住居跡                | 第 69 図 | 出土遺物 31       |
| 第 29 図 | 28号住居跡                | 第 70 図 | 出土遺物 32       |
| 第 30 図 | 29号住居跡                | 第 71 図 | 出土遺物 33       |
| 第 31 図 | 30号住居跡                | 第 72 図 | 出土遺物 34       |
| 第 32 図 | 31号住居跡                | 第 73 図 | 出土遺物 35       |
| 第 33 図 | 33号住居跡                | 第 74 図 | 出土遺物 36       |
| 第 34 図 | 34号住居跡                | 第 75 図 | 出土遺物 37       |
| 第 35 図 | 土坑                    | 第 76 図 | 出土遺物 38       |
| 第 36 図 | 24号土坑～30号土坑(掘建柱建物状配置) | 第 77 図 | 出土遺物 39       |
| 第 37 図 | 2号溝                   | 第 78 図 | 出土遺物 40       |
| 第 38 図 | H-19・20 グリッド内遺物集中     | 第 79 図 | 弥生時代後期前半の集落分布 |
| 第 39 図 | 出土遺物 1                | 第 80 図 | 笛状土製品         |
| 第 40 図 | 出土遺物 2                | 第 81 図 | 鉢付着ススとオコゲ     |
| 第 41 図 | 出土遺物 3                |        |               |

# 表 目 次

表 1 遺物観察表 .....	82	表 4 金の尾・下横屋・堂の前・音羽・横町 各遺跡遺構遺物比較一覧 .....	100
表 2 樹種同定結果 .....	97		
表 3 微細物同定結果 .....	98		

# 図 版 目 次

図版 1 遺跡全景	図版 9 24号住居跡 24号住居跡カマド 29号住居跡 30号住居跡 H-20グリッド遺物 同
図版 2 遺跡遠景 1号住居跡 1号住居跡遺物 2号 住居跡 3号住居跡 15号住居跡	図版 10 出土遺物
図版 3 15号住居跡遺物 同 同 18号住居跡 18号住居跡遺物 18号住居跡炭化材	図版 11 出土遺物
図版 4 18号住居跡炭化材 同 同 26号住居跡 26号住居跡遺物 同	図版 12 出土遺物
図版 5 35号住居跡 弥生時代遺物集中区 同 同 同 4号住居跡	図版 13 出土遺物
図版 6 4号住居跡カマド 5号住居跡 5号住居跡 遺物 同 5号住居跡カマド 同	図版 14 出土遺物
図版 7 5号住居跡カマド 7号住居跡カマド 7号住居跡遺物 同 10号住居跡 11号住 居跡	図版 15 出土遺物
図版 8 11号住居跡遺物 同 同 21～23号住居跡 24・25号住居跡 25号住居跡遺物	図版 16 出土遺物
	図版 17 出土遺物
	図版 18 出土遺物
	図版 19 出土遺物
	図版 20 18号住居跡炭化材断面

# 第1章 調査概要

## 第1節 調査に至る経緯

国道141号線(青梅街道)の北側に建設中の新環状・西関東道路の敷設に先立って、平成10年度に、春日井町下岩下字横町周辺の試掘調査が実施された。その結果、土師器を中心とする平安時代の遺物が検出されたことから、発掘調査が必要と判断された。

平成11年6月18日より遺跡周辺の試掘調査に着手した。平成11年度の試掘では、前年度に試掘された場所に加えて、工事の着工が予定されている周辺部全域にわたって実施した。試掘は、1m×2mほどの試掘溝(トレンチ)を約5m間隔で任意に設定し、掘り下げを行った。その結果、平成10年度に調査が必要と判断された区域にその隣接地500m<sup>2</sup>を加えて、総面積約5000m<sup>2</sup>を調査対象とすることにした。県土木部にこの結果を報告し、7月より本調査を開始した。

発掘調査は、平成11年7月1日～11月30日の5ヶ月間にわたって実施し、基礎整理作業は平成11年12月～3月、本格的整理作業は平成12年10月～平成13年12月までの約1年2ヶ月間かけて実施された。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成11(1999)年4月 道々芽木遺跡の発掘通知を文化庁長官に提出

平成11(1999)年11月 道々芽木遺跡の埋蔵文化財発見通知を甲府警察署長に提出

## 第2節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 平成11年度・12年度 長沢宏昌(県文化財主事)

三森鉄治( )

作業員 雨宮昭仁、赤岡 敦、斉藤重信、高野眞寿美、平本玲子、飯田みづほ、佐藤武光、宮沢初恵、深沢芳邦、依田政子、志村昌昭、佐田久男、廣瀬金吾、手塚房子、手塚盛明、川口雅人、野呂瀬 優、古屋清美、山下勝美、山下正子、長沼真一、長田 淳、酒井誠一、佐野友美、駒田壮飛、渡邊初江、鈴木幸子、梶原洋子、渡邊千春、渡邊 誠

整理作業員 高野眞寿美、平本玲子、雨宮昭仁、古屋清美、飯田みづほ、斉藤重信、佐藤武光、手塚房子、雨宮一二三、江川理恵、斉藤律子、平川涼子、長田久江、伊能あや子、渡辺和子

## 第2章 遺跡周辺の環境

横町遺跡のある東山梨郡春日居町は、県の中央部、甲府盆地の東部に位置し、東と北は山梨市、西は甲府市、南は石和町と一宮町と接する。北に兜山・菩提山が聳え、南東に笛吹川が流れる。調査区は、笛吹川の支流・平等川によって形成された自然堤防上、標高約290mに位置する。所在地の下岩下という字名は、隆々と岩肌の露出する兜山の「岩の下」に立地することに因むという。本遺跡周辺には、上田町遺跡、市道遺跡、中川田遺跡等、平安時代を中心とする遺跡群が濃密に分布する。

この一帯は古代の山梨郡に属し、郡名との関係が推定される山梨岡神社が鎮目地区に鎮座する。また、国府(こう)地区周辺は、御坂町国衙、一宮町東原の甲斐国分寺・国分尼寺周辺と共に、甲斐国府の所在地に比定される地域の一つである。「和名抄」には、甲斐国府が東八代郡にあると記されているが、その跡地は現在の御坂町国衙に比定される。「和名抄」が成立したのは10世紀中頃であるから、それより若干遡る9世紀末ころの甲斐国府が東八代郡にあったのは疑いないとされる。その一方で、この御坂町国衙は笛吹川の氾濫によって後に移転した場所であり、初期の国府は春日居町国府に置かれたとする有力な説もある。その根拠として、隣接地に甲斐最古の寺本廃寺のあること、国衙の鎮守社と言われる守宮明神(甲斐奈神社)が鎮座すること、山梨岡神社・賀茂春日両社明神等の古社や古墳群が近くに所在するなどの諸条件が挙げられている。まだ不確定な要素は多いものの、春日居町国府に初期の甲斐国府が置かれた点については、ほぼ定説になりつつあるようである。

縄文時代、弥生時代の遺跡は明確でなく、前者については鎮目地区で前期から後期の土器片が採取された程度であり、後者についても横町遺跡と隣接する上町田遺跡で少量の土器片が検出された程度で、今までに遺構が発見された事例はなかった。従って、今回の調査によって検出された弥生住居跡は町内初の発見と言える。古墳時代における町内の遺跡には、御室山古墳、笹原3号墳などの積石塚、天神のこし古墳、寺の前古墳・狐塚古墳等の後期古墳が知られている。このうち、寺の前古墳・狐塚古墳からは、三角縁変形神人鏡、雲珠、銅容器・直刀・刀子・鉄鏃・馬具・須恵器等の副葬品が出土した。律令期の7世紀末になると、寺本廃寺が造営される。県内で7世紀代に遡る唯一の寺であることから、この時期における春日居地域の勢力増大を象徴すると言えよう。寺本廃寺の瓦は、横町遺跡より4kmほど南西に位置する甲府市の川田瓦窯跡で生産された。奈良時代になると、隣接地の上土器遺跡と共に、一宮町国分寺の瓦をも供給するようになる。大化の改新(645)以後、大和朝廷は中央集権的国家体制の強化を図る。地方行政の面では、国・郡・里(郷)制が成立し、甲斐国には山梨郡、八代郡、巨麻郡、都留郡が設置された。近年の発掘調査によって、甲府市大坪遺跡から「表門郷」の刻書土器、一宮町松原遺跡で「林戸」、「石禾東」、同町大原遺跡で「玉井郷長」の墨書土器が出土し、各郷の所在地が次第に明らかになりつつある。上掲の大坪遺跡・道々芽木遺跡を含む甲府市東部が表門(うわと)郷、その東隣りが石禾郷、山梨岡神社の鎮座する春日居町鎮目の付近が山梨郷と推定されている。

平安時代の遺跡は、町内全域にわたって分布する。横町遺跡周辺では、東に中川田遺跡、西に上町田遺跡、南に市道遺跡がある。いずれも散布地であり、発掘調査は行われていないので詳細は不明である。

以上、本遺跡を取り巻く原始・古代における環境について概観した。本遺跡周辺は古墳後期から奈良・平安時代にわたる甲斐国の中心地であり、その意味でも極めて重要な地理的・歴史的環境にあると考えられる。

### 第1図 遺跡位置図 遺跡名

横町遺跡は図中の矢印部分 ●は古墳

- 1 中川田遺跡(平) 2 信虎誕生屋敷(中) 3 菩提山(中) 4 別田北遺跡(平) 5 上町田遺跡(弥～平) 6 市道遺跡(平) 7 別田南遺跡(平)
- 8 裏町遺跡(古～平) 9 桑戸遺跡(平) 10 熊野北遺跡(古・平) 11 小川奥右門屋敷(中)
- 12 加茂東遺跡(古・平安) 13 五反田遺跡(奈・平) 14 保雲寺遺跡(古・平安) 15 熊野南遺跡(古・平) 16 神東町遺跡(古・平)
- 17 春日神社裏遺跡(平) 18 寺本廃寺(古～平) 19 大尺遺跡(平) 20 櫛田遺跡(平) 21 大中寺遺跡 22 国府遺跡(奈・平)

※略字 弥：弥生、古：古墳、奈：奈良、平：平安、中：中世

# 第3章 遺構と遺物

## 第1節 遺構・遺物の概要

今回の調査は新環状・西関東道路とアクセス道路との交差点部分に当たるため、通常の本線よりも広いエリアが対象となった。試掘調査の結果、南北に細長い調査域が対象となった。グリッドは4mグリッドとしたが、工事に設置されていたA J T 5杭(座標 X = -36275,149 Y = 13961,874)からA J T 4-1杭(座標 X = -36310,874 Y = 13941,209)を見通したラインを基準ラインとした。A J T 5杭から10mの地点に基準杭(D-16杭)を設置し、見通し方向に数字、直交方向にアルファベットをふって、4mグリッドを設定したものである。なお、数字の小さい方向を向いてグリッド中心に立った場合、その右後ろの杭がグリッド番号を示すことと規定した。

調査の結果、予想以上の遺構遺物集中区域が確認された。弥生時代後期の住居跡12軒、遺物集中区1カ所、平安時代後期の住居跡25軒、竪穴遺構1基、遺物集中区域1カ所、時期不明の土坑16基と掘建柱建物跡らしき柱穴列2基などである。

以下に時期毎に各遺構の概要を記すが、遺物は弥生時代住居跡内出土土器から遺構外の平安時代遺物、石器・鉄器まですべてを通しナンバー表示することとする。

## 第2節 弥生時代住居跡

### ・1号住居跡

E-7・8、F-7・8グリッド。1号竪穴状遺構に切られる。長径5m、短径4.5mの楕円形を呈する。確認面からの深さは10cmと浅く、床は軟弱である。柱穴は全く確認されなかった。主軸は南東-北西方向を示す。床面上に10×20cmの範囲にわずかに焼土が確認されたが、これは主軸ライン上の南側壁にちかく、これが炉跡とすれば他の住居跡と全く反対方向の入り口が想定されることになる。焼土がわずかに飛散する程度であることや同じ方向に炭化材が確認されていることなどから、これを炉とは認識しにくく、炉は1号竪穴状遺構に切られた部分に想定しておきたい。

遺物は非常に少ない。(1・3・4)はいずれも床面直上からの出土である。

### ・2号住居跡

D-10・11、E-10・11グリッド。長径3.8m、短径3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ35cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在したものと考えられるが、主軸に直交する枕石が確認されたものの、焼土・カーボンはその付近に全く確認されなかった。

柱穴は、主軸からみて左側には4基、右側には3基が確認されているが、入り口部分の左右2基だけが深く他は浅いものである。本来右側にも4基あったものと想像されるが、ほとんど掘り込みが確認できない程度の浅いものであったと考えられる。

遺物はわずかである。甕(6・8)と台付甕の高台部(7)はいずれも覆土からの出土である。

### ・3号住居跡

E-6・7、F-6・7グリッド。北側の一部を溝によって切られており、南側1/3は調査区域外のため未調査である。推定長径4.4m、短径3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ10cmを計る。主軸は南南東-北北西で、他の住居跡に比べやや南を向いている。炉は主軸ライン上に存在する。砂層を掘り込んだ住居跡であり、床面も砂で軟弱である。

炉は枕石を有する地床炉で、主軸ライン上の奥壁寄りに位置する。枕石の入り口部側が地床炉の燃焼部となり、深さ約10cmにわたって焼土(砂)が確認されている。柱穴や周溝などは確認されなかった。

遺物も非常に少ない。甕(10)、壺(11)、蓋(9)などが出土している。蓋は床面直上である。

#### ・13号住居跡

G-11・12、H-11・12グリッド。2号溝によって東側の一部を切られ、中央部には攪乱が入っている。推定長径4.6m、短径3.8mの楕円形を呈し、確認面でいきなり床面が検出された状況である。したがって、壁は確認できても数cm確認に過ぎない。主軸は東南東-西北西で主軸ライン上の北西寄りに直径40cmで炭化物の集中が見られた。枕石や焼砂は確認されなかったが、おそらく炉と思われる。柱穴その他の施設も確認されていない。

遺物も少なく、片口(14)、甕(15)を示す。片口は床面直上である。

#### ・14号住居跡

E-11・12、F-11・12グリッド。長径5.0m、短径4.5mの楕円形を呈し、本住居跡も確認面がそのまま床面であった。溝に一部を切られている。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。2号住居跡と同様、本住居跡でも主軸に直交する枕石が確認されたものの、焼砂・カーボンはその付近に全く確認されず、炉の構造や使用を窺い知る状況ではない。ただ、住居の推定範囲内には焼砂やカーボンがあちこちに飛散しており、一見して火災住居であったことが想定される。柱穴や周溝は確認されていない。

遺物のごくわずかで、甕(16・17)、ミニチュア(18)を示す。もちろん、いずれも床面直上で、とくにミニチュアは入り口部付近に置かれていた。

#### ・15号住居跡

H-16・17、I-16・17グリッド。平安時代の17号住居跡に一部切られているが、推定長径4.6m、短径3.9mの楕円形を呈し、確認面からの深さ5cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。

炉は、奥壁に近い部分に位置し、主軸に直交する枕石と、枕石に接して80×60cmの楕円形に5cmの厚さで焼砂が確認された。

柱穴は6本確認されている。主軸に対し、左右対称の位置に3本づつが確認されたもので、径40～50cm、深さ20～25cmを計る。

遺物は入り口右側に比較的多く集中していた。(19)は住居中央奥の炉を挟んでその両側につぶれていた。(21)は入り口左に大破片が、右に小破片となって散っていたもので、いずれも床面直上出土である。(20)も中央付近からの床面直上から出土している。器種は壺・甕・高坏・蓋が確認されている。

#### ・16号住居跡

I-17・18、J-17・18グリッド。長径5.8m、短径5.0mの楕円形を呈し、確認面からの深さ5cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。柱穴その他の施設は全く確認されなかった。

炉は、奥壁に近い部分に位置する地床炉で、枕石はなく70×50cmの楕円形に5cmの厚さで焼砂が確認された。

遺物は少なく、口唇部に刻みを有する甕と折り返し口縁の壺の破片が出土したのみである。

#### ・18号住居跡

I-23・24、J-23・24グリッド。本住居跡の上には平安時代の19号、20号住居跡とそれより新しい時期の23号土坑が構築されている。平安時代の2軒の住居跡は掘り込みも浅く影響はほとんど無いが、土坑は本住居跡床面よりさらに10cm以上深く掘り込まれていた。さて、本住居跡は長径5.2m、短径4.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ15cmを計る。壁は緩やかに立ち上がり、床面は軟弱である。主軸は南南東-北北西で、主軸ライン上

に炉が存在する。

住居跡内には4基のピットが確認された。主軸ラインに入り口を仮定すると、入り口両側にピットが確認される。柱穴であろう。右側は1本で、床からの深さ約20cm、左側には2本が確認され、いずれも25cmである。左の2本は右に比べ一回り大きい掘り方を有する。形状は違うものの、主軸ラインからはそれぞれ約1mである。他の1基は土坑内に確認されたものであるが、径30cm程度の不整円形を呈し、推定される床面からの深さは約20cmである。これも他の3基のピットと同じ深さであり柱穴と考えられよう。本遺跡の他の住居跡の例からすれば、6本柱穴が一般的であるため、主軸の対称位置、さらには奥側も精査したが全く確認できなかった。

炉は主軸ライン上に枕石が確認され、枕石の入り口側に径50cmの燃焼部がある。内部にはわずかに焼砂が確認できる程度であり、砂地での燃焼の結果は通常の焼土の形成とかなり状況が異なることをものがたるものであろう。

さて、本住居跡は火災住居である。入り口部から左側にかけて炭化材が多く残存している。図中のエレヴェーションc-c'、d-d'にみられるように住居内部に倒れ込む状況が確認できる。なお、c-c'に確認された材は円形ではなく板状を呈する。おそらく入り口部に横たわった材なども板状であったと考えられる。なお、これらの炭化材については樹種同定を行っているが、クヌギ節とコナラ節、さらにケヤキの3種類が確認されており、その詳細は第4章に示す。

遺物は口唇部に刻みを有する甕が多く、壺(49)、蓋(50)も確認されている。甕や壺の磨きは丁寧に行われている。また、小破片では波状文の施されたものが目立つ。なお、2点の紡錘車(250・251)が床面直上から出土している。

#### ・26号住居跡

H-24、I-24グリッド。小型の住居跡であるが、形状ははっきりしない。本住居跡は調査区内の北東側に展開する礫層に掘り込まれたものである。礫層の一面の礫のなか、ところどころに礫が見られず遺物がまとまっている状況が確認されたことから、それらを遺構と判断し、焼砂やカマド残骸などが確認されたものについて住居跡として報告することとした。本住居跡もそんな住居跡のひとつである。

礫の見られない範囲を結び、それを住居跡の推定範囲と考えた。長径3.2m、短径2.9m程度となり、ほぼ3mの円形と推定される。範囲内には焼砂が飛散している。明確な炉をはじめ、柱穴や周溝などの施設も確認されなかった。

遺物はすべて床面としたレベルとほぼ同一で出土している。複合口縁の壺(64)や甕(66など)、高坏(67)などが出土している。なお、わずかに波状文の施文された甕も見られる。

#### ・27号住居跡

I-27、J-27グリッド。本住居跡も26号住居跡同様礫層の礫空白部を住居跡と認識したものであり、平安時代の30号住居跡に切られている。推定径2.8m程度と考えておく。炉、柱穴など住居跡内施設は全く確認されないが、推定域には焼砂が飛散している。

遺物は少ない。ほとんど波状文と簾状文の甕であるが、内外面条痕の小破片(76)が1点確認されている。

#### ・32号住居跡

H-28・29、I-28・29グリッド。30号住居跡を挟んで27号住居跡と反対側に位置する。本住居跡も礫空白部分を住居跡と推定したものだが、推定径3.2m程度と27号住居跡より一回り大きい。やはり炉、柱穴などの施設は確認されていない。焼砂の飛散は同じである。

遺物は推定域全体から出土している。壺甕片口高坏など器種は豊富で出土量も比較的多い。波状文と簾状文の施されるものと条痕、さらに丁寧な磨きの行われるものなどバリエーションも豊富である。主体を成すのは波状文と

簾状文の組み合わせである。なお、107・108は上記の土器とは様相を異にし、櫛状工具による弧状文と斜格子が施文されたものである。他の土器に比べ一段階古く位置づけられるものである。

#### ・35号住居跡

H-21・22グリッド。長径4.2m、短径3.9mの楕円形を呈し、確認面からの深さ30cmを計る。床は軟弱である。主軸は南東-北西で主軸ライン奥に地床炉が確認された。

炉は枕石を有さない地床炉で、60×50cmの不整形に焼砂が形成されていた。焼砂の厚さは最大5cmである。柱穴周溝は全く確認されなかった。

遺物は住居全面からまばらに出土している。折り返し口縁の壺(110)や口縁部に刻みを有する甕(111)も確認されるが、主体をなすのは波状文・簾状文の甕である。そのほかの器種では高坏や片口などがある。なお、片口は炉の周辺に細片となって散っていた。

### 第3節 弥生時代遺物集中区

K～M-25～29グリッド。200m<sup>2</sup>程度の部分に弥生土器の集中が確認された。とくにK・L-27グリッド内で集中の度合いが濃い。土器は破片となって散っているが、24例の接合資料が確認されている。2m以内の接合例がほとんどであるが、最大の間隔を見てみると178は5.4m、126は3.6m、242は5.0m、154は5.0m、166は4.2m、169は4.0mを計る。これらについては、少なくともその場で捨てる(または置く)という行為は想定しにくく、離れた場所からの投棄とするほうが考え易い。接合破片数は最大が140の9点で、154の8点、134の6点と続く。

土器集中エリアの覆土は暗い褐色砂質土でとくに焼砂やカーボン、あるいは骨片などが集中していた訳ではない。また、石組みやピット、埋甕なども確認されなかった。ただ、土器に混ざって、人頭大の礫がまばらに確認されていることと、エリア内の一部にまるで住居床面であるかのような若干踏み固められた面(他遺跡の通常の住居跡の床面に比べるとはるかに軟弱である)が確認されている。

県内のこれまでの調査例ではこの時期のこのような土器集中区域の確認は初めてであろう。住居跡群の一角に形成された土器集中区域といえば、土器捨て場を想定することが最も自然なのであろうが、縄文集落で確認されるそれに比べ、土器の量も少なく規模も小さい。集中区域が調査区域外に伸びることはあり得ないことから、少なくとも10数軒の住居の生活廃棄物の集積場たる土器捨て場にしては遺物の量が少なすぎるのである。先に記した様相からは祭祀も想定できず、この遺構の性格の決定付けは現状では困難である。

土器は124～254までの131点を図示するが、実際にははるかに多くの小破片が出土している。器種には壺、甕、高坏がみられるが、波状文・簾状文の施された甕や条痕施文の甕の破片が目立つ。時期的にも同一時期の所産のものが多いと考えられるが、195・229のように一段階古く位置づけられる資料も含んでおり、このエリアの形成時期が短期間に限定できない状況である。

特殊遺物では紡錘車(252)が出土しているが、18号住居跡の2点とは形状が全く違い、断面四角形を呈し孔も大きい。また、249は中部高地の後期前半に時折見られる土製品で、完形で出土した事例では口縁部に小孔が穿たれており、笛の可能性が考えられる。なお、254は平安時代の甕の口縁部破片であるが、口縁部内面に焼成前にヘラ書きした文字(もしくは記号)が確認できる。このヘラ書きはさらに続いていたと思われるが、小破片であるため判読できない。このような資料は類例がないものと思われる。

## 第4節 平安時代住居跡

・4号、9号、11号、12号、37号住居跡

D～F-12～15グリッド。5軒の住居跡が複雑に切り合い、さらに9号住居跡は7号・8号住居跡とも切り合うが、ここではこの5軒の住居跡について記す。これらの住居跡は確認面から床面までが非常に浅く、セクションではっきり切り合いの順序が確認できる状況ではなかったうえ、それぞれの住居跡の床面レベルも同じであったため、覆土の土色で図示した平面図のような切り合い関係、すなわち12号→11号・37号→4号→9号住居跡の順で新しくなると想定した。37号住居跡以外の4軒の住居跡からは灰釉陶器が出土しているが、いずれの住居跡からも美濃系の虎渓山1号窯と一段階新しい丸石2号窯の灰釉陶器が出土しており、灰釉陶器から前後関係を求めることはできない。また、土師器は37号住居跡も含めほとんど同一の内容であり、そこから確実な時期差を求められない状況である。5軒とも柱穴等の施設は全く確認されていない。カマド前面とその残骸付近の床面は踏み硬められていたが、それ以外の部分は軟弱である。

12号住居跡以外の4軒の住居跡は住居の辺の向きが同じである。これに対し12号住居跡は45度傾き、主軸がほぼ南北となっている。大きさは4号住居跡が5mの正方形、9号住居跡が長軸5m、短軸4.5m、11号住居跡が一辺4.2m、37号住居跡が一辺3m、12号住居跡は推定で一辺4.5m～5m程度である。

カマドは9号と4号住居跡で確認され、カマド残骸らしき焼砂のまとまりが11号と12号住居跡で確認されている。以下にその概要を記す。

4号＝東壁の南コーナー寄りに構築された石組みカマドである。袖石は高さ30cm程度で、2ないし3枚の石を並べたと思われるが、一番奥の袖石が立ったまま残っていた。袖石間は30cmを計る。焼砂は約5cmの厚さで堆積していた。

9号＝東コーナーに構築された石組みカマドである。1号土坑によってほとんど破壊されていたが、左側袖石と土留め石が立ったままであった。焼砂は堆積がみられるほどではなく飛散する程度であったが、全面にカーボンが散っていた。

11号＝東コーナー付近から中央部にかけて焼砂とカーボンの集中がみられ10～30cm大の石や土器破片も集中していたことからカマド残骸と判断した。焼砂とカーボン集中範囲は2×1mで焼砂はわずかである。石はあきらかに元位置は動いているがコーナーから1m、壁から50cmの大型の石1点のみ埋め込まれた状態で原位置と判断した。したがって本住居跡のも9号同様東コーナーカマドと考えておきたい。

12号＝南壁中央と住居跡内中央の2カ所に焼砂とカーボンが集中していた。いずれも焼砂は5cm以下の厚さである南壁の集中部には石が全く確認されていないが中央部には1点30cm大の石が確認されている。この2カ所ともカマドであるとすれば2軒の住居跡の重複も考えられるが、壁が確認されたのは南壁とその東コーナーだけであったため、1軒の住居跡として報告しておく。本住居跡のカマド位置は南壁中央と判断する。

遺物は非常に多いが、土師器の坏・高台付坏・皿・甕・鉢・羽釜、灰釉陶器の坏・皿・碗・壺などが出土している。4号住居跡ではこのうち羽釜が含まれない。283・284は今回の調査で唯一確認された青磁である。9号住居跡では土師器はすべての器種が存在するが灰釉陶器概要を少ない。また、273に示した4号住居跡の鉢と本住居跡の415では形状その他に大きな違いがあり興味深い。前者は他の甕と同様の胎土と整形が行われているのに対し、後者は大粒の砂粒が目立ち、質感が全く異なる。11号住居跡はすべての器種に小型の甕も加わり、量も多い。支障破片であるため正確さには欠けるが、羽釜が目立つ。12号住居跡も11号住居跡とほとんど同じ内容である。37号住居跡は遺物が少ない。

これら5軒の住居跡で共通するのは小型の坏である。底部の形状から判断すると4号住居跡の256・257は底部が丸みを帯びる。12号住居跡の463・466もこれに類似した状況と判断できる。これに対し9号住居跡の400・401は底部に角が生じつつある。底部変化を想定すれば、過渡的状況と考えられる。そして、11号住居跡の433と37号住居跡の670は底部が鋭く尖っており5軒の中では最も新しく位置づけることが可能であろう。小型坏の底部変

化である丸から角へという流れからは以上のような新旧関係、すなわち4号・12号→9号→11号・37号が考えられるが、これは土色による判断とは異なる。前述したように、含まれる灰釉陶器も10世紀後半と10世紀末～11世紀初頭のものが入り交じっており、時期決定は困難な状況である。ほとんど時期差の無い重複例である。なお、464は土師器坏の一群に混ぜて図版作成してしまったが、丸石2号窯期の灰釉陶器であった。

ところで、11号住居跡の441の高台付坏は、身部に白色粘土を用い、台部には赤褐色粘土を用いている。身部の白色粘土中にはこの地域で通常みられる赤色粒子が含まれ、色調の違いはともかく当地域の粘土が用いられていたことがわかる。台部の赤褐色粘土は色調は一見当地方の粘土と同じであるが特徴的な赤色粒子が含まれておらず、粘土は別地域のものであろう。ともかく身部と台部の色調が全く異なり意識して製作されたものと考えられる。

#### ・5号住居跡

B-13、C-13グリッド。調査区の制約から一部未調査である。主軸は4号住居跡などと同じく南東-北西で、南コーナーにカマドを有する。一辺3.5mの正方形と推定される。柱穴は確認できなかった。カマド全面のみ床が良好で、他は軟弱である。

カマドは1.5×1.2mの掘り方を有する石組みカマドで、焚き口部分の袖石間は40cmを計る。焼砂は約5cmの堆積であった。

遺物は比較的多く、坏・高台付坏・皿・甕・小型甕・鉢と灰釉陶器の坏が出土している。4号住居跡と同じ内容で時期的にも差が無いものであろう。

#### ・6号住居跡

C-14グリッド。5号住居跡に隣接するが、これも調査区の制約から一部を調査したに過ぎない。一辺が推定で3m程度の小型の住居跡と推定されるが、確実に判断できたのは南西壁の一部だけである。住居跡の方向は4号住居跡などと同様である。

本住居跡は柱穴もカマドも確認されず、遺物の集中から住居番号を付したものである。

遺物は意外に多いものの、必ずしも住居跡の一括資料とは言い切れない。しかし、ここではまとめて図示していた。坏・蓋・羽釜・小型甕・置きカマドと灰釉陶器の坏と皿(段皿含む)が出土しており、隣接の5号住居跡と変わらない内容である。

#### ・7号、8号住居跡

E-15・16、F-15・16グリッド。セクションから7号が8号を切っていると判断した。また、8号は南コーナーを1号土坑によって切られている。7号は長径3.5m、短径3m、8号住居跡は長径5.5m、短径4.2mと、いずれも長方形を呈するが、特に8号は極端である。住居跡の方向はいずれも4号住居跡などと同様である。

床面はカマド付近のみ固く、それ以外は軟弱である。柱穴は確認されていない。

カマドは、いずれもコーナーカマドであるが、7号は西コーナーに、8号は南コーナーに構築されている。

7号=1.1×0.7mの掘り方を有する石組みカマドで、袖石2枚ずつが両サイドに立っていた。袖石間は35～40cmを計る。焼砂は堆積する状態ではなくカーボンなどと混ざって飛散する程度であった。

8号=1号土坑によってほとんど破壊されており、残部を調査したものである。壁から1.5mのところまで焼砂、カーボンがみられた、純粋な焼砂層ではないものの厚さは10cm程もあった。内部には最大25cm程の石が確認されており、これも石組みカマドであったと考えられる。

遺物は比較的多い。7号住居跡では坏・高台付坏・甕・鉢と灰釉陶器の皿・椀・壺が出土している。8号住居跡からは7号住居跡の器種に加え、羽釜と灰釉陶器の段皿が確認されている。これらの住居跡の灰釉陶器は虎渓山1号窯期のもので、灰釉陶器からは時期差が認められないが、住居跡の切り合い、及び小型坏の341と342、370と371の底部の比較から、7号がやや新しく位置づけられることになる。

#### ・10号住居跡

F-14・15 G-14・15グリッド。非常に小型の住居跡で、一辺2.8mである。本住居跡も完掘したにもかかわらず、カマドやその残骸が確認されなかった。若干の落ち込み部分に遺物が集中していたもので、住居跡ではない可能性もあるが、ここでは住居跡として報告する。方向は4号住居跡など同一である。はっきり床と判断できる硬化面も確認されていない。内部に30cm大の石数点が確認されるがまばらに散っており、その付近にとくに焼砂やカーボンが集中していることもないことからカマドも存在しないと判断した。

遺物は坏・小型甕・鉢・羽釜と灰釉陶器の椀が出土している。

#### ・17号住居跡

I-16・17、J-16・17グリッド。弥生時代の15号住居跡を切って作られている。方向は4号住居跡などとは同じである。やや不正な正方形で、一辺3.1mを計る。床は極めて軟弱である。柱穴は確認されない。

カマドは南コーナーに構築された石組みカマドと思われるが、すでに破壊されており、30cm大の石1点が確認されたに過ぎない。焼砂やカーボンはコーナーに沿うように1.4×0.8mの範囲に散っていた。

遺物は少なく、坏と甕が出土した。

#### ・19号、20号住居跡

J-23グリッド。弥生時代の18号住居跡内に構築された2軒の住居跡である。この2軒の住居跡は重複しているが、その重複部分に23号土坑が掘り込まれており、切り合いは不明である。またこれらの住居跡もカマドが確認されたわけではなく、四角形の掘り込みが確認されたことで住居跡としたものである。

遺物はほとんどない。わずかに19号住居跡では土坑の掘り込まれた部分から坏と灰釉陶器の椀(497～500)が、20号住居跡では小型坏の破片が出土しただけである(501)。

#### ・21、22、23号住居跡

H-14・15、I-14・15グリッド。3軒の重複である。22号・23号は4号や7号などと同じ方向を向くが、21号は角度がずれ、12号にちかい主軸方向を示す。これらの住居跡はセクションから21号→23号→22号の順で新しくなると判断した。いずれの住居跡もカマドもしくはその残骸付近以外の床は軟弱である。柱穴は全く確認できなかった。21号住居跡は確認された一辺が約3m、22号住居跡は一辺2.8mの正方形を呈し、23号住居跡は長辺3.5m、短辺3mの長方形である。

カマドが良好に残っていたのは22号住居跡で南コーナーに構築されたコーナーカマドである。1.2×0.9mの楕円形の掘り方を有し、内部からは20～50cm大の石数点が出土している。しかし、いずれの石も原位置を止めていたとは考えられず、袖石の間隔等は不明である。本カマドには焼砂の堆積が厚く最大10cmを計る。他の2軒のカマドは既に破壊された残骸であるが、焼砂やカーボンの分布範囲からこれらもコーナーカマドであったと考えられる。23号はうすく焼砂やカーボンが散っている程度である。21号は壁に接して1.2×1.1mの範囲に焼砂やカーボンが飛散しており、10cm程の厚さとなっている。焼砂の飛散状況は微妙で、コーナーカマドというより、コーナーにちかい位置に作られたものである可能性が高い。

遺物は少ない。21号住居跡からは坏・甕・鉢・置きカマド(502～510)が、22号住居跡からは坏・高台付坏・甕と灰釉陶器坏(511～521)が、23号住居跡からは坏甕羽窯灰釉陶器坏と椀(522～532)が出土している。

#### ・24号、25号住居跡

G-13・14、H-13・14グリッド。セクションから25号住居跡が24号住居跡を切っていることが確認された。住居跡の方位は25号住居跡が4号住居跡など同一であり、24号住居跡はそれよりやや東に向く。いずれも南東側に攪乱を受けている。しかし攪乱は幅約50cmと狭く、住居跡の大きさは推定可能である。24号住居跡は不整長

方形で長辺3.8m、短辺3.1mを計る。25号住居跡はそれより一回り小さく、長辺3.5m、短辺2.9mを計る。今回確認された平安時代の住居跡のなかではこの2軒の住居跡の床は比較的しっかりしている。柱穴は確認されなかった。

カマドは24号住居跡にのみ確認されている。南コーナーに構築されたコーナーカマドで径0.8mの円形の掘り方を有し、内部から20～30cm大の石数点が出土している。内部には焼砂は飛散する程度であるが、カーボンだけが2cm程の厚さで層をなしていた。25号住居跡ではカマドは確認されなかったが、南東壁が全面攪乱を受けているため、カマドはその部分に存在したものと思われる。

遺物は、24号住居跡から坏・鉢・蓋・甕・羽釜と灰釉陶器の椀・壺(533～547)が出土している。25号住居跡からは坏・甕・小型甕と灰釉陶器の椀・皿(548～564)が出土している。なお、25号住居跡の564は須恵器であるが、焼成温度によるものか赤褐色にちかい色調であり、通常青灰色とは全く違う質感である。

#### ・28号住居跡

H-27・28、I-27・28グリッド。本住居跡も礫層中に掘り込まれた住居跡で、礫の空白部分に焼砂やカーボンが飛散している状況から住居跡と判断したものである。長辺4.3m、短辺3.6m程度の長方形住居跡と推定される。焼砂等は住居内と思われる部分のほぼ全面に散っていることから、あるいは火災住居であったかもしれない。カマド、柱穴等は一切確認されなかった。

遺物は少なく坏・甕・鉢・羽釜などが出土(565～575)している。

#### ・29号住居跡

J-26・27、K-26・27グリッド。弥生土器集中区内に掘り混まれた住居跡で、わずかながらも遺物が集中していた部分でカマドが確認されたことから住居跡と判断した。カマド部分は礫層にかかるが住居本体はもともと礫の存在しない部分に構築されている。辺が未確認のため定かではないが、一辺4m程度と推定される。

遺物はカマド内から坏(576)が、その周辺から坏・高台付坏・羽釜と灰釉陶器の椀が出土(577～586)している。

#### ・30号住居跡

I・J-28グリッド。本住居跡も礫層中に掘り込まれた住居跡で、弥生時代の27号、32号住居跡を切っている。礫の空白部から一辺2m程度の小型の住居跡と推定されるが、カマドは一部残存していた。カマドは0.8×0.7mの掘り方を有し、25cmのいしを袖石とした石組みカマドである。両袖石は立ったままであり、焚き口間は約30cmである。カマド上部にわずかに焼砂ブロックが確認された程度で、燃焼部内部には焼砂は飛散する程度であった。

遺物はカマド内部から坏(587)と甕(594)、さらに灰釉陶器壺(596・597)が、周辺から坏・高台付坏・灰釉陶器壺が出土(588～595)している。

#### ・31号住居跡

G-27・28、H-27・28グリッド。本住居跡も礫層中に掘り込まれた住居跡であるが調査区の制約からおおむね半分の調査となった。礫空白部と遺物の散布状況から、一辺4.2m程度と推定される。調査範囲内では柱穴もカマドも確認されていない。

遺物は意外に多く、坏・高台付坏・甕・羽釜と灰釉陶器の椀・壺、須恵器甕が出土(598～624)している。

#### ・33号住居跡

F-15・16、G-15・16グリッド。8号住居跡に接し、土坑に切られている。住居跡の辺の方向は4号住居跡などと同じである。床はカマド付近以外は軟弱である。柱穴は確認されず、カマドは西コーナーに構築された石組みカマドである。

カマドは、残骸であったが、コーナーを中心に1mの扇形に焼砂やカーボンの集中がみられた。また、内部には

20～30cm大の石数点が確認されている。この部分の中心最下層には焼砂が3cmの厚さで堆積していた。

遺物はカマド内から甕(638・640・641)と灰釉陶器碗(649)が出土した。それ以外では坏・高台付坏・甕・羽釜と灰釉陶器の碗・皿などが出土(625～652)しているが、646は2ないし3単位の把手となる丸底の鍋である。11世紀中葉以降に主体となるもので、今回の調査では唯一の出土である。

#### ・34号住居跡

G-18・19グリッド。一辺3.4mの正方形住居跡で辺の方向は4号住居跡などと同じである。4基の土坑に切られ、一部攪乱を受けている。床はカマド付近以外は軟弱である。柱穴は確認されなかった。

カマドは西コーナーに構築されたコーナーカマドである。0.8×1.2mの掘り方を有し、内部には20～40cm大の石が多く確認されている。すべての石が横たわっており、すでに破壊されていたことが明らかである。袖石もはっきりせず、焚き口の幅も不明である。内部にはわずかに焼砂が飛散する程度であった。

遺物は、坏・高台付坏・高台付皿・甕・鉢と灰釉陶器の碗・壺などが出土(653～669)している。

#### ・36号住居跡

C-10グリッド。一辺約3mの小型の浅い落ち込みが確認され、わずかに焼砂やカーボンの飛散が認められたことと大きさから住居跡と判断したものである。カマドの痕跡は全く認められず、遺物も全く出土しなかった。

## 第5節 土坑

本節では土坑について記すが、竪穴状遺構として調査した遺構についても、まとめて本節で報告する。

#### ・1号竪穴

G-8グリッド。3号住居跡を切っている。3.8×2.1mの長方形を呈し、確認面からの深さ0.4mを計る。住居跡の覆土と違い、焼砂やカーボンは含まれない。掘り込み下部には礫層が存在するため底面や壁面のところどころに礫が顔を出している。遺物は住居跡と同じ時期の坏・高台付坏・甕と灰釉陶器の坏が出土(681～687)した。

#### ・1号土坑

E-15グリッド。4号、8号、9号住居跡を切っている。長方形を呈し、長径3.8m、短径1.3m、確認面からの深さ0.4mを計る。住居跡群と同じ時期の688～694の遺物が出土しているが、中層部からキセル破片(未実測)が出土しており、おそらく江戸期以降の墓坑と思われるが、墓坑とすれば、江戸期に通常みられる座棺ではなく伸展葬となろう。

#### ・2号土坑

C・D-11グリッド。楕円形を呈し、長径1.7m、短径0.8m、確認面からの深さ0.2mを計る。

#### ・3号土坑

D-11グリッド。不整楕円形を呈し、長径1.2m、短径0.9m、確認面からの深さ0.2mを計る。

#### ・4号土坑

D-11グリッド。円形を呈し、径1.2m、確認面からの深さ0.2mを計る。

- ・5号土坑  
E-12グリッド。不整円形を呈し、径1.2m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・6号土坑  
E-12グリッド。不整楕円形を呈し、長径1.5m、短径1.1m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・7号土坑  
G-17グリッド。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.2mを計る。覆土中からわずかに甕の小破片が出土した。
- ・8号土坑  
H-17グリッド。不整楕円形を呈し、長径1.5m、短径1m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・9号土坑  
H-17グリッド。円形を呈し、径0.9m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・10号土坑  
G-19グリッド。不整円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.3mを計る。
- ・11号土坑  
F・G-19グリッド。円形を呈し、径1.2m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・12号土坑(欠番)
- ・13号土坑  
G-19グリッド。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・14号土坑  
G-19グリッド。34号住居跡を切っている。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.1mを計る。
- ・15号土坑  
G-19グリッド。本土坑も34号住居跡を切っている。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.1mを計る。
- ・16号土坑  
G-20グリッド。不整楕円形を呈し、長径0.9m、短径0.7m、確認面からの深さ0.1mを計る。
- ・17号土坑  
G-20グリッド。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.2mを計る。
- ・18号土坑  
K-20グリッド。楕円形を呈し、長径1m、短径0.8m、確認面からの深さ0.2mを計る。

・19号土坑

K-19グリッド。楕円形を呈し、長径0.7m、短径0.6m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・20号土坑

K-19グリッド。楕円形を呈し、長径1.1m、短径0.9m、確認面からの深さ0.1mを計る。覆土中から平安時代の甕底部と羽釜片が出土した。

・21号土坑

K-19グリッド。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・22号土坑(欠番)

・23号土坑

J-23グリッド。18号、19号、20号住居跡内に掘りこまれた土坑で、不整形を呈し、長径2.2m、短径1.9m、確認面からの深さ0.3mを計る。

・24号～30号土坑

これらは当初個々に土坑番号を付して方形の土坑と認識していたが、図に示したように直線上の並びが確認できたため、まとめて報告することとする。24～27号までがL字状の並びとなり、28～30号までそれとやや角度を変えて直角に交わる位置に確認された。それぞれ一辺1.6m前後の方形を呈し、確認面からは0.2m前後の深さである。ただし、25号だけが一回り大きく、一辺約2mの大きさである。大きさ、深さ、並びなどから同一の時期かつ目的のもとに掘られたことは明らかであろう。

このような並びからは、通常、掘立柱建物跡が想起されるため、図もそれを想定した図を示すこととしておいた。しかし、これらの土坑については覆土の締まりがなく、他の平安時代の遺構とは明らかに覆土の土質も違うこと、平安時代末の住居跡を切っていることなどから、少なくとも平安時代にまで溯り得る土坑列とは考えられない。逆に、ビニールなど明らかに攪乱を示す物は含まれていない。なお、25号土坑からは覆土中から弥生時代の甕、平安時代の坏・甕の破片が出土しているが、平安時代にまで溯り得ないという認識から図示していない。ただ1点27号内から近世かと思われる素焼きの小型坏と思われる小破片が出土している。これについての時期の特定はできないが、これを土坑に伴うものと考えれば、近世もしくはそれ以降の土坑列の可能性を考えておきたい。

・31号土坑

G-19グリッド。本土坑も34号住居跡を切って構築されている。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・32号土坑

G-19グリッド。本土坑も34号住居跡を切っている。不整円形を呈し、長径1.4m、短径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・33号土坑

F-19グリッド。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

#### ・34号土坑

D-12グリッド。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.2mを計る。摩滅した土師器破片と灰釉陶器破片が出土している。

#### ・35号土坑

M-27グリッド。不整円形を呈し、径1.5m、確認面からの深さ0.1mを計る。本土坑からは、図示していないが、弥生時代の住居跡群と同じ時期の土器破片が出土している。口唇部に刻みを有する甕破片、波状文と簾状文の頸部破片、内外面条痕文胴部破片などである。

## 第6節 溝

今回の調査では平安時代の溝一条と時期不明の溝二条が確認された。後者は規模も小さく、遺物も出土していない。ここでは多量の遺物が出土した2号溝を報告する。

#### ・2号溝

今回の調査区を横断する形で確認された溝で、今回設定したグリッドラインに対しほぼ45度の傾きで流れるが、傾斜から北々西→南々東への流れが想定される。

狭い部分で0.9m、広い部分で1.9mの幅となっているが、1.2m程度の幅が平均であろうか。確認面からの深さは0.2m～0.4mである。溝自体が砂層に掘り込まれたものであるが、覆土も当然砂質土である。

遺物は、溝の全域から出土しているが、南になればなるほど遺物が濃くなる状況が把握できる。一部に弥生土器も含むものの、ほとんど平安時代の住居跡群と同じ時期の遺物に限られる。そのなかで30資料(1資料は番号不明のため図示せず)の接合が確認されている。3点の接合は699・722・733・807・808・811・812・813の8資料であるが、733の4.2mである。2点の接合は695・698・699・701・736・743・752・758・759・770・771・774・777・793・798・802・805・810・814・815・820の21資料であるが、こちらは距離の離れた接合例が多い。698の14.8mが最も遠く、695の9.8m、793の9.2m、815の8.7mなどが挙げられる。

土師器の坏が主体であるが、695～698などと699の底部の状況の違いから、若干の時期差を求めることもできようが、これは住居跡の時期差の範囲内であり、日常生活の中での廃棄の結果と考えることが可能であろう。他の器種も、高台付坏・甕・鉢・羽釜などの構成は住居跡のそれと全く同じである。灰釉陶器は虎溪山1号窯期と丸石2号窯期が混在しており、これも住居跡の状況と変わらない。

772は、溝とは明らかに時期の異なる弥生時代後期の甕底部である。底部に見慣れない調整の痕跡があるので報告する。土器整形後、焼成前の段階で底面内側の中心部を櫛状工具によってえぐり取り、本来10mmはある底部厚を1mmにまで薄くしたものである。これが破片であるために中心の状況は不明であるが、中心は穴が空けられていたかもしれない。しかし、通常焼成前の“穿孔”であるならば、きれいな円形に穿孔するはずであるし、回りにいくらかもある円柱状の道具を使えば事足りるのであって、このような手間のかかる方法を用いるはずもない。また、このようなえぐりの痕跡をそのままにして、未調整のまま焼成することなど考えられない。どう考えてもえぐりの痕跡をそのままに残すことが目的であったとしか考えられない。また、えぐりが外面にまで達していたのかも不明であり、興味深い資料である。

## 第7節 遺構外出土遺物

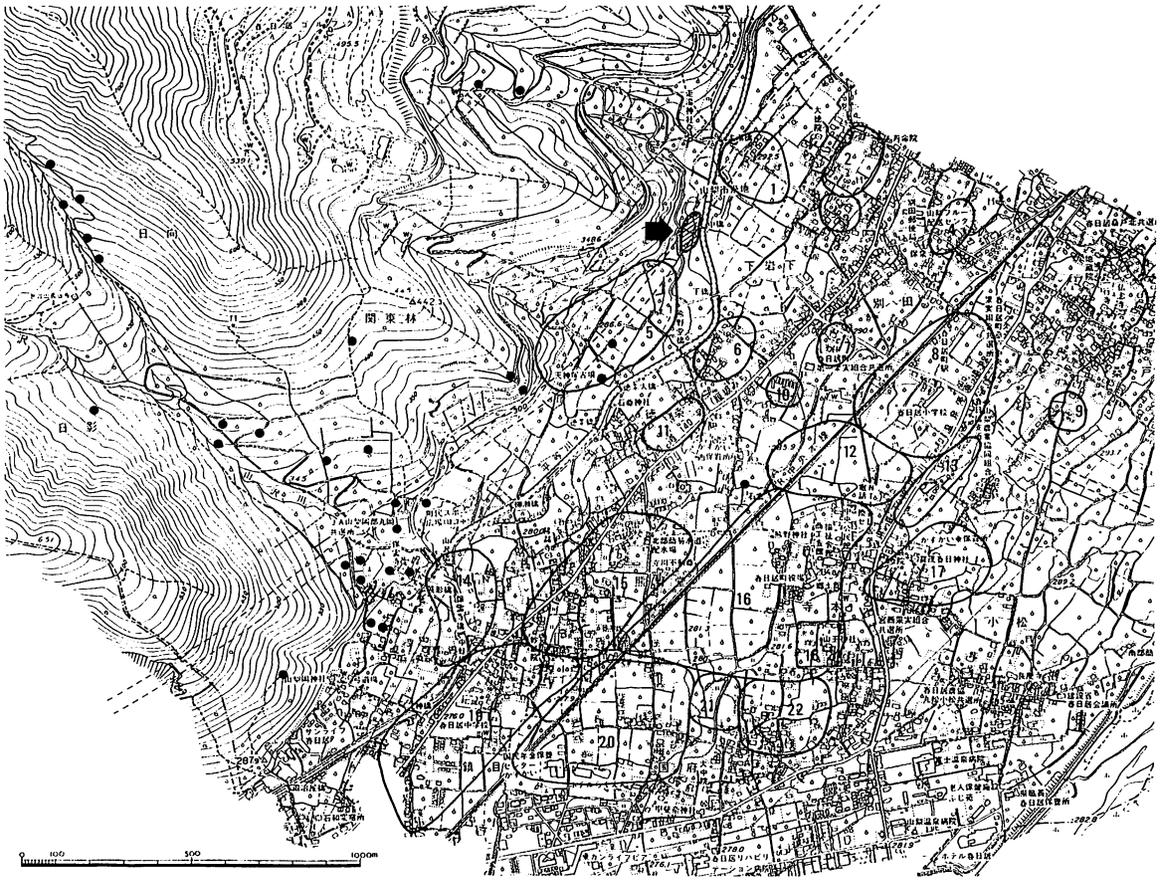
遺構に伴わない遺物は非常に多くすべてを取り上げることはとても不可能であるので、特に遺物の集中が見られたH-19・20グリッドの平安時代遺物を中心に述べることにする。

H-19・20グリッドでは第図に示したように遺物の集中が見られた。図に示したように集中の一部に20～40cm大の石やこの集中範囲内に焼砂・カーボンのまとまりがみられることから住居跡であったことも否定できないが、遺構として捉えるまでにはいたらず、ここで報告することとする。821～838までに復元資料を示した。

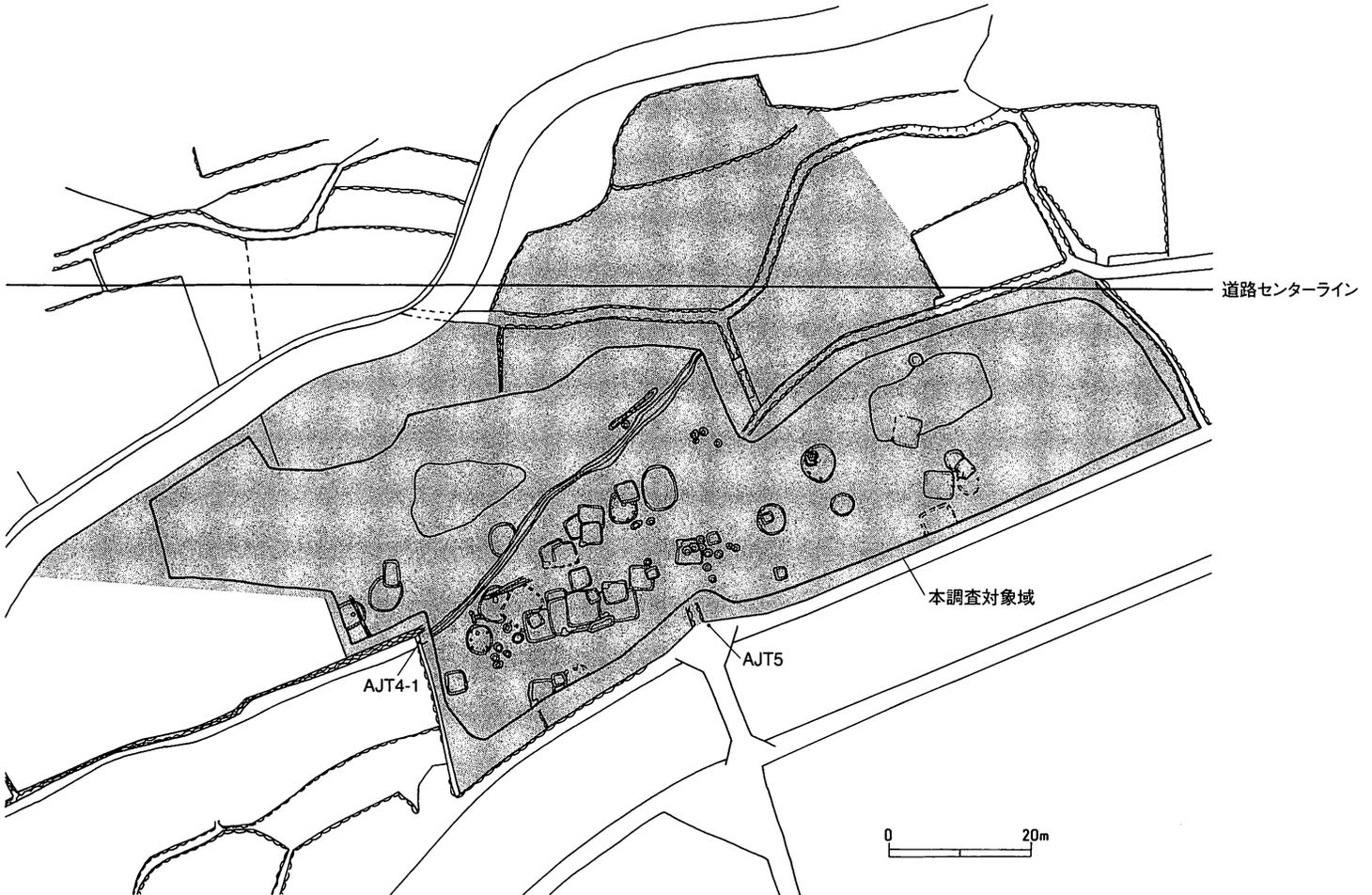
坏8個体、高台付皿1個体、高台付坏3個体、甕3個体、鉢3個体である。これらの資料は住居跡の内容と変わるものではないが、羽釜や灰釉陶器が含まれないことと、838に示した鉢が通常の甲斐型の(甕系)鉢と様相が異なることなどが相違として挙げられる。

839の置きカマドはI-29・30グリッドから出土したものであるが、通常置きカマドは底部の幅が広く、掛け口が狭くなる形態であるのに対し、本資料は明らかに上部の掛け口が広い形態となっている。熱効率からは、このような形態が好ましくないことは明らかであるが、あえてこのような形態のものを作っているのである。

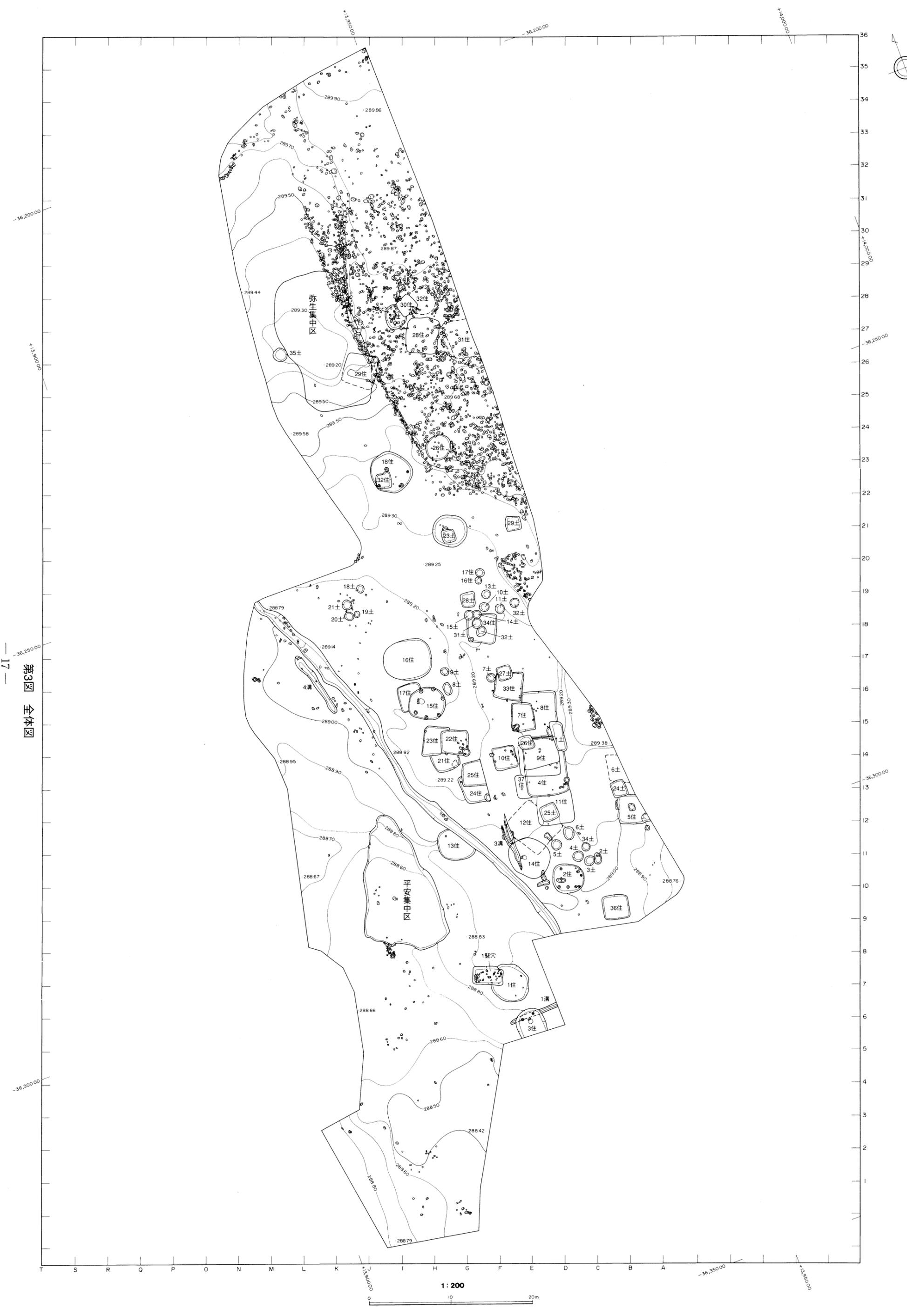
255はK-30グリッド出土の坏で、体部下部の削りもみられず直線的な胴部となっていることなどから11世紀代に位置づけておく。本資料の底部内面には、焼成前にヘラで“大”の文字が書かれている。



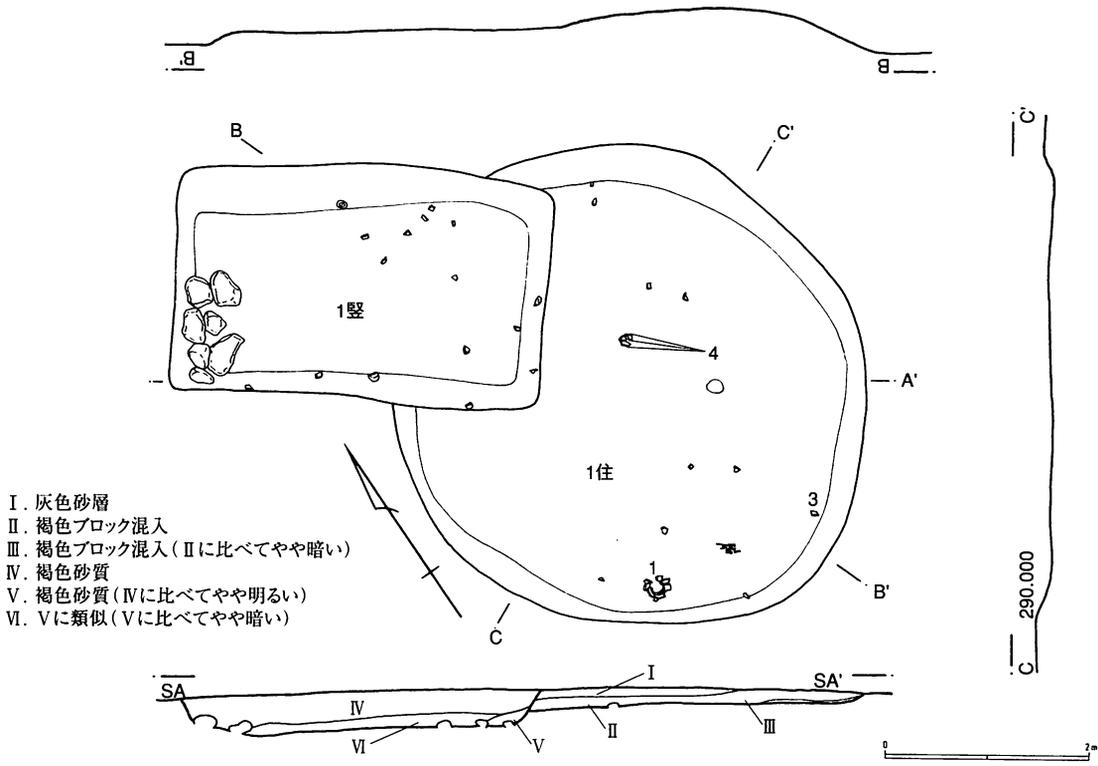
第1図 遺跡位置図



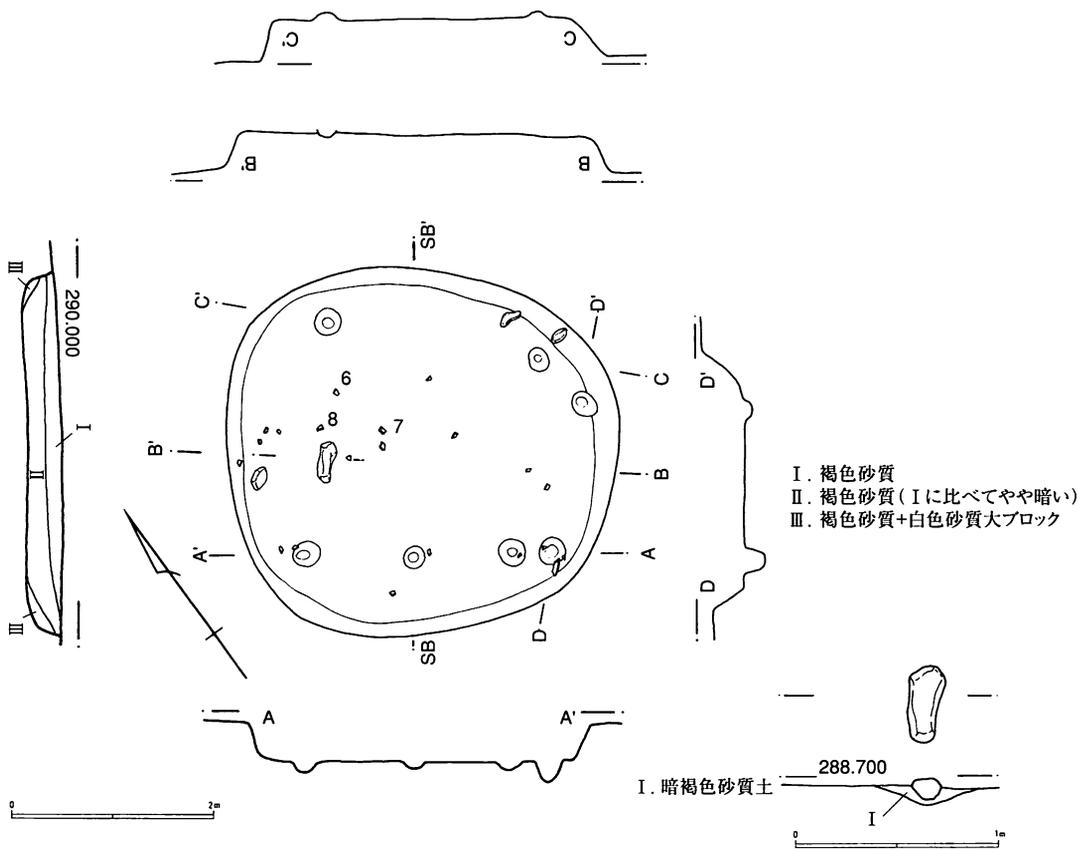
第2図 道路センターラインと調査区域



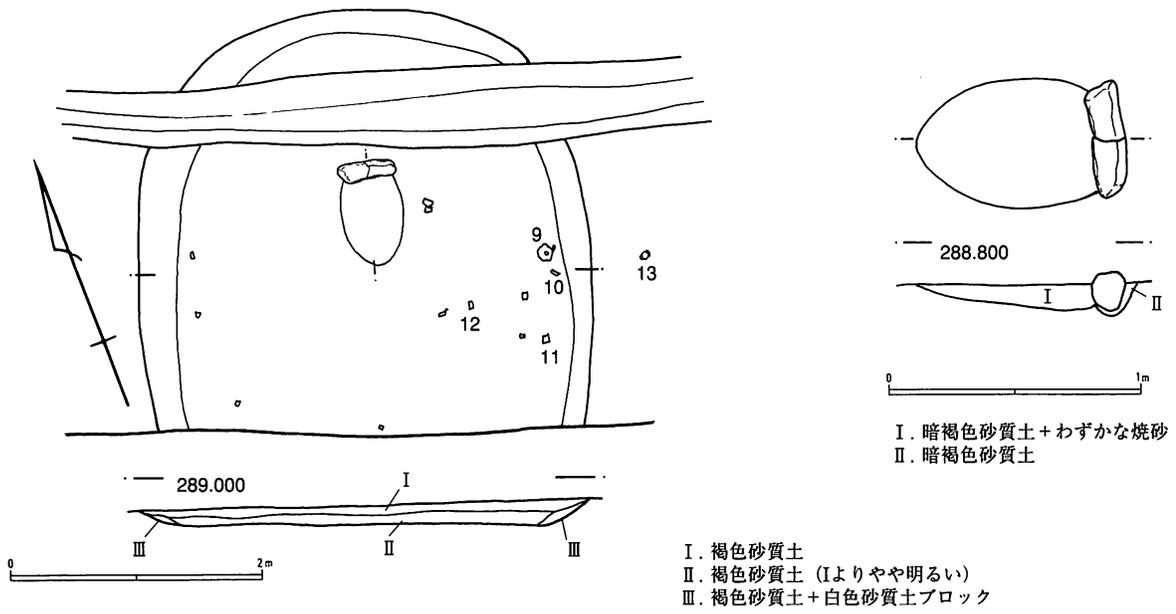
第3図 全体図



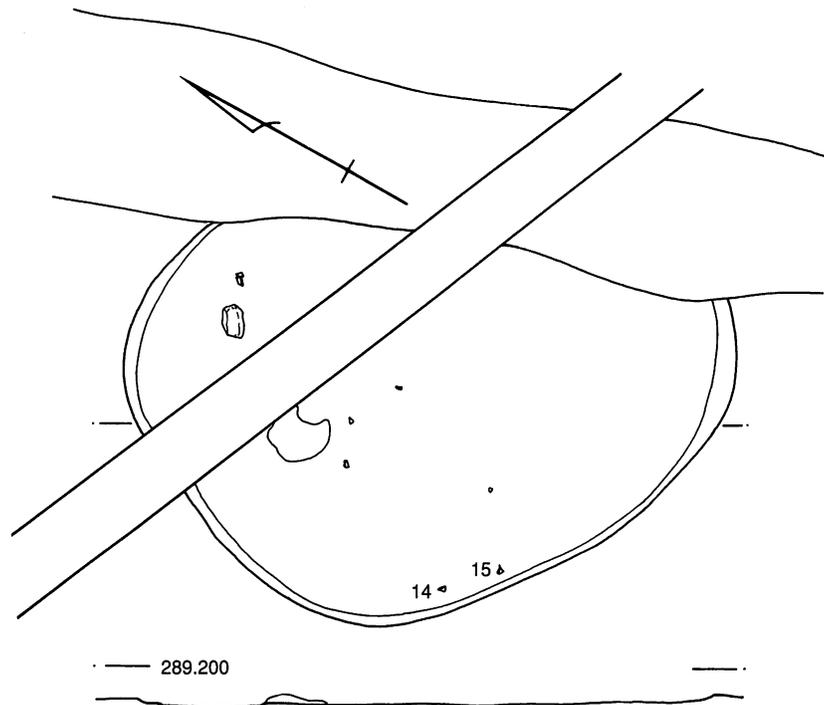
第4図 1号住居跡



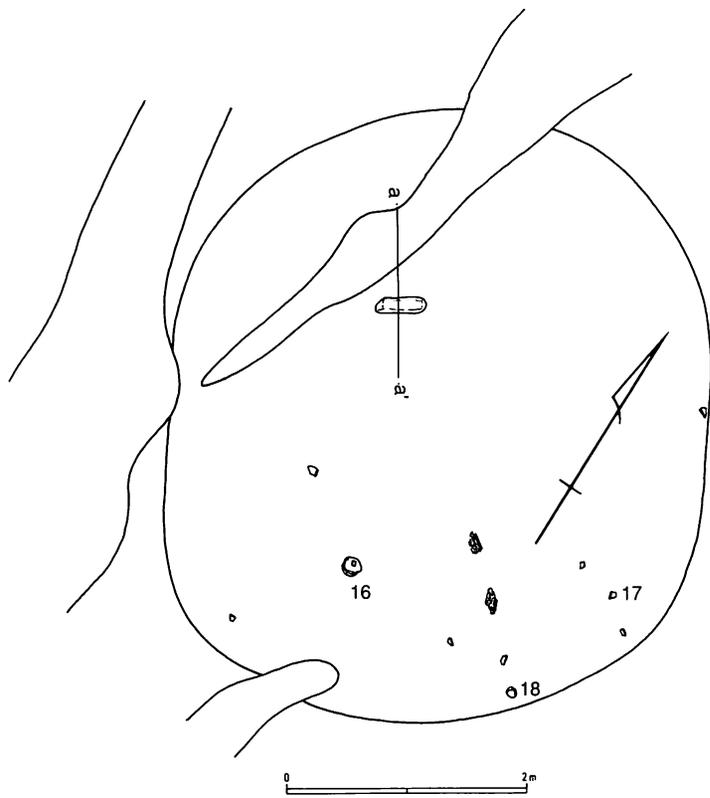
第5図 2号住居跡



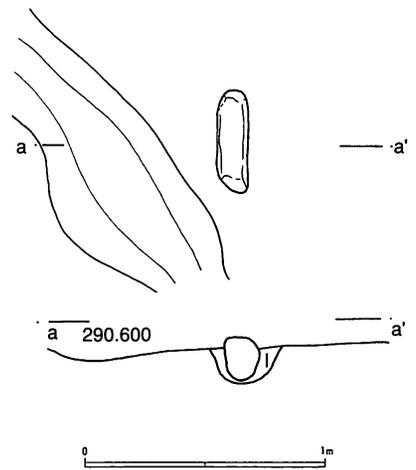
第6図 3号住居跡



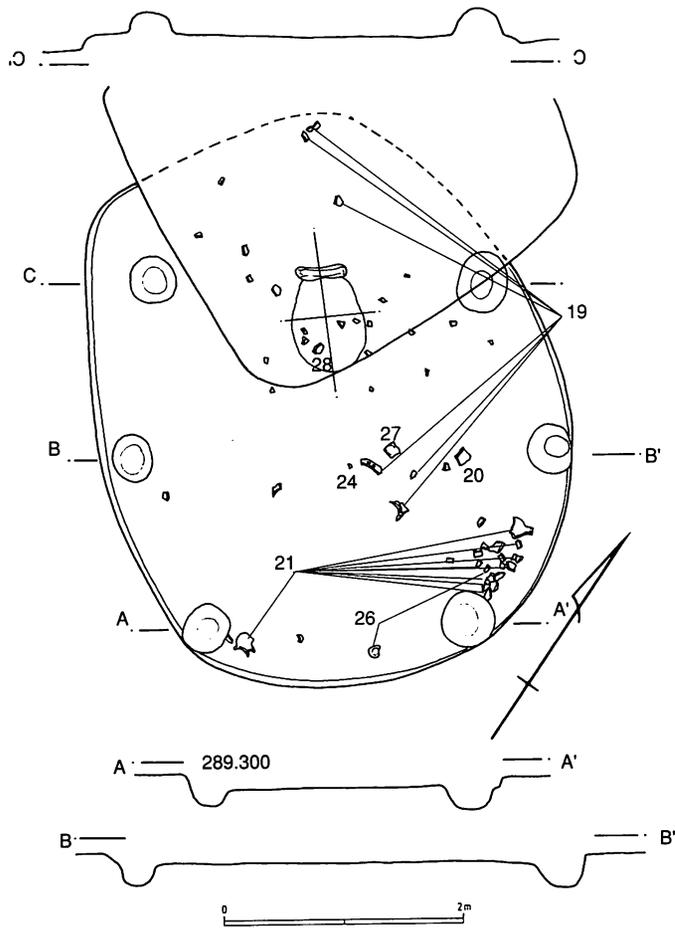
第7図 13号住居跡



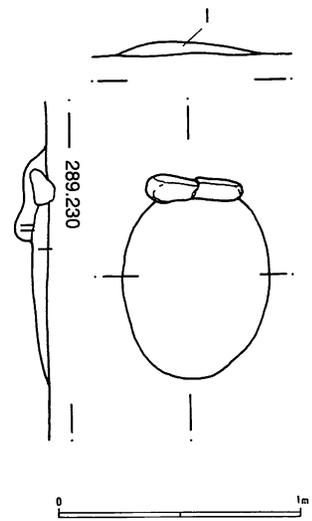
第8図 14号住居跡



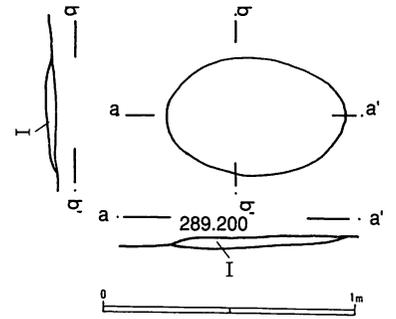
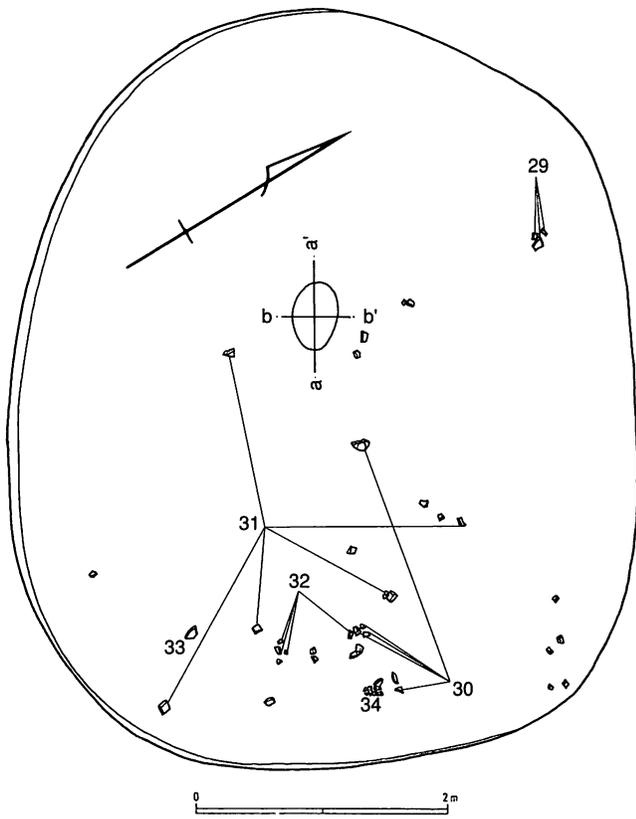
I. 暗褐色砂質土  
(わずかにカーボン含む)



第9図 15号住居跡

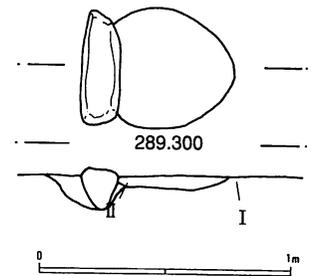
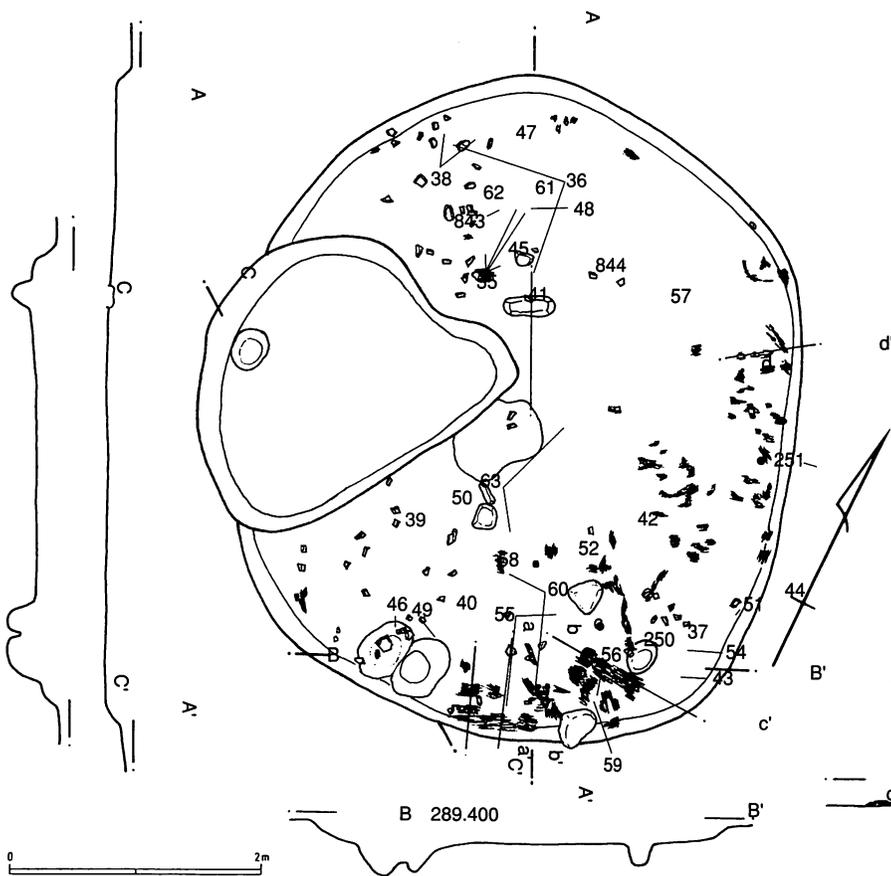


I. 褐色砂質土とわずかな焼土粒子  
II. 暗褐色砂質土(枕石掘り方)



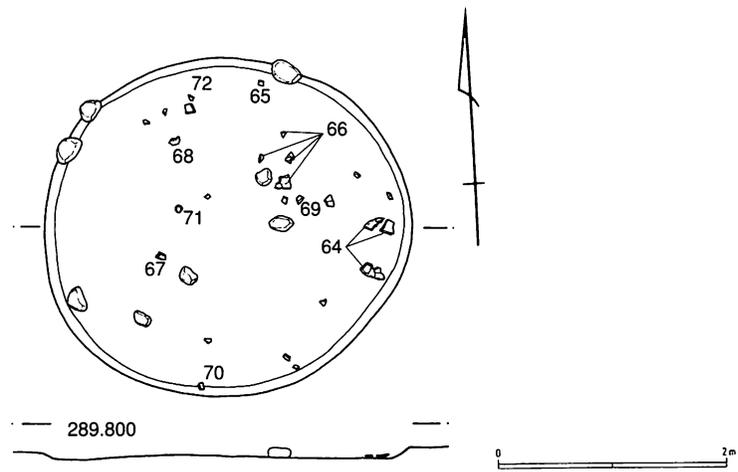
I. 焼土ブロック

第10図 16号住居跡

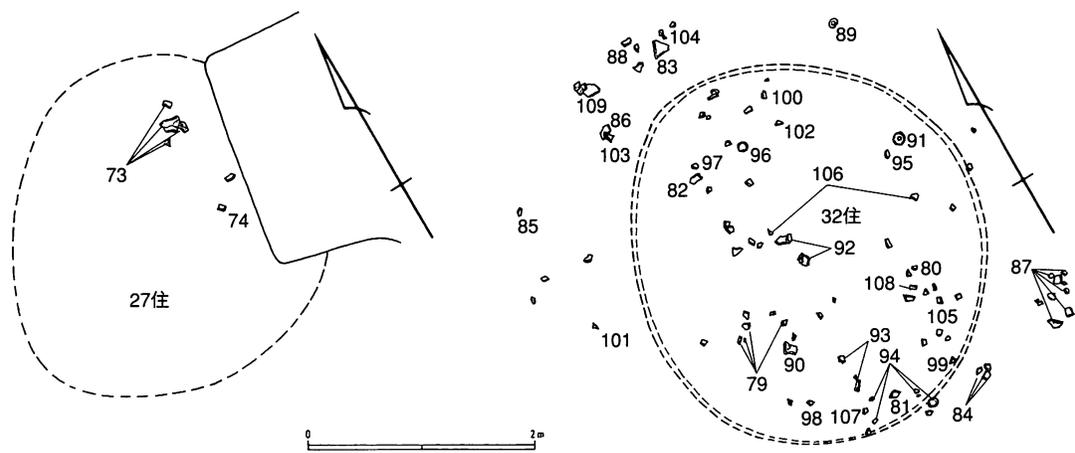


I. 褐色砂質土(わずかに焼砂含む)  
II. 暗褐色砂質土(枕石掘り方)

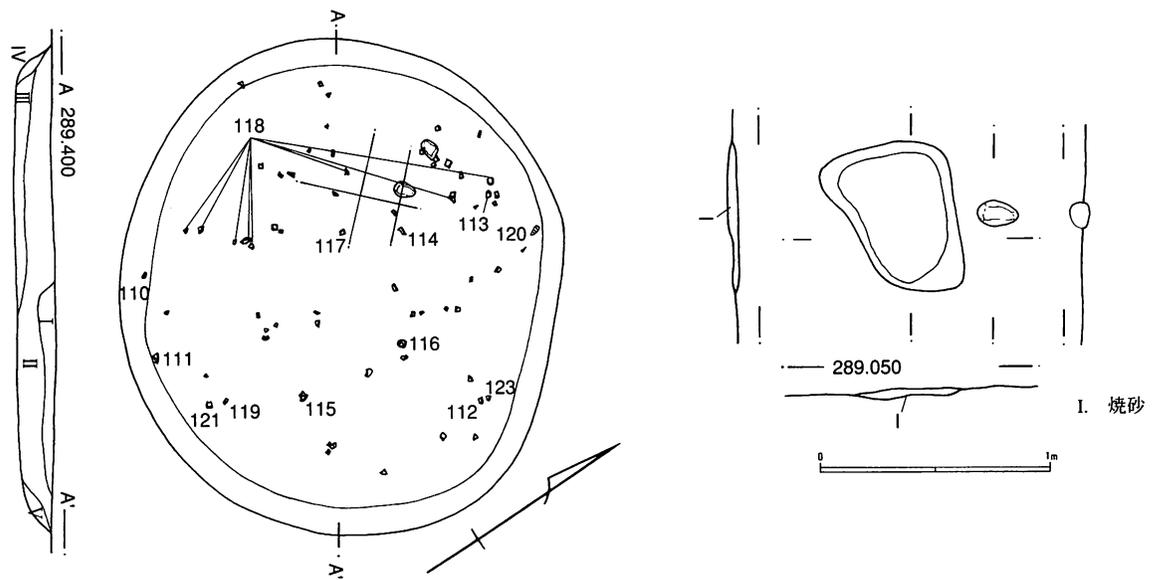
第11図 18号住居跡



第12図 26号住居跡

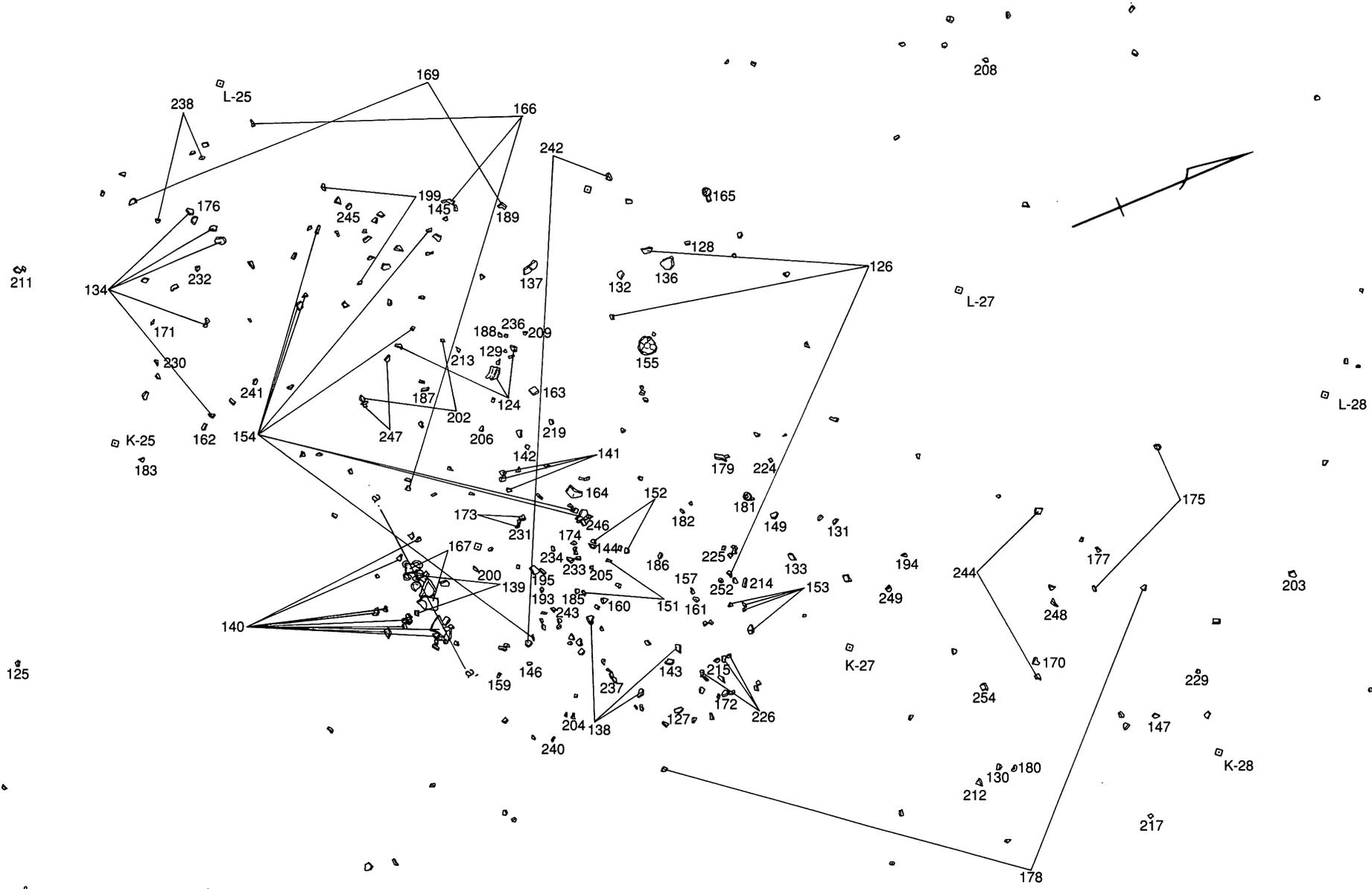


第13図 27号・32号住居跡

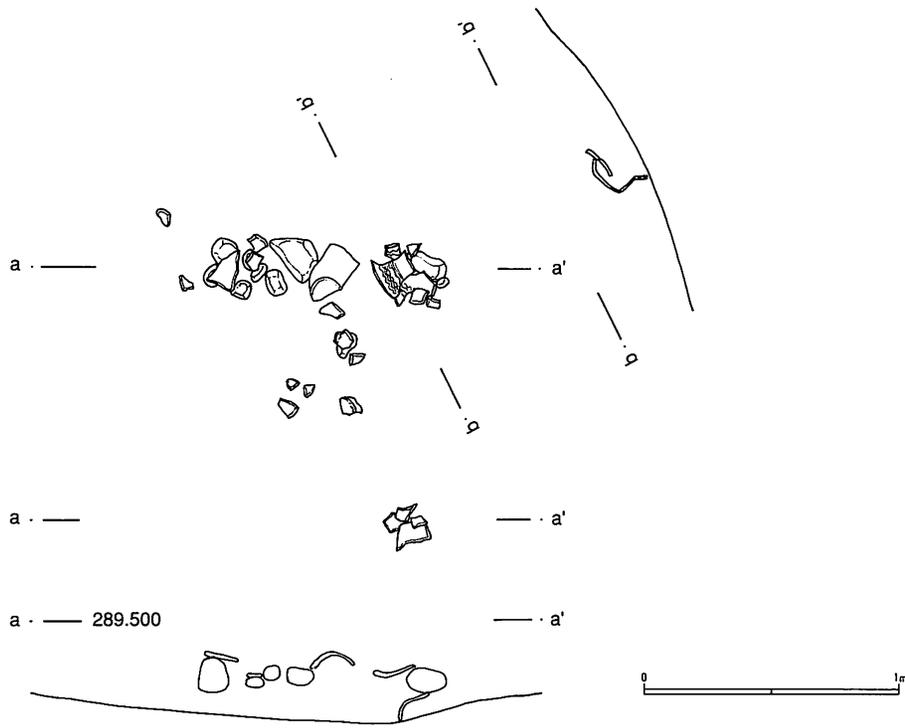


- I. 黄褐色粘質土(30号土覆工)
- II. 暗褐色砂質土
- III. 暗褐色砂質土+黄褐色砂質土ブロック
- IV. 灰色砂質土+暗褐色砂質土の混土
- V. IVと同じ

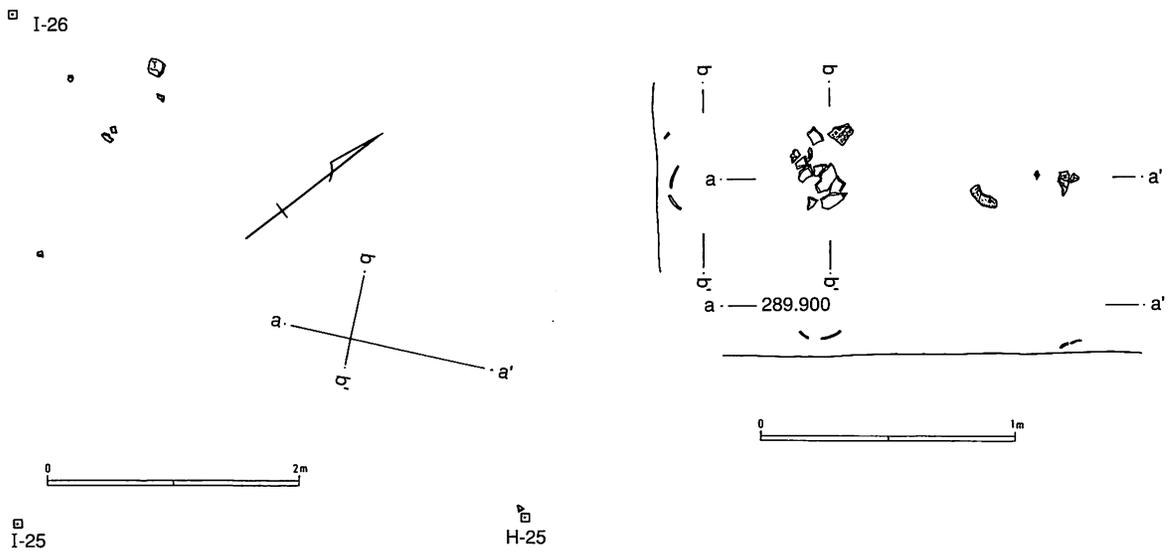
第14図 35号住居跡



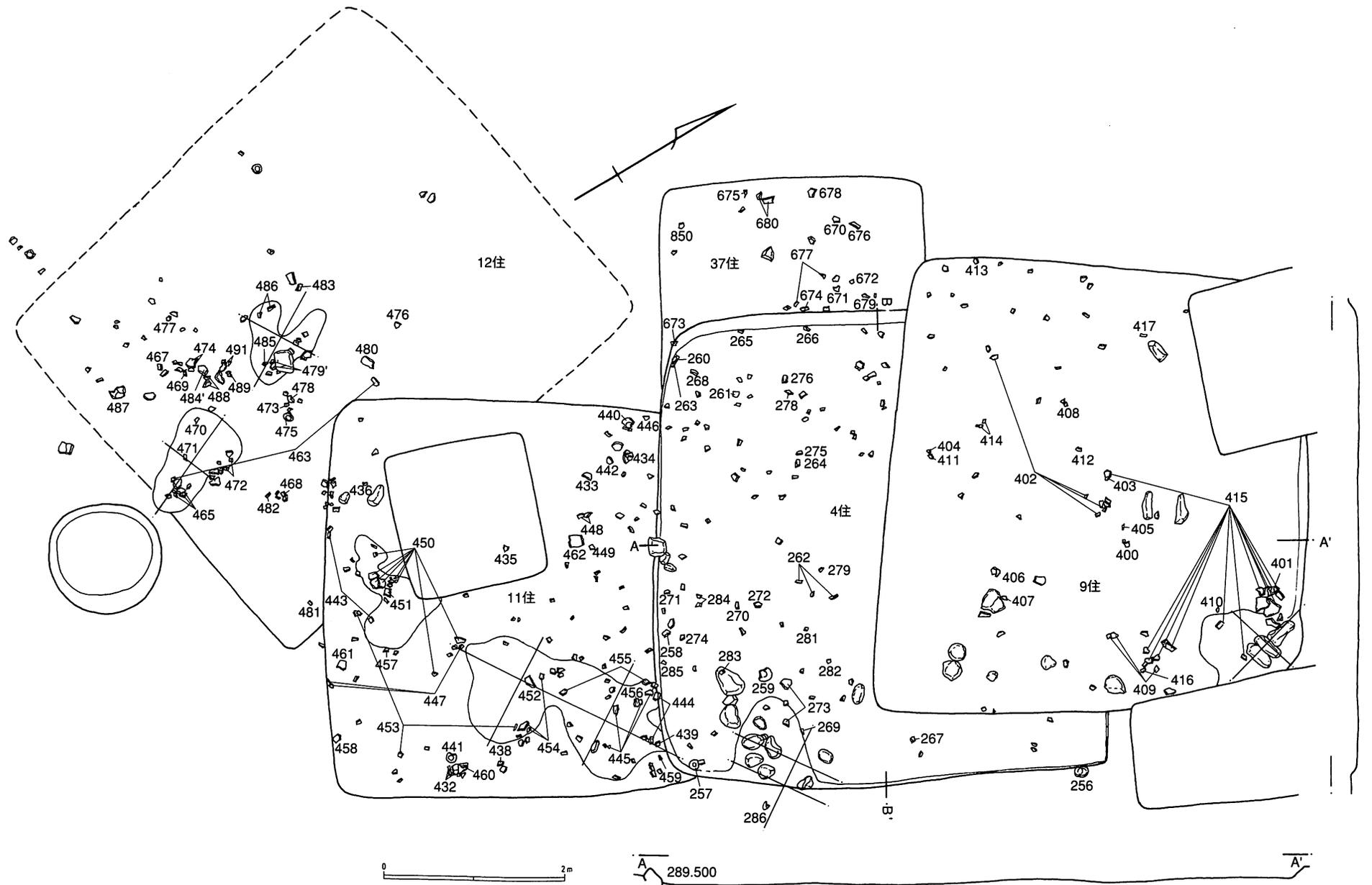
第15図 弥生時代遺物集中区



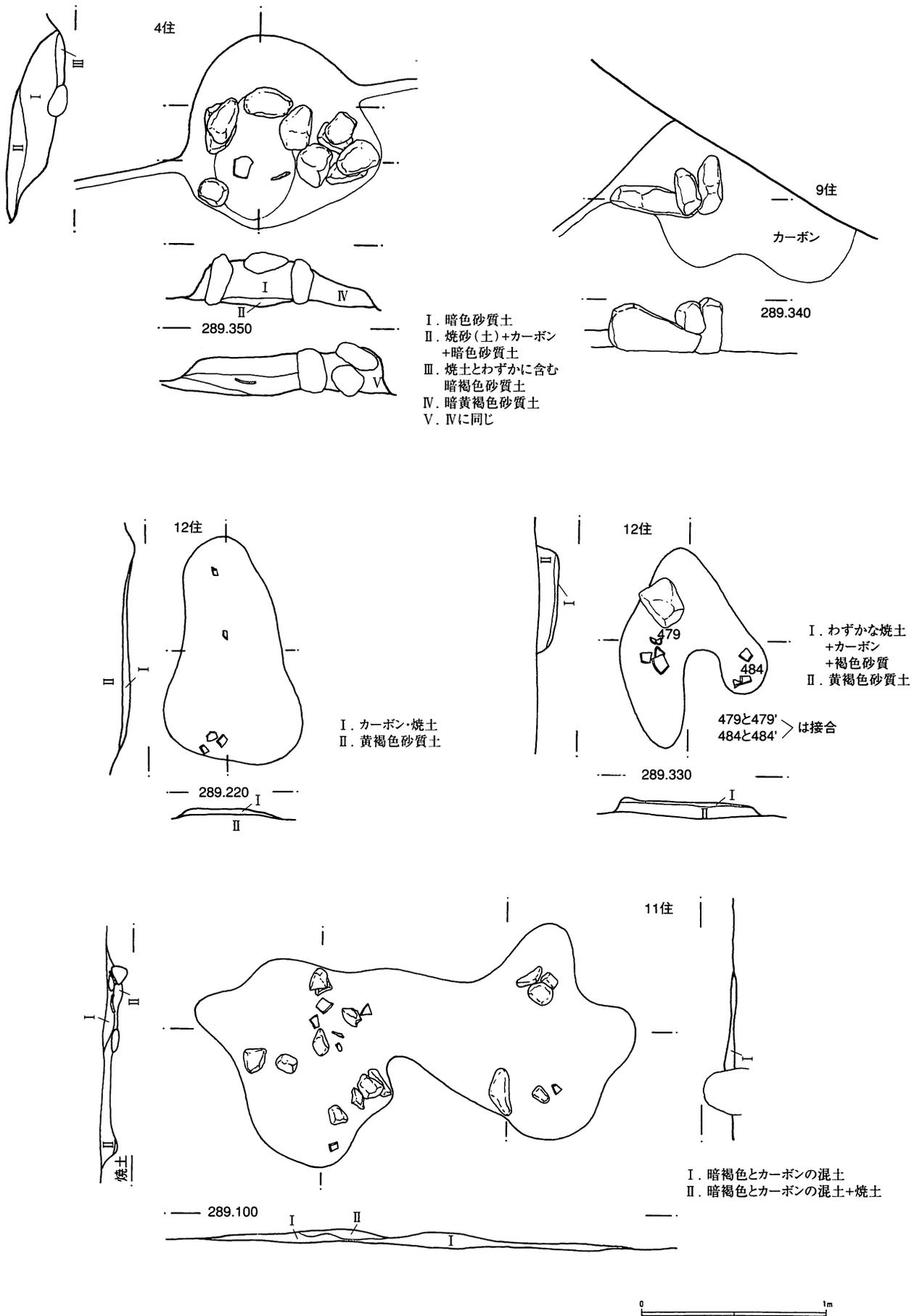
第16図 弥生時代遺物集中区微細図



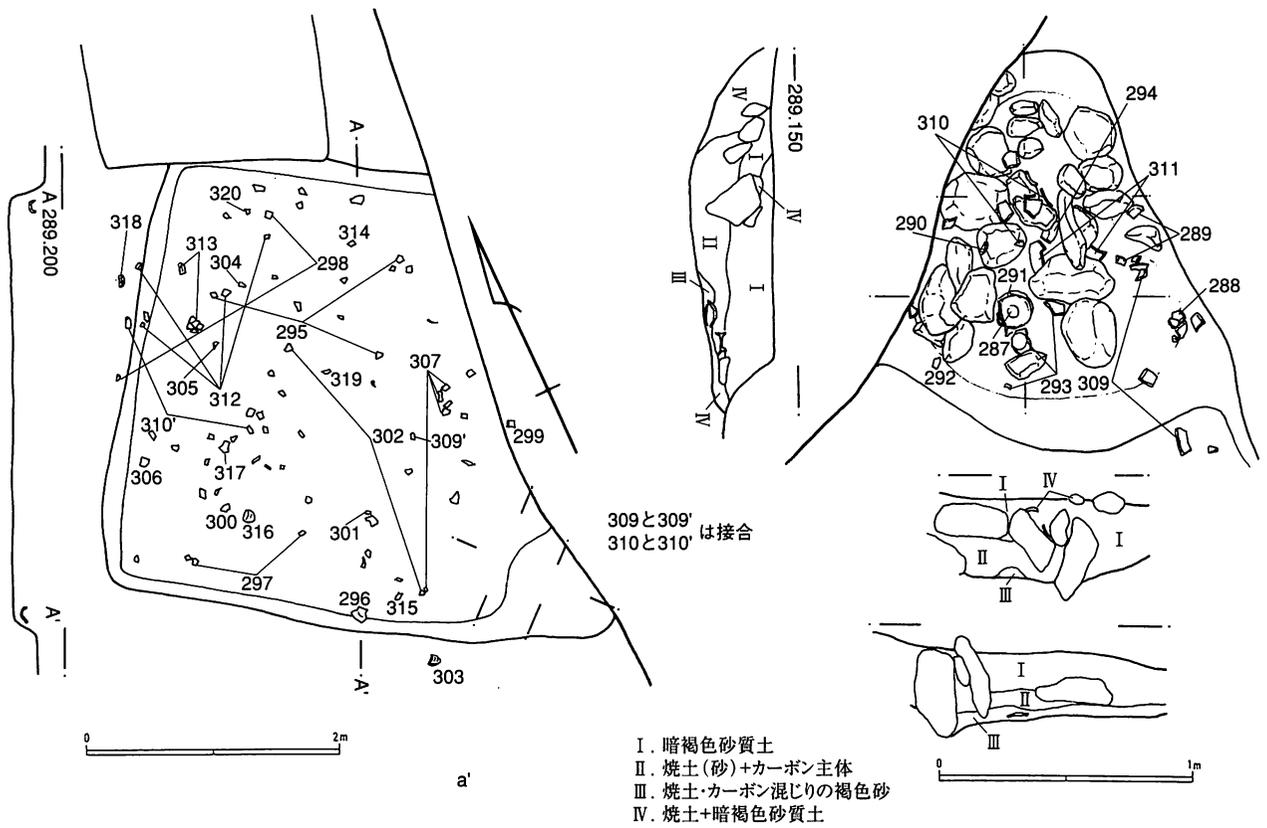
第17図 I-26グリッド弥生土器集中区



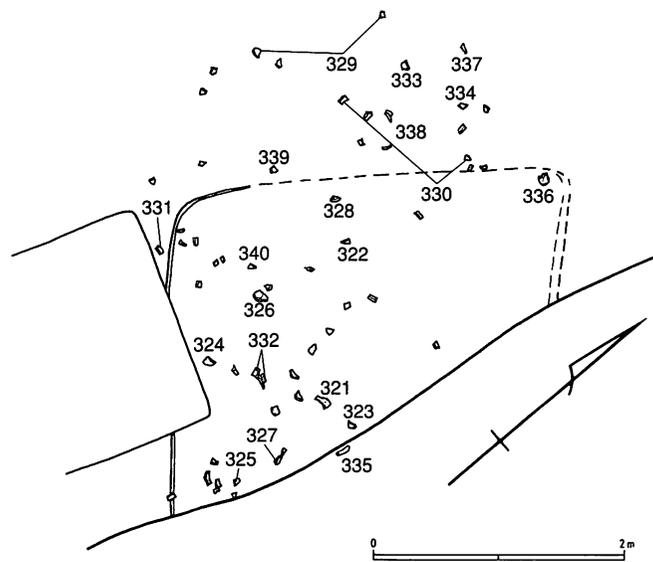
第18图 4号·9号·11号·12号·37号住居跡



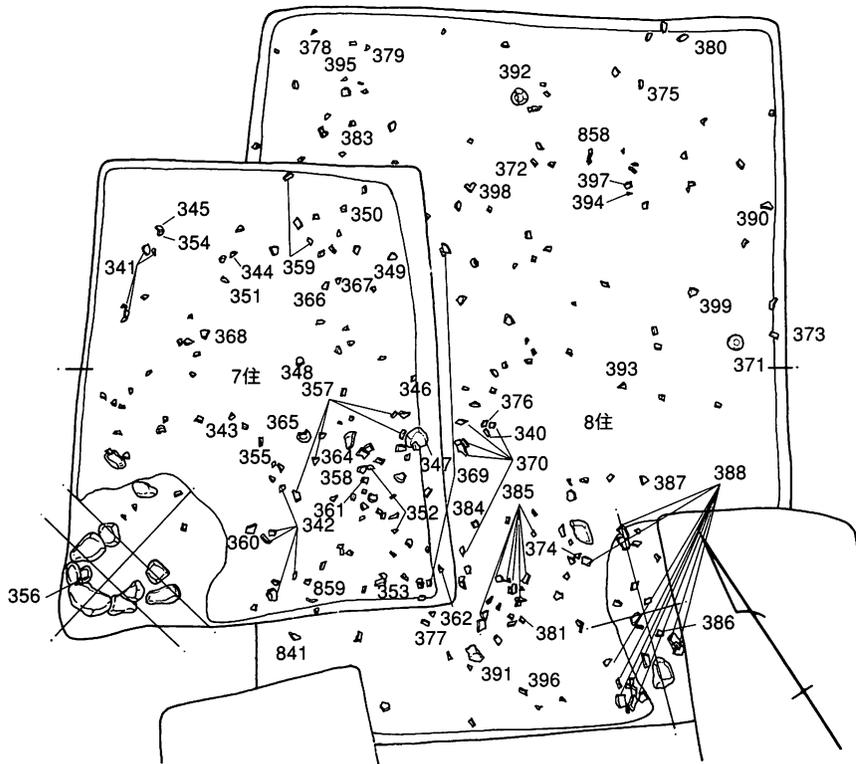
第19図 各住居跡カマド



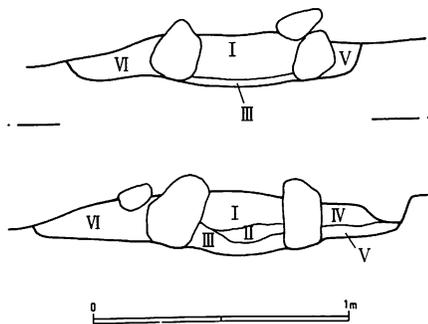
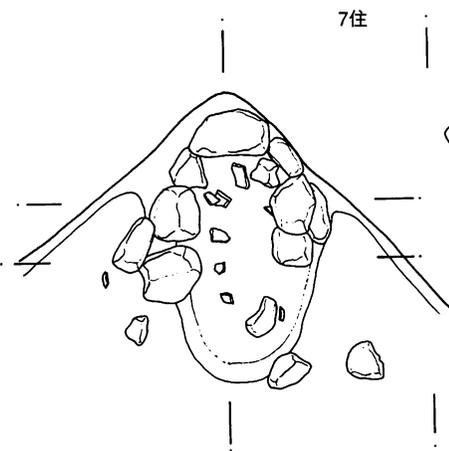
第20図 5号住居跡



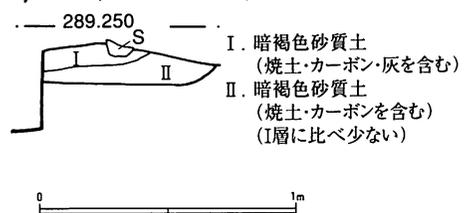
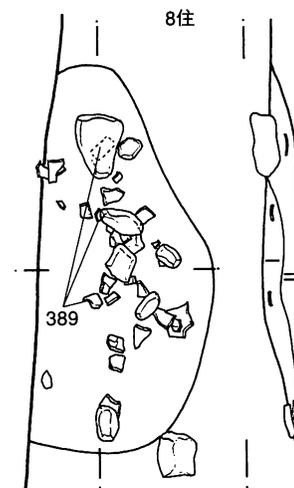
第21図 6号住居跡



褐色砂質土とカーボン  
 289.250  
 褐色砂質土+カーボン+わずかな焼土  
 0 2m

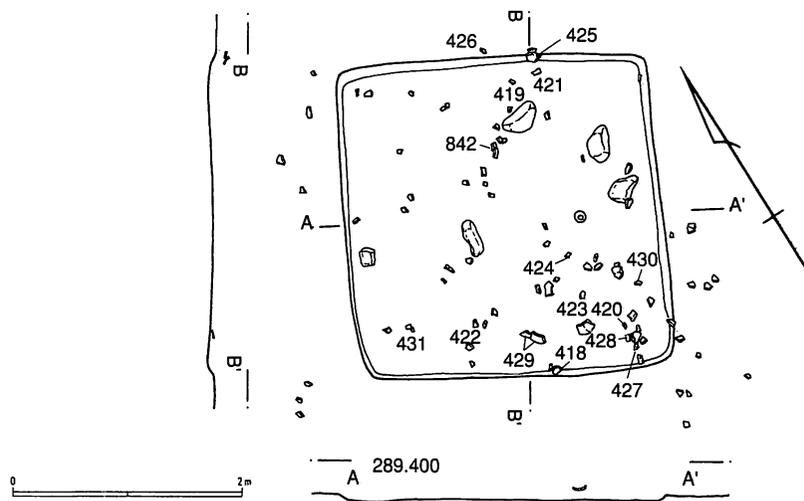


- I. 暗褐色砂質土  
(焼土・カーボン含む)
- II. 暗褐色砂質土  
(カーボン主体)
- III. 褐色砂質土
- IV. 暗褐色砂質土
- V. III層と類似=褐色砂質土
- VI. 褐色砂質土  
(III. V. VI層と類似)

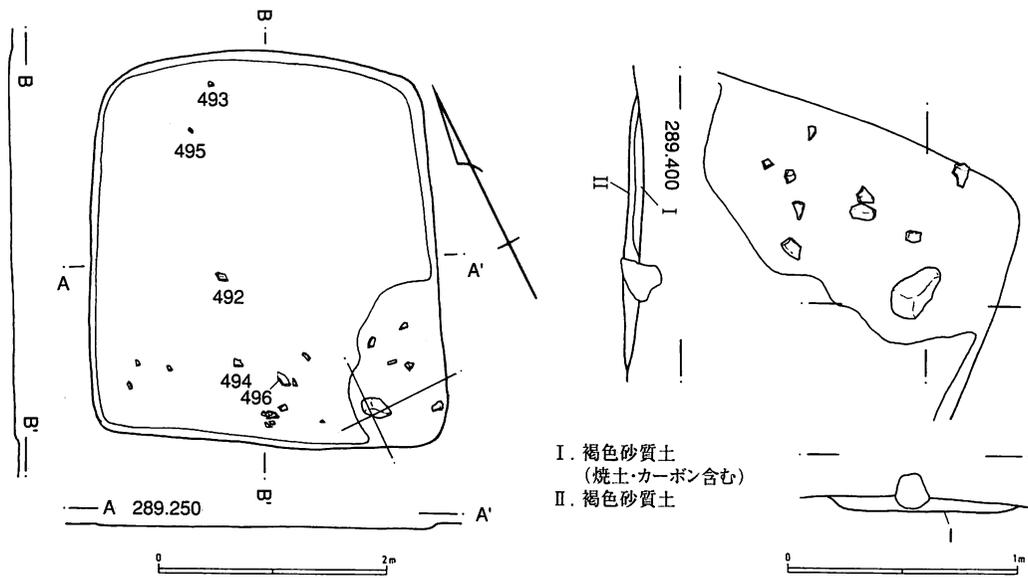


- I. 暗褐色砂質土  
(焼土・カーボン・灰を含む)
- II. 暗褐色砂質土  
(焼土・カーボンを含む)  
(I層に比べ少ない)

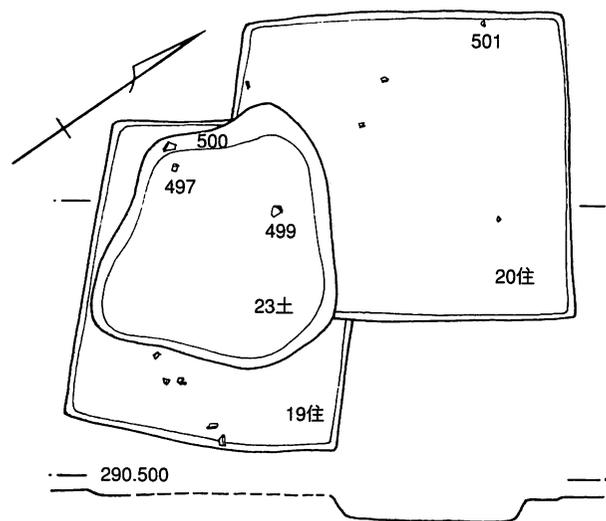
第22図 7号・8号住居跡



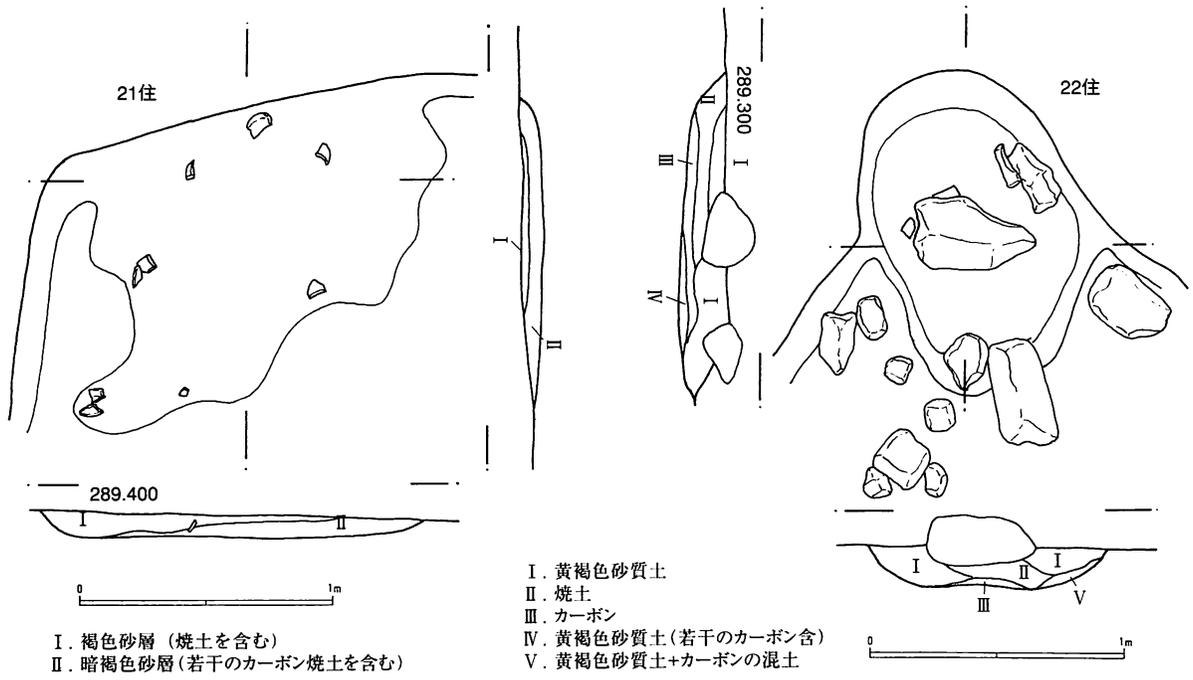
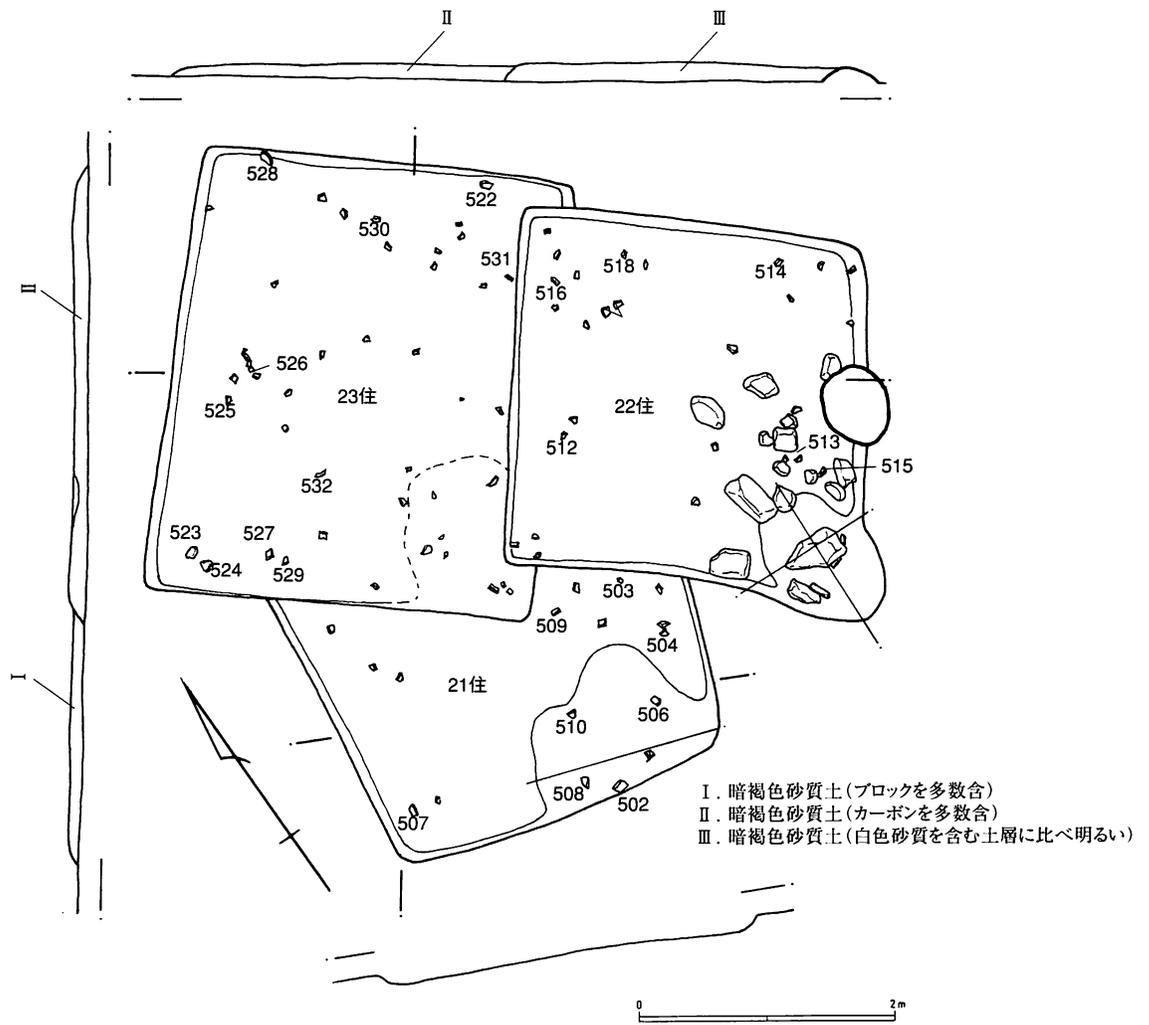
第23図 10号住居跡



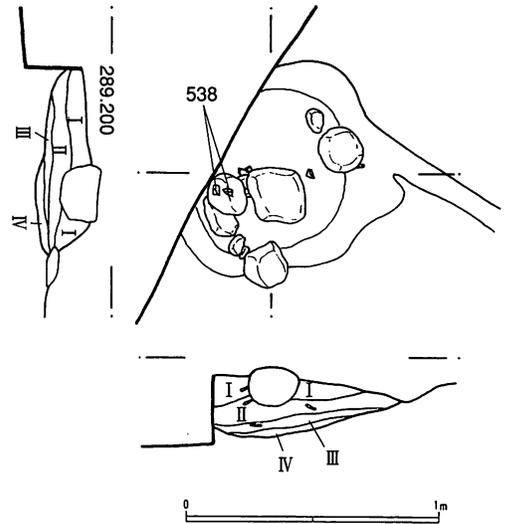
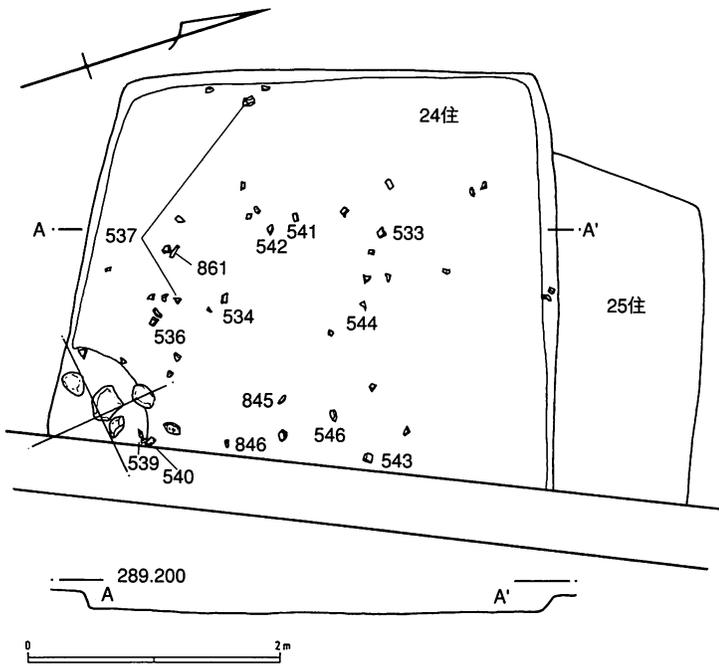
第24図 17号住居跡



第25図 19号・20号住居跡 23号土坑

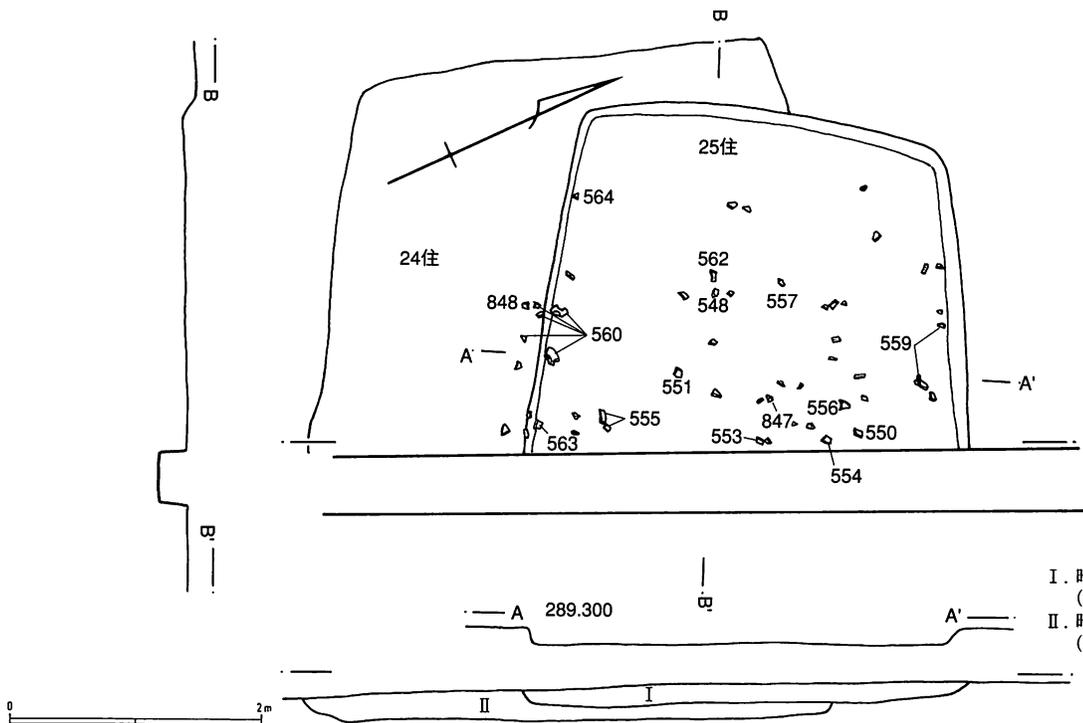


第26図 21号・22号・23号住居跡



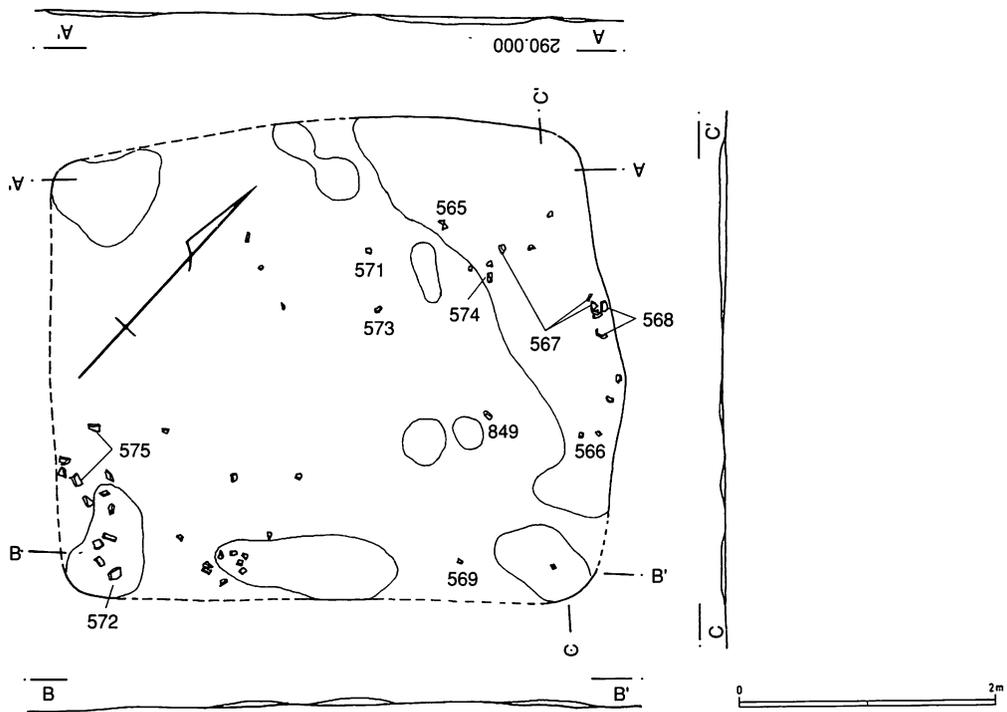
- I. 褐色砂質土
- II. 褐色砂質土+焼土+カーボン
- III. カーボン層
- IV. 黄褐色砂質土

第27図 24号住居跡

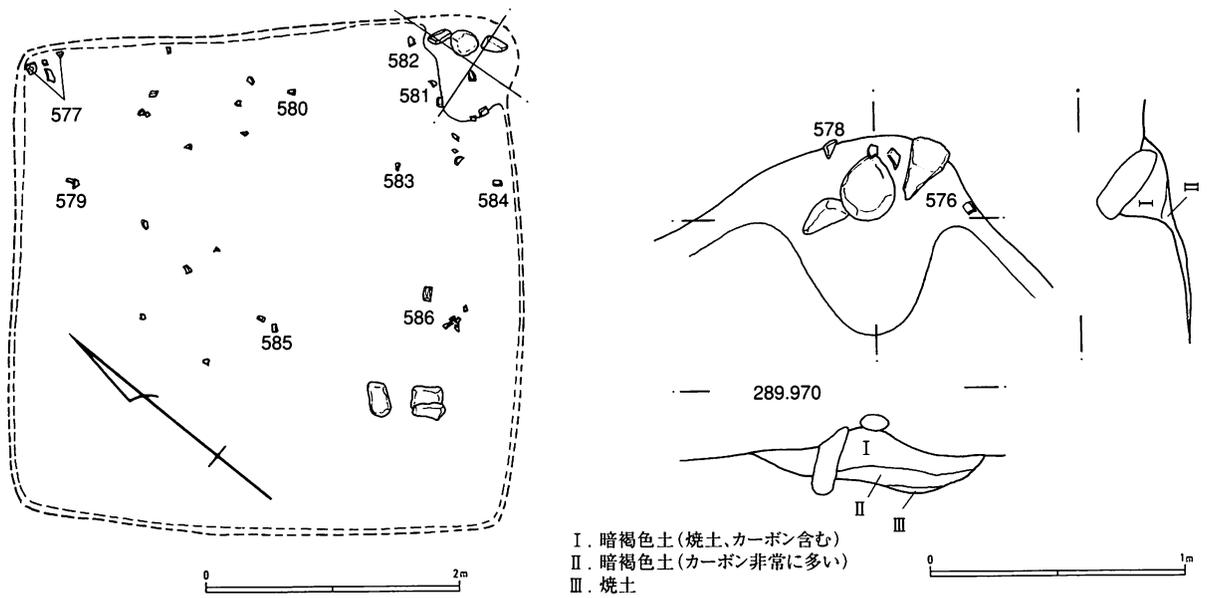


- I. 暗褐色砂質土  
(若干カーボン含む)
- II. 暗褐色砂質土  
(やや明るい)

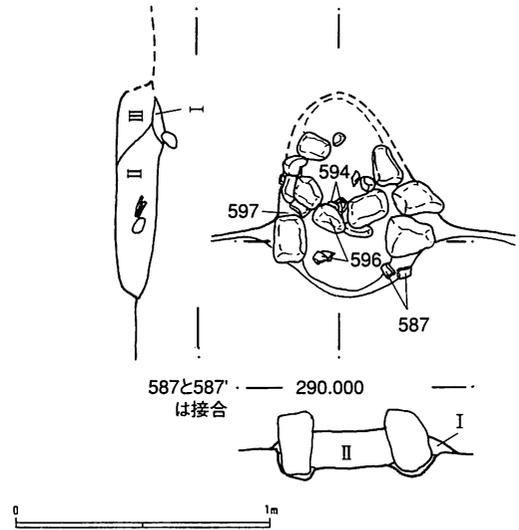
第28図 25号住居跡



第29図 28号住居跡

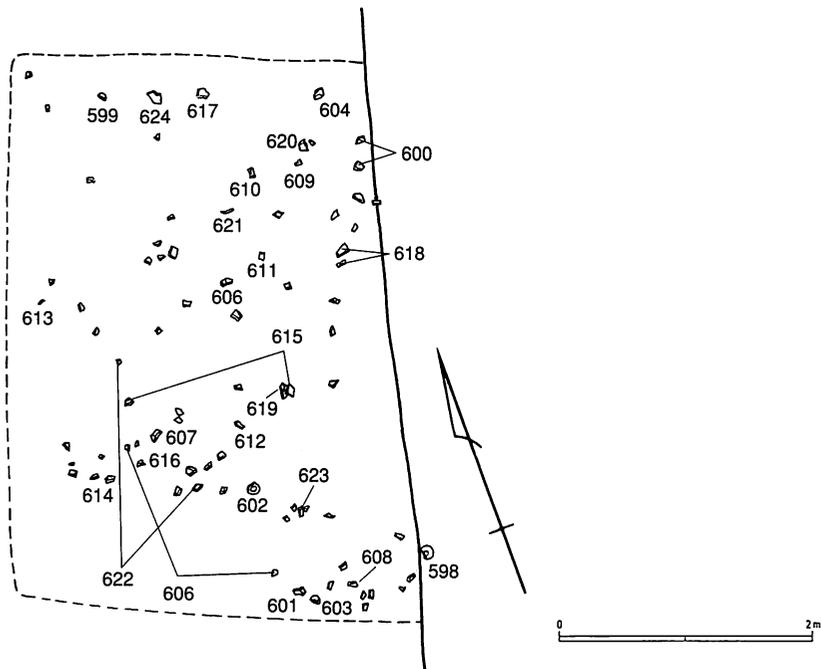


第30図 29号住居跡

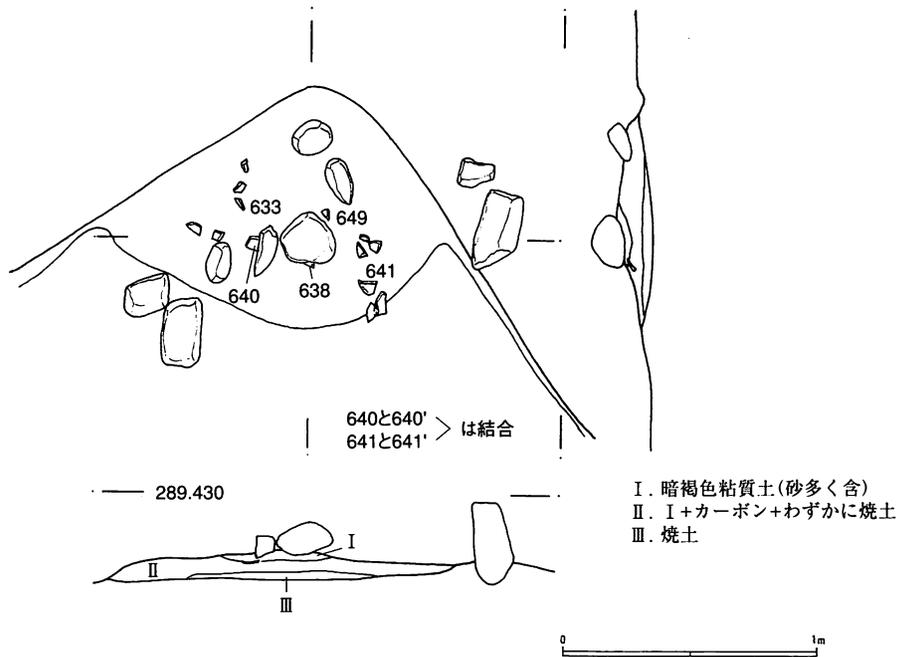
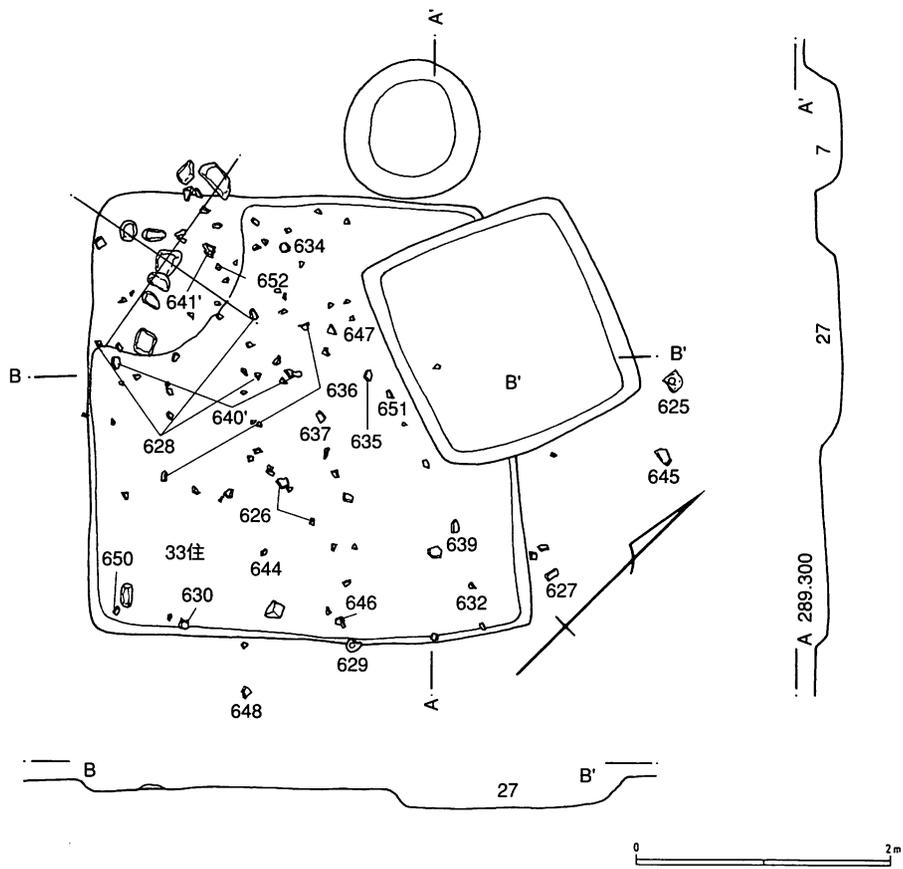


- I. 焼土ブロック
- II. 暗褐色土(焼土、カーボン含)
- III. 暗褐色土

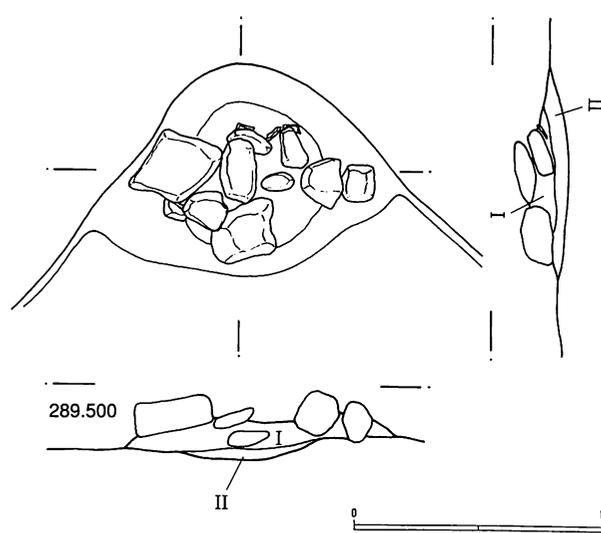
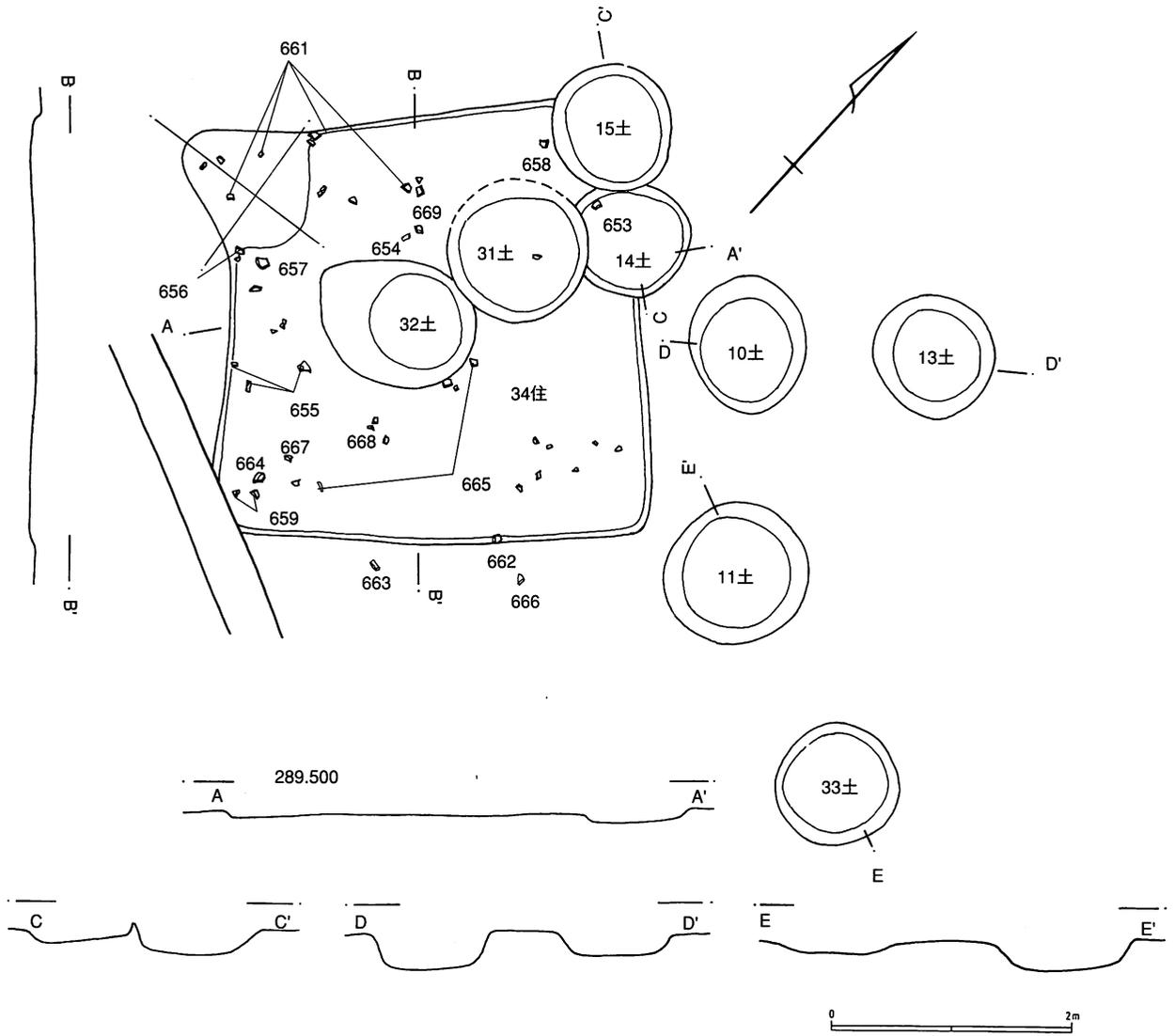
第31図 30号住居跡



第32図 31号住居跡

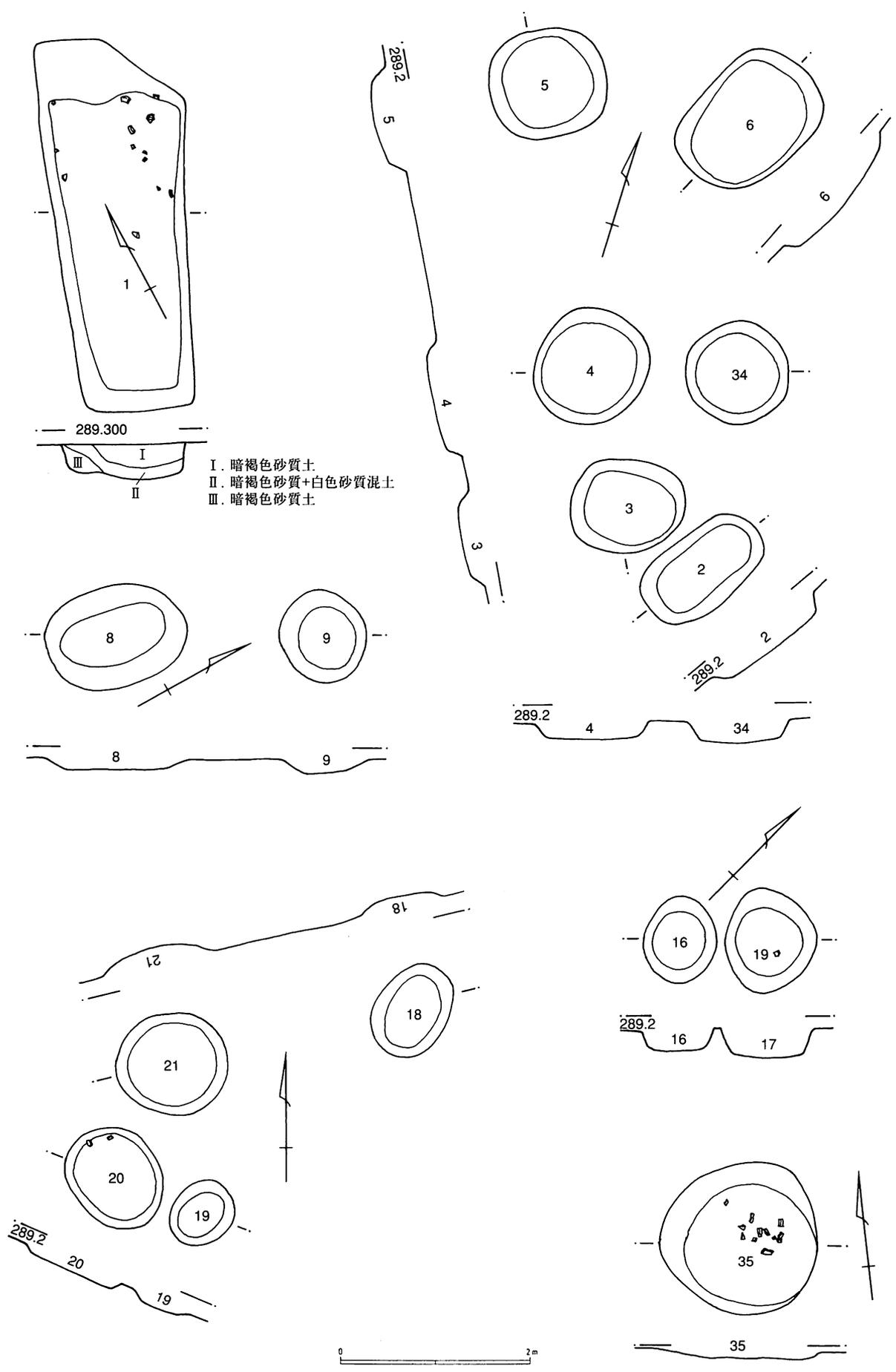


第33図 33号住居跡

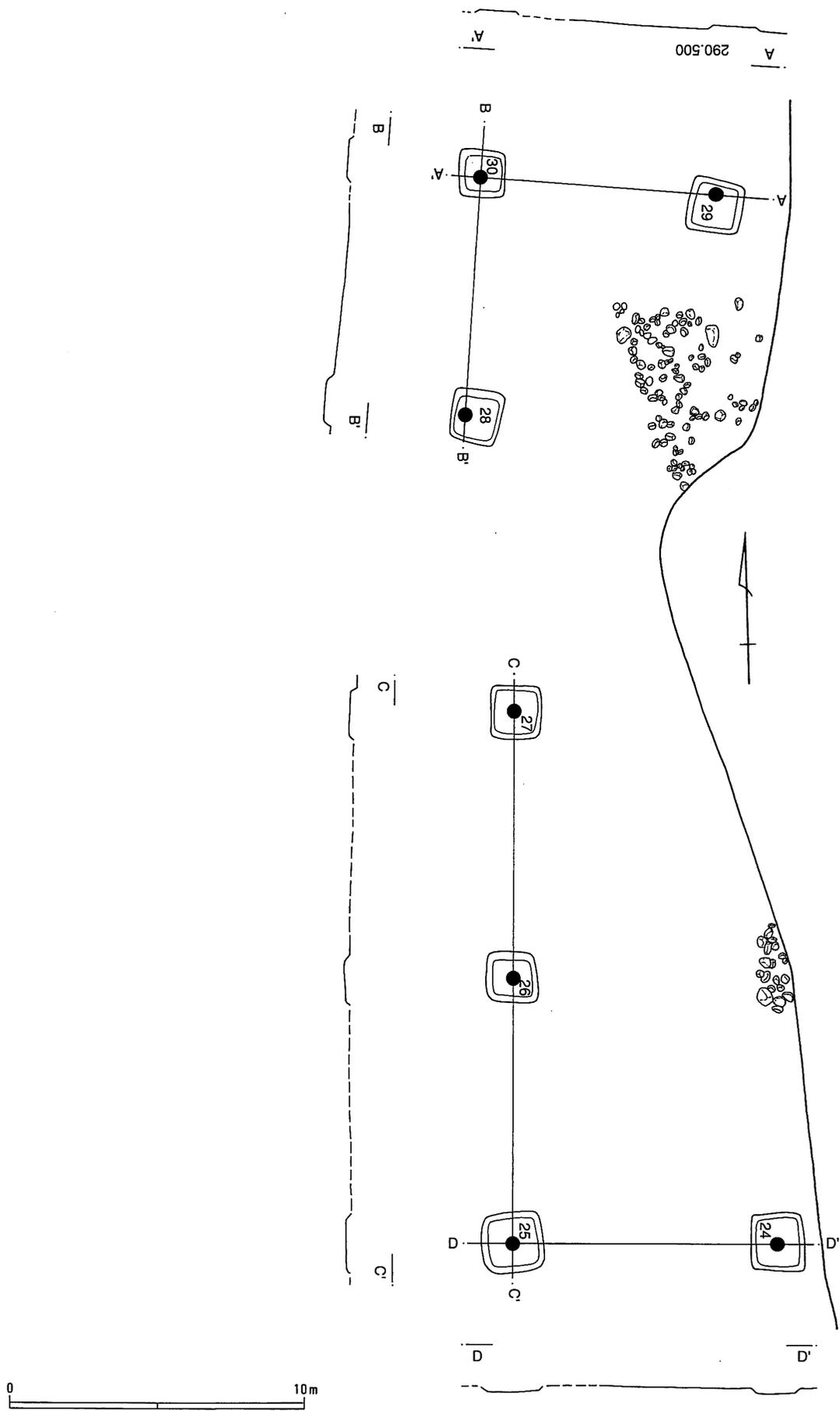


I. 暗褐色粘質土 (砂多く含む)  
 II. I+カーボン+わずかに焼土

第34図 34号住居跡

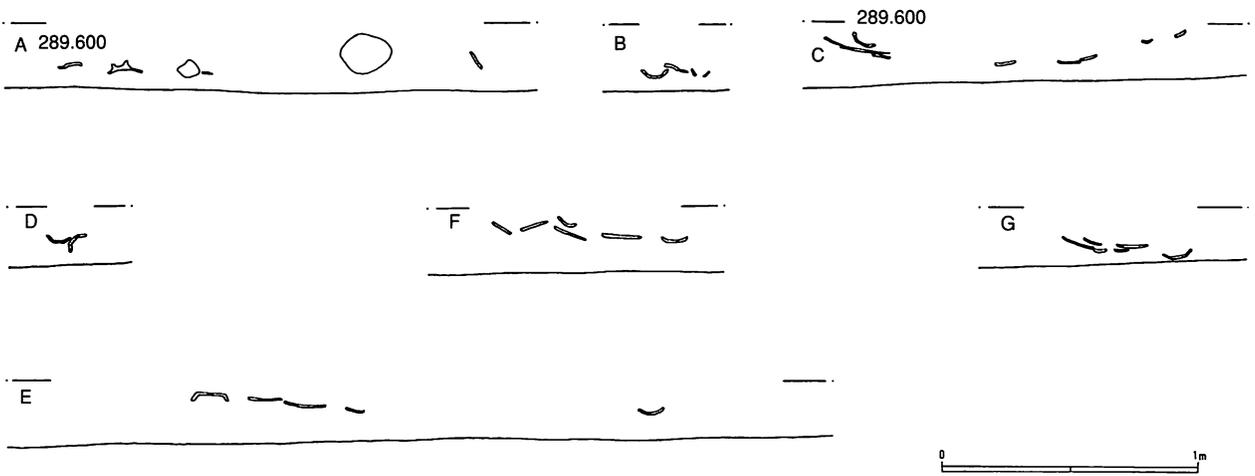
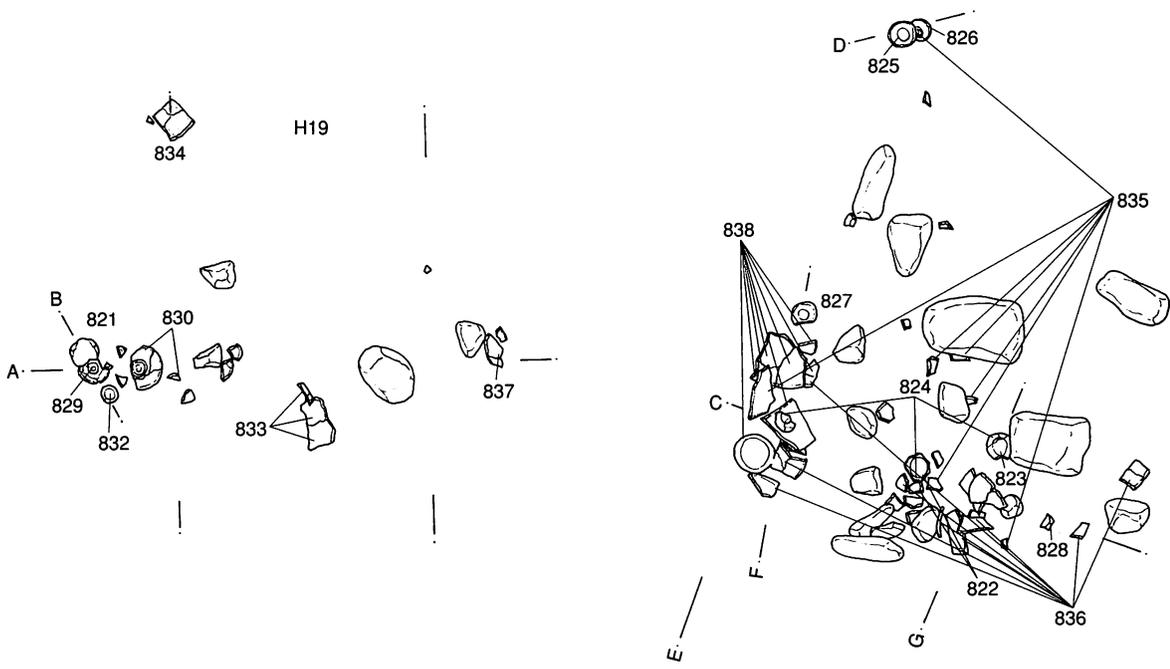
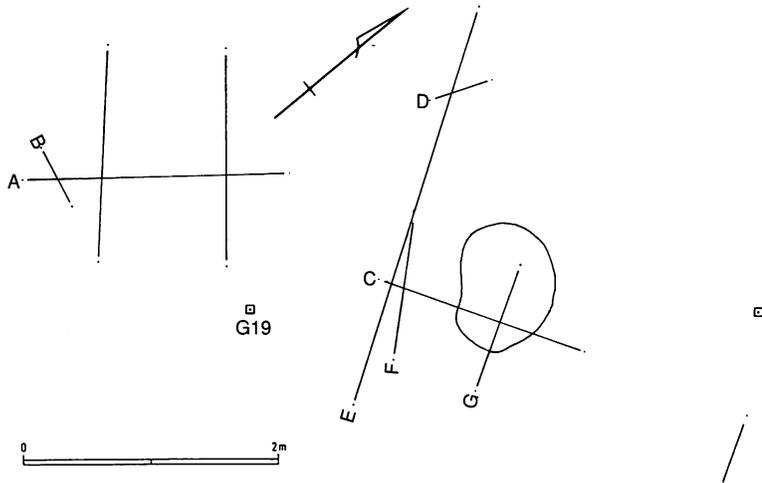


第35図 土坑群

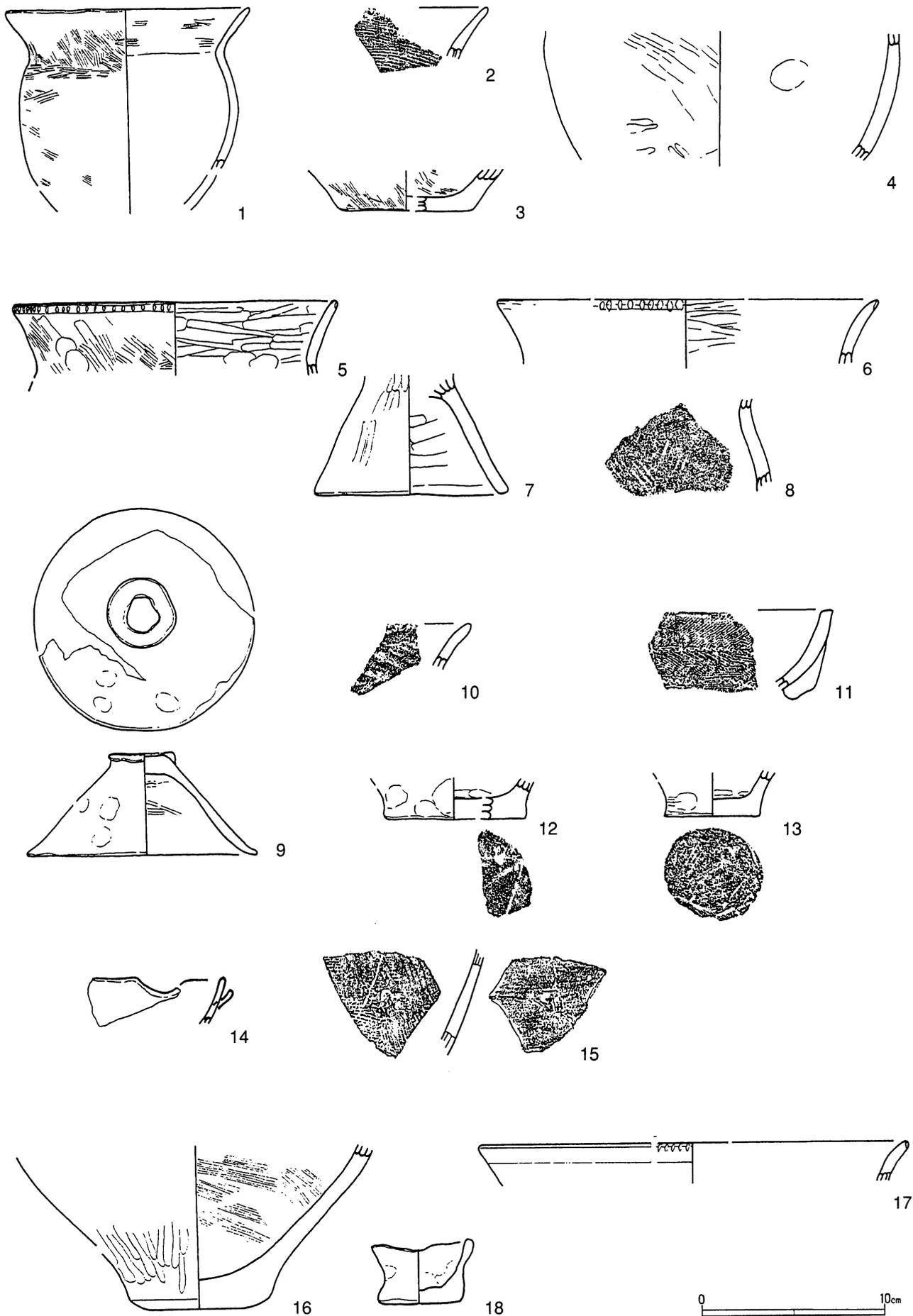


第36図 24号~30号土坑(掘立柱建物状配置)

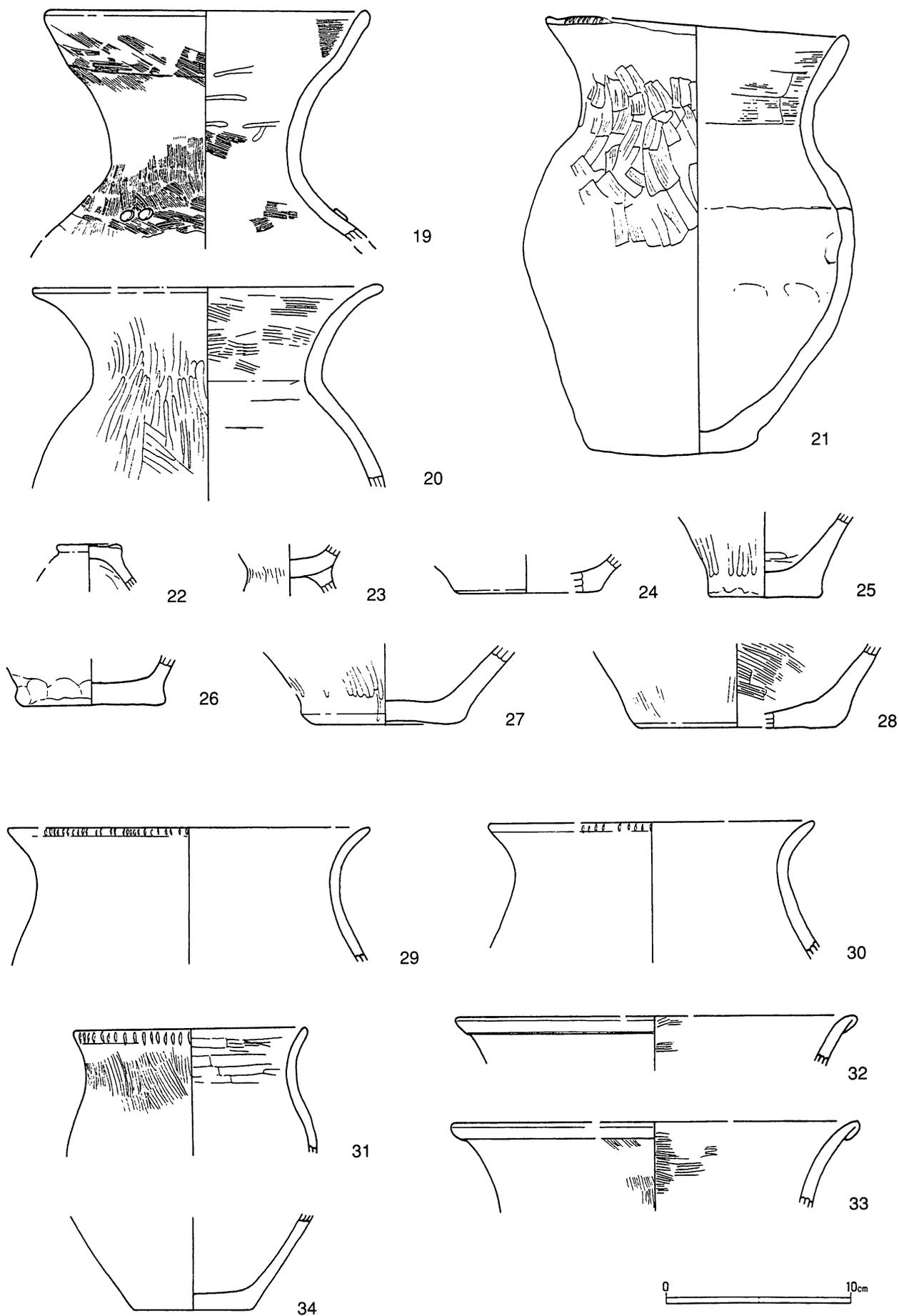




第38図 H-19・20グリッド遺物集中

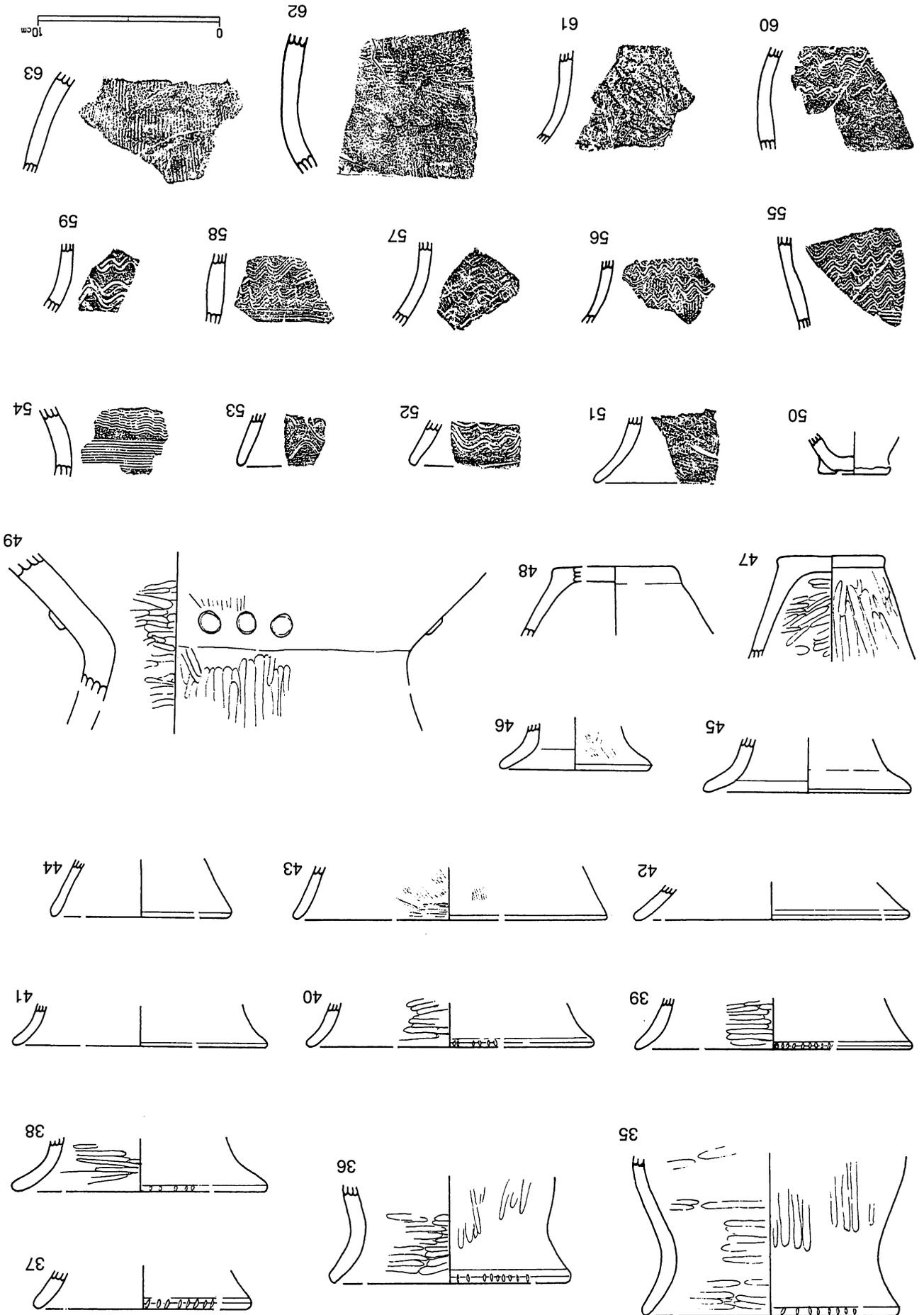


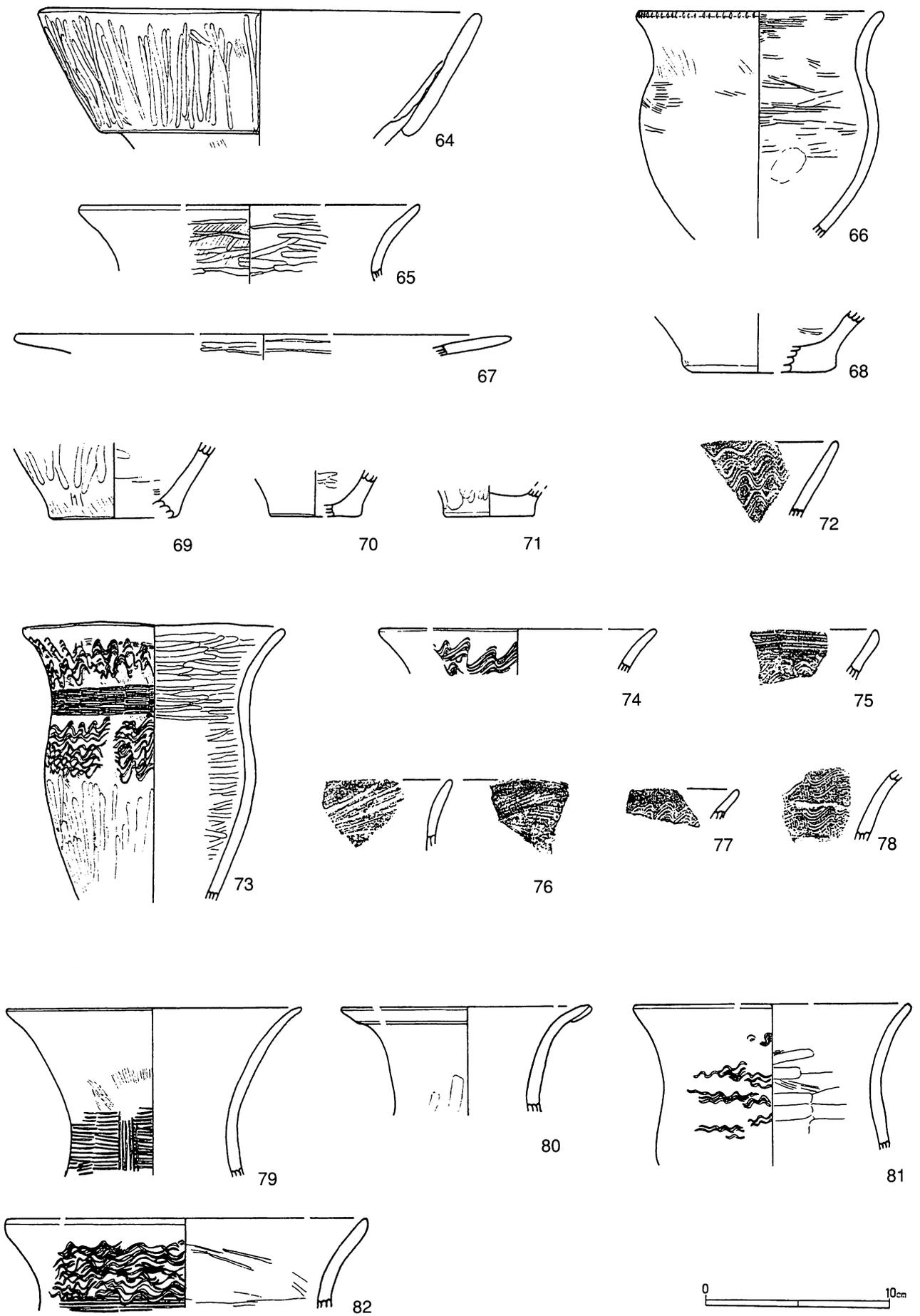
第39图 遺物1



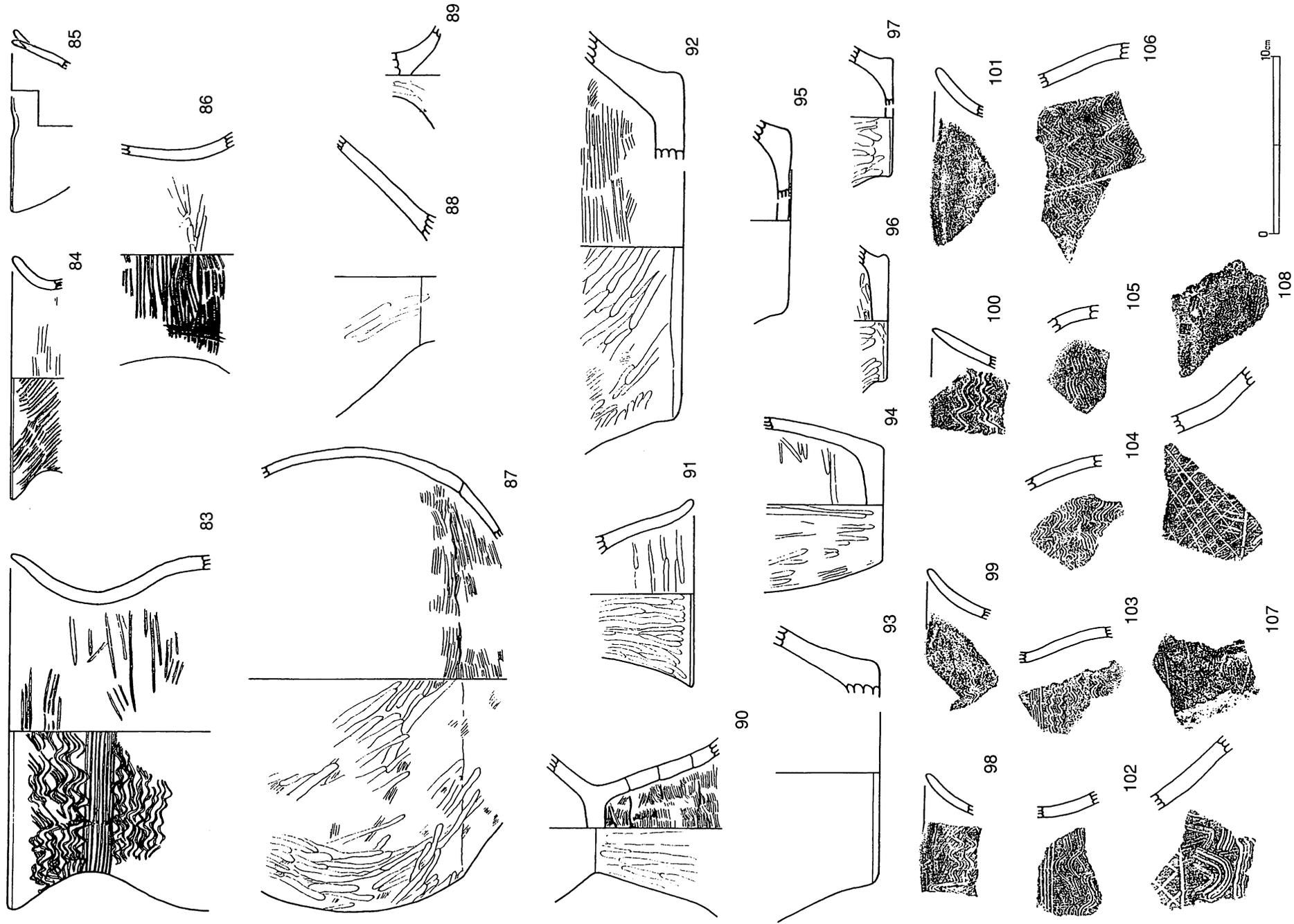
第40図 遺物2

第41图 遺物3

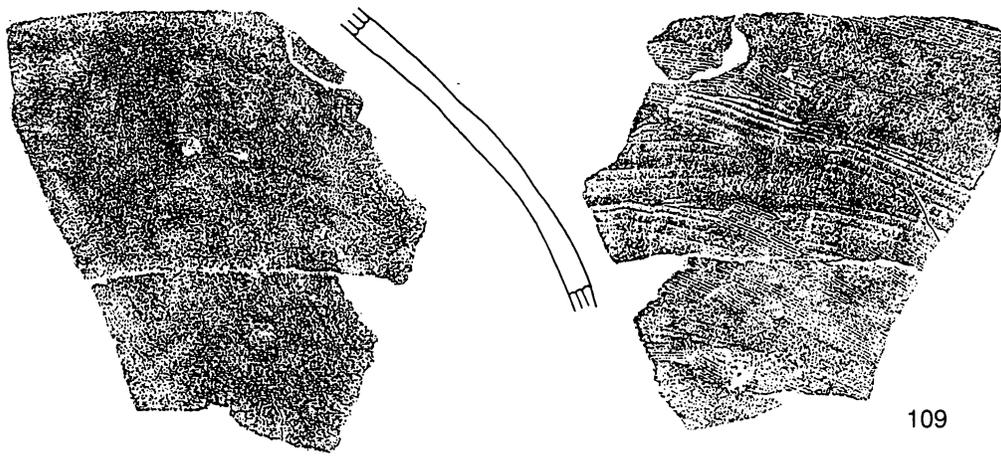




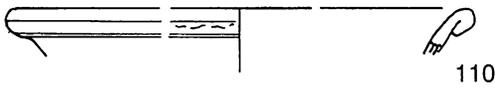
第42図 遺物4



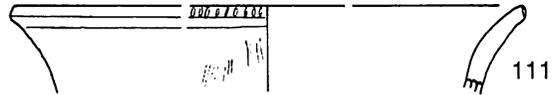
第43图 遺物5



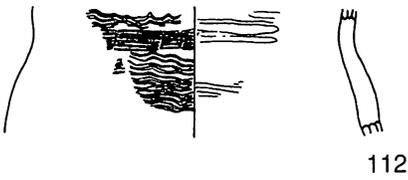
109



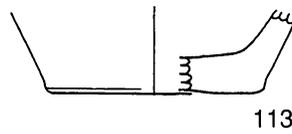
110



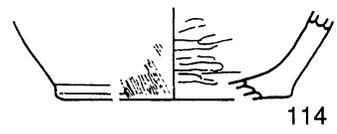
111



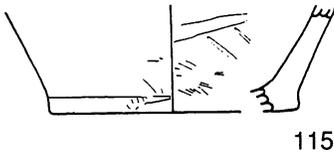
112



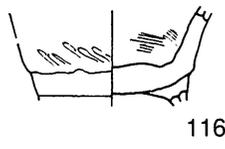
113



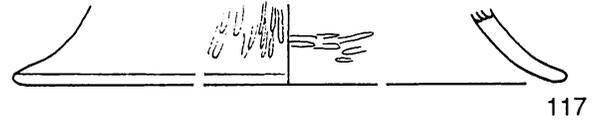
114



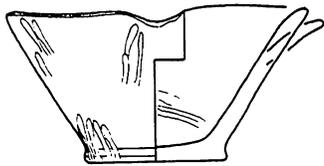
115



116



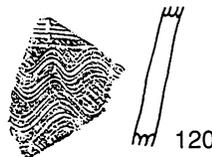
117



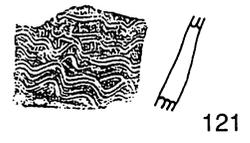
118



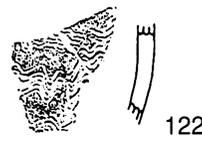
119



120



121



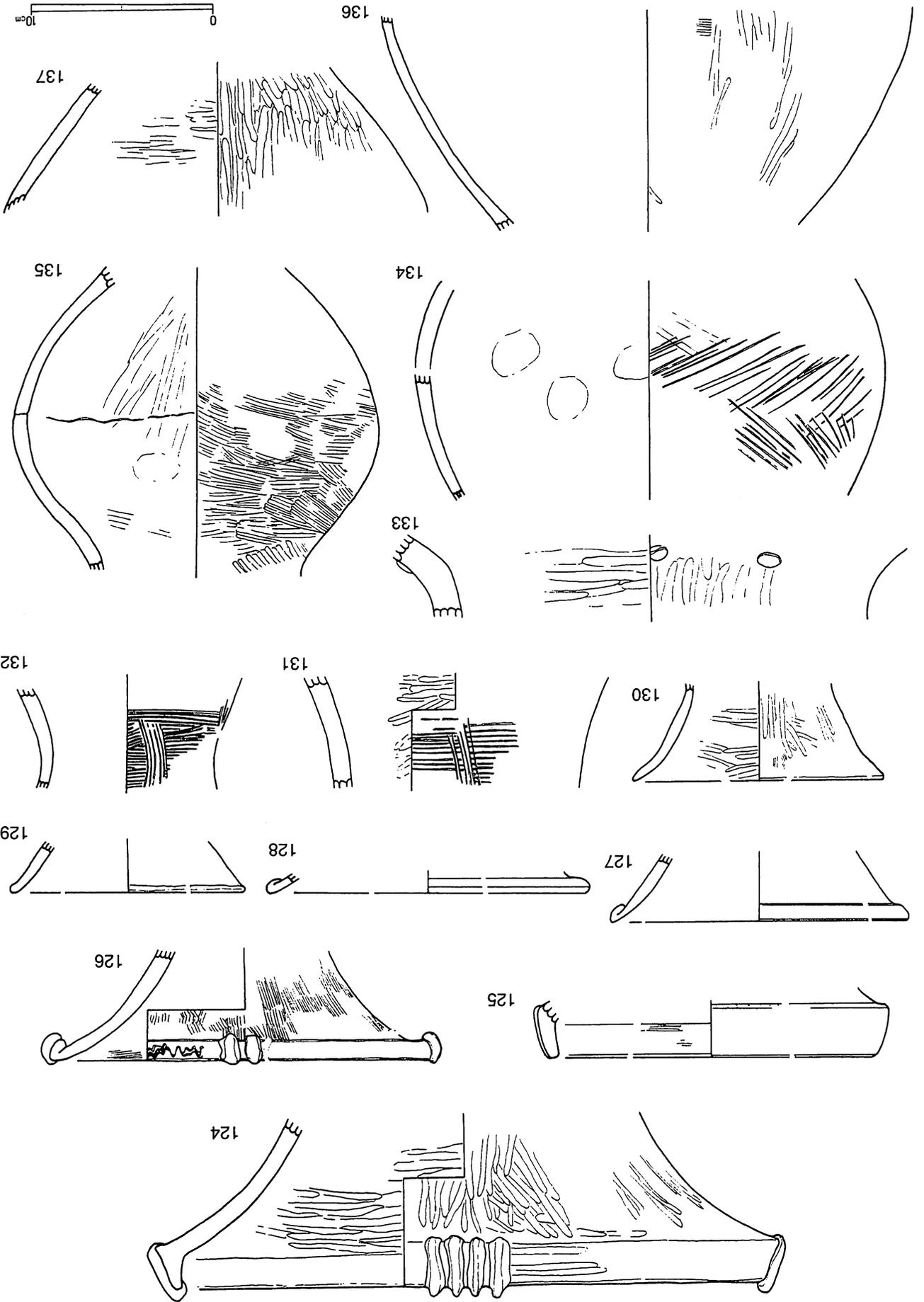
122

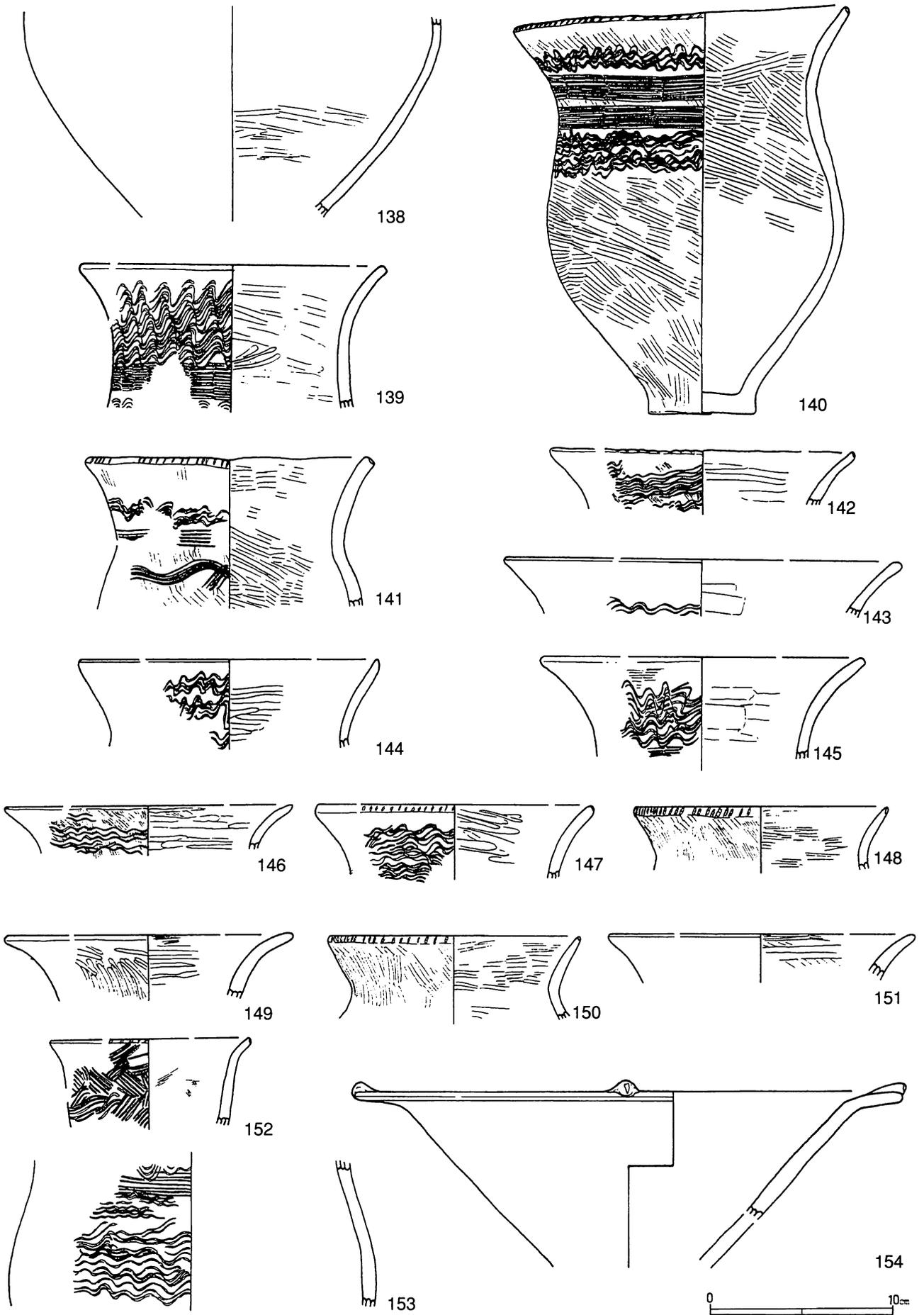


123

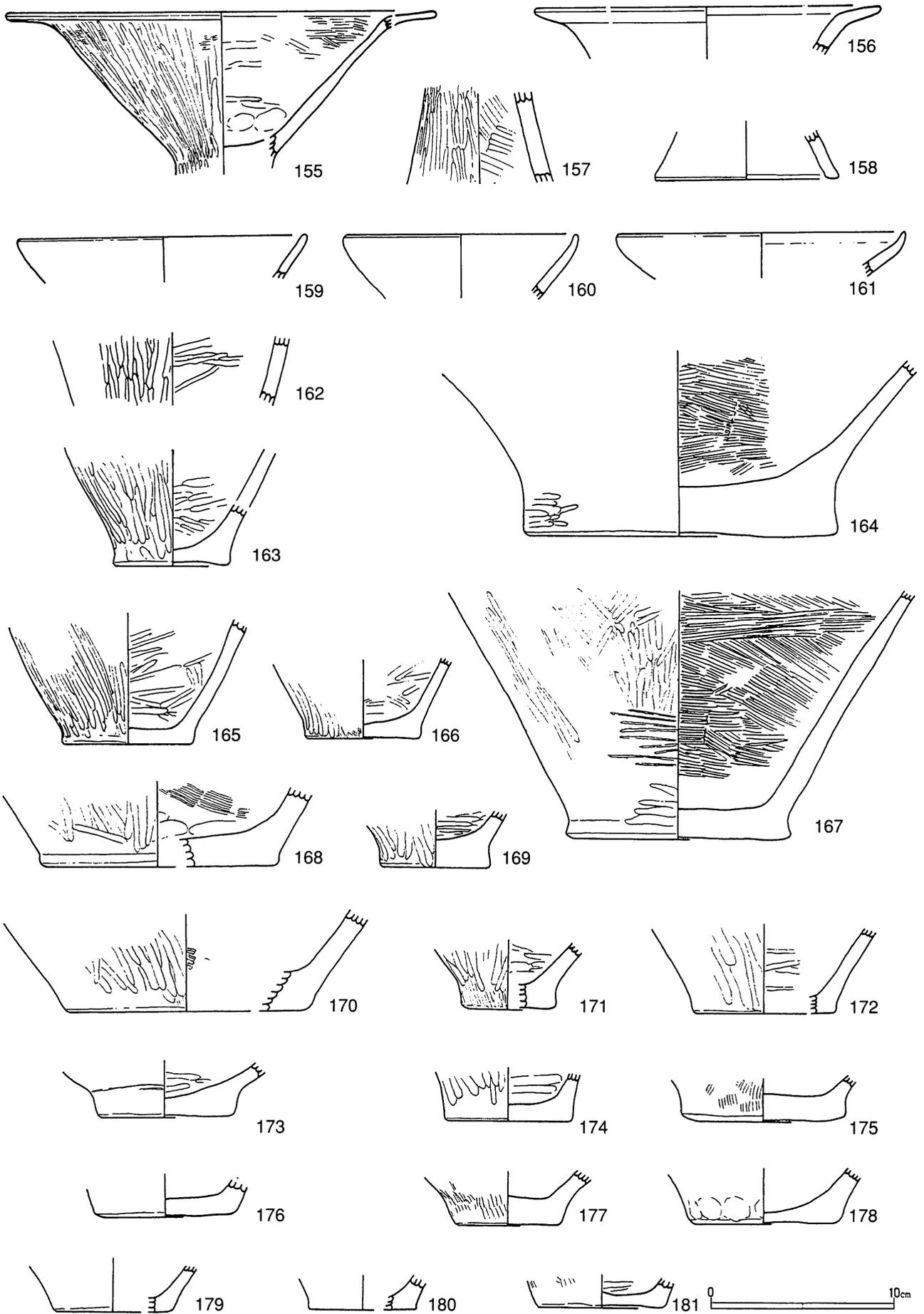
第44图 遺物6

第45圖 遺物7

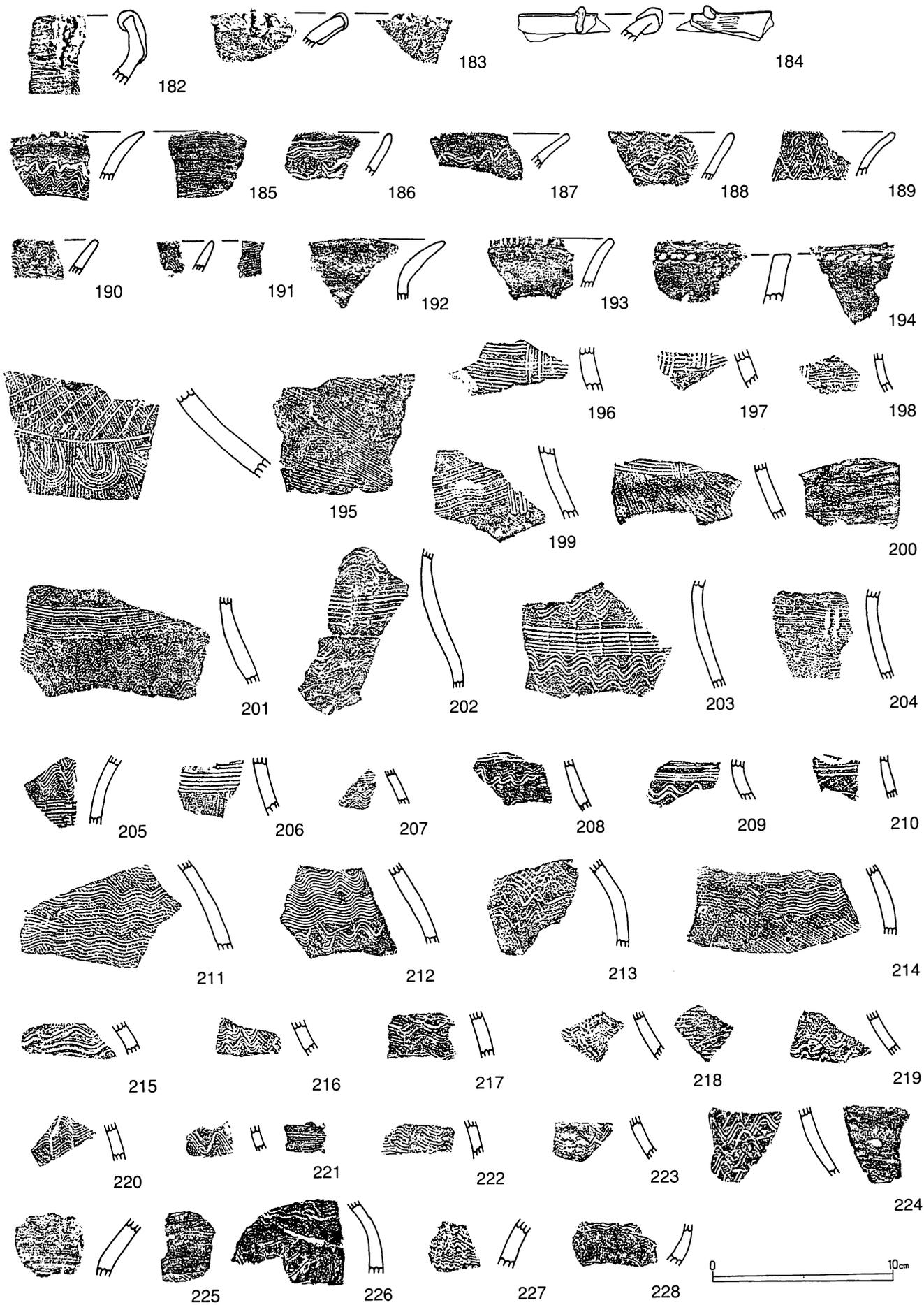




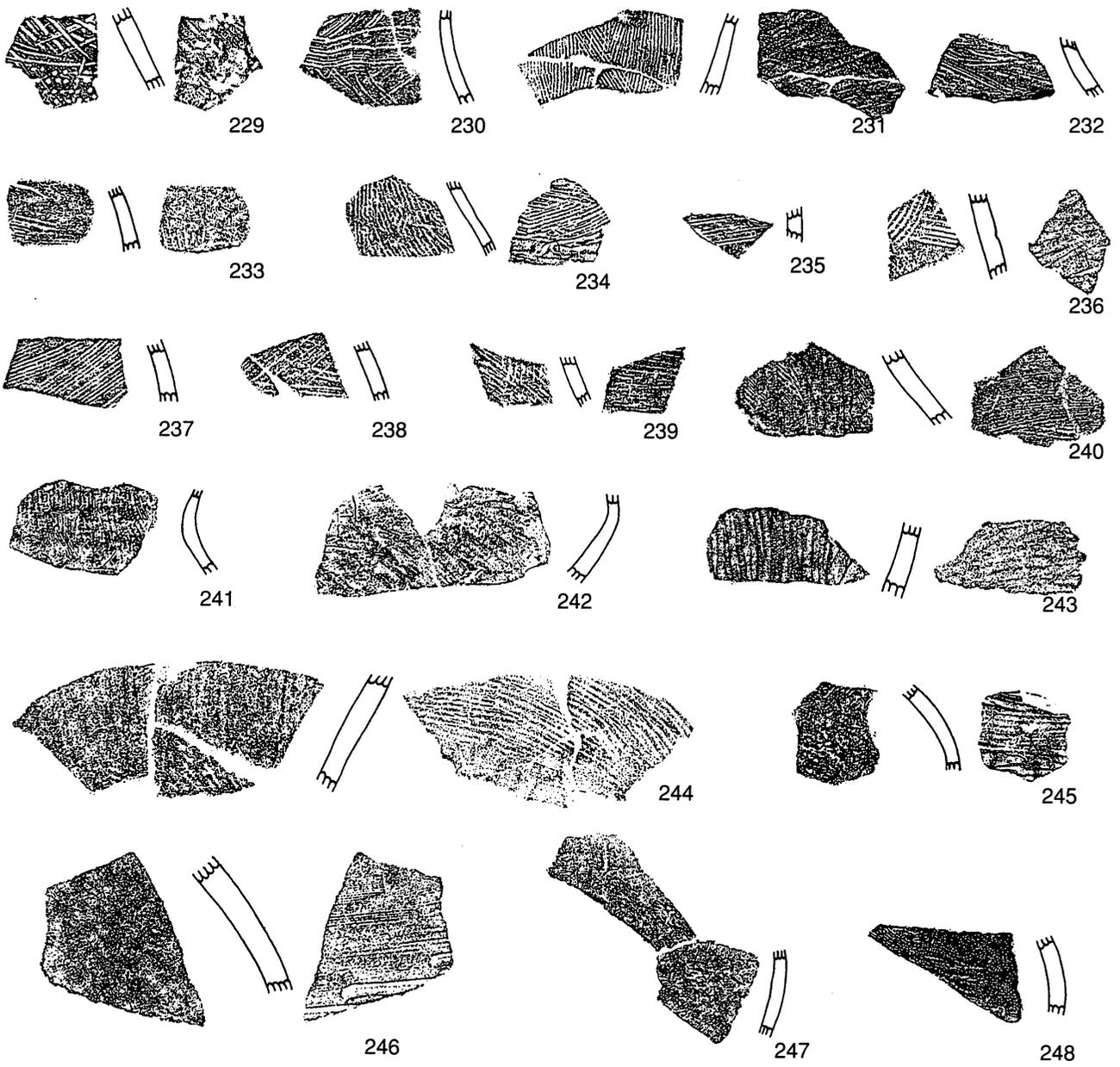
第46図 遺物8



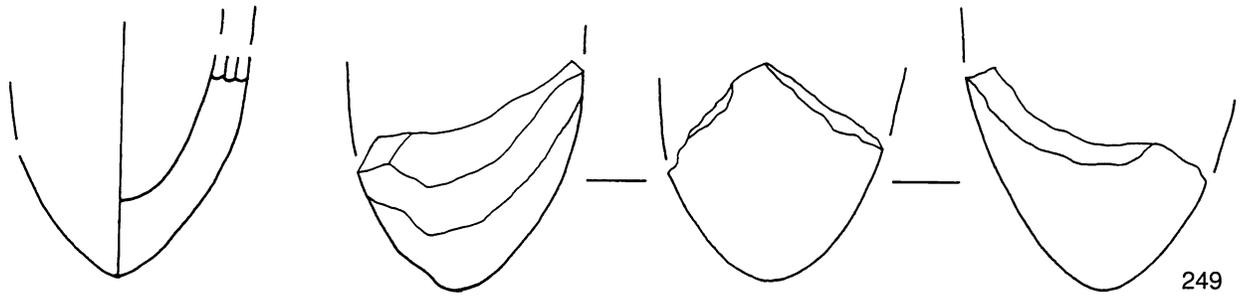
第47图 遺物9



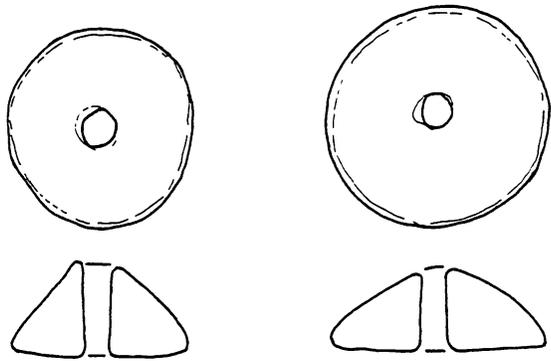
第48图 遺物10



第49圖 遺物11

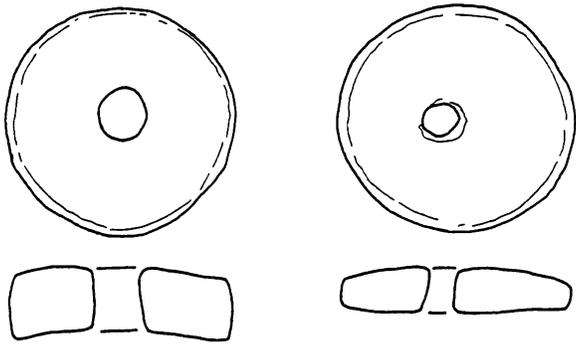


249



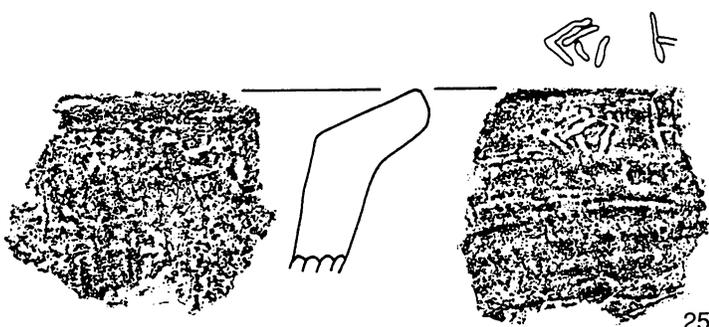
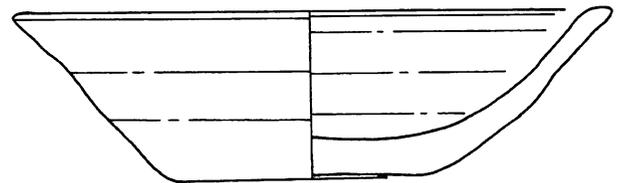
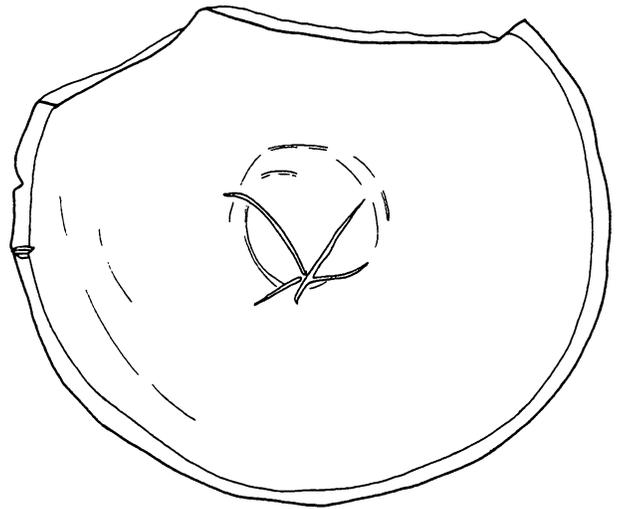
250

251



252

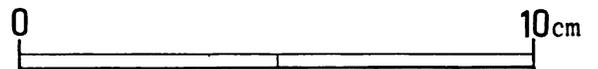
253



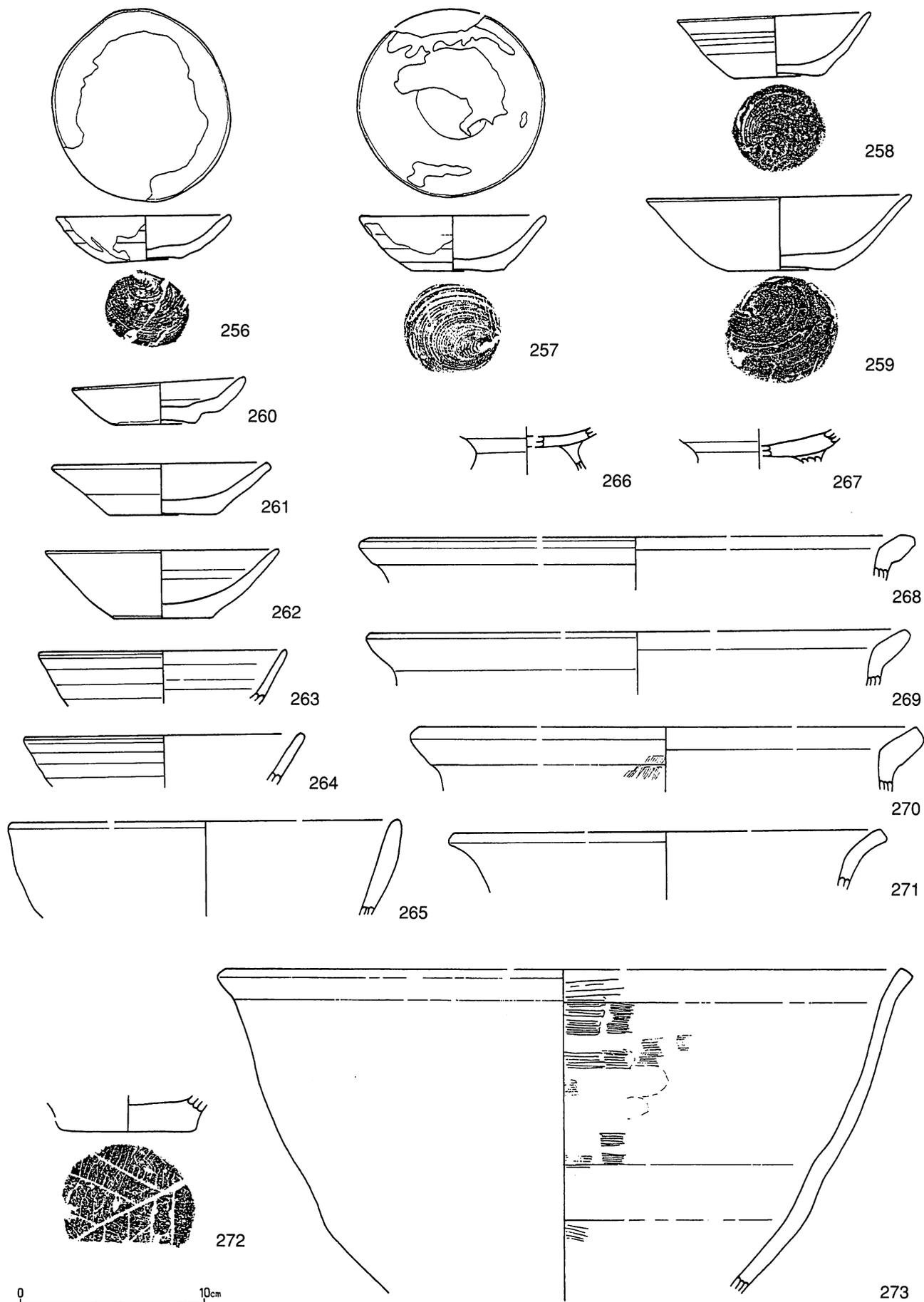
254



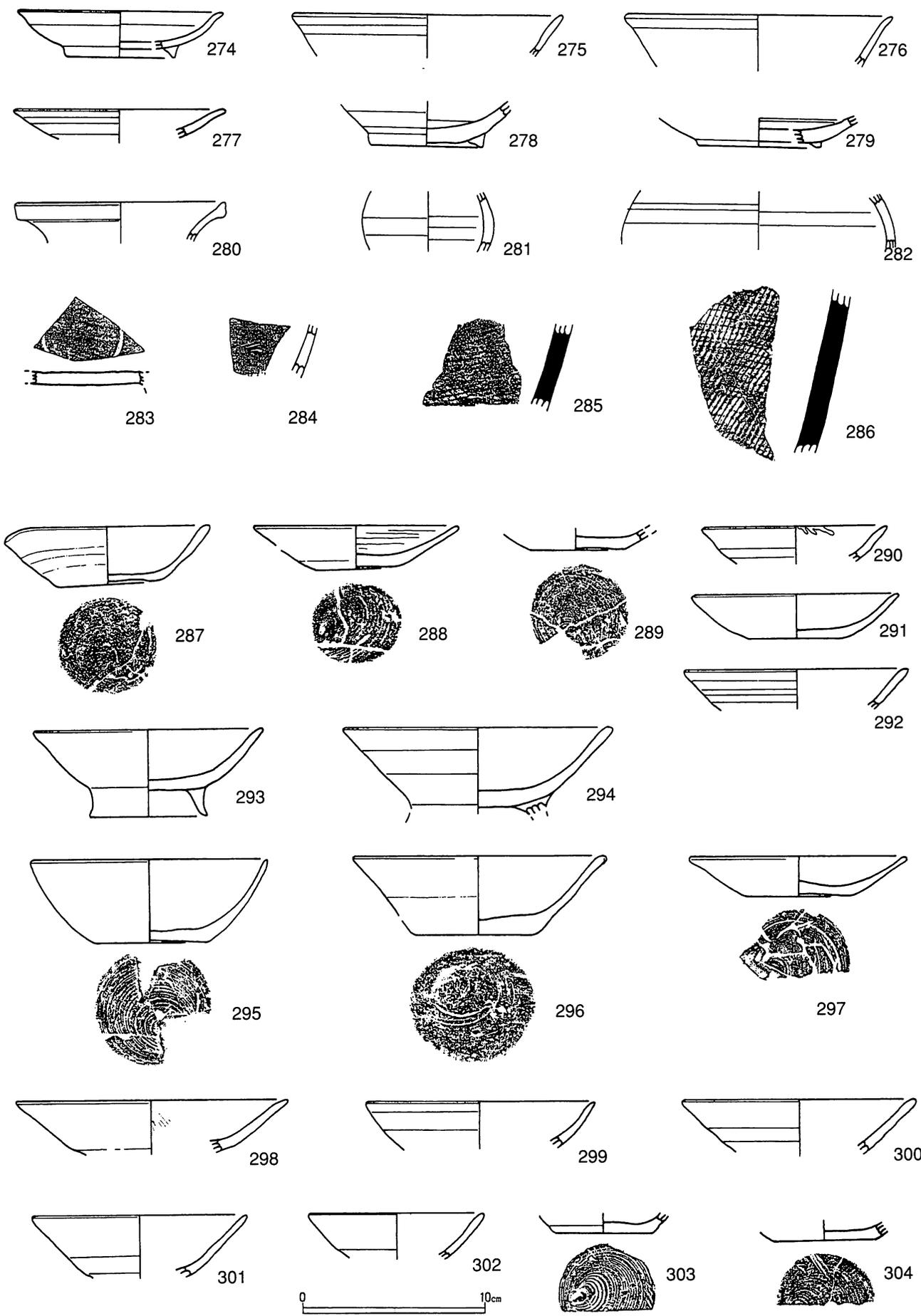
255



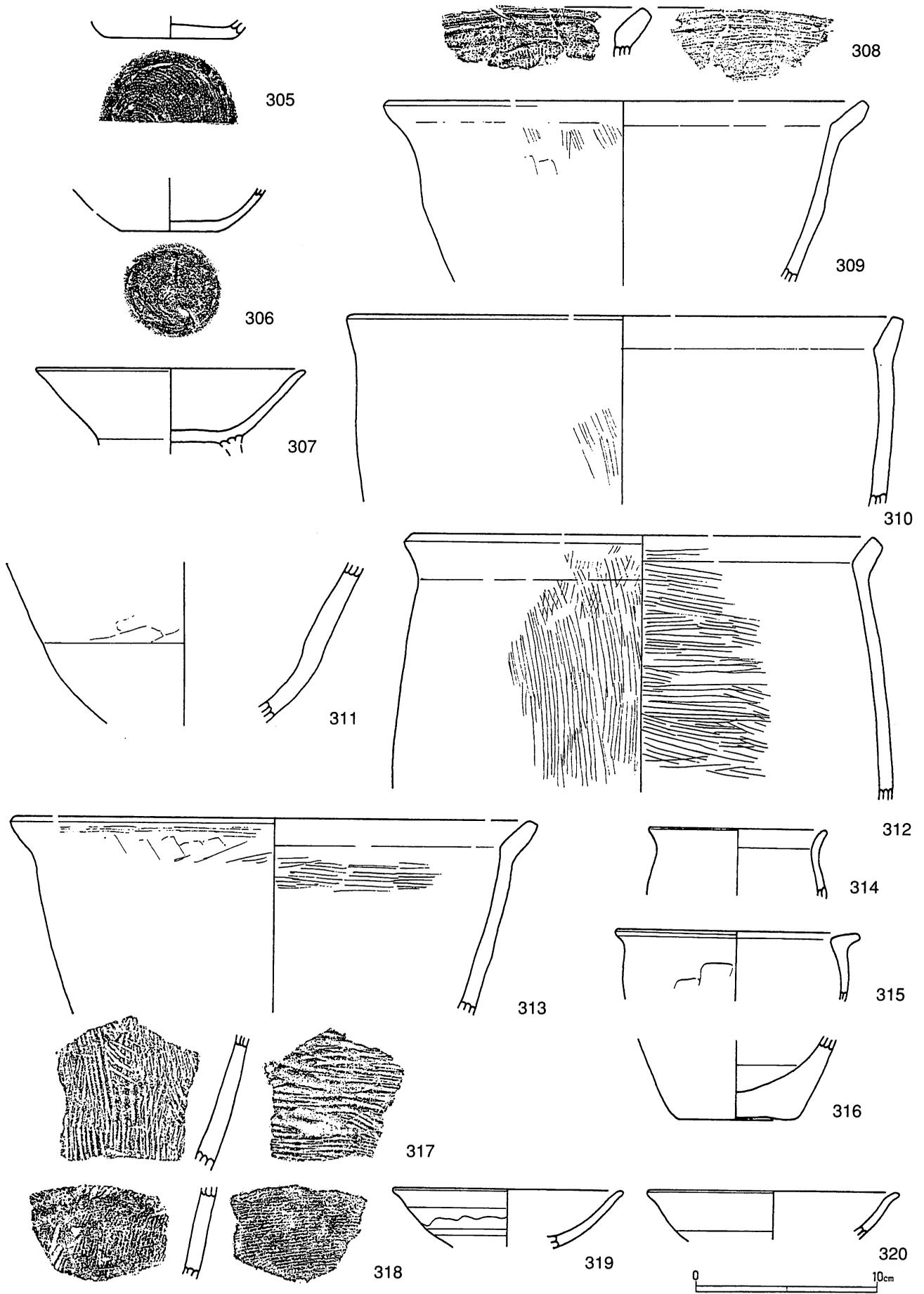
第50図 遺物12



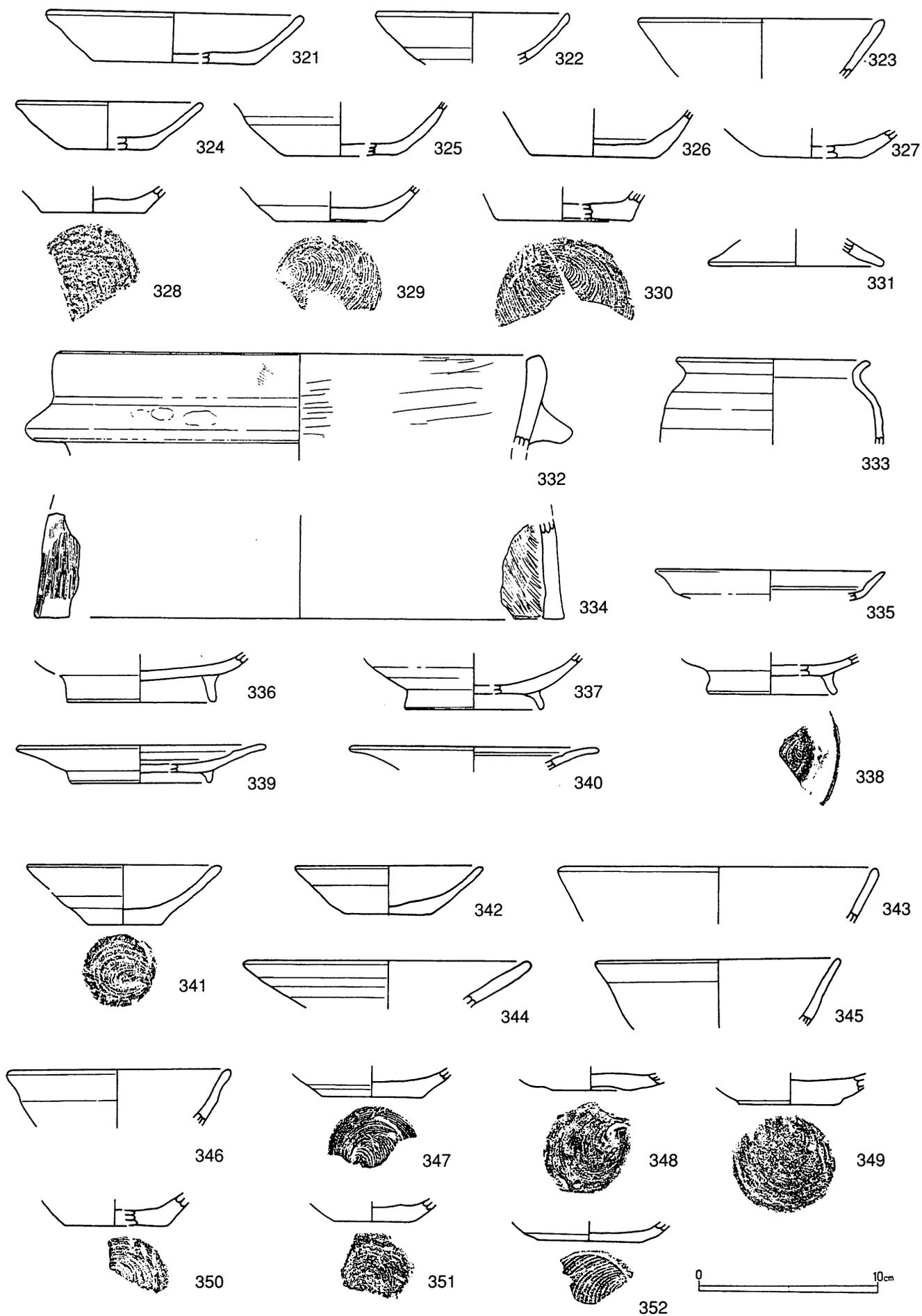
第51図 遺物13



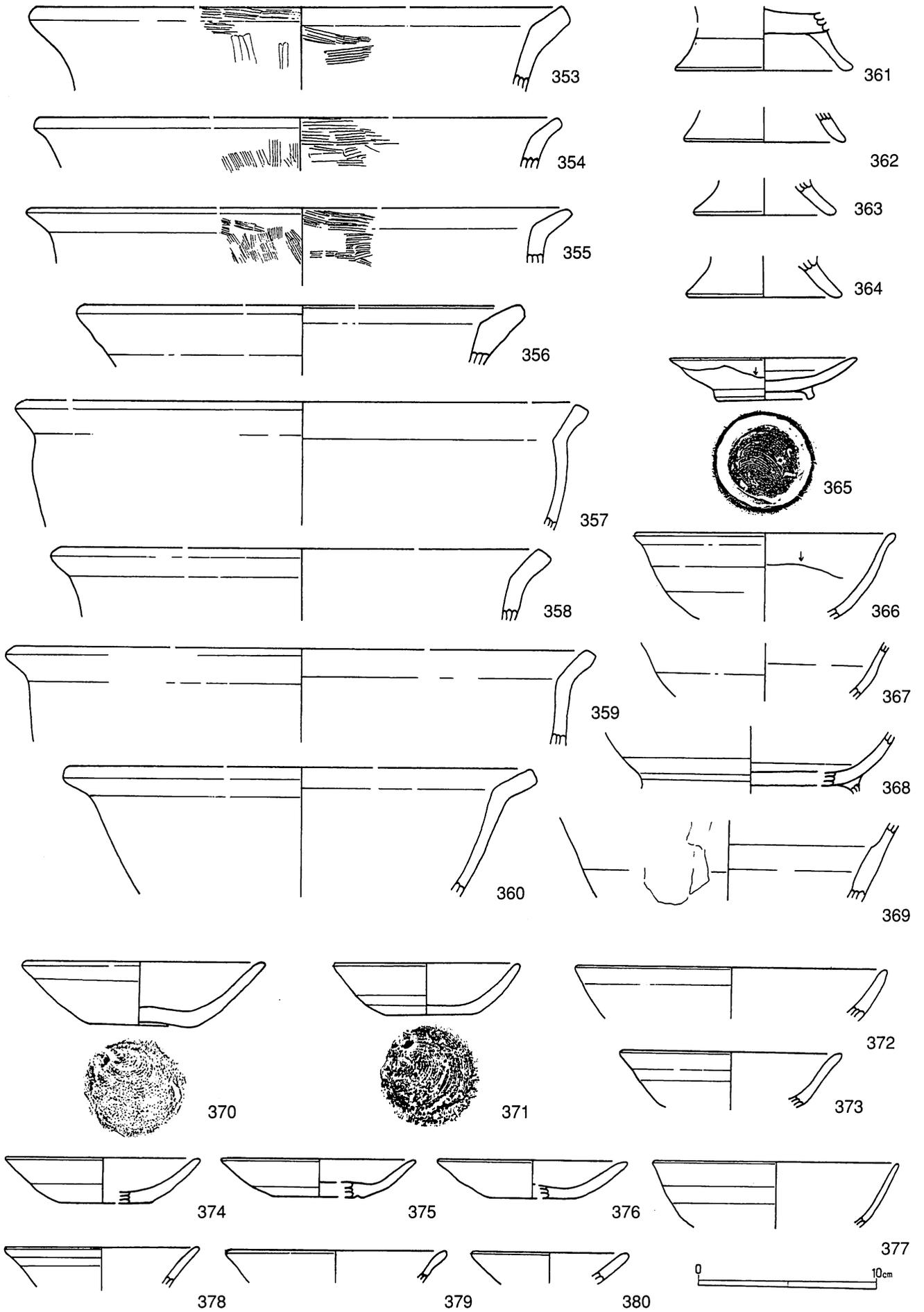
第52図 遺物14



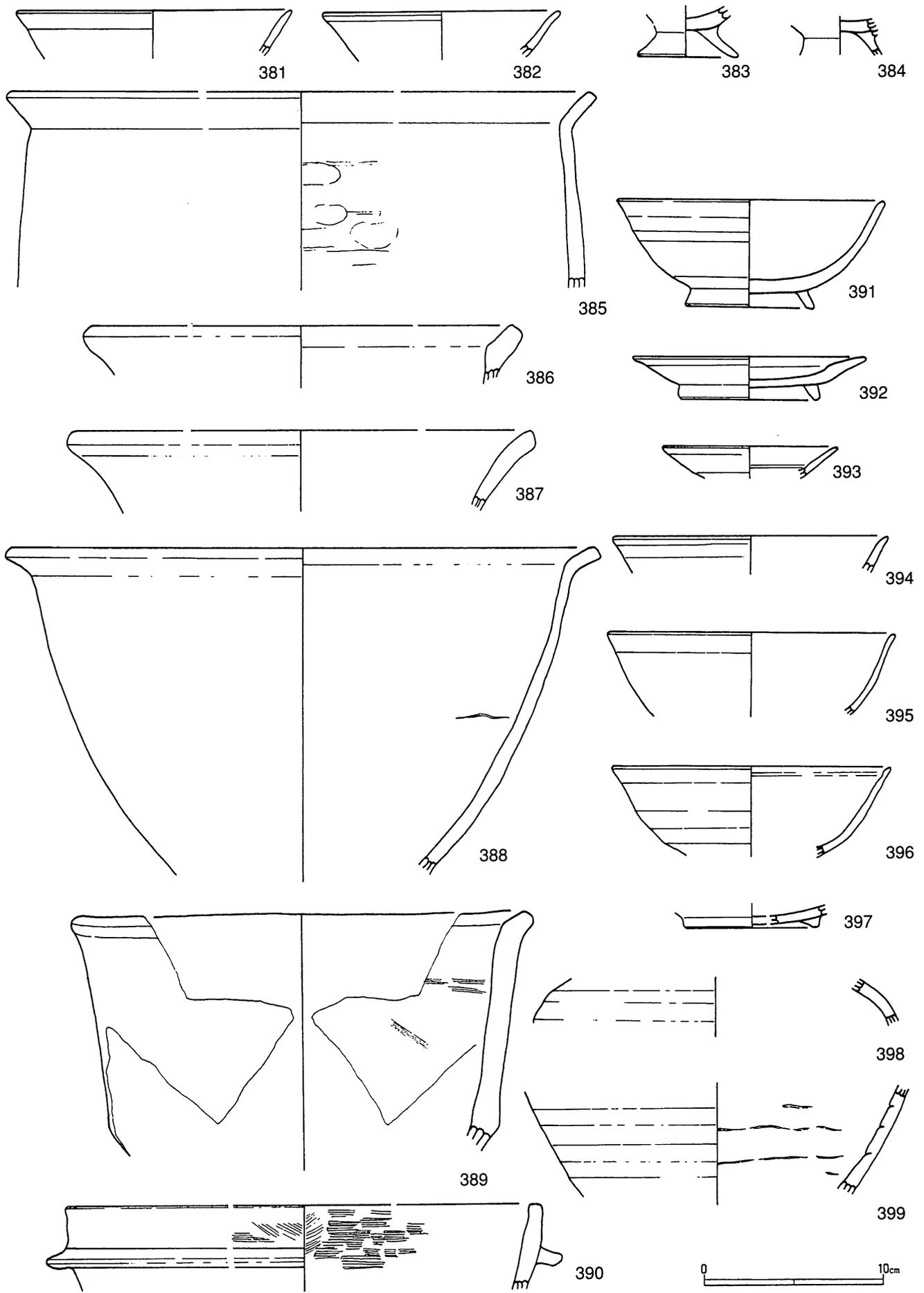
第53図 遺物15



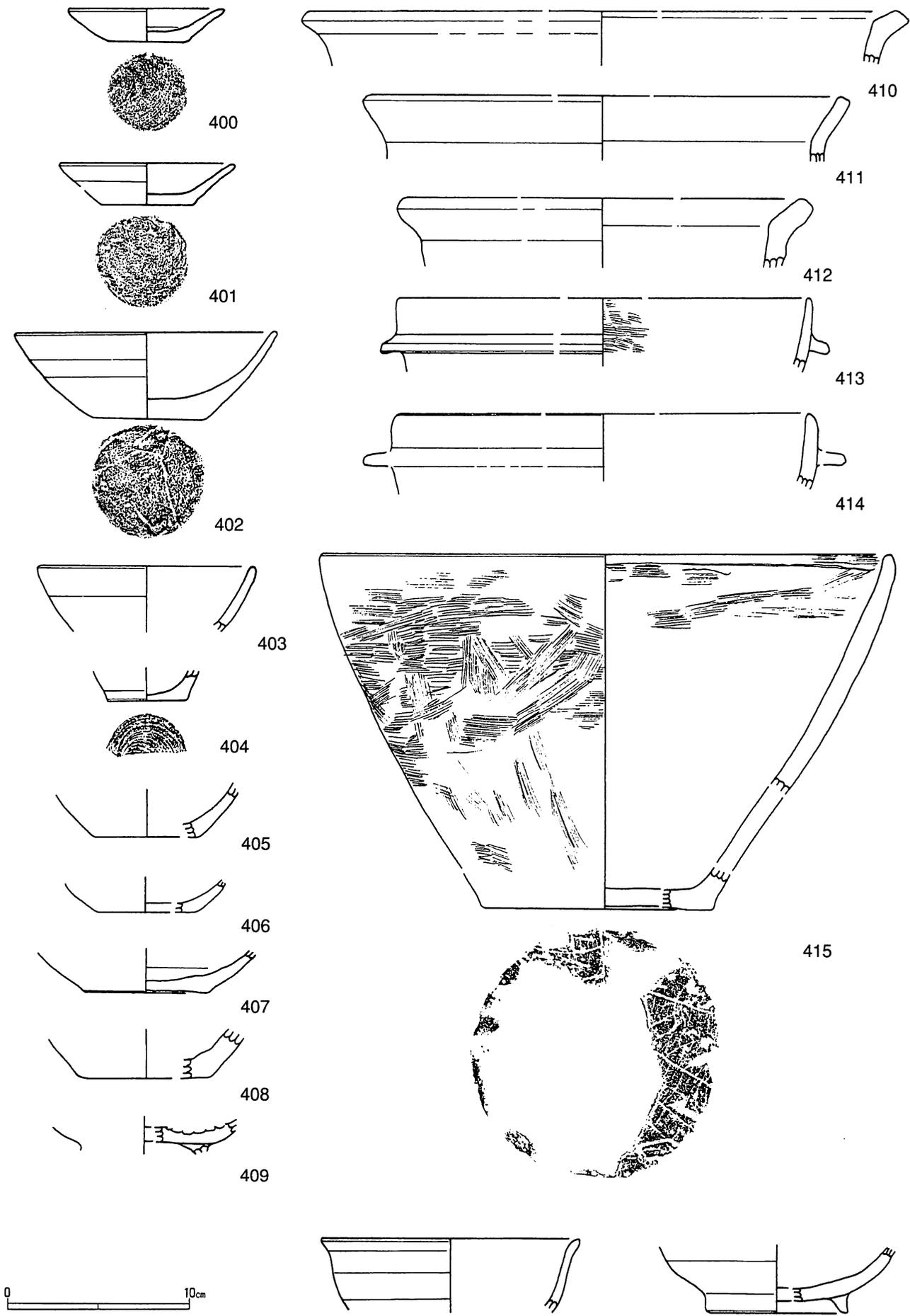
第54図 遺物16



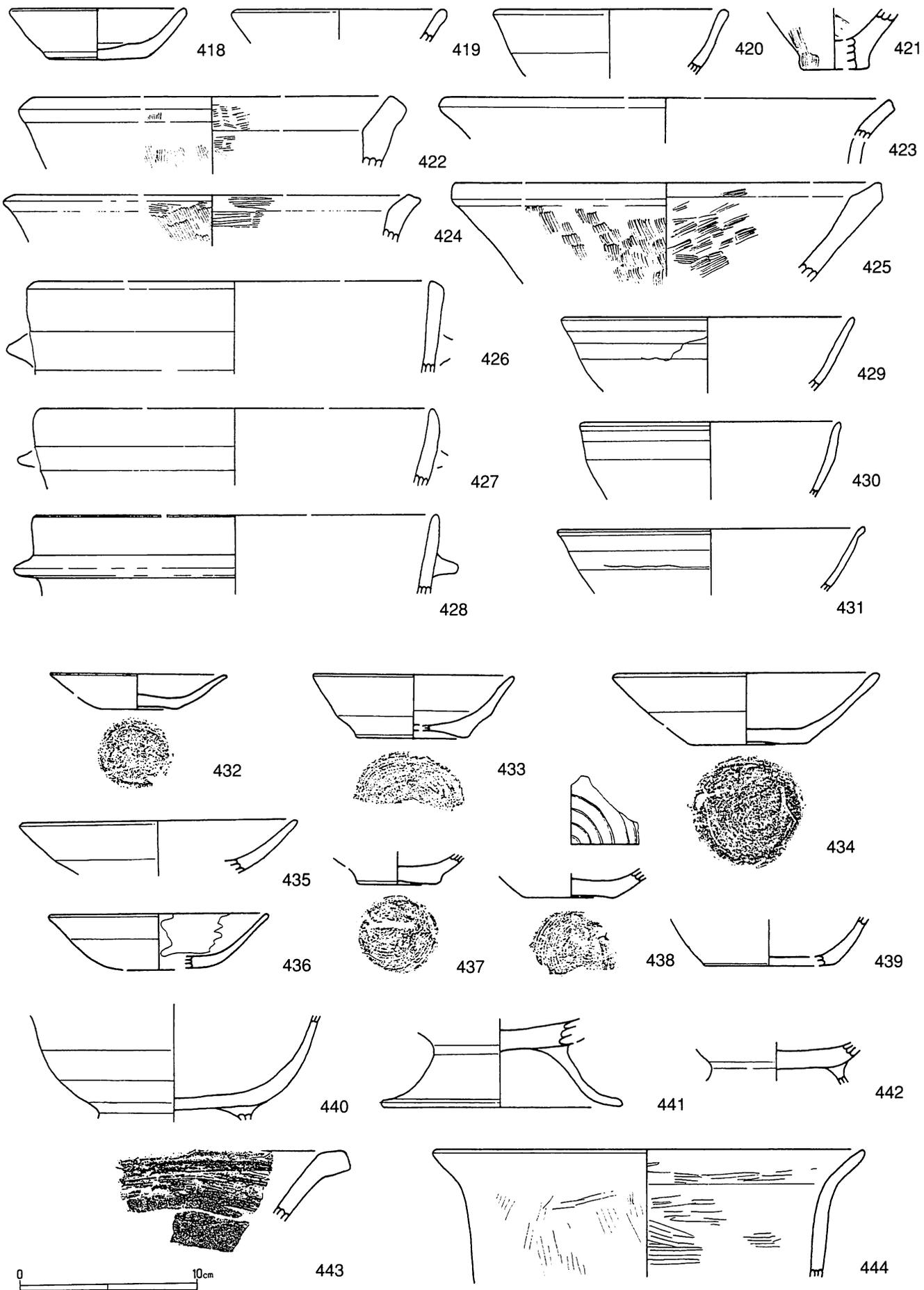
第55圖 遺物17



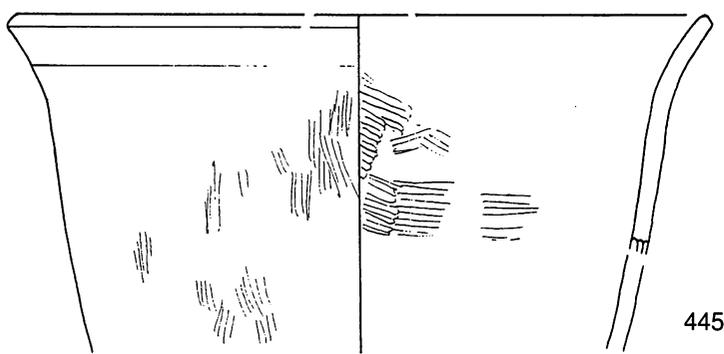
第56図 遺物18



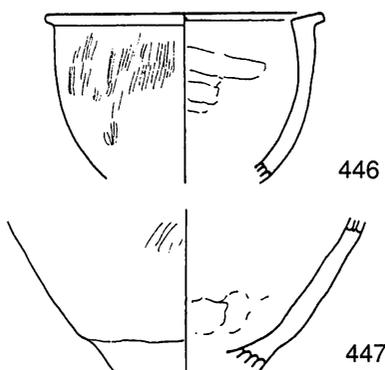
第57図 遺物19



第58図 遺物20

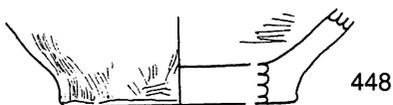


445

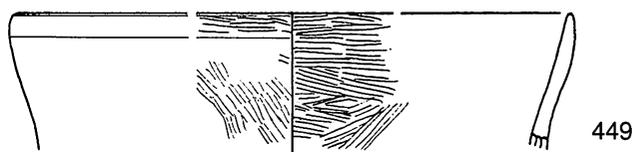


446

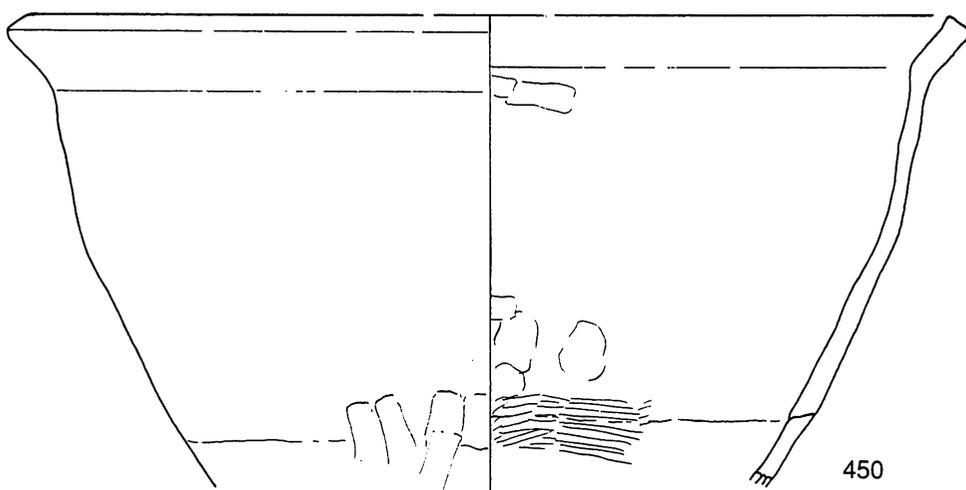
447



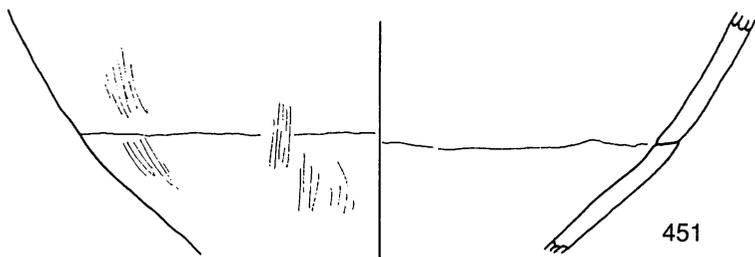
448



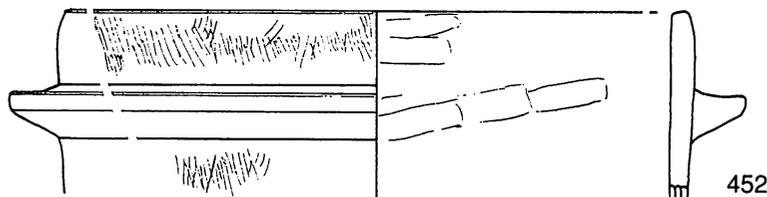
449



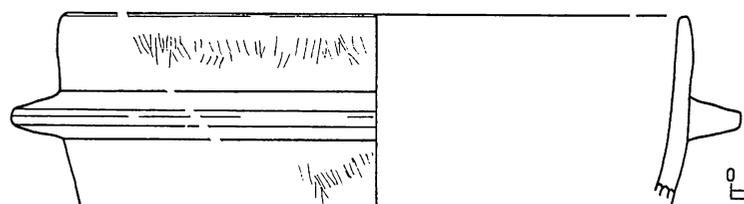
450



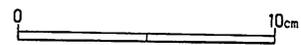
451



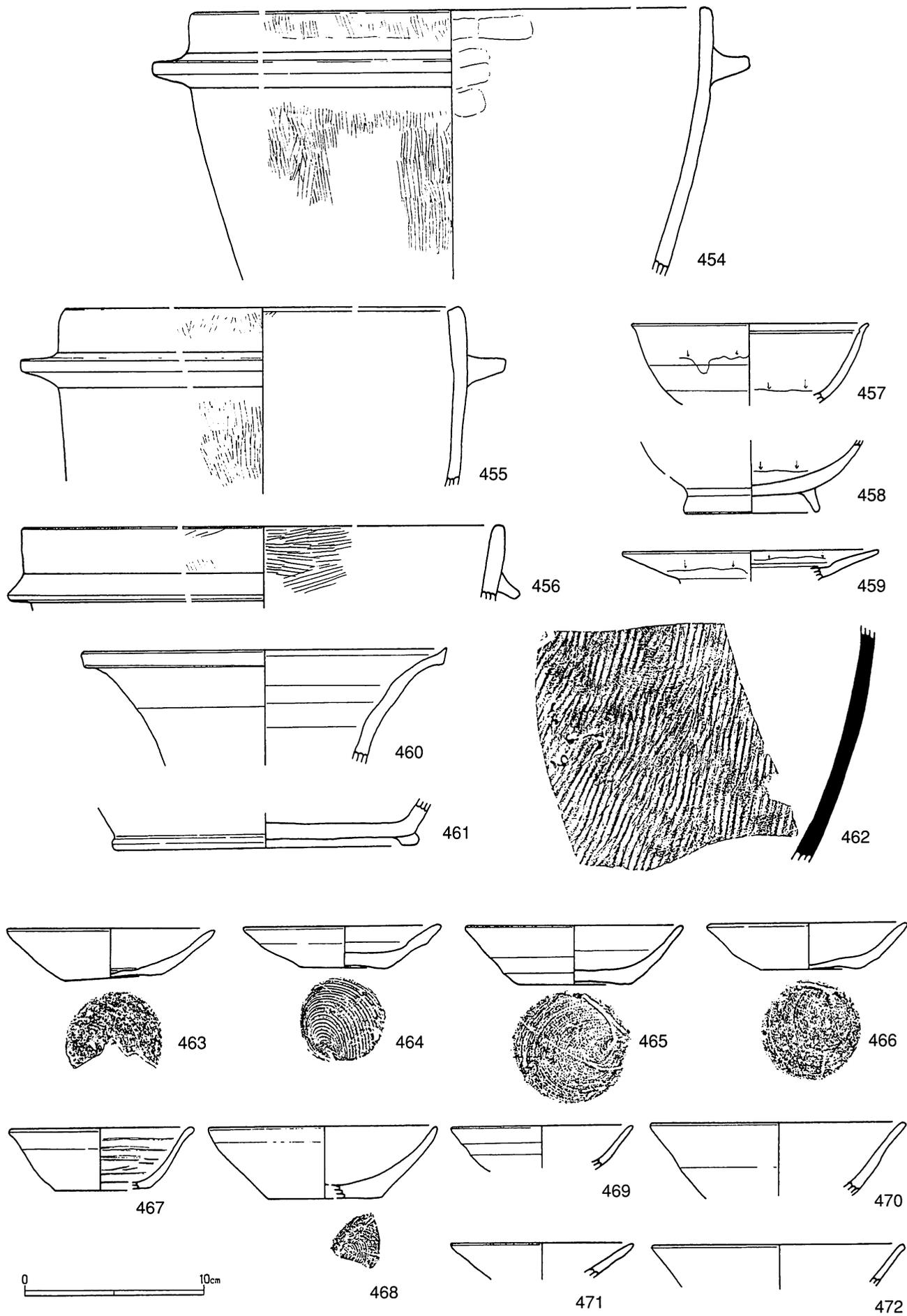
452



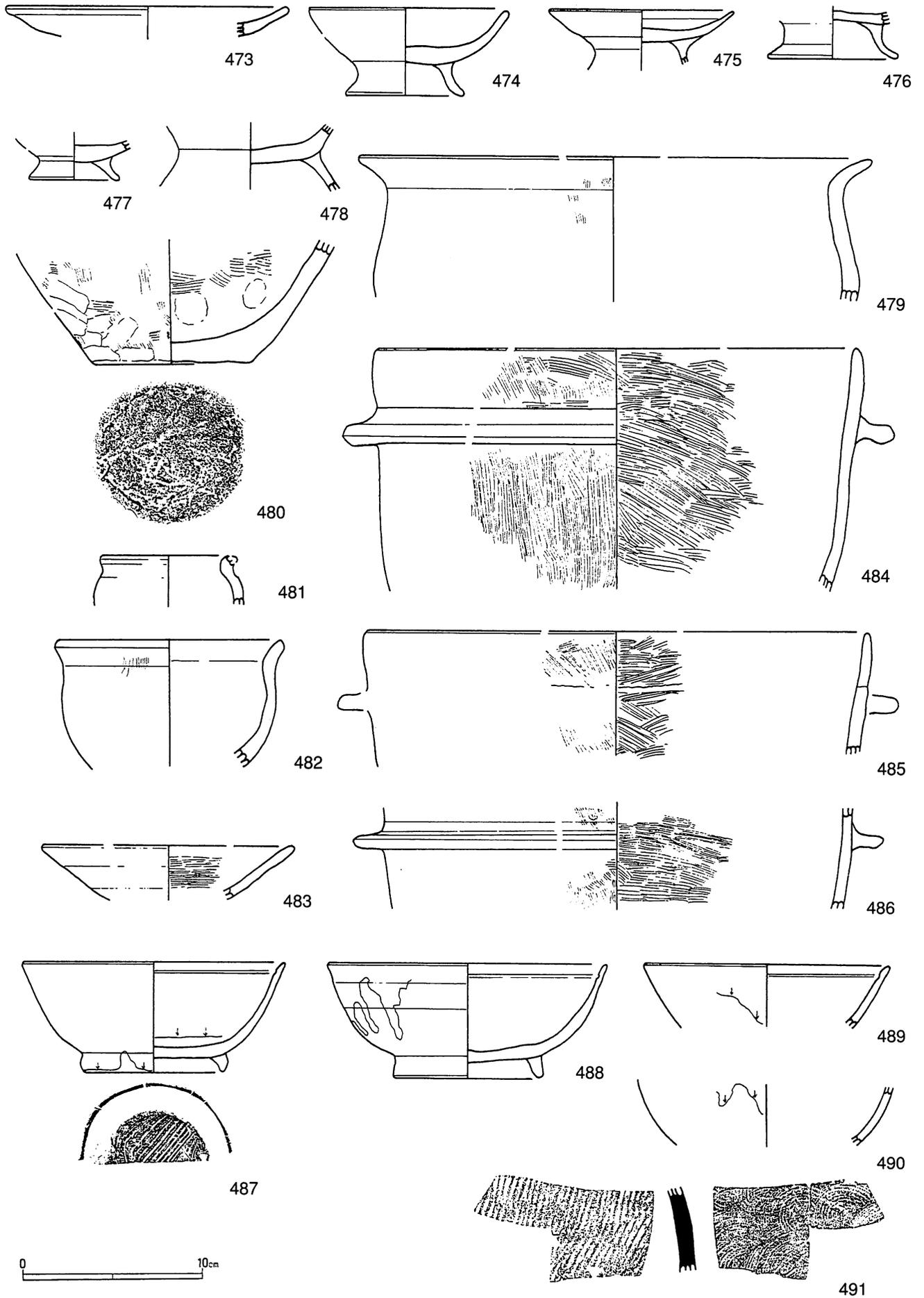
453



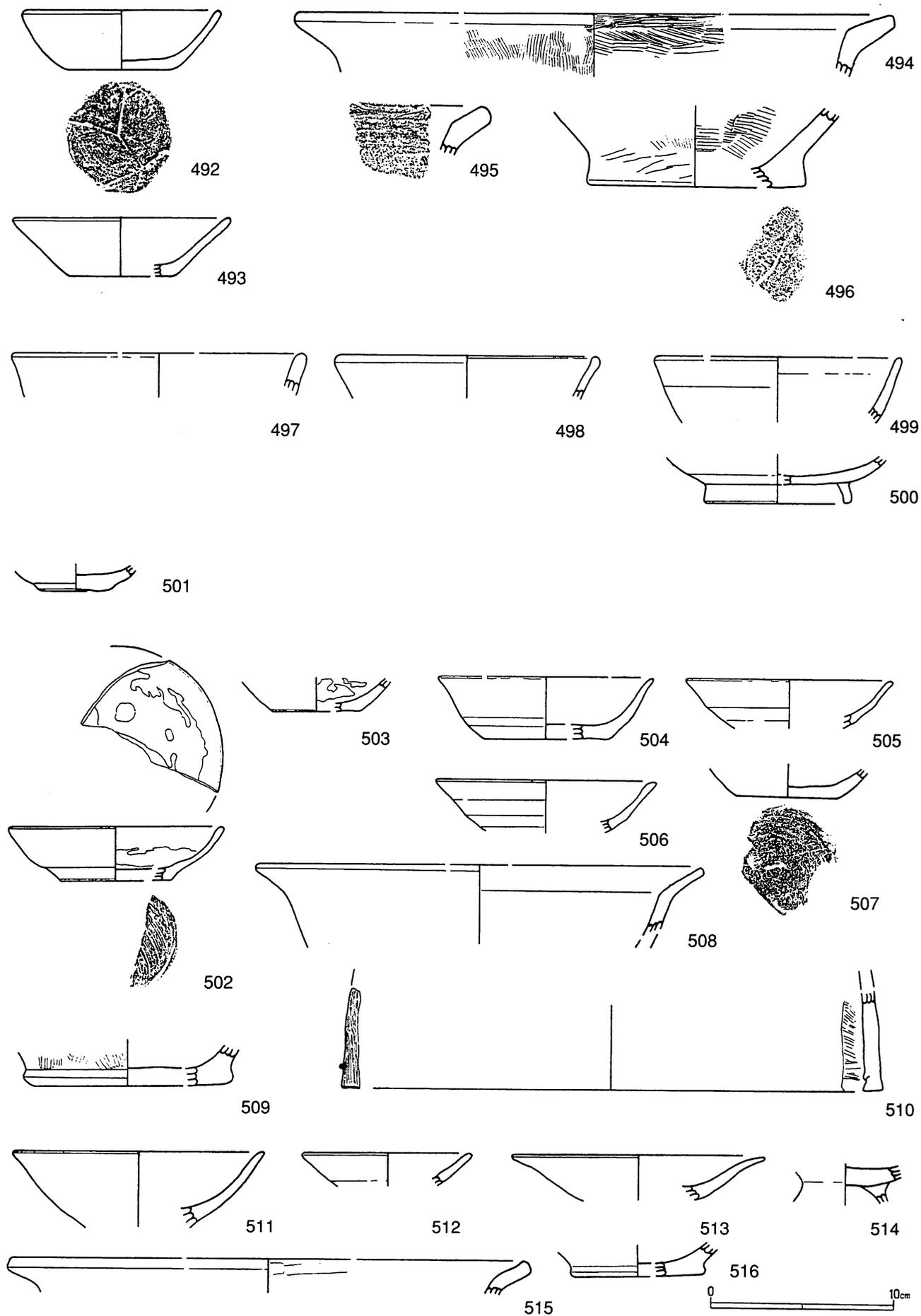
第59图 遺物21



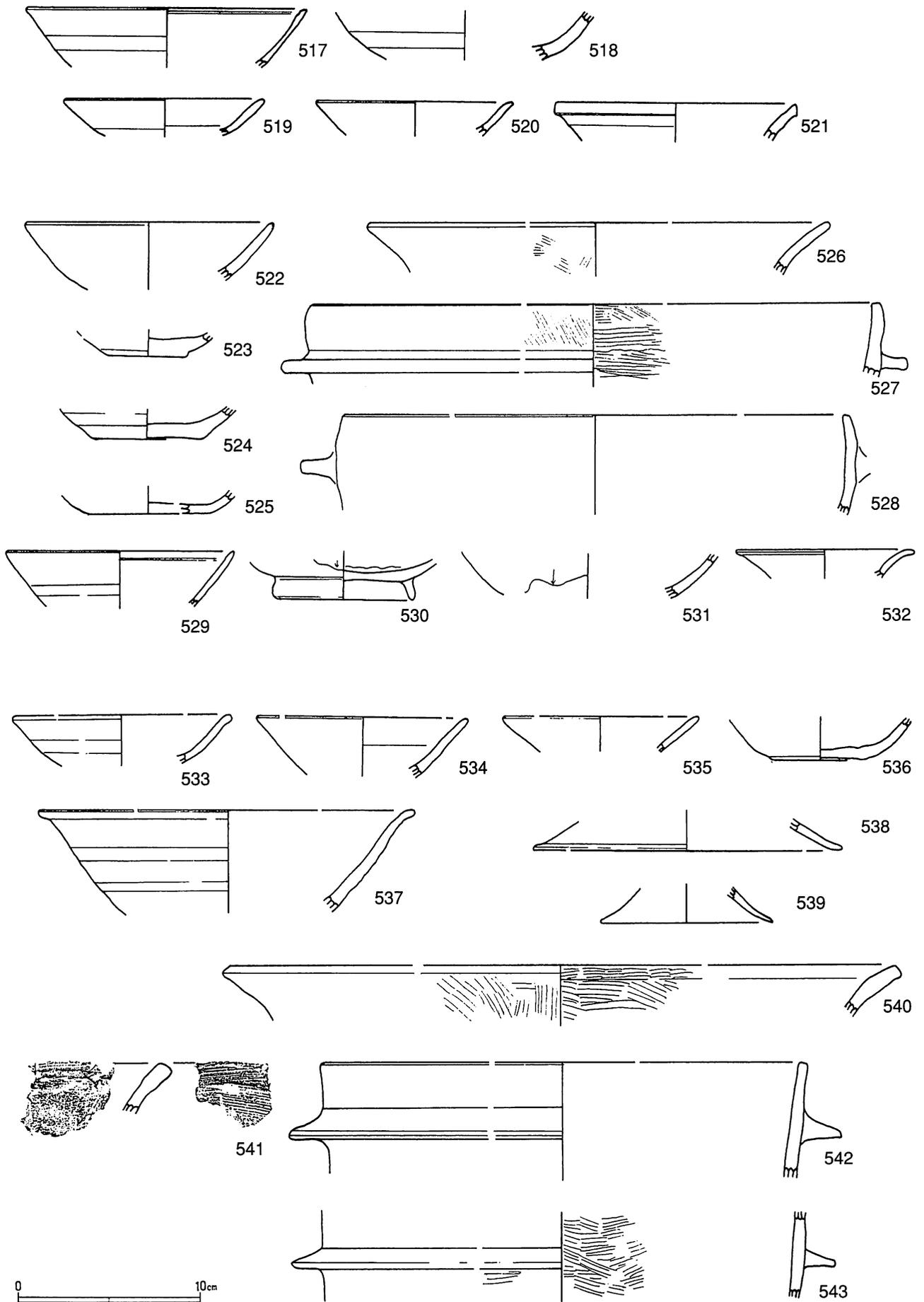
第60図 遺物22



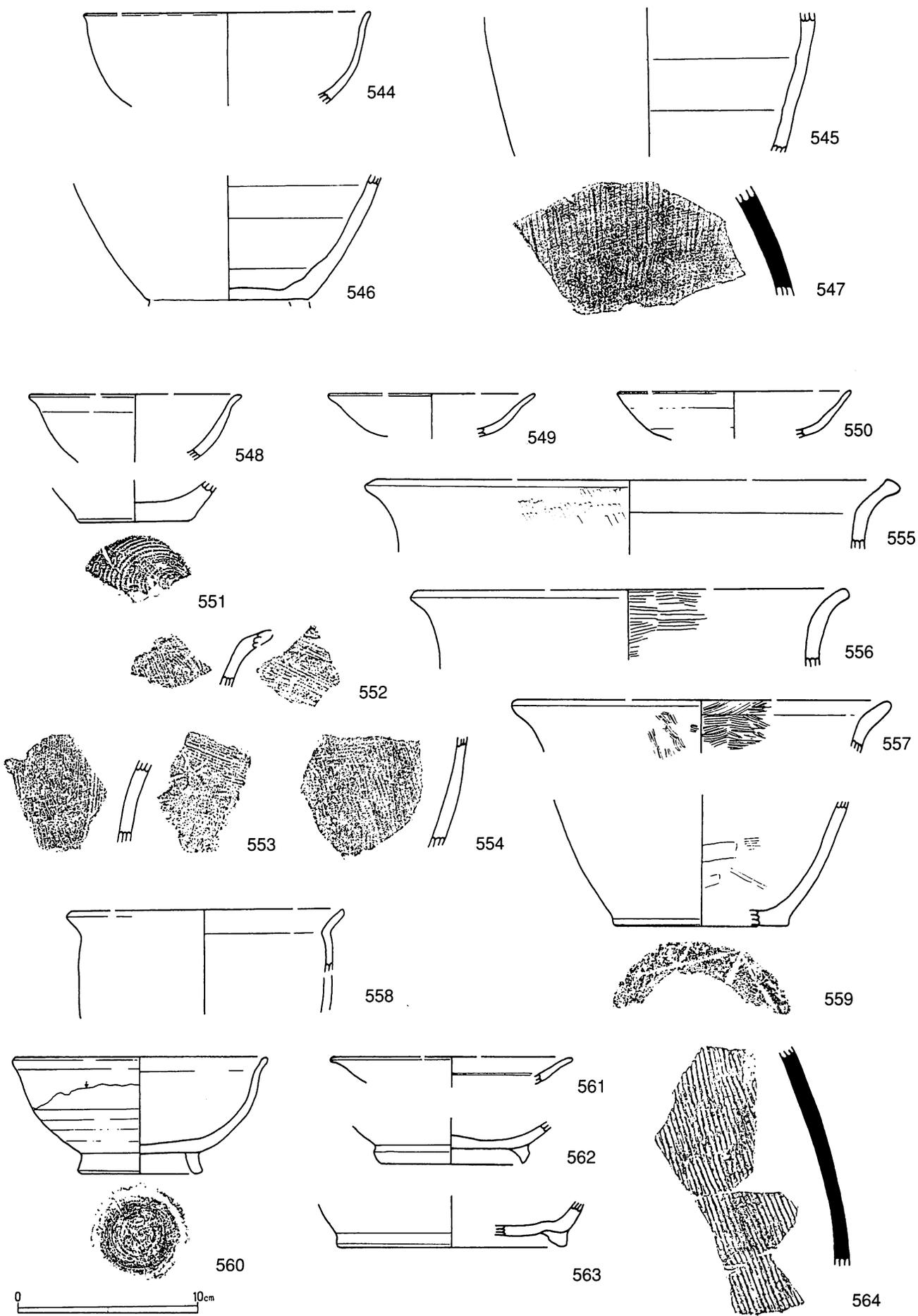
第61図 遺物23



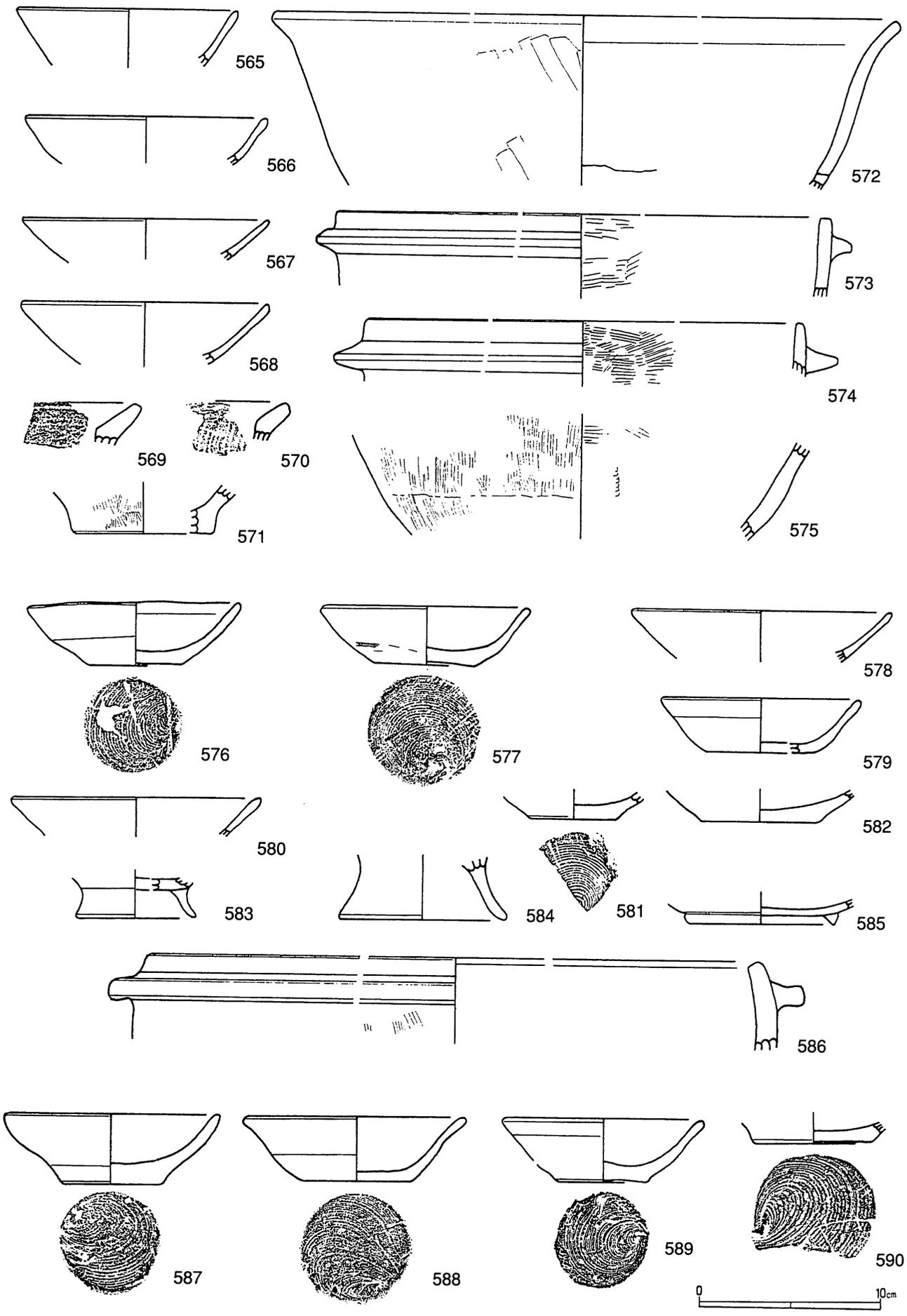
第62図 遺物24



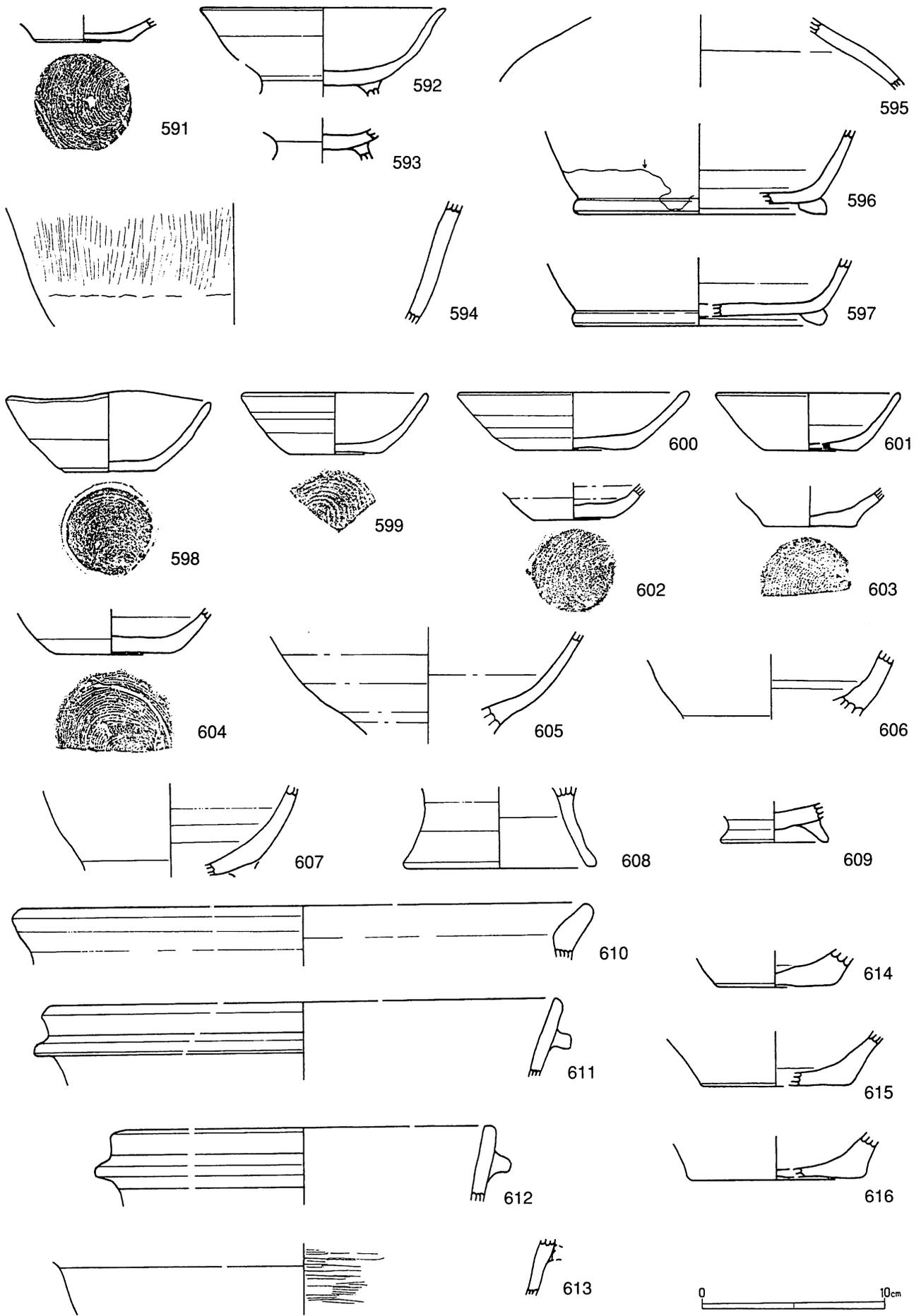
第63图 遺物25



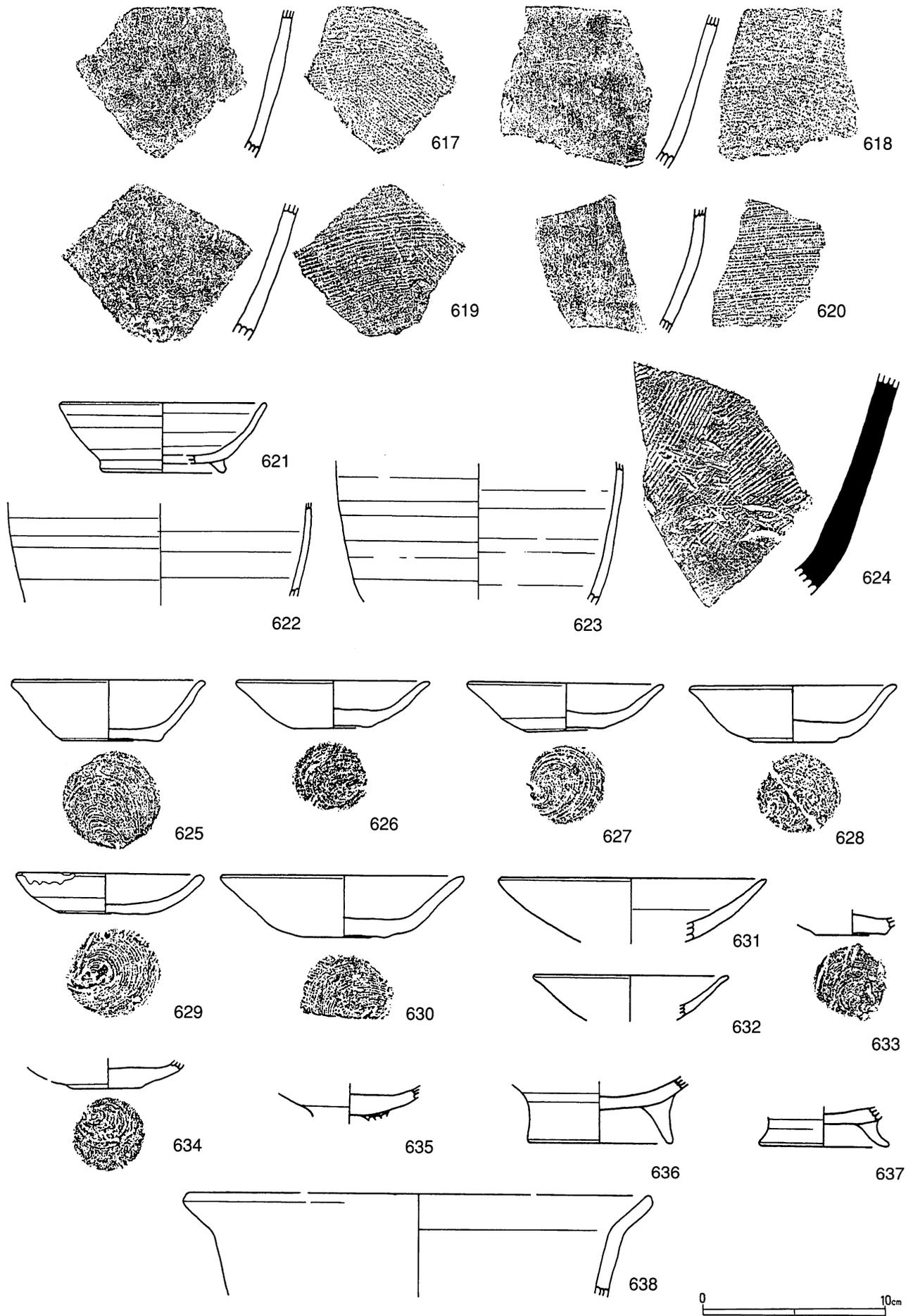
第64図 遺物26



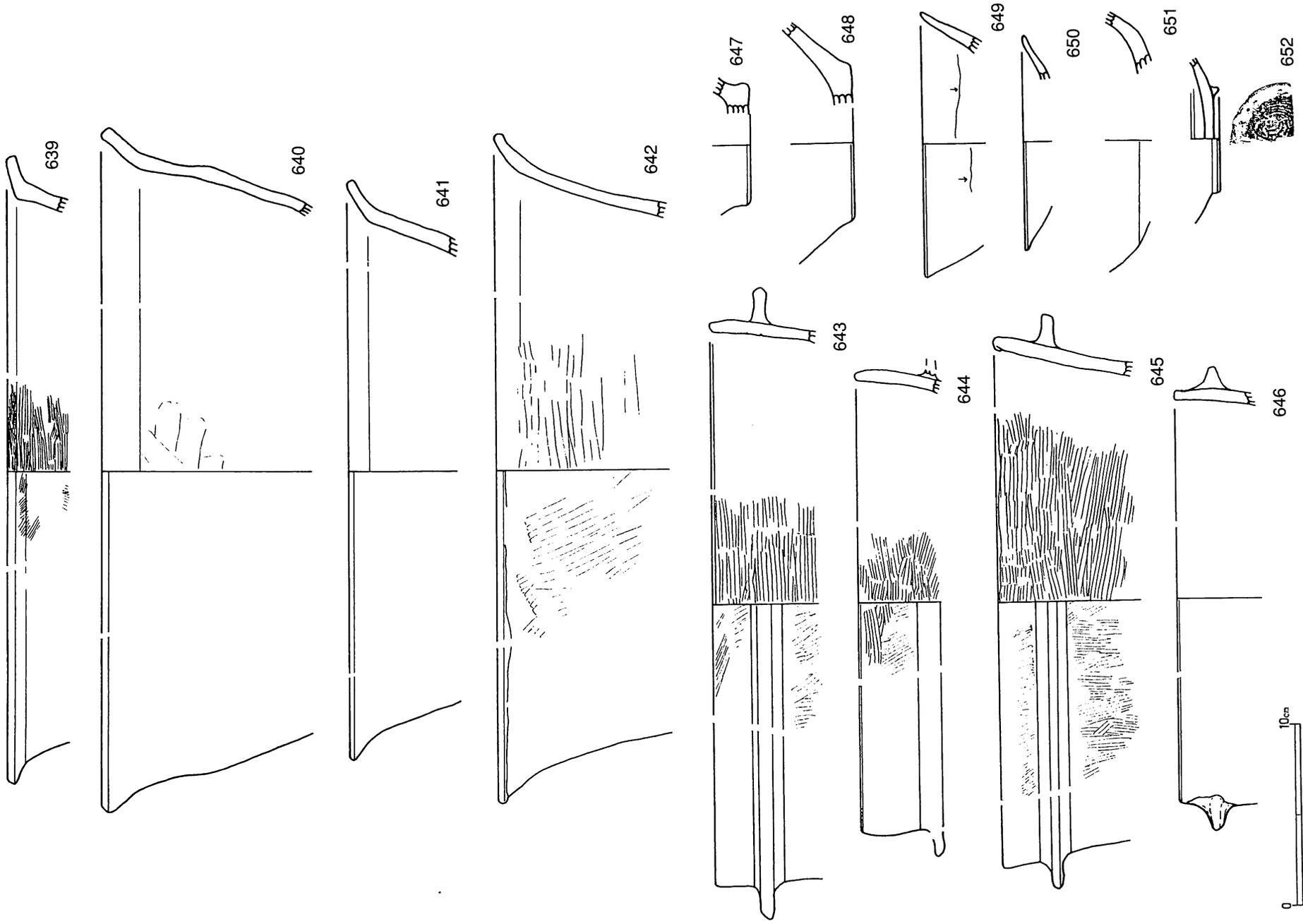
第65図 遺物27



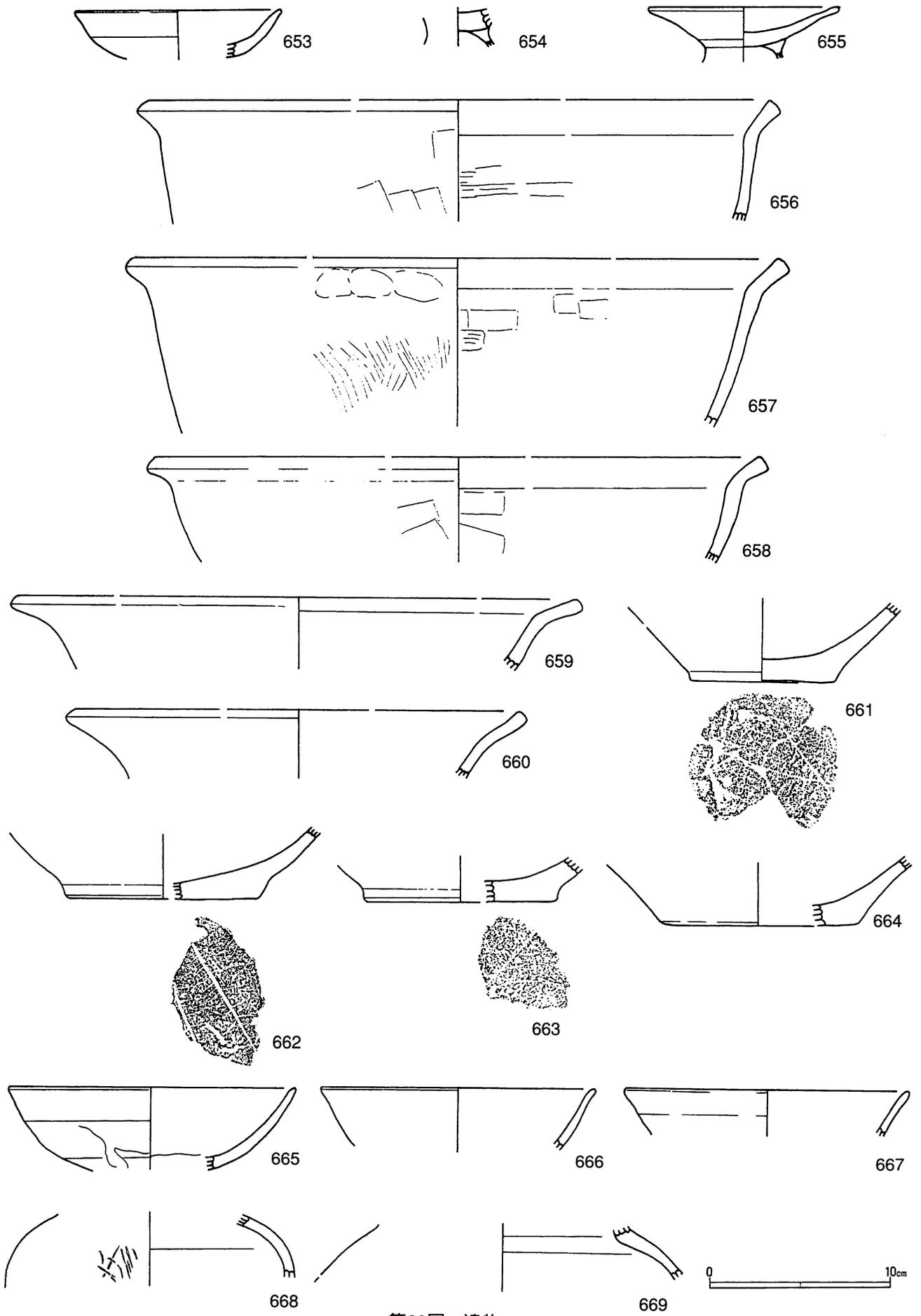
第66図 遺物28



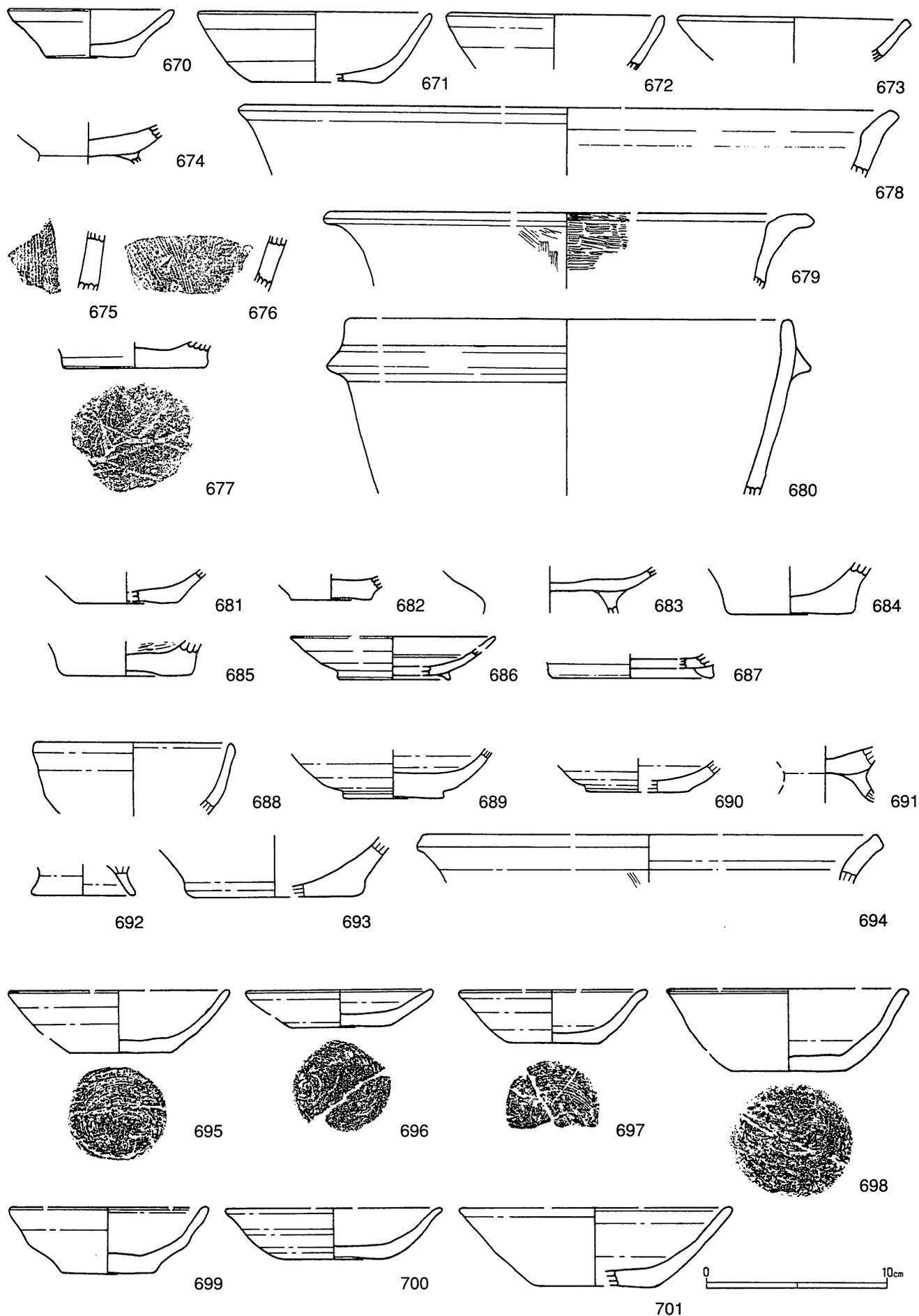
第67図 遺物29



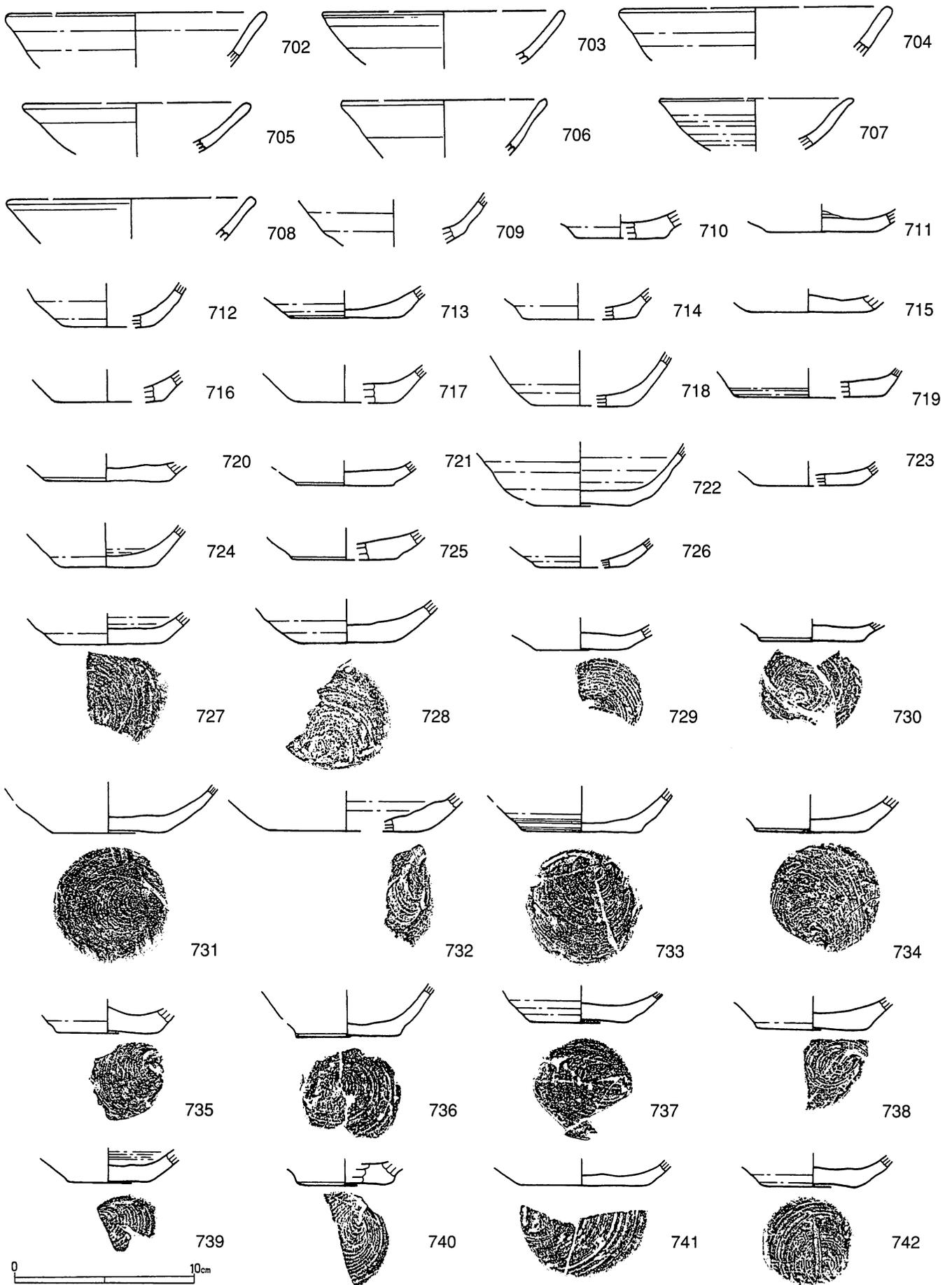
第68図 遺物30



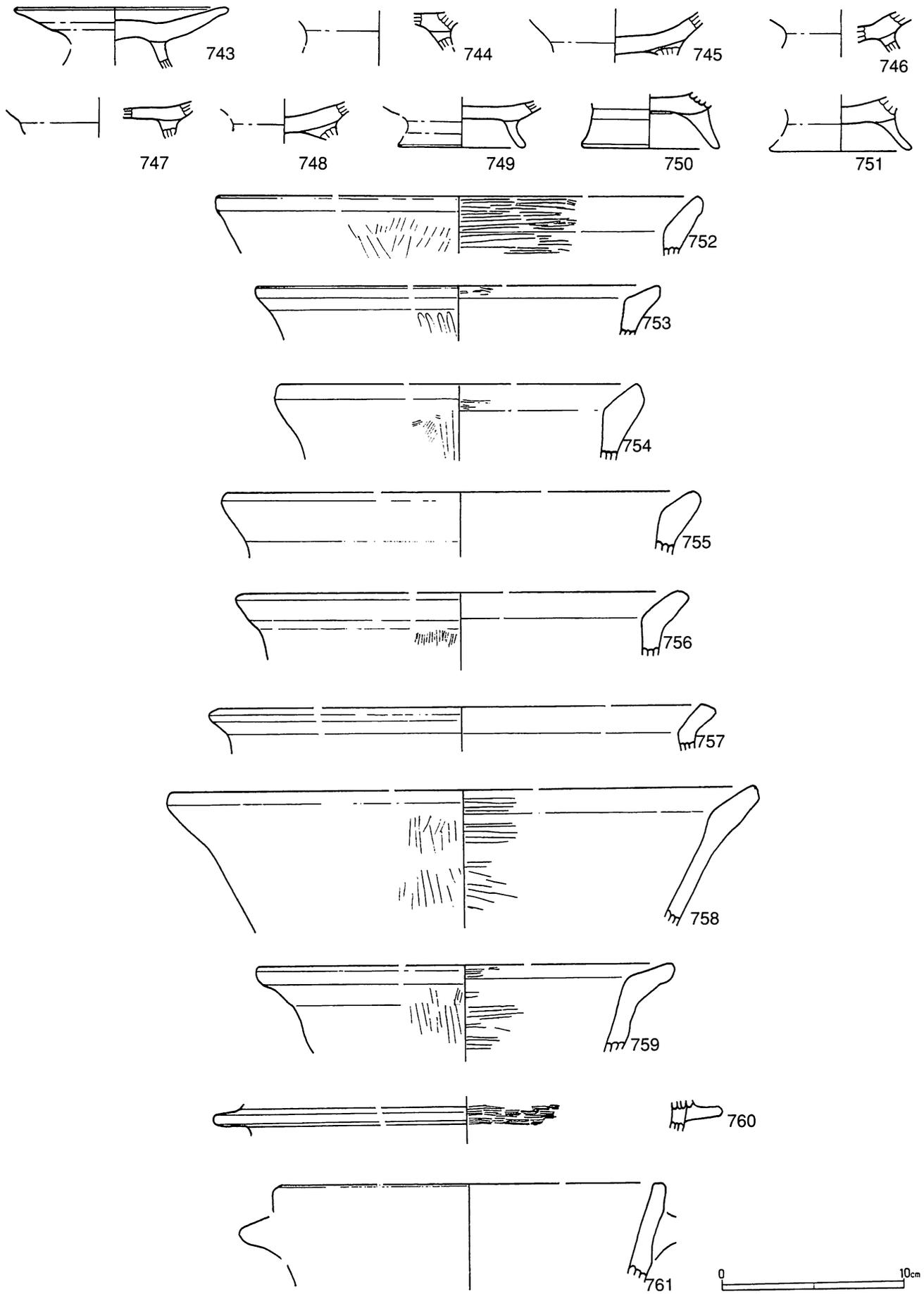
第69図 遺物31



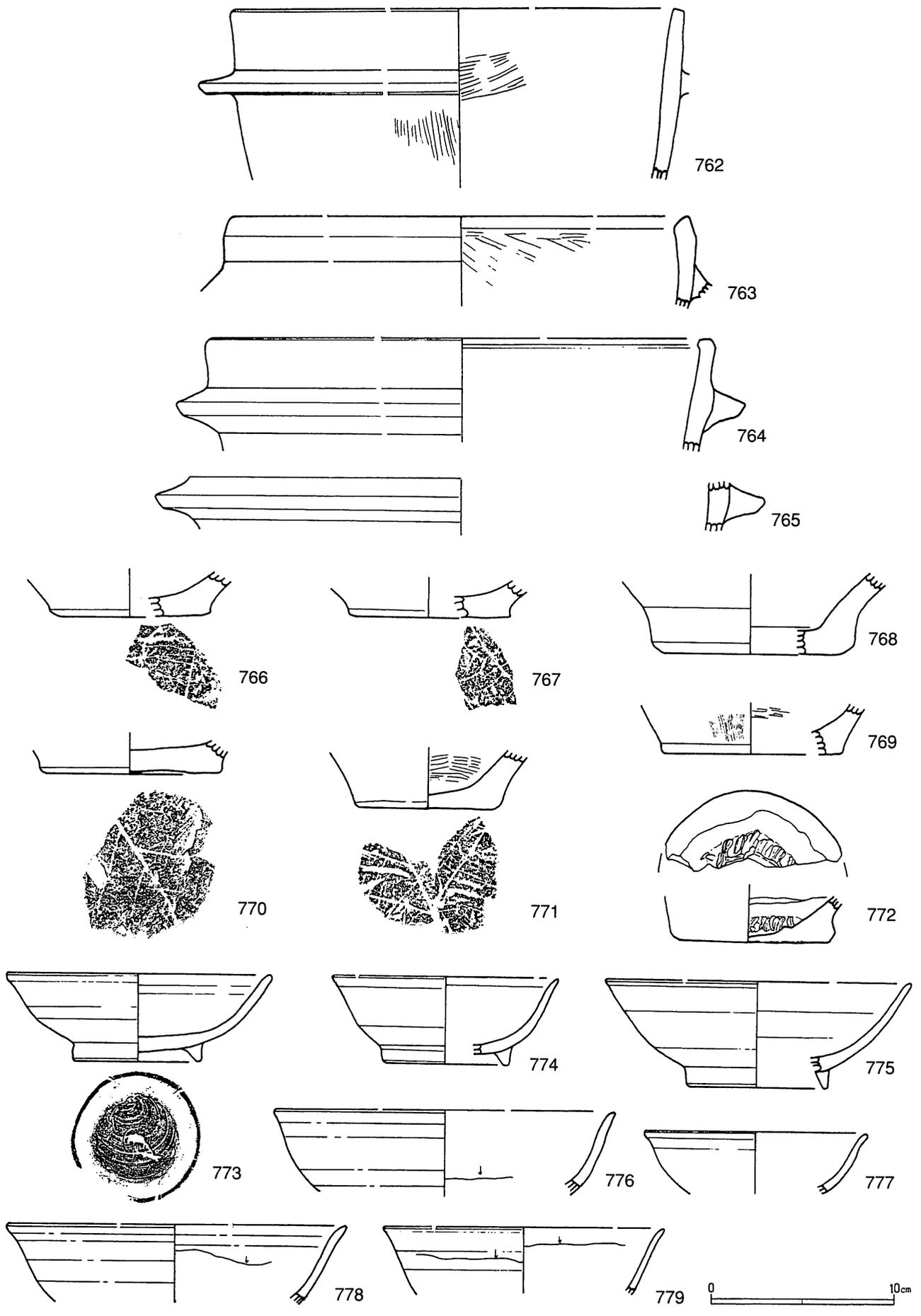
第70図 遺物32



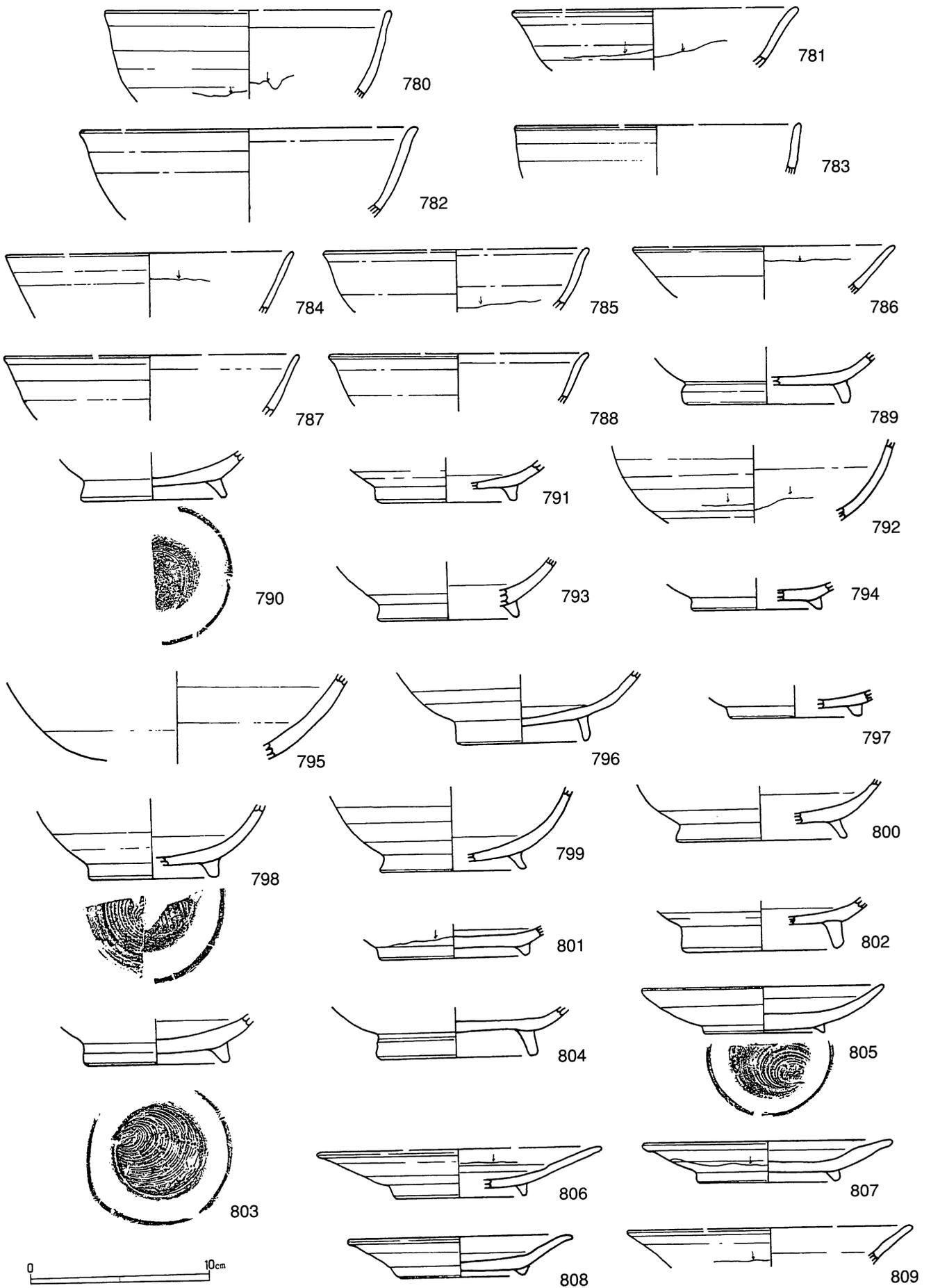
第71图 遺物33



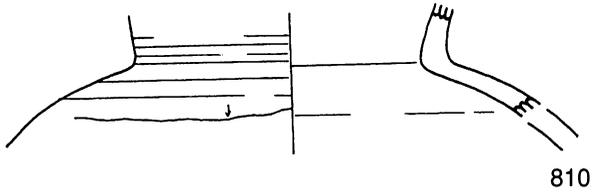
第72図 遺物34



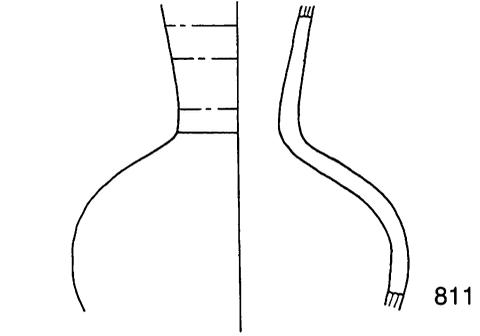
第73图 遺物35



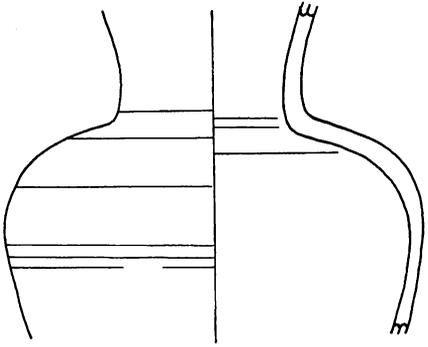
第74图 遺物36



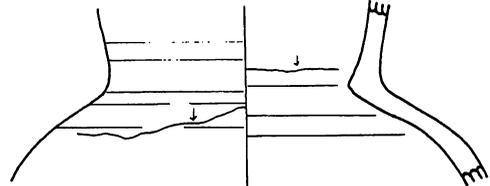
810



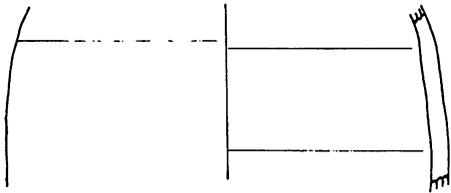
811



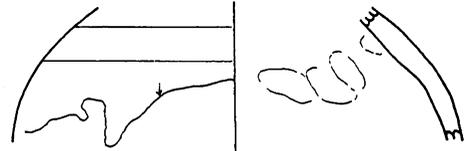
812



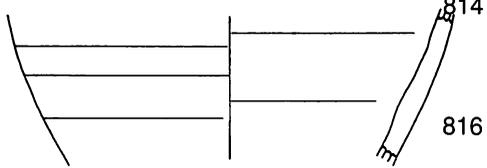
813



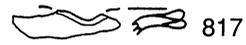
814



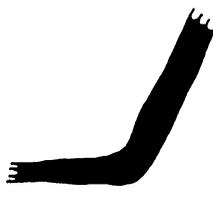
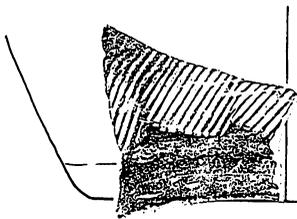
815



816



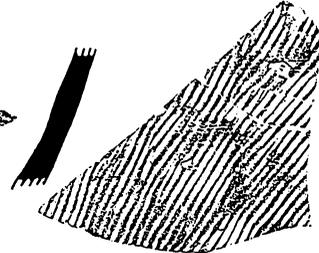
817



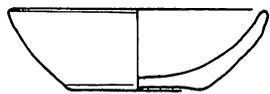
818



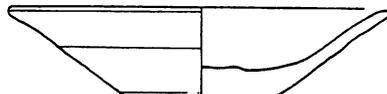
819



820



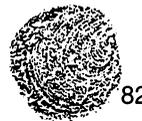
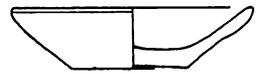
821



822



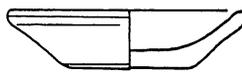
823



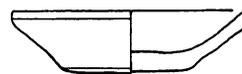
824



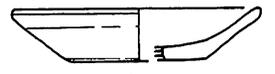
825



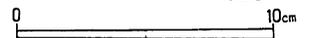
826



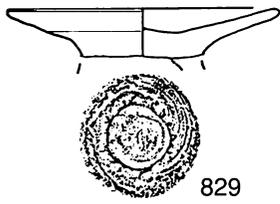
827



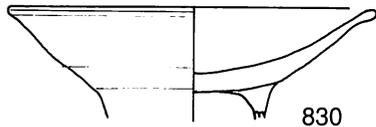
828



第75图 遺物37



829



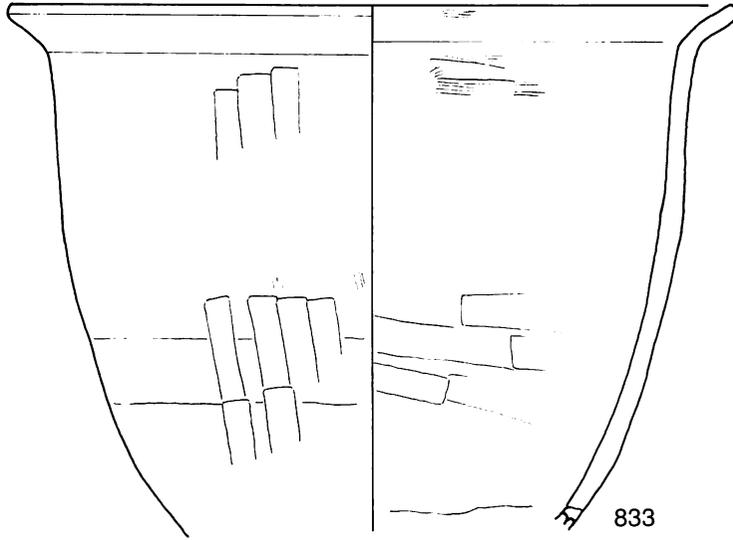
830



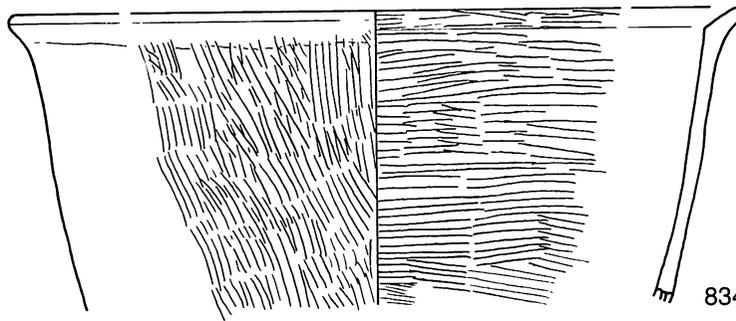
831



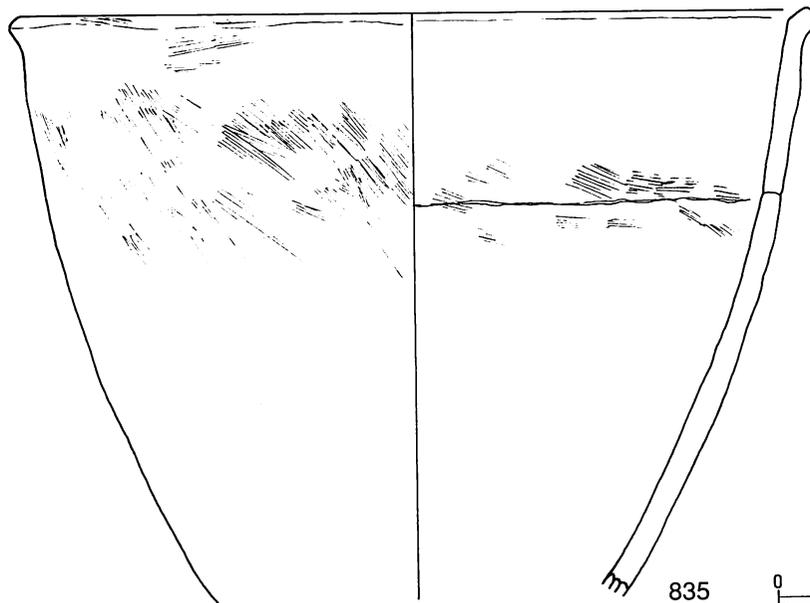
832



833



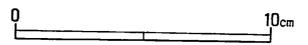
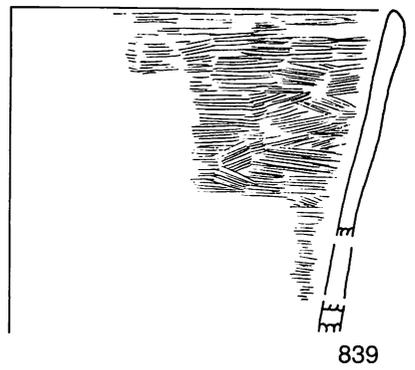
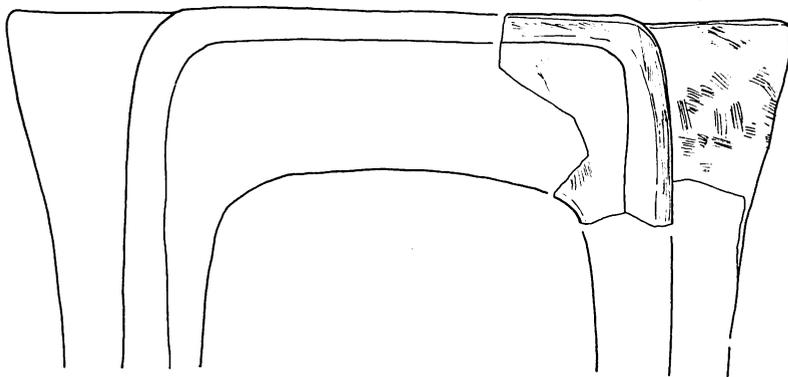
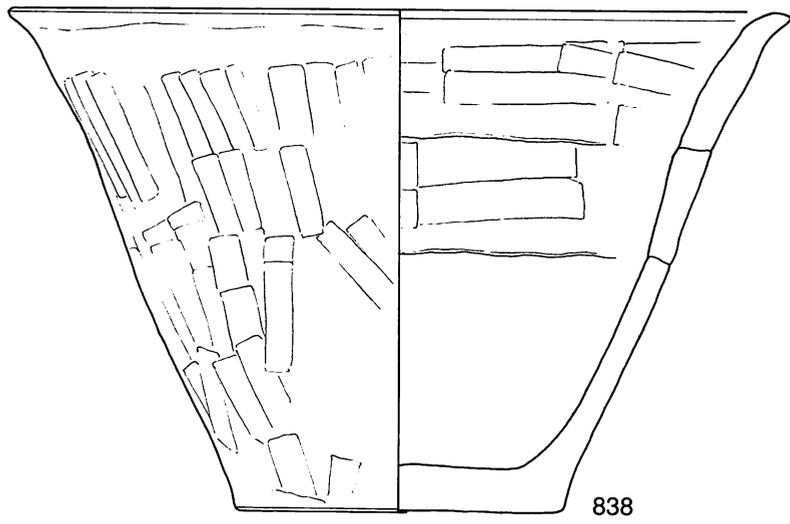
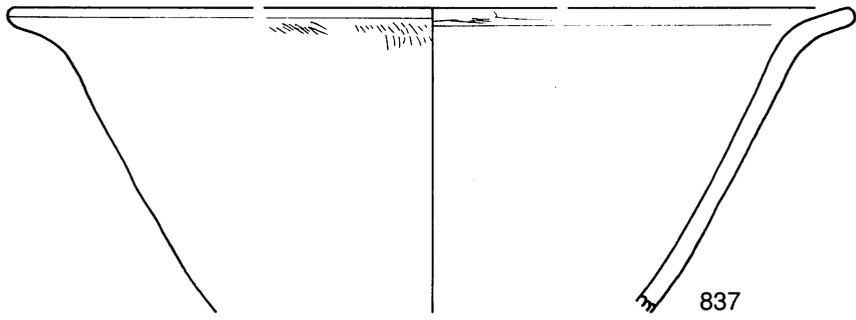
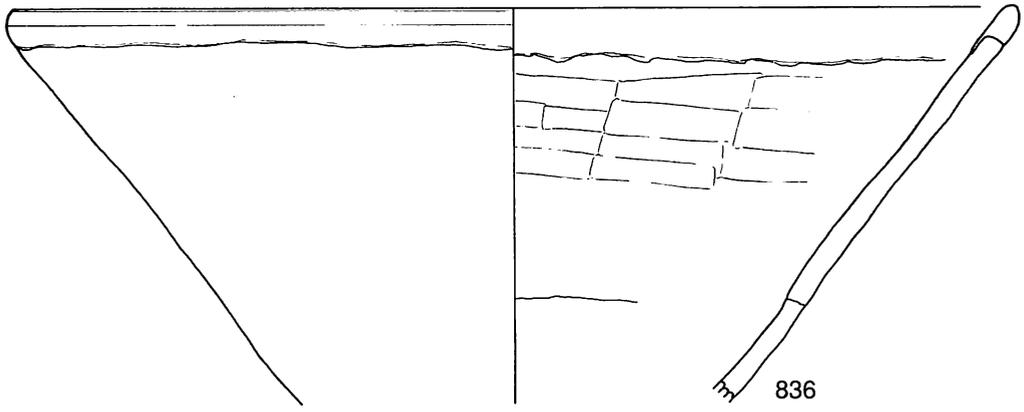
834



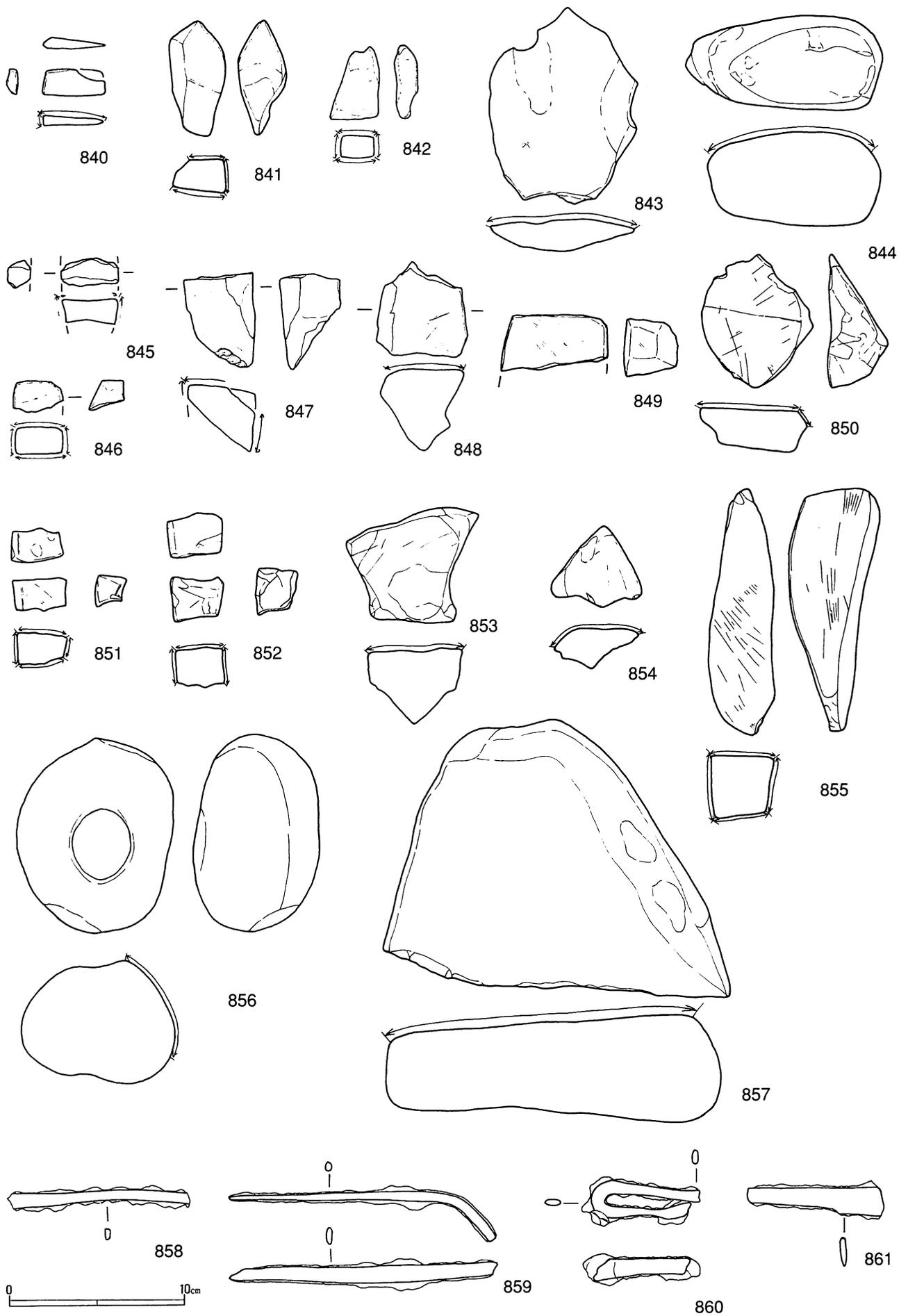
835



第76図 遺物38



第77図 遺物39



第78图 遺物40

表1 横町遺跡出土遺物観察表

(法量の単位はcm、—は計測不能、< >は推定値)

挿図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
39図	1	1住	13・15・1堅10	弥生土器	甕	<13.4>	<11.2>		暗褐色	やや粗：白色粒子	良	内外面：ハケメ	
39図	2	1住	9	弥生土器		—	—	—	明褐色	やや粗：白色粒子	良	内外面：ハケメ	
39図	3	1住	3	弥生土器	甕	—	—	<7.2>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良	内外面：ハケメ・底部：粗がら 痕?	
39図	4	1住	13	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	石英・雲母	良	外面：ハケメ・ミガキ不明瞭 内面：指頭痕	
39図	5	2住		弥生土器	甕	<17.8>	—	—	暗褐色	白色粒子	良	口唇部刻み文・内面：ミガキ・ 指頭痕・外面：ハケメ・指頭痕	
39図	6	2住	14	弥生土器	甕	<21.2>	—	—	暗褐色	密	良	口唇部刻み文・内面：ミガキ	
39図	7	2住	7	弥生土器	高坏脚部	—	—	<10.4>	赤褐色	やや粗：石英・金粒子	良	内面：ナデ・ミガキ 外面：や やミガキ痕だが不明瞭	
39図	8	2住	13	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗：白色粒子	良		
39図	9	3住	14	弥生土器	蓋	<12.6>	<5.6>	<3.4>	暗褐色	白色粒子	良	内面：ハケメ・外面：若干のハ ケメ・指頭痕	
39図	10	3住	18	弥生土器	甕	—	—	—	赤褐色	白色粒子	良	口唇部刻み文・内面：ハケメ	
39図	11	3住	12	弥生土器	壺	—	—	—	赤褐色	やや粗：白色粒子多数	良	結節縄文・ハケメ・指頭痕	
39図	12	3住	9	弥生土器	甕	—	—	<7.8>	明褐色	白色粒子	良	底部木葉痕・内面：ヘラナデ外 面：指頭による調整痕	
39図	13	3住	15	弥生土器	壺?	—	—	<5.1>	褐色・内 面：明褐 色	黒色粒子・雲母	良	底部：刷毛状工具による調整痕 ・内面：ナデ・外面：ハケメ・ 指頭による調整痕	
39図	14	13住	3	弥生土器	片口土器	—	—	—	褐色	白色粒子・砂粒	良		
39図	15	13住	1	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
39図	16	14住	4	弥生土器	坏	—	—	<7.8>	明褐色	赤白色粒子	良	内面：ハケメ・外面：ミガキハ ケメ不明瞭	
39図	17	14住	10	弥生土器	甕	<23.4>	—	—	暗褐色	白色粒子	良	口唇部刻み文	
39図	18	14住	8	弥生土器	手提ね	<5.5>	<2.9>	<4.5>	暗褐色	白色粒子・砂粒	良		
40図	19	15住	1+19+21+22+24+42+43+4 6	弥生土器	壺	17.0	—	—	明褐色	砂粒	良	内面：ハケメ・ミガキ、外面： ハケメ、釘状貼付文3ヶ所	
40図	20	15住	19	弥生土器	壺	<19.0>	—	—	明褐色		良	外面：ミガキ、内面：ハケメ	
40図	21	15住	1+3+4+5+6+7+8+9+10+12 +13+16+17+31	弥生土器	甕	16.0	14.5	9.3	褐色	赤色粒子・石英・砂粒多数 含	良	外面：ナデ・指頭痕・輪痕	焼け跡有
40図	22	15住	一括	弥生土器	蓋	3.6	—	—	明褐色	密	良		
40図	23	15住	一括	弥生土器	台付甕	—	—	—	赤褐色	密	良		
40図	24	15住	25	弥生土器	壺?	—	—	<7.6>	暗褐色	やや粗：石英	良		
40図	25	15住	40	弥生土器	甕	—	—	<6.0>	褐色	金雲母	良		
40図	26	15住	2・11	弥生土器	壺?	—	—	7.8	褐色	赤色粒子やや含	良		内面：赤彩?
40図	27	15住	23	弥生土器	壺	—	—	<8.0>	明褐色	密	良	底部：木葉痕	外面：赤彩
40図	28	15住	52・17住17	弥生土器	壺	—	—	<10.8>	赤褐色	粗：石英・金雲母	良	底部：木葉痕	
40図	29	16住	23	弥生土器	甕	<20.0>	—	—	褐色	密	良	口唇部刻み文 内外面：摩耗に より調整痕確認不可	
40図	30	16住	6・11・19	弥生土器	甕	18.0	—	—	褐色・赤 褐色	密	良	口唇部：刻み、摩滅のため調整 痕不明瞭	
40図	31	16住	13・17・30・25・32	弥生土器	甕	<12.8>	—	—	暗褐色	密	良	外面：口唇部刻み、ハケメ、内 面：ハケ調整後ミガキ	
40図	32	16住	11・29	弥生土器	壺	<22.0>	—	—	赤褐色	やや粗	良		
40図	33		31	弥生土器	壺	<22.0>	—	—	明褐色	やや粗	良	内外面：ハケメ不明瞭、折り返 し口縁	
40図	34	16住	8	弥生土器	鉢	—	—	<6.4>	褐色	白色粒子・石英・金雲母	良		底部：一部剥 離
41図	35	18住	46	弥生土器	甕	—	—	<6.8>	暗褐色	砂粒	良	内面：ミガキ	
41図	36	18住	39・50	弥生土器	甕	<13.6>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	口唇部：きざみ文、内外面：ミ ガキ	
41図	37	18住	25	弥生土器	甕	<11.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口唇部：きざみ文	
41図	38	18住	51・52	弥生土器	甕	<13.6>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	口唇部：きざみ文、内面：ミガ キ	
41図	39	18住	3	弥生土器	甕	<15.2>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口唇部：きざみ文、内面：ミガ キ	
41図	40	18住	9	弥生土器	甕	<16.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口唇部：きざみ文、内面：ミガ キ	
41図	41	18住	43	弥生土器	甕	<14.0>	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
41図	42	18住	23	弥生土器	坏	<15.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良		
41図	43	18住	31	弥生土器	坏	<17.2>	—	—	暗褐色	金雲母・砂粒	良	内面：ハケメ、外面：ハケメ不 明瞭	
41図	44	18住	32	弥生土器	坏	<10.0>	—	—	赤褐色	密	良		赤彩
41図	45	18住	42	弥生土器	甕	<11.4>	—	—	暗褐色	白色粒子・小石	良		

挿図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
41図	46	18住	5	弥生土器	甕	<8.0>	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	外面：ハケメ不明瞭	
41図	47	18住	47	弥生土器	甕	—	—	<6.0>	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内外面：ミガキ	
41図	48	18住	46・59・60	弥生土器	甕	<13.8>	—	—	暗褐色	白色粒子・小石	良	口唇部：きざみ文、内外面：ミガキ	
41図	49	18住	65	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	砂粒	良	内面：ミガキ、外面：ミガキ・ハケ目・釦状貼付文	
41図	50	18住	58	弥生土器	蓋	3.8	—	—	明褐色	白色粒子	良		
41図	51	18住	28	弥生土器	—	—	—	—	褐色	白色粒子・金雲母	良	内面：ミガキ、外面：ハケメ	
41図	52	18住	20	弥生土器	—	—	—	—	褐色	白色粒子	良		
41図	53	18住		弥生土器	—	—	—	—	褐色	白色粒子	良		
41図	54	18住	30	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	櫛描波状文・簾状文	
41図	55	18住	14・15	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色		良	櫛描波状文・簾状文	
41図	56	18住	19	弥生土器	—	—	—	—	褐色	白色粒子	良	櫛描波状文	
41図	57	18住	35	弥生土器	—	—	—	—	明褐色		良	櫛描波状文	
41図	58	18住	71	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	櫛描簾状文	
41図	59	18住	17	弥生土器	—	—	—	—	明褐色	白色粒子	良	櫛描波状文	
41図	60	18住	16・70	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	砂粒・金雲母	良	櫛描波状文	
41図	61	18住	45	弥生土器	—	—	—	—	明褐色	白色粒子	良		
41図	62	18住	48	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	内外面：ハケメ	
41図	63	18住	62・71	弥生土器	—	—	—	—	赤褐色	やや粗：白色粒子・砂粒	良	内外面：ハケメ	
42図	64	26住	10・11・16	弥生土器	壺	<24.0>	—	—	赤褐色	やや粗	良	刷毛調整後ミガキ	
42図	65	26住	21	弥生土器	甕	<18.8>	—	—	暗褐色	やや粗	良	内面：ミガキ・外面：刷毛調整後ミガキ	
42図	66	26住	15・18・19・20	弥生土器	甕	<13.4>	<12.6>		暗褐色	やや粗	良	内面：ハケメ・ミガキ 外面：ハケメ	
42図	67	26住	6	弥生土器	高坏	<27.6>			褐色	白色粒子	良	ミガキ 内面：赤彩	
42図	68	26住	24	弥生土器	甕	—	—	<7.5>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良	外面：ミガキ 底部木葉痕	
42図	69	26住	16	弥生土器	壺	—	—	<7.0>	暗褐色	やや粗	良	外面：ハケメ・ミガキ	
42図	70	26住	4	弥生土器	甕	—	—	<5.0>	外面：黄褐色	砂粒	良	ミガキ	
42図	71	26住	7	弥生土器	壺	—	—	<5.0>	暗褐色 内外面：赤彩	密	良	外面：ミガキ	
42図	72	26住	22	弥生土器	甕	—	—	—	黄褐色	やや粗：白色粒子	良	櫛描波状文	
42図	73	27住	3	弥生土器	甕	<14.4>	<14.8>	—	暗褐色	金雲母やや含	良	外面：櫛描波状文 刷毛後簾状文 ミガキ 内面：ミガキ	
42図	74	27住	1	弥生土器	甕	<15.4>			暗褐色	密	良	櫛描波状文	
42図	75	27住		弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
42図	76	27住		弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
42図	77	27住		弥生土器	—	—	—	—	明褐色	やや粗	良		
42図	78	27住		弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
42図	79	32住	39?・37・40・41	弥生土器	壺	<16.4>	—	—	明褐色	やや粗	良	外面：櫛描丁字文・ハケメ、内面：ヘラ調整不明瞭	
42図	80	32住	51・84	弥生土器	壺	<14.0>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良	外面：ミガキ?、全般的に摩滅しているため、調整方法等不明瞭	
42図	81	32住	55	弥生土器	甕	<15.5>	—	—	暗褐色	白色粒子	良	外面：櫛描波状文、内面：ヘラ調整	
42図	82	32住	8	弥生土器	甕	<19.8>	—	—	暗褐色	密	良	外面：櫛描波状文・簾状文、内面：ハケ調整後ミガキ	
43図	83	32住	72	弥生土器	甕	<19.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良	外面：櫛描波状文・簾状文、内面：ハケ調整後ミガキ	
43図	84	32住	49	弥生土器	甕	<13.8>	—	—	外面：暗褐色、内面：赤褐色	やや粗	良	外面：櫛描文、内面：ハケメ	
43図	85	32住	64	弥生土器	小型土器片口	<9.6>	—	—	褐色	密	良		内外面：赤彩
43図	86	32住	67	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	やや粗	良	外面：櫛描丁字文、内面：ミガキ	赤彩の痕跡あり
43図	87	32住	51	弥生土器	壺	—	—	—	暗褐色	密	良	外面：ハケ調整後ミガキ、内面：下部にハケメ	
43図	88	32住	69	弥生土器	高坏	—	—	—	褐色	やや粗、石英	良	外面：ミガキ不明瞭	内外面：赤彩
43図	89		76	弥生土器	高坏	—	—	—	明褐色	石英	良	外面：ミガキ	外面：赤彩
43図	90	32住	43	弥生土器	高坏	—	—	—	明褐色	密	良	内面：ハケメ、外面：ミガキ?	
43図	91	32住	5	弥生土器	高坏	—	—	10.4	赤褐色	密	良	外面：ミガキ、内面：所々にミガキ	赤彩
43図	92	32住	23・25	弥生土器	壺	—	—	<19.8>	赤褐色	やや粗、石英	良	外面：ハケ調整後ミガキ、内面：ハケメ	
43図	93	32住	44・57	弥生土器	壺	<11.8>	—	—	明褐色	やや粗	良		

押図番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
43図	94	32住	52・53・58・60	弥生土器	甕	—	—	6.4	暗褐色	白色粒子	良	内外面：ミガキ、底部：木葉痕？	
43図	95	32住	82	弥生土器	壺	—	—	<10.4>	暗褐色	やや粗、石英	良	底部：木葉痕	
43図	96	32住	6	弥生土器	壺	—	—	<6.9>	暗褐色	密	良	底部含む内外面にミガキ	
43図	97	32住	7	弥生土器	壺	—	—	<6.4>	褐色	密	良	外面：ミガキ	
43図	98	32住	62	弥生土器	—	—	—	—	赤褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	99	32住	48	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	櫛描波状文	
43図	100	32住	2	弥生土器	—	—	—	—	明褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	101	32住	18	弥生土器	—	—	—	—	褐色	やや粗	良	櫛描波状文	
43図	102	32住	4	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	103	32住	65	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	104	32住	74	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	105	32住	29	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良		
43図	106	32住	11・22	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良	櫛描波状文	
43図	107	32住	59	弥生土器	—	—	—	—	明褐色	やや粗、石英	良	半円弧文・波状文	
43図	108	32住	32	弥生土器	—	—	—	—	明褐色	やや粗、石英	良	斜格子文	
44図	109	32住	67	弥生土器	—	—	—	—	明褐色		良		
44図	110	35住	1	弥生土器	壺	<18.0>	—	—	明褐色	白色粒子・小石	良	折り返し口縁	
44図	111	35住	2	弥生土器	甕	<20.0>	—	—	褐色	白色粒子・砂粒	良	外面：ハケメ不明瞭、口唇部：きざみ文	
44図	112	35住	13	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
44図	113	35住	45	弥生土器	甕	—	—	<8.6>	暗褐色	砂粒・金雲母	良		
44図	114	35住	48	弥生土器	甕	—	—	<9.2>	暗褐色	砂粒	良	内面：ミガキ、外面：ハケメ	
44図	115	35住	7	弥生土器	甕	—	—	<9.8>	褐色	砂粒	良	内外面：ハケメ	
44図	116	35住	16	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	白色粒子・砂粒	良	外面：ミガキ、内面：ハケメ	
44図	117	35住	32	弥生土器	高台坏脚	—	—	<21.8>	明褐色	砂粒	良	内外面：ミガキ	赤彩
44図	118	35住	26・27・29・44・47・52	弥生土器	片口土器	11.8	5.9	5.4	褐色	密	良	内外面：ミガキ、底部：木葉痕	赤彩
44図	119	35住	5	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	櫛描波状文	
44図	120	35住	41	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	櫛描波状文・簾状文、内面：ミガキ	
44図	121	35住	4	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良	櫛描波状文	
44図	122	35住	—	弥生土器	—	—	—	—	褐色	赤色・白色粒子・金雲母	良	櫛描波状文	
44図	123	35住	51	弥生土器	—	—	—	—	褐色	赤色・白色粒子・金雲母	良	櫛描波状文	
45図	124	弥生集中	57+59+60	弥生土器	壺	<32.6>	—	—	明褐色	石英・金雲母	良	内外面にミガキ不明瞭	
45図	125	弥生集中	251	弥生土器	壺	<18.0>	—	—	暗褐色	密	良		
45図	126	弥生集中	108+110+141	弥生土器	壺	21.4	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
45図	127	弥生集中	192	弥生土器	壺	16.6	—	—	明褐色	赤色粒子	良	折り返し口縁	
45図	128	弥生集中	103	弥生土器	壺	<17.6>	—	—	赤褐色	密	良	折り返し口縁	
45図	129	弥生集中	58	弥生土器	小型壺？	<12.8>	—	—	明褐色	赤色粒子やや含	良		
45図	130	弥生集中	247	弥生土器	壺	<14.0>	—	—	褐色	密	良	内面：ミガキ、外面ハケ調整後ミガキ	
45図	131	弥生集中	125	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	やや粗	良	外面：丁字文、内面：ミガキ	
45図	132	弥生集中	109	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	密	良	丁字文	
45図	133	弥生集中	136	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	密	良	鈕状貼付文	
45図	134	弥生集中	35+36+38+42+43+67	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
45図	135	弥生集中	1・26-1・2・3・5・6・7・10	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	やや粗	良	外面：ハケメ	
45図	136	弥生集中	107	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	赤色粒子	良	摩滅が激しく不明瞭だが外面にミガキ、肩部：結節縄文か？	赤彩か？
45図	137	弥生集中	22	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	赤色粒子	良	外面：ミガキ、内面：ハケ調整	
46図	138	弥生集中	196+199+211	弥生土器	壺	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	外面：ミガキ不明瞭	
46図	139	弥生集中	88+91	弥生土器	甕	<16.4>	—	—	暗褐色	密	良		
46図	140	弥生集中	85+94+95+97+92+98+99+86？	弥生土器	甕	18.7	22.5	6.0	褐色	やや粗、金雲母やや含	良		
46図	141	弥生集中	162+163+164+328	弥生土器	甕	<15.8>	—	—	赤褐色	やや粗、石英・金雲母	良	口唇部：刻み文・櫛描波状文・簾状文、内面：ハケメ	
46図	142	弥生集中	131	弥生土器	甕	<16.6>	—	—	暗褐色	密	良	外面：櫛描波状文、口唇部：ハケ状工具による刻み、内面：ミガキ	
46図	143	弥生集中	197	弥生土器	甕	<21.6>	—	—	明褐色	やや粗、赤色粒子	良		
46図	144	弥生集中	154	弥生土器	甕	<16.4>	—	—	褐色	密	良	外面：櫛描波状文、内面：ミガキ	
46図	145	弥生集中	18	弥生土器	甕	<17.4>	—	—	褐色	密	良		
46図	146	弥生集中	227	弥生土器	甕	<16.0>	—	—	暗褐色	密	良	ハケ調整後、櫛描波状文	
46図	147	弥生集中	299	弥生土器	甕	15.0	—	—	暗褐色	密	良		
46図	148	弥生集中	1・26-14・15	弥生土器	甕	14.0	—	—	赤褐色	やや粗、白色粒子	良	内外面：ハケメ	
46図	149	弥生集中	127	弥生土器	壺	<16.0>	—	—	褐色	石英	良	内外面：ミガキ	

挿入 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
46	150	弥生集中	1・26-9	弥生土器	甕	14.0	—	—	赤褐色	やや粗、白色粒子・金雲母 やや含	良	内外面：ハケメ、口唇部：ハケ 状工具による刻み文	
46	151	弥生集中	152+214	弥生土器	壺	<17.0>	—	—	褐色	密	良		外面：赤彩
46	152	弥生集中	151+153	弥生土器	小型甕	<11.0>	—	—	暗褐色	やや粗	良		
46	153	弥生集中	145+146+147+178	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	櫛描波状文・簾状文	
46	154	弥生集中	23+25+32?+33+46+51+17 0+223+268	弥生土器	高坏	<30.4>	—	—	明褐色	密	良	内外面：ミガキ調整	内外面：赤彩
47	155	弥生集中	112	弥生土器	高坏	23.6	—	—	明褐色	密	良	内外面：ミガキ・ハケメ	内外面：赤彩
47	156	弥生集中	205・1-23G	弥生土器	高坏	<19.0>	—	—	褐色	石英	良	内外面：ミガキ	内外面：赤彩
47	157	弥生集中	149	弥生土器	高坏脚 部	—	—	—	赤褐色	密	良	外面：ミガキ、内面：ハケメ	外面：赤彩
47	158	弥生集中	1・26-9	弥生土器	台付甕 脚部	—	—	10.0	明褐色	やや粗	良		
47	159	弥生集中	228	弥生土器	壺?	16.0	—	—	明褐色	密	良		内外面：赤彩
47	160	弥生集中	213	弥生土器	高坏	<13.0>	—	—	明褐色	白色粒子	良		内外面：赤彩
47	161	弥生集中	148	弥生土器	高坏	<16.0>	—	—	明褐色	密	良		内外面：赤彩
47	162	弥生集中	68	弥生土器	甕	—	—	—	黄褐色	密	良	内外面：ミガキ	
47	163	弥生集中	120	弥生土器	甕	—	—	6.4	暗褐色	密	良	底部含む全体にミガキ	
47	164	弥生集中	169	弥生土器	壺	—	—	<17.0>	明褐色	石英・白色粒子	良	外面：摩滅しているが全体にミ ガキ、内面：ハケ調整	
47	165	弥生集中	280	弥生土器	甕	—	—	7.0	褐色	白色粒子	良	内外面：ミガキ	
47	166	弥生集中	12+19+80	弥生土器	甕	—	—	<6.2>	褐色	密	良	内外面：ハケメ・ミガキ	
47	167	弥生集中	89+90	弥生土器	壺	—	—	<12.4>	明褐色	石英	良	外面：ハケ調整後ミガキ、内面 ：ハケメ	
47	168	弥生集中	1・28-2	弥生土器	壺	—	—	<12.6>	褐色	やや粗：白色粒子	良		
47	169	弥生集中	4+21	弥生土器	壺	—	—	<6.0>	暗褐色	密	良	内外面：ミガキ	
47	170	弥生集中	303	弥生土器	壺	—	—	<12.6>	暗褐色	外面：ミガキ・ハケメ	良		
47	171	弥生集中	7	弥生土器	甕	—	—	<5.2>	暗褐色	赤色粒子	良		
47	172	弥生集中	186	弥生土器	甕	—	—	7.6	褐色	密	良		
47	173	弥生集中	166+168	弥生土器	壺	—	—	<7.2>	褐色	白色粒子	良	外面：ヘラミガキ?、内面：や やミガキの跡	
47	174	弥生集中	159	弥生土器	甕	—	—	<7.0>	褐色	赤色粒子	良		
47	175	弥生集中	293・304	弥生土器	甕	—	—	<8.8>	暗褐色	やや粗	良	底部木葉痕	
47	176	弥生集中	37	弥生土器	壺	—	—	8.0	暗褐色	やや粗、白色粒子	良		
47	177	弥生集中	292	弥生土器	壺	—	—	6.0	赤褐色	白色粒子	良	底部：木葉痕	
47	178	弥生集中	295	弥生土器	壺	—	—	<7.8>	暗褐色	やや粗、石英・金雲母	良	底部：木葉痕	
47	179	弥生集中	122	弥生土器	壺	—	—	<6.4>	褐色	石英	良		内外面：赤彩
47	180	弥生集中	313	弥生土器	甕	—	—	<6.0>	明褐色	白色粒子	良		
47	181	弥生集中	128	弥生土器	壺?	—	—	7.0	明褐色	密	良		
48	182	弥生集中	135	弥生土器	壺	—	—	—	暗褐色	密	良	内面：ミガキ	
48	183	弥生集中	263	弥生土器	壺	—	—	—	赤褐色	密	良		
48	184	弥生集中	1・26-8	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	白色粒子	良		
48	185	弥生集中	215	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	外面：波状文、内面：ハケメ	
48	186	弥生集中	150	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良	櫛描波状文	
48	187	弥生集中	62	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	やや粗	良	外面：櫛描波状文	
48	188	弥生集中	56	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	金雲母	良	外面：櫛描波状文、内面：ハ ケメ	
48	189	弥生集中	21	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良	櫛描波状文	
48	190	弥生集中	L25G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48	191	弥生集中	L27G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48	192	弥生集中	1・26-4	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48	193	弥生集中	216	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	やや粗	良	口唇部：刻み文	
48	194	弥生集中	245	弥生土器	壺?	—	—	—	赤褐色	密	良	口唇部：刻み文	
48	195	弥生集中	174	弥生土器	—	—	—	—	黄褐色	やや粗、石英	良		
48	196	弥生集中	M27-1	弥生土器	壺	—	—	—	暗褐色	密	良	外面：丁字文、内面：ミガキ	
48	197	弥生集中	L28G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48	198	弥生集中	K28G	弥生土器	壺	—	—	—	赤褐色	密	良		
48	199	弥生集中	13+48	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	密	良	丁字文?	
48	200	弥生集中	256	弥生土器	—	—	—	—	褐色	密	良	外面：櫛描丁字文、内面：ミガ キ	
48	201	弥生集中	1・26-11	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
48	202	弥生集中	54+329	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	金雲母	良		
48	203	弥生集中	318	弥生土器	—	—	—	—	暗褐色	密	良		
48	204	弥生集中	232	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	粗、石英	良	外面：波状文・簾状文、内面： ハケメ	
48	205	弥生集中	155	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48	206	弥生集中	75	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	密	良		
48	207	弥生集中	L27G	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
48	208	弥生集中	271	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
48	209	弥生集中		弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		

押図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種 別	器 形	法 量			色 調	胎 土	焼 成	調 整	備 考
						口径	器高	底径					
48図	210	弥生集中	L26G	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48図	211	弥生集中	6	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良	内面：ハケ調整後ミガキ	
48図	212	弥生集中	248	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良	櫛歯波状文	
48図	213	弥生集中	55	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48図	214	弥生集中	144	弥生土器	甕	—	—	—	外面：黒褐色、内面：明褐色	密	良		
48図	215	弥生集中	184	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48図	216	弥生集中	K26G	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48図	217	弥生集中	250	弥生土器	甕	—	—	—					
48図	218	弥生集中	K27G	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
48図	219	弥生集中	129	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
48図	220	弥生集中	L28G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48図	221	弥生集中	K27G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48図	222	弥生集中	K27G	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
48図	223	弥生集中	L26G	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48図	224	弥生集中	124	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良	内面：粉殻痕か？	
48図	225	弥生集中	139	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
48図	226	弥生集中	181+182+195	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
48図	227	弥生集中	L28G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
48図	228	弥生集中	K28G	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
49図	229	弥生集中	286	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	230	弥生集中	71	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	やや粗	良		
49図	231	弥生集中	167	弥生土器	壺？	—	—	—	明褐色	密	良	外面：ハケメ、内面：ミガキ	赤彩
49図	232	弥生集中	41	弥生土器	甕？	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	233	弥生集中	156	弥生土器	甕？	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	234	弥生集中	160	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
49図	235	弥生集中	K28G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	236	弥生集中	56	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	やや粗、石英	良		
49図	237	弥生集中	202	弥生土器	甕？	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	238	弥生集中	5+10	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	密	良		
49図	239	弥生集中	L27G	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	240	弥生集中	235	弥生土器	壺	—	—	—	黄褐色	密	良	ハケ調整後ミガキ	
49図	241	弥生集中	65	弥生土器	壺	—	—	—	赤褐色	密	良	外面：ハケメ、内面：ミガキ	
49図	242	弥生集中	224+279	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	密	良		
49図	243	弥生集中	217	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	金雲母やや含	良		
49図	244	弥生集中	290+302	弥生土器	壺	—	—	—	褐色	密	良	内外面：ハケメ	
49図	245	弥生集中	15	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	密	良		
49図	246	弥生集中	171	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	密	良	外面：ミガキ、内面：ハケメ	
49図	247	弥生集中	53+73	弥生土器	甕	—	—	—	明褐色	密	良		
49図	248	弥生集中	305	弥生土器	壺	—	—	—	明褐色	密	良		
50図	249	弥生集中		土製品	土笛？	—	—	—	褐色	密	良	白色粒子・砂粒	
50図	250	18住	66	土製品	紡錘車	<3.8>	<3.65>	<1.9>	褐色・一部黒褐色	白色粒子・石英・全体に赤彩？	良		
50図	251	18住	68	土製品	紡錘車	<4.3>	<4.2>	<1.6>	鈍い褐色・平な面・褐色	白色粒子・石英・全体に赤彩？	良		
50図	252	弥生集中	142	土製品	紡錘車	<4.5>	<4.4>	<1.45>	黒褐色	白色粒子	良		
50図	253	グリッド別	J-26	土製品	紡錘車	<4.7>	<4.4>	<0.9>	鈍い褐色	白色粒子	良		
50図	254	弥生集中	246	土師器	甕						良	口縁内面に刻書	
50図	255	グリッド別	K-30・1	土師器	坏	<11.6>	<3.2>	<5.0>	褐色	赤色粒子・金粒子	良	底部内面に刻書文字	
51図	256	4住	77	土師器	脚高台坏	—	—	—	明褐色	赤色白色粒子・金雲母	良		
51図	257	4住	69	土師器	坏(灯明)	<10.4>	<3.05>	<5.3>	茶褐色	赤色白色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	内面：煤付着
51図	258	4住	93	土師器	坏	<10.6>	<3.4>	<5.0>	明褐色	金雲母・赤色白色粒子	良	底部：糸切り痕	
51図	259	4住	53	土師器	坏	<14.4>	<4.1>	<5.6>	明褐色	赤色白色粒子・石英・金雲母・黒雲母	良		
51図	260	4住	4	土師器	坏	<9.6>	<2.3>	<4.0>	明褐色	砂粒・小石	良	底部糸切り痕	口縁部歪み
51図	261	4住	14	土師器	坏	<11.6>	<2.9>	<5.8>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
51図	262	4住	87・88・89	土師器	坏	<13.0>	<3.8>	<5.0>	褐色	白色粒子・砂粒	良	底部糸切り痕	
51図	263	4住	4	土師器	坏	<13.4>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
51図	264	4住	34	土師器	坏	<15.0>	—	—	明褐色	赤色白色粒子	良		
51図	265	4住	1	土師器	鉢	<21.4>	—	—	暗褐色	金雲母・小石	良		
51図	266	4住	73	土師器	脚高台坏	—	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
51図	267	4住	59	土師器	脚高台坏	—	—	—	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	内面：煤付着
51図	268	4住	7	土師器	甕	<29.0>	—	—	明褐色	白色粒子・小石	良	外面：ハケメ不明瞭	

挿入 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
51図	269	4住	58	土師器	甕	<29.4>	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内面：ナデ	
51図	270	4住	45	土師器	甕	<27.4>	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良	外面：ハケメ	
51図	271	4住	42	土師器	甕	<23.4>	—	—	褐色	金雲母・小石	良		
51図	272	4住	91	土師器	甕	—	—	<7.0>	褐色	白色黒色粒子・小石	良	底部：木葉痕	
51図	273	4住	54・57・カマド1	土師器	鉢	<37.2>	—	—	暗褐色	金雲母・小石	良	内面：ハケメ不明瞭・指頭痕	
52図	274	4住	48・11住	灰釉陶器	高台付 皿	<12.4>	<2.5>	<6.0>	白灰色	緻密	良		
52図	275	4住	29	灰釉陶器	坏	<14.6>	—	—	白灰色	密	良		
52図	276	4住	71	灰釉陶器	坏	<14.6>	—	—	白灰色	密	良		
52図	277	4住	F13G	灰釉陶器	皿	<11.8>	—	—	白灰色	密	良		
52図	278	4住	16・2ミジ	灰釉陶器	高台付 皿	<9.2>	—	<6.4>	白灰色	密	良	底部糸切り痕	丸石2号
52図	279	4住	86・2ミジ	灰釉陶器	皿	—	—	<6.8>	白灰色	緻密	良		
52図	280	4住	45	灰釉陶器	壺	<11.6>	—	—	灰色	密	良		
52図	281	4住	96	灰釉陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
52図	282	4住	103	灰釉陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
52図	283	4住	52	灰釉陶器	—	—	—	—	緑灰色	密	良		
52図	284	4住	44	灰釉陶器	—	—	—	—	緑灰色	密	良		
52図	285	4住	50	須恵器	—	—	—	—	灰褐色	密	良		
52図	286	4住	74	須恵器	—	—	—	—	灰褐色	密	良		
52図	287	5住	カマド17	土師器	坏	11.2	3.4	5.5	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒・小石	良	底部：糸切り痕、口縁部：歪み	
52図	288	5住	カマド57・54	土師器	皿	<11.2>	2.4	4.5	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕、内面：暗文？	
52図	289	5住	カマド32・40	土師器	坏	—	—	5.2	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
52図	290	5住	21	土師器	坏	<10.0>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		煤付着
52図	291	5住	カマド16	土師器	皿	1.1	2.5	5.5	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
52図	292	5住	4	土師器	坏	<12.2>	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52図	293	5住	カマド5・12・15	土師器	脚高高 台付坏	<12.6>	<4.9>	<6.6>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52図	294	5住	カマド35	土師器	高台付 坏	<14.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52図	295	5住	33・55・61	土師器	坏	13.0	4.7	6.2	褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
52図	296	5住	75	土師器	坏	<13.6>	4.5	6.6	赤褐色	赤色・白色粒子	良	底部：糸切り痕	
52図	297	5住	81・89	土師器	皿	<11.8>	2.3	<5.8>	赤褐色	赤色粒子	良	底部糸切り痕	
52図	298	5住	12・39	土師器	脚高高 台付皿 ？	<15.0>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
52図	299	5住	68	土師器	坏	<12.6>	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
52図	300	5住	11	土師器	坏	<12.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52図	301	5住	79	土師器	坏	<11.8>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
52図	302	5住	59・72	土師器	坏	<8.6>	—	—	暗褐色	黒色鉱物・砂粒	良		
52図	303	5住	90	土師器	坏	—	—	<5.4>	暗褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
52図	304	5住	34	土師器	坏	—	—	5.8	赤褐色	砂粒	良	底部：糸切り痕	
53図	305	5住	25	土師器	坏	—	—	<5.8>	暗褐色	密	良	底部：糸切り痕	
53図	306	5住	88	土師器	坏	—	—	5.5	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
53図	307	5住	63・64・72・92	土師器	脚台高 台付坏	<14.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
53図	308	5住	カマド18・27	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗、白色粒子	良	ハケメ	
53図	309	5住	76・カマド42・56	土師器	鉢	<26.4>	—	—	暗褐色	やや粗、雲母・砂粒	良		
53図	310	5住	28・29・カマド37・50	土師器	甕	<30.2>	—	—	褐色	やや粗、金雲母・砂粒	良		
53図	311	5住	カマド38・39	土師器	鉢	—	—	—	暗褐色	やや粗、金雲母・石英	良		
53図	312	5住	36・47・48・49	土師器	甕	<25.8>	—	—	褐色	やや粗、石英・雲母多数含	良	内外面：ハケメ	
53図	313	5住	26・32	土師器	鉢	<28.8>	—	—	褐色	やや粗、金雲母多数含	良	ハケ状工具によるナデ不明瞭	
53図	314	5住	53	土師器	甕	10.0	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
53図	315	5住	73・B12G	土師器	甕？	<13.4>	—	—	暗褐色	やや粗、石英	良	外面：ヘラ削り、内面：ナデ	
53図	316	5住	84	土師器	甕？	—	—	<6.6>	暗褐色	やや粗、赤色粒子	良		
53図	317	5住	16	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗、雲母・白色粒子	良	内外面：ハケメ	
53図	318	5住	30	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗、雲母	良	ハケメ	
53図	319	5住	60	灰釉陶器	坏	<13.0>	—	—	灰白色	緻密	良		
53図	320	5住	38	灰釉陶器	坏	<13.8>	—	—	灰黄色	緻密	良		
54図	321	6住	43	土師器	坏	<14.1>	2.9	<9.0>	赤褐色	白色・赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
54図	322	6住	62	土師器	坏	<10.7>	—	—	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒	良		
54図	323	6住	44	土師器	坏	<13.6>	—	—	橙色	赤色・白色粒子・砂粒	良		
54図	324	6住	60	土師器	坏	<10.2>	2.6	<4.7>	赤褐色	白色・赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
54図	325	6住	56	土師器	坏	—	—	<6.2>	茶褐色	白色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
54図	326	6住	58	土師器	坏	—	—	7.2	明赤褐色	赤色・白色粒子・金雲母	良	底部：糸切り後調整	外面：焼け痕
54図	327	6住	55	土師器	坏	—	—	<5.7>	明赤褐色	赤色・白色粒子・石英	良		
54図	328	6住	29	土師器	坏	—	—	<5.9>	橙色	赤色・白色粒子・金雲母	良	底部：糸切り痕	
54図	329	6住	3・5	土師器	坏	—	—	6.1	橙色	赤色・白色粒子・金雲母	良	底部：糸切り痕	
54図	330	6住	10・25	土師器	鉢？	—	—	<7.8>	明褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	

挿図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種 別	器 形	法 量			色 調	胎 土	焼 成	調 整	備 考
						口径	器高	底径					
54図	331	6住	16	土師器	高坏脚部	<9.8>	—	—	暗褐色	白色粒子・雲母	良		
54図	332	6住	38・53	土師器	羽釜	<27.2>	—	—	暗褐色	石英・雲母	良		
54図	333	6住	7・C14	土師器	小甕	<10.5>	—	—	茶褐色	赤色・白色粒子・砂粒・金雲母	良		
54図	334	6住	22	土師器	置きカマド	—	—	<30.0>	暗褐色	石英・雲母	良	内外面：ハケメ	
54図	335	6住	45	灰釉陶器	皿	<13.0>	—	—	灰色	緻密	良		
54図	336	6住	63	灰釉陶器	高台付坏	—	—	<8.4>	灰色	緻密：白色粒子	良		
54図	337	6住	6	灰釉陶器	高台付坏	—	—	<7.6>	明灰色	緻密	良		虎溪山1号
54図	338	6住	8	灰釉陶器	高台付坏	—	—	<7.0>	明黄色	緻密：白色粒子	良	底部：糸切り痕	虎溪山1号
54図	339	6住	13	土師器	段皿	<14.0>	<2.1>	<7.8>	灰白色	緻密	良		
54図	340	6住	57	土師器	段皿	<14.0>	—	—	灰白色	緻密	良		
54図	341	7住	6・14	土師器	坏	<11.0>	<3.4>	<4.0>	明褐色	砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	342	7住	94・104・105・112・117	土師器	坏	<10.5>	<2.8>	<4.6>	暗褐色	砂粒	良	煤付着	
54図	343	7住	27	土師器	坏	<17.6>	—	—	明褐色	砂粒	良		
54図	344	7住	10	土師器	皿	<16.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良		
54図	345	7住	—	土師器	坏	<13.6>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
54図	346	7住	76	土師器	坏	<12.4>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
54図	347	7住	86	土師器	坏	—	—	<5.6>	暗褐色	金雲母・砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	348	7住	72	土師器	皿	—	—	<4.5>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	349	7住	52	土師器	坏	—	—	<5.8>	明褐色	金雲母・砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	350	7住	58	土師器	坏	—	—	<5.8>	明褐色	砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	351	7住	111	土師器	坏	—	—	<4.4>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部糸切り痕	
54図	352	7住	90・103	土師器	坏	—	—	<5.6>	暗褐色	赤色粒子・砂粒・金雲母	良	底部糸切り痕	
55図	353	7住	119	土師器	鉢	<30.0>	—	—	明褐色	金雲母	良	内外面：ハケメ	
55図	354	7住	7	土師器	鉢	<29.2>	—	—	暗褐色	砂粒・金雲母	良	内外面：ハケメ	
55図	355	7住	80	土師器	甕	<30.4>	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
55図	356	7住	5	土師器	鉢	<24.8>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良		
55図	357	7住	48・49・85・95	土師器	甕	<31.0>	—	—	褐色	白色粒子・金雲母	良		
55図	358	7住	92	土師器	鉢	<27.0>	—	—	褐色	金雲母・小石	良		
55図	359	7住	55・63	土師器	甕	<32.2>	—	—	褐色	白色粒子・金雲母	良		
55図	360	7住	4	土師器	鉢	<26.2>	—	—	褐色	金雲母・小石	良		
55図	361	7住	97	土師器	高坏	—	—	<10.0>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
55図	362	7住	122	土師器	高坏	—	—	<9.0>	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良		
55図	363	7住	41	土師器	高坏	—	—	<8.0>	暗褐色	赤色粒子	良		
55図	364	7住	41	土師器	高坏	—	—	<8.8>	暗褐色	赤色粒子	良		
55図	365	7住	81	灰釉陶器	坏	<10.6>	<2.5>	<5.7>	白灰色	密	良	底部糸切り痕	丸石2号
55図	366	7住	51	灰釉陶器	坏	<14.6>	—	—	白灰色	密	良		
55図	367	7住	67	灰釉陶器	坏	—	—	—	灰色	密	良		
55図	368	7住	16・4住	灰釉陶器	坏	—	—	—	灰色	密	良		虎溪山1号
55図	369	7住	121・8住53	灰釉陶器	鉢	—	—	—	灰色	密	良		
55図	370	8住	162・163・164・168	土師器	坏	<13.7>	<3.5>	<6.0>	暗褐色	白色粒子・砂粒・小石	良	底部糸切り痕	
55図	371	8住	71	土師器	坏	<10.4>	<2.9>	<5.5>	赤褐色	赤色粒子	良	底部糸切り痕・煤付着・焼きむら有り	
55図	372	8住	38	土師器	坏	<17.6>	—	—	明褐色	密	良		
55図	373	8住	161	土師器	坏	—	—	—	明褐色	白色粒子	良	煤付着	
55図	374	8住	93	土師器	坏	<11.0>	—	<5.0>	明褐色	赤色白色粒子・砂粒	良	底部糸切り痕	
55図	375	8住	18	土師器	坏	<11.0>	<2.2>	—	明褐色	密	良		
55図	376	8住	173	土師器	坏	<10.8>	<2.2>	<4.8>	明褐色	白色粒子・砂粒	良		
55図	377	8住	127	土師器	坏	<13.8>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
55図	378	8住	1	土師器	坏	<11.0>	—	—	明褐色	密	良		
55図	379	8住	4	土師器	坏	<12.6>	—	—	明褐色	砂粒	良		
55図	380	8住	7	土師器	皿	<9.0>	—	—	明褐色	赤色白色粒子	良		
56図	381	8住	132	土師器	坏	<15.6>	—	—	明褐色	密	良		
56図	382	8住	—	土師器	坏	<13.6>	—	—	暗褐色	金雲母	良		
56図	383	8住	20	土師器	脚高高台付	—	—	<5.6>	暗褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良		
56図	384	8住	82	土師器	脚高高台付	—	—	—	明褐色	赤色粒子・小石	良		
56図	385	8住	86・92・97・98・99・100・110・121・128	土師器	甕	<32.6>	—	—	暗褐色	白色黒色粒子・金雲母	良	内面：ナデ不明瞭・指頭痕	
56図	386	8住	137	—	—	<24.0>	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良		
56図	387	8住	167	土師器	鉢	<26.0>	—	—	褐色	白色粒子・金雲母	良		
56図	388	8住	90・103・138・142・146・151・8住カマド2・3・9・10・11・14・15・17・18・19	土師器	鉢	<33.0>	—	—	褐色	砂粒	良		

挿入 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
56	389	8住	8住カマド5・7・8・12・ 14・16・20・21・144	土師器	甕	<25.0>	—	—	暗褐色	金雲母	良	内面：ハケメ不明瞭	
56	390	8住	52			<27.2>	—	—	暗褐色	金雲母	良	内外面：ハケメ	
56	391	8住	141	灰釉陶器	坏	<15.0>	<6.1>	<7.1>	灰白色	密	良	煤付着	丸石2号
56	392	8住	13	灰釉陶器	皿	<13.2>	<2.4>	<7.8>	灰色	密	良		虎溪山1号
56	393	8住	73	土師器	皿	<10.0>	—	—	灰白色	密	良	須恵器	
56	394	8住	45	灰釉陶器	坏	<15.4>	—	—	灰色	密	良		
56	395	8住	9・141	土師器	坏	<16.4>	—	—	灰白色	密	良	須恵器	
56	396	8住	145	土師器	坏	<15.8>	—	—	灰白色	密	良	須恵器	
56	397	8住	45	土師器	皿	—	—	<7.4>	灰白色	密	良	須恵器	
56	398	8住	43	土師器	壺	—	—	—	灰色	密	良	灰釉	
56	399	8住	60	土師器	甕	—	—	—	灰白色	密	良	須恵器・輪積痕	
57	400	9住	22	土師器	坏	<8.6>	<1.9>	<4.4>	明褐色	砂粒	良	底部糸切り痕	
57	401	9住	32	土師器	坏	<9.7>	<2.3>	<5.2>	明褐色	砂粒	良	底部糸切り痕	
57	402	9住	6・15・17・18	土師器	坏	<14.4>	<4.8>	<6.2>	明褐色	砂粒・小石	良	底部糸切り痕	
57	403	9住	52	土師器	坏	<12.0>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
57	404	9住	11			—	—	<4.4>	明褐色	砂粒	良	底部糸切り痕	
57	405	9住	20	土師器	坏	—	—	<5.8>	明褐色	赤色粒子	良		
57	406	9住	23	土師器	坏	—	—	<5.4>	明褐色	砂粒	良	煤付着	
57	407	9住	25	土師器	坏	—	—	<6.8>	明褐色	赤色粒子・小石	良		
57	408	9住	9	土師器	甕	—	—	<7.6>	褐色	金雲母・小石	良		
57	409	9住	38・43	土師器	脚高高 台付坏	—	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
57	410	9住	34	土師器	甕	<32.0>	—	—	明褐色	白色粒子・小石	良		
57	411	9住	12	土師器	甕	<26.0>	—	—	褐色	金雲母・砂粒	良		
57	412	9住	49	土師器	甕	<22.0>	—	—	明褐色	金雲母・小石	良		
57	413	9住	59	土師器	羽釜	<22.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良	内面：ハケメ	
57	414	9住	10	土師器	羽釜	<23.0>	—	—	明褐色	砂粒・小石	良		
57	415	9住	13・33・35・36・37・40・ 41・44	土師器	鉢	<32.0>	<19.5>	—	褐色	やや粗	良	木葉痕	
57	416	9住	42	灰釉陶器	坏	<14.4>	—	—	灰白色	密	良		
57	417	9住	46	灰釉陶器	坏	—	—	<7.8>	灰白色	密	良		虎溪山1号
58	418	10住	4	土師器	坏	<10.2>	<2.8>	<5.6>	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	煤付着
58	419	10住	54	土師器	坏	<11.8>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
58	420	10住	24	土師器	坏	<13.0>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
58	421	10住	18	土師器	壺	—	—	<4.0>	明褐色	砂粒	良	外面：ハケメ	
58	422	10住	6	土師器	甕	<20.0>	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
58	423	10住	38	土師器	甕	<25.0>	—	—	褐色	金雲母・石英	良		
58	424	10住	42	土師器	甕	<22.2>	—	—	褐色	金雲母・石英・砂粒	良		
58	425	10住	20	土師器	鉢	<24.0>	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
58	426	10住	21	土師器	羽釜	<22.4>	—	—	褐色	金雲母	良		
58	427	10住	23	土師器	羽釜	<22.4>	—	—	褐色	白色粒子	良		
58	428	10住	2	土師器	羽釜	<22.6>	—	—	褐色	金雲母・小石	良		
58	429	10住	26	灰釉陶器	坏	<16.2>	—	—	灰白色	密	良		
58	430	10住	10	灰釉陶器	坏	<14.4>	—	—	灰白色	密	良		
58	431	10住	31	灰釉陶器	坏	<17.2>	—	—	灰色	密	良		
58	432	11住	85・86	土師器	皿	<10.0>	<2.0>	<4.4>	明褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
58	433	11住	14	土師器	坏	<11.2>	<3.6>	<6.2>	赤褐色	赤色・白色粒子	良	底部：糸切り痕	
58	434	11住	12	土師器	坏	<15.0>	<4.1>	<6.4>	赤褐色	赤色粒子・雲母	良	底部：糸切り痕	
58	435	11住	132	土師器	坏	<15.8>	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
58	436	11住	16	土師器	坏	<12.4>	—	—	褐色	赤褐色	良		煤付着
58	437	11住	102	土師器	坏	—	—	<4.6>	赤褐色	赤色粒子・金雲母	良	底部：糸切り痕	
58	438	11住	79	土師器	坏	—	—	<5.4>	明褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
58	439	11住	123	土師器	坏	—	—	<7.2>	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
58	440	11住	7	土師器	高台付 坏	—	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
58	441	11住	81	土師器	脚高高 台付坏 ?	—	—	<13.4>	高台部： 赤褐色坏 部：明褐 色	赤色粒子	良		
58	442	11住	11	土師器	脚高高 台坏	—	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
58	443	11住	28・99	土師器	鉢	—	—	—	暗褐色	やや粗：砂粒・白色粒子	良		
58	444	11住	108・122	土師器	甕	<24.0>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母・砂粒	良		
59	445	11住	108・109・111・119	土師器	甕	<27.4>	—	—	褐色	やや粗：金雲母・白色粒子	良		
59	446	11住	89	土師器	小型甕	<10.8>	—	—	暗褐色	やや粗：石英・砂粒	良	内面：黒く変色	
59	447	11住	57・58・67	土師器	鉢?	—	—	—	褐色	粗い：石英	良		
59	448	11住	131	土師器	甕	—	—	<9.2>	褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ・底部：木葉痕	
59	449	11住	93	土師器	甕	<21.8>	—	—	褐色・内 面：暗褐色	金雲母・白色粒子	良	内外面：ハケメ	

棟図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
59図	450	11住	31・44・46	土師器	鉢	<36.4>	—	—	暗褐色	粗い：金雲母・白色粒子	良		
59図	451	11住	44・45・63・65	土師器	鉢		—	—	褐色	やや粗：金雲母・白色粒子	良		
59図	452	11住	103	土師器	羽釜	<24.4>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母・砂粒	良	外面：ハケメ・内面：ナデ	
59図	453	11住	53・112・129・130	土師器	羽釜	<24.4>	—	—	褐色	やや粗：石英・砂粒	良	外面：ハケメ	
60図	454	11住	104・112・113	土師器	羽釜	<29.6>	—	—	褐色	やや粗：雲母・石英	良	外面：ハケメ・内面：ナデ	
60図	455	11住	107・108	土師器	羽釜	<22.0>	—	—	暗褐色	やや粗：白色粒子・砂粒	良	外面：ハケメ	
60図	456	11住	110				—	—					
60図	457	11住	60	灰釉陶器	碗?	<13.2>	—	—	白灰色	緻密	良		
60図	458	11住	128	灰釉陶器	碗?		—	<7.4>	黄灰色	緻密	良		丸石2号
60図	459	11住	124	土師器	段皿	<14.4>	—	—	黄灰色	緻密	良		
60図	460	11住	82	灰釉陶器	壺	<20.2>	—	—	黄灰色	緻密	良		
60図	461	11住	56	灰釉陶器	壺	—	—	<17.0>	黄灰色	緻密	良		丸石2号
60図	462	11住	38	土師器	壺	—	—	—	灰色	緻密	良	外面：タタキ目	
60図	463	12住	36・79	土師器	坏	11.8	2.9	5.7	褐色+赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
60図	464	12住	1	灰釉陶器	皿	11.0	—	5.0	黄褐色	緻密	良	底部：糸切り痕	丸石2号
60図	465	12住	38・39	土師器	坏	<12.2>	3.3	6.4	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
60図	466	12住	35	土師器	坏	11.0	2.6	5.6	赤褐色	白色粒子	良	底部：糸切り痕	
60図	467	12住	26・E12G	土師器	坏	<10.2>	3.5	<5.6>	赤褐色	赤色粒子	良	内面：暗文?	
60図	468	12住	77	土師器	坏	<12.8>	4.1	<6.4>	黄褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
60図	469	12住	30	土師器	坏	<10.2>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
60図	470	12住	34	土師器	坏	<14.2>	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
60図	471	12住	41	土師器	坏	<10.4>	—	—	明褐色	白色粒子	良		
60図	472	12住	44	土師器	坏	<14.0>	—	—	赤褐色	砂粒・赤色粒子	良		
61図	473	12住	71	土師器	皿	<16.0>	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
61図	474	12住	32	土師器	脚高高台付坏	11.2	4.9	6.7	赤褐色	やや粗：赤色粒子・雲母	良		
61図	475	12住	72	土師器	脚高高台付皿	10.4	—	—	明褐色	白色粒子、赤色粒子やや含	良		
61図	476	12住	81	土師器	脚高高台付坏	—	—	7.2	赤褐色	赤色粒子	良		
61図	477	12住	23	土師器	脚高高台付坏	—	—	5.2	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
61図	478	12住	69	土師器	脚高高台付坏	—	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
61図	479	12住	62・カマド2-4	土師器	甕	<28.8>	—	—	暗褐色	金雲母	良		
61図	480	12住	80	土師器	壺	—	—	8.8	暗褐色	やや粗：金雲母・白色粒子	良	外面：ハケ調整後ヘラ削り、内面：ハケメ・指頭痕、底部：木葉痕	
61図	481	12住	89	土師器	甕	—	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
61図	482	12住	74	土師器	小型甕	<12.6>	—	—	暗褐色	赤色粒子	良	外面：摩滅のため調整痕不明瞭	
61図	483	12住	5	土師器	坏?	14.0	—	—	赤褐色	やや粗：白色粒子	良	内面：ハケメ	
61図	484	12住	33・カマド2-7	土師器	羽釜	27.4	—	—	褐色	やや粗：石英・砂粒	良	内外面：ハケメ	
61図	485	12住	59	土師器	羽釜	<28.4>	—	—	褐色	やや粗：砂粒・雲母含	良	内外面：ハケメ	
61図	486	12住	56・57	土師器	羽釜	—	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母・砂粒	良	内外面：ハケメ	
61図	487	12住	31・111-11	灰釉陶器	碗	<14.8>	6.2	<7.8>	黄褐色	緻密	良		丸石2号
61図	488	12住	6・48・2溝-8・28	灰釉陶器	碗	15.9	6.5	8.2	黄褐色	緻密	良		虎溪山1号
61図	489	12住	51	灰釉陶器	坏	14.0	—	—	灰白色	緻密	良		
61図	490	12住	カマド86	灰釉陶器	坏	—	—	—	灰白色	緻密	良		
61図	491	12住	53・24住-37・2溝121	須恵器	壺	—	—	—	青灰色	緻密	良	外面：平行叩き目、内面：同心円状当て具痕	
62図	492	17住	10	土師器	坏	10.8	3.3	6.0	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
62図	493	17住	8	土師器	坏	<12.0>	3.2	<6.0>	明褐色	赤色粒子	良		
62図	494	17住	12	土師器	甕	<33.0>	—	—	黒褐色	やや粗：石英・金雲母	良		
62図	495	17住	6	土師器	鉢?	—	—	—	褐色	やや粗：金雲母	良		
62図	496	17住	15	土師器	壺	—	—	<11.8>	暗褐色	やや粗：石英・金雲母	良		
62図	497	19住	2	土師器	坏	<16.0>	—	—	明褐色	赤色白色粒子	良		
62図	498	19住		土師器	坏	<14.2>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
62図	499	19住	20住2	灰釉陶器	坏	<13.6>	—	—	灰色	密	良		
62図	500	19住	1	灰釉陶器	坏	—	—	<8.0>	灰白色	密	良		
62図	501	20住	4	土師器	坏	—	—	<4.2>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部糸切り痕	
62図	502	21住	20	土師器	灯明皿	<11.8>	3.0	<6.2>	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	内面：煤付着
62図	503	21住	7	土師器	坏	—	—	5.0	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	煤付着
62図	504	21住	3	土師器	坏	<11.8>	3.5	7.0	明褐色	白色粒子	良	底部：糸切り痕	
62図	505	21住	2	土師器	坏	11.4	—	—	明褐色	砂粒	良		
62図	506	21住	22	土師器	坏	12.0	—	—	明褐色	白色粒子	良		
62図	507	21住	13	土師器	坏	—	—	<5.8>	明褐色	赤色粒子	良		
62図	508	21住	21	土師器	鉢	<24.4>	—	—	暗褐色	粗：金雲母	良		
62図	509	21住	9	土師器	壺	—	—	<10.6>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良	外面：ハケメ、底部：糸切り痕	
62図	510	21住	10	土師器	置き力マド	—	—	<30.0>	褐色	やや粗：白色粒子・金雲母	良	内外面：ハケメ	

棟号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
62	511	22住	17・18	土師器	環	<14.0>	—	—	明褐色	赤色白色粒子	良		
62	512	22住	14	土師器	皿	<9.4>	—	—	黄白色	緻密	良		
62	513	22住	26	土師器	皿	<14.0>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
62	514	22住	3	土師器	高台付 皿？ 環？		—	—	明褐色	白色粒子	良		
62	515	22住	27	土師器	甕	<28.4>	—	—	褐色	やや粗：石英・金雲母	良		
62	516	22住	24	土師器	甕	—	—	<7.0>	暗褐色	やや粗：石英・金雲母	良	内面：オコゲ	
63	517	22住		灰釉陶器	環	<15.6>	—	—	黄褐色	緻密	良		
63	518	22住	20	灰釉陶器	碗	—	—	—	灰白色	緻密	良		
63	519	21～23住		土師器	皿	<11.0>	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
63	520	21～23住		土師器	皿	<11.0>	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
63	521	21～23住		灰釉陶器	壺	<13.2>	—	—	明灰色	緻密	良		
63	522	23住	3	土師器	環	<13.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良		
63	523	23住	42	土師器	環	—	—	4.4	赤褐色	白色粒子	良	底部：貫通しない孔	
63	524	23住	41	土師器	環	—	—	<6.0>	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
63	525	23住	22	土師器	環	—	—	<6.8>	褐色	白色粒子	良		
63	526	23住	20	土師器	鉢	<25.6>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	外面：ハケメ？	
63	527	23住	40	土師器	羽釜	<32.0>	—	—	褐色	やや粗：白色粒子・雲母	良	内外面：ハケメ	
63	528	23住	14	土師器	羽釜	<28.2>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母多数含	良		
63	529	23住	39	灰釉陶器	環	—	—	—	灰白色	緻密	良		
63	530	23住	11・21住・11	灰釉陶器	環	—	—	—	褐色	白色粒子	良		
63	531	23住	4	灰釉陶器	環	—	—	—	灰白色	緻密	良		
63	532	23住	36	土師器	壺	—	—	—	灰白色	小石混じり	良		
63	533	24住	27	土師器	環	<12.0>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
63	534	24住	23	土師器	環	11.6	—	—	明褐色	赤色・黒色粒子	良		
63	535	24住	28	土師器	環？	11.0	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
63	536	24住	16	土師器	環	—	—	5.2	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
63	537	24住	2+14	土師器	鉢	<21.0>	—	—	褐色	赤色粒子	良		
63	538	24住	カマド1・2・4	土師器	蓋	<17.2>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
63	539	24住	57	土師器	高台付 環脚部	—	—	<9.6>	赤褐色	赤色粒子	良		
63	540	24住	22	土師器	鉢	<37.0>	—	—	褐色	やや粗：白色粒子	良		焼きむら有
63	541	24住	8	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗：雲母	良		
63	542	24住	7	土師器	羽釜	<26.6>	—	—	褐色	やや粗：金雲母、白色粒子	良		
63	543	24住	36	土師器	羽釜	—	—	—	褐色	やや粗：金雲母、白色粒子	良	内面：ハケメ	
64	544	24住	43・F14-6	灰釉陶器	碗	<16.0>	—	—	灰白色	緻密	良		
64	545	24住	24住・2溝	灰釉陶器	壺	—	—	—	白灰色	緻密	良		
64	546	24住	35・7住9・2溝5	須恵器		—	—	—	青灰色	緻密	良		
64	547	24住	20	須恵器	壺	—	—	—	青灰色	緻密	良	外面：タタキメ	
64	548	25住	39	土師器	環	<11.8>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
64	549	25住	31	土師器	皿	<11.6>	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
64	550	25住	16	土師器	環	<12.8>	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
64	551	25住	7	土師器	環	—	—	<6.2>	暗褐色	赤色粒子やや含	良	底部：糸切り痕	
64	552	25住	一括	土師器	甕	—	—	—	赤褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
64	553	25住	10	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
64	554	25住	15	土師器	甕	—	—	—	褐色	やや粗：雲母・白色粒子	良	内外面：ハケメ	
64	555	25住	6	土師器	甕	<28.6>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
64	556	25住	17	土師器	甕	<23.8>	—	—	暗褐色	やや粗	良		
64	557	25住	34	土師器	鉢	20.6	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
64	558	25住	20・21	土師器	甕	<15.0>	—	—	赤褐色	やや粗：白色粒子	良		
64	559	25住	20・26	土師器	甕	—	—	9.6	暗褐色	やや粗：石英・砂粒	良	底部：木葉痕	
64	560	25住	2・3・24住・25・26・27	灰釉陶器	碗	14.2	6.5	7.0	黄灰色	緻密	良	底部：糸切り痕	丸石2号
64	561	25住	一括	灰釉陶器	皿	13.4	—	—	青灰色	緻密	良		
64	562	25住	38・2溝41	灰釉陶器	環	—	—	8.0	黄灰色	緻密	良		虎溪山1号
64	563	25住	1	灰釉陶器	壺	—	—	<12.6>	白灰色	緻密	良		大原2号
64	564	25住	12・6住24・2溝155	土師器	壺	—	—	—	黄灰色	密	良	平行タタキメ	
65	565	28住	6	土師器	環	<12.4>	—	—	赤褐色	赤色粒子やや含	良		
65	566	28住	11	土師器	環	<13.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子やや含	良		
65	567	28住	9・40	土師器	環	<13.8>	—	—	明褐色	密	良		
65	568	28住	9・46	土師器	環	<13.8>	—	—	明褐色	密	良		
65	569	28住	13	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
65	570	28住	一括	土師器	甕	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面：ハケメ	
65	571	28住	4	土師器	甕	—	—	<7.8>	暗褐色	やや粗：金雲母	良	外面：ハケメ、内面：剥離	
65	572	28住	25	土師器	鉢	<34.8>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
65	573	28住	5	土師器	羽釜	28.0	—	—	褐色	やや粗：石英	良		
65	574	28住	41	土師器	羽釜	<24.8>	—	—	赤褐色	やや粗	良		
65	575	28住	21・24	土師器	鉢	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面：ハケメ	
65	576	29住	10・カマド1・2	土師器	環	<14.4>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	

挿入番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
65図	577	29住	29・31	土師器	坏	11.4	3.2	6.0	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕、体部：ヘラによる調整痕	
65図	578	29住	カマド5	土師器	坏	<14.4>			赤褐色	赤色粒子	良		
65図	579	29住	35	土師器	坏	<11.0>	3.0	<6.0>	赤褐色	やや粗：赤色粒子	良		
65図	580	29住	15	土師器	坏	<13.8>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
65図	581	29住	12	土師器	坏	—	—	<7.0>	暗褐色	密	良	底部：糸切り痕	
65図	582	29住	14	土師器	坏	—	—	<6.4>	褐色	赤色粒子	良		
65図	583	29住	33	土師器	脚高高台付坏	—	—	<6.4>	明褐色	赤色粒子	良		
65図	584	29住	34	土師器	脚高高台付坏：脚部	—	—	<9.4>	赤褐色	密	良		
65図	585	29住	39	灰釉陶器	坏	—	—	<8.0>	白灰色	緻密	良		虎溪山1号
65図	586	29住	5	土師器	羽釜	<34.0>	—	—	暗褐色	やや粗	良		
65図	587	30住	1・カマド3・4	土師器	坏：灯明	<11.8>	3.9	5.6	暗褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	煤付着
65図	588	30住	31	土師器	坏	12.2	3.6	6.2	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
65図	589	30住	10・25	土師器	坏	<10.8>	3.6	5.1	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
65図	590	30住	2	土師器	坏	—	—	6.4	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
66図	591	30住	4	土師器	坏	—	—	5.4	褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
66図	592	30住	28	土師器	脚高高台坏	<13.4>	—	—	暗褐色	密	良	底部：糸切り痕	
66図	593	30住	27	土師器	坏	<11.8>	—	—	暗褐色	密	良		
66図	594	30住	カマド6・7	土師器	鉢	—	—	—	暗褐色	やや粗：石英・金雲母	良	外面：ハケメ	
66図	595	30住	18	灰釉陶器	壺	—	—	—	白灰色	緻密	良		
66図	596	30住	カマド9・5・31住81・25トレンチ	灰釉陶器	壺	—	—	<13.6>	黄褐色	緻密	良		大原2号
66図	597	30住	カマド1	灰釉陶器	壺	—	—	<13.6>	白灰色	緻密	良		
66図	598	31住	13	土師器	坏	<11.2>	<4.4>	4.8	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	口縁部歪み
66図	599	31住	63	土師器	坏	<10.2>	<3.4>	<5.0>	明褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良	底部：糸切り痕	
66図	600	31住	1・2	土師器	坏	<12.8>	—	<6.4>	明褐色	白色粒子・小石	良		
66図	601	31住	21・22	土師器	坏	<10.2>	<3.2>	<5.0>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕、外面：ハケメ	
66図	602	31住	44	土師器	坏	—	—	4.4	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	底部・外面に煤付着
66図	603	31住	21	土師器	坏	—	—	5.0	明褐色	赤色粒子	良		底部・内外面に煤付着
66図	604	31住	38	土師器	坏	—	—	<6.5>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
66図	605	31住	34・40	土師器	脚高高台坏	—	—	—	明褐色	赤色粒子・小石	良		
66図	606	31住	23・76	土師器	脚高高台坏	—	—	—	暗褐色	砂粒	良		
66図	607	31住	73	土師器	脚高高台坏	—	—	—	明褐色	砂粒・小石	良		
66図	608	31住	18	土師器	脚高高台坏	—	—	<10.8>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
66図	609	31住	35	土師器	脚高高台坏	—	—	<6.0>	明褐色	白色粒子	良		
66図	610	31住	34	土師器	甕	<31.6>	—	—	褐色	金雲母・白色粒子	良		
66図	611	31住	31	土師器	羽釜	<28.4>	—	—	褐色	砂粒・小石	良		
66図	612	31住	43	土師器	羽釜	<20.4>	—	—	褐色	砂粒・小石	良		
66図	613	31住	68	土師器	羽釜	—	—	—	褐色	砂粒・小石	良	内面：ハケメ	
66図	614	31住	78	土師器	甕	—	—	<6.6>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：木葉痕	
66図	615	31住	29・72	土師器	甕	—	—	<8.4>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：糸切り痕、外面：ハケメ不明瞭	
66図	616	31住	75	土師器	甕	—	—	<9.6>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：木葉痕	
67図	617	31住	39	土師器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内面：ハケメ	
67図	618	31住	7・8	土師器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内面：ハケメ	
67図	619	31住	29	土師器	—	—	—	—	明褐色	白色粒子・砂粒	良	内面：ハケメ	
67図	620	31住	36	土師器	—	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内面：ハケメ	
67図	621	31住	32	灰釉陶器	坏	<11.4>	<3.9>	<6.8>	灰色	密	良		
67図	622	31住	46・71	灰釉陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
67図	623	31住	26	灰釉陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
67図	624	31住	62	須恵器	甕	—	—	—	灰色	密	良		
67図	625	33住	35	土師器	坏：灯明	10.8	3.4	5.6	赤褐色	赤色粒子	良	底部：糸切り痕	煤付着
67図	626	33住	86・108	土師器	皿	11.8	2.6	4.3	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67図	627	33住	50	土師器	皿	11.0	2.7	4.2	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67図	628	33住	72・77・110	土師器	坏	<11.4>	3.1	4.6	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67図	629	33住	36	土師器	灯明皿	10.5	2.2	5.2	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	煤付着

押号 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種 別	器 形	法 量			色 調	胎 土	焼 成	調 整	備 考
						口径	器高	底径					
67	630	33住	107	土師器	坏	<13.4>	3.4	<4.6>	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67	631	33住	27	土師器	坏	<14.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
67	632	33住	56	土師器	坏?	10.8	—	—	暗褐色	密	良		
67	633	33住	カマド6	土師器	坏	—	—	4.1	暗褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67	634	33住	8	土師器	坏	—	—	4.0	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
67	635	33住	15	土師器	高台付 坏：灯 明	—	—	—	赤褐色	白色粒子	良		煤付着
67	636	33住	20・73	土師器	脚高高 台坏	—	—	<8.0>	明褐色	密	良		
67	637	33住	24	土師器	脚高高 台坏	—	—	7.0	明褐色	密	良		器体部内側： 黒色
67	638	33住	54・カマド1	土師器	鉢	25.8	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
68	639	33住	57	土師器	鉢	<34.4>	—	—	赤褐色	やや粗：金雲母やや含	良		
68	640	33住	19・80・カマド5	土師器	鉢	<37.0>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母・石英	良		
68	641	33住	111・カマド3	土師器	鉢	31.6	—	—	赤褐色	やや粗：金雲母多数含	良		
68	642	33住	49	土師器	甕	36.6	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面：ハケメ	
68	643	33住	51	土師器	羽釜	<31.2>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
68	644	33住	30	土師器	羽釜	<25.2>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
68	645	33住	34	土師器	羽釜	<29.2>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	内外面：ハケメ	
68	646	33住	83	土師器	釜	<22.4>	—	—	暗褐色	やや粗：石英	良		
68	647	33住	59	土師器	甕	—	—	<6.2>	暗褐色	やや粗	良	底部：木葉痕?	
68	648	33住	40	土師器	鉢	—	—	<8.2>	褐色	やや粗：金雲母	良	底部：木葉痕	
68	649	33住	カマド4	灰釉陶器	碗?	<14.6>	—	—	黄灰色	緻密	良		
68	650	33住	105	灰釉陶器	皿	<12.0>	—	—	白灰色	緻密	良		
68	651	33住	58・116-19	灰釉陶器	碗	—	—	—	黄灰色	緻密	良		
68	652	33住	7	灰釉陶器	碗	—	—	<5.8>	白灰色	緻密	良	底部：糸切り痕	丸石2号
69	653	34住	27	土師器	坏	<11.4>	—	—	灰褐色	赤色粒子	良		
69	654	34住	63	土師器	高台付 坏?	—	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
69	655	4住	32・33・59	土師器	脚高高 台付皿	10.7	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
69	656	34住	37	土師器	甕	<34.8>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
69	657	34住	47	土師器	甕	<36.0>	—	—	褐色	やや粗：石英・金雲母多数含	良		
69	658	34住	29	土師器	甕	<33.8>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
69	659	34住	12・58	土師器	鉢	<31.2>	—	—	褐色	やや粗：金雲母	良		
69	660	34住	61	土師器	鉢	<24.8>	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良		
69	661	34住	38・41・45・65	土師器	甕?鉢?	—	—	8.0	暗褐色	やや粗：金雲母	良	底部：木葉痕	体部にまで木 葉痕
69	662	34住	8	土師器	鉢	10.6	—	—	暗褐色	やや粗：金雲母	良	底部：木葉痕	
69	663	34住	10	土師器	鉢	—	—	<10.8>	褐色	やや粗：金雲母	良	底部：木葉痕	
69	664	34住	13	土師器	甕	—	—	10.0	暗褐色	やや粗：白色粒子・金雲母	良		外面：煤付着
69	665	34住	14・52	灰釉陶器	碗	<16.0>	—	—	黄灰色	緻密	良		
69	666	34住	6・F18	灰釉陶器	坏	15.4	—	—	白灰色	緻密	良		
69	667	34住	57	灰釉陶器	坏	<15.8>	—	—	白灰色	緻密	良		
69	668	34住	16・F17-6	灰釉陶器	壺	—	—	—	白灰色	緻密	良		
69	669	34住	30	灰釉陶器	壺	—	—	—	青灰色	緻密	良		
70	670	37住	10	土師器	灯?	9.3	2.7	5.0	明褐色	赤色・白色粒子	良	底部：糸切り痕	
70	671	37住	5	土師器	坏	<13.0>	3.9	<7.4>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
70	672	37住	6	土師器	坏	<12.0>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
70	673	37住	1	土師器	坏	<12.6>	—	—	赤褐色	赤色粒子・小石	良		
70	674	37住	13	土師器	脚高高 台坏	—	—	—	明褐色	赤色・白色粒子	良		
70	675	37住	16	土師器		—	—	—	明褐色		良		
70	676	37住	11	土師器		—	—	—	赤褐色		良		
70	677	37住	3・4	土師器	甕	—	—	<8.0>	褐色	赤色・白色粒子	良	底部：木葉痕	
70	678	37住	9	土師器	甕	<36.0>	—	—	明褐色	金雲母・白色粒子	良		
70	679	37住	8	土師器	甕	<26.6>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	内面：ハケメ、外面：ハケメ不 明瞭	
70	680	37住	17・18	土師器	羽釜	<24.6>	—	—	褐色	白色・黒色粒子・金雲母	良		
70	681	1壺	1	土師器	坏	—	—	<5.6>	褐色	やや粗：赤色粒子・砂粒	良	底部：刷毛状工具により成形?	
70	682	1壺	4	土師器	坏?	—	—	<4.6>	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
70	683	1壺	2・12・19	土師器	脚高高 台付坏	—	—	—	赤褐色	緻密：赤色粒子・砂粒	良		
70	684	1壺	15	土師器	甕	—	—	<7.0>	明褐色	やや粗：石英・長石	良	外面：ハケメ?	
70	685	1壺	5	土師器	甕?	—	—	<7.2>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良		
70	686	1壺		土師器	高台付 皿(段 皿?)	<11.6>	<2.4>	<6.2>	明灰色	緻密	良	底部：糸切り痕	
70	687	1壺		灰釉陶器	壺	—	—	<8.8>	明灰色	緻密	良		

挿図番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	調整	備考
						口径	器高	底径					
70図	688	1土	5	土師器	坏	<11.2>	—	—	褐色	砂粒	良		内面：煤付着
70図	689	1土	6	土師器	坏	—	—	<5.8>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
70図	690	1土	9	土師器	坏	—	—	<5.6>	褐色	砂粒	良	底部：糸切り痕	
70図	691	1土	4	土師器	高坏	—	—		明褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良		
70図	692	1土	1	土師器	脚高高台付坏	—	—	<5.8>	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
70図	693	1土	3	土師器	坏	—	—	<9.2>	褐色	金雲母・小石	良	底部：木葉痕	
70図	694	1土	10	土師器	甕	<25.0>	—	—	褐色	金雲母・砂粒・小石	良		
70図	695	2溝	53・138	土師器	坏	<12.4>	<3.5>	<5.6>	明褐色	密：赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
70図	696	2溝	56・529	土師器	坏	<10.2>	<2.1>	<5.2>	褐色	密：赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
70図	697	2溝	67	土師器	坏	<10.4>	<3.0>	<5.2>	明褐色	密：赤色金色粒子	良	底部：糸切り痕	
70図	698	2溝	68・124	土師器	坏	<13.2>	<4.6>	<6.4>	赤褐色	密：赤色粒子・小石	良	底部：糸切り痕	
70図	699	2溝	122・123・517	土師器	坏	<11.2>	<3.8>	<5.2>	褐色	密：赤色白色粒子	良		
70図	700	2溝	225	土師器	坏	<12.0>	<2.9>	<6.0>	褐色	密：赤色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
70図	701	2溝	515・520	土師器	坏	<15.0>	<4.5>	<6.4>	明褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
71図	702	2溝	140	土師器	坏	<14.4>	—	—	赤褐色	密：赤色白色粒子	良		
71図	703	2溝	174	土師器	坏	<13.6>	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良		
71図	704	2溝	198	土師器	坏	<15.0>	—	—	明褐色	密：赤色粒子	良		
71図	705	2溝		土師器	皿?	<12.6>	—	—	褐色	密：砂粒	良		
71図	706	2溝	504	土師器	坏	<11.6>	—	—	明褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
71図	707	2溝	509	土師器	坏	<10.8>	—	—	明褐色	密：砂粒	良		
71図	708	2溝	529	土師器	坏	<13.6>	—	—	明褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
71図	709	2溝	178	土師器	坏	—	—	—	明褐色	密：赤色粒子・小石	良		内面：煤付着
71図	710	2溝	9	土師器	坏	—	—	<5.0>	褐色	密：赤色粒子・小石	良		
71図	711	2溝	11	土師器	坏	—	—	<6.0>	明褐色	密：赤色黑色粒子	良		
71図	712	2溝	17	土師器	坏	—	—	<4.8>	暗褐色	密：白色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	713	2溝	24	土師器	坏	—	—	<6.0>	褐色	密：白色粒子	良		
71図	714	2溝	25	土師器	坏	—	—	<6.2>	明褐色	密：赤色粒子	良		
71図	715	2溝	69	土師器	皿	—	—	<6.8>	明褐色	密：赤色粒子・小石	良		
71図	716	2溝	126	土師器	坏	—	—	<6.0>	褐色	密：砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	717	2溝	127	土師器	坏	—	—	<5.6>	暗褐色	密：赤色粒子	良		
71図	718	2溝	161	土師器	坏	—	—	<5.6>	褐色	密：赤色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	719	2溝	210	土師器	坏	—	—	<8.2>	明褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
71図	720	2溝	503	土師器	坏	—	—	<6.8>	褐色	密：赤色粒子	良		
71図	721	2溝	516	土師器	坏	—	—	<5.2>	褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
71図	722	2溝	517・519・523	土師器	坏	—	—	<5.4>	褐色	密：赤色白色粒子	良		
71図	723	2溝	517	土師器	坏	—	—	<5.6>	明褐色	密：赤色粒子	良		
71図	724	2溝	518	土師器	坏	—	—	<5.2>	褐色	密：白色粒子・砂粒	良		
71図	725	2溝	527	土師器	坏	—	—	<6.0>	褐色	密：赤色粒子	良		
71図	726	2溝	528	土師器	坏	—	—	<5.0>	明褐色	密：砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	727	2溝	43	土師器	坏	—	—	<6.0>	褐色	密：砂粒	良	底部：糸切り痕	外面・底部：煤付着
71図	728	2溝	44	土師器	坏	—	—	<5.4>	暗褐色	密：白色粒子	良	底部：糸切り痕	内面：煤付着
71図	729	2溝	46	土師器	坏	—	—	<5.0>	赤褐色	密：金粒子	良	底部：糸切り痕	内面：煤付着
71図	730	2溝	47	土師器	坏	—	—	<5.8>	暗褐色	密：白色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	内外面：焼きむら有
71図	731	2溝	49	土師器	坏	—	—	<6.4>	明褐色	密：赤色粒子・金粒子・小石	良	底部：糸切り痕	内外面：煤付着
71図	732	2溝	76	土師器	坏	—	—	<8.8>	褐色	密：砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	733	2溝	105・145・172	土師器	坏	—	—	<6.4>	明褐色	密：赤色黑色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	734	2溝	141	土師器	坏	—	—	<6.0>	明褐色	密：砂粒・小石	良	底部：糸切り痕	
71図	735	2溝	149	土師器	坏	—	—	<5.6>	暗褐色	密：赤色粒子・金粒子	良		
71図	736	2溝	168・521	土師器	坏	—	—	<5.8>	褐色	密：赤色白色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	737	2溝	175	土師器	坏	—	—	<5.6>	明褐色	密：赤色白色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	738	2溝	183	土師器	坏	—	—	<6.0>	暗褐色	密：砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	739	2溝	206	土師器	坏	—	—	<4.4>	褐色	密：白色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
71図	740	2溝	217	土師器	坏	—	—	<5.6>	明褐色	密：白色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	741	2溝	522・E10	土師器	坏	—	—	<7.0>	明褐色	密：赤色白色粒子	良	底部：糸切り痕	
71図	742	2溝	530	土師器	坏	—	—	<5.2>	明褐色	密：赤色金色粒子・砂粒	良	底部：糸切り痕	
72図	743	2溝	85・87	土師器	脚高高台付坏	<118>	—	—	明褐色	密：白色粒子・金粒子	良		
72図	744	2溝	15	土師器	脚高高台付坏	—	—	—	赤褐色	密：赤色粒子	良		
72図	745	2溝	45	土師器	脚高高台付坏	—	—	—	褐色	密：赤色白色粒子	良		
72図	746	2溝	80	土師器	脚高高台付坏	—	—	—	赤褐色	密：赤色粒子・砂粒	良		
72図	747	2溝	133	土師器	脚高高台付坏	—	—	—	褐色	密：白色粒子	良		

押図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種 別	器 形	法 量			色 調	胎 土	焼 成	調 整	備 考
						口径	器高	底径					
72回	748	2溝	179	土師器	脚高高 台付坏	—	—	—	明褐色	密：白色粒子・砂粒	良		
72回	749	2溝	48	土師器	脚高高 台付坏	—	—	<7.2>	褐色	密：金粒子・砂粒	良		
72回	750	2溝	164	土師器	脚高高 台付坏	<7.4>	—	—	茶褐色	密：金粒子・砂粒	良		
72回	751	2溝	513	土師器	脚高高 台付坏	—	—	<7.8>	暗褐色	密：白色粒子	良		
72回	752	2溝	3・4	土師器	甕	<26.6>	—	—	褐色	密：白色粒子・小石・金雲母	良	内外面：ハケメ	
72回	753	2溝	157	土師器	甕	<22.4>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ナデ・外面：ハケメ	
72回	754	2溝	167	土師器	甕	<20.0>	—	—	明褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ不明瞭	
72回	755	2溝	188	土師器	甕	<25.6>	—	—	褐色	密：金粒子・小石	良		
72回	756	2溝	190	土師器	甕	<24.2>	—	—	明褐色	密：金雲母・小石	良		
72回	757	2溝	196	土師器	甕	<26.6>	—	—	赤褐色	密：金雲母・小石	良		
72回	758	2溝	57・58・G11	土師器	鉢	<32.4>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
72回	759	2溝	139・170	土師器	甕	<22.8>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
72回	760	2溝	6・27	土師器	羽釜	—	—	—	明褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ハケメ	
72回	761	2溝	82	土師器	羽釜	<20.8>	—	—	暗褐色	密：金雲母・白色粒子	良		
73回	762	2溝	115	土師器	羽釜	<24.6>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ不明瞭	
73回	763	2溝	136	土師器	羽釜	<25.2>	—	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ハケメ	
73回	764	2溝	202	土師器	羽釜	<28.0>	—	—	褐色	密：金粒子・砂粒・小石	良		内面：煤付着
73回	765	2溝	205	土師器	羽釜	—	—	—	褐色	密：白色粒子・石英	良		
73回	766	2溝	13	土師器	甕	—	—	<9.0>	暗褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木葉痕	
73回	767	2溝	13	土師器	甕	—	—	<9.0>	暗褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木葉痕	
73回	768	2溝	66	土師器	甕	—	—	<9.2>	褐色	密：砂粒子・石英・小石	良	底部：木葉痕	
73回	769	2溝	227	土師器	甕	—	—	<10.0>	褐色	密：砂粒・小石	良	内外面：ハケメ不明瞭	
73回	770	2溝	200・201	土師器	甕	—	—	<9.6>	褐色	密：白色粒子・小石	良	底部：木葉痕	
73回	771	2溝	131・166	土師器	甕	—	—	<8.0>	褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木葉痕	
73回	772	2溝	538		?	—	—	<9.0>	褐色	密：白色粒子・金粒子・石英	良		
73回	773	2溝	142・9住27・12住・42	灰釉陶器	碗	<14.6>	<4.9>	<7.0>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	
73回	774	2溝	95・99・E10	灰釉陶器	碗	<12.6>	<4.9>	<7.0>	灰白色	密	良		丸石2号
73回	775	2溝	197	灰釉陶器	碗	<16.8>	<6.0>	<7.8>	灰白色	密	良		丸石2号
73回	776	2溝	20	灰釉陶器	碗	<18.8>	—	—	灰白色	密	良		
73回	777	2溝	29・106	灰釉陶器	碗	<12.2>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
73回	778	2溝	65	灰釉陶器	碗	<18.4>	—	—	灰白色	密	良		
73回	779	2溝		灰釉陶器	碗	<15.6>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
74回	780	2溝	89・18	灰釉陶器	碗	<16.2>	—	—	灰白色	密	良		
74回	781	2溝	93・G12	灰釉陶器	碗	<16.0>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
74回	782	2溝	109・F12	灰釉陶器	碗	<19.0>	—	—	黄灰色	密	良		
74回	783	2溝	120	灰釉陶器	碗	<16.2>	—	—	灰白色	密	良		
74回	784	2溝	129	灰釉陶器	碗	<16.4>	—	—	灰白色	密	良		
74回	785	2溝	137	灰釉陶器	碗	<15.0>	—	—	灰白色	密	良		
74回	786	2溝	143・E10	灰釉陶器	碗	<14.8>	—	—	灰白色	密	良		
74回	787	2溝	160	灰釉陶器	碗	<16.6>	—	—	黄灰色	密	良		
74回	788	2溝	220	灰釉陶器	碗	<14.6>	—	—	灰白色	密	良		
74回	789	2溝	2・G9	灰釉陶器	碗	—	—	<9.4>	灰白色	密	良		
74回	790	2溝	16	灰釉陶器	碗	—	—	<8.2>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	
74回	791	2溝	18	灰釉陶器	碗	—	—	<8.0>	灰白色	密	良		丸石2号
74回	792	2溝	42	灰釉陶器	碗	—	—		灰白色	密	良		
74回	793	2溝	55・125	灰釉陶器	碗	—	—	<8.2>	灰白色	密	良		丸石2号
74回	794	2溝	55	灰釉陶器	—	—	—	<7.4>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	
74回	795	2溝	71・G12	灰釉陶器	壺	—	—		暗緑色	密	良		
74回	796	2溝	81・24住18	灰釉陶器	碗	—	—	<7.6>	灰色	密	良		
74回	797	2溝	103	灰釉陶器	—	—	—	<7.6>	灰白色	密	良		虎溪山1号
74回	798	2溝	104・159	灰釉陶器	碗	—	—	<7.4>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	丸石2号
74回	799	2溝	119	灰釉陶器	碗	—	—	<8.2>	灰色	密	良		虎溪山1号
74回	800	2溝	189	灰釉陶器	碗	—	—	<9.6>	灰白色	密	良		虎溪山1号
74回	801	2溝	193	灰釉陶器	碗	—	—	<8.4>	灰白色	密	良		
74回	802	2溝	506・508	灰釉陶器	碗	—	—	<9.0>	灰白色	密	良		
74回	803	2溝	514	灰釉陶器	碗	—	—	<8.2>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	
74回	804	2溝	524・E10	灰釉陶器	碗	—	—	<9.2>	灰白色	密	良		
74回	805	2溝	33・84	灰釉陶器	皿	<13.6>	<2.6>	<6.8>	灰白色	密	良	底部：糸切り痕	虎溪山1号
74回	806	2溝	55・土集区G8・9-45	灰釉陶器	段皿	<16.2>	<2.8>	<7.6>	灰白色	密	良		虎溪山1号
74回	807	2溝	61・62・63	灰釉陶器	段皿	<14.2>	<2.3>	<8.0>	黄灰色	密	良		
74回	808	2溝	94・98・100	灰釉陶器	段皿	<12.8>	<2.3>	<7.4>	灰白色	密	良		丸石2号
74回	809	2溝	187	灰釉陶器	段皿?	<16.2>	—	—	緑灰色	密	良		
75回	810	2溝	31・32	灰釉陶器	長頸壺	—	—	—	灰白色	密	良		
75回	811	2溝	34・36・92・96・111・112	灰釉陶器	長頸壺 ?	—	—	—	灰色	密	良		

挿図 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種 別	器 形	法 量			色 調	胎 土	焼 成	調 整	備 考
						口径	器高	底径					
75図	812	2溝	88・144・165・12住52・ 土集区G8・9-5	灰釉陶器	長頸壺	—	—	—	暗緑色	密	良		
75図	813	2溝	114・171・510・F8・F9 ・24住・1堅8・17	灰釉陶器	長頸壺	—	—	—	灰白色	密	良		
75図	814	2溝	12・14・110・1	灰釉陶器	壺	—	—	—	灰白色	密	良		
75図	815	2溝	39・64	灰釉陶器	壺	—	—	—	暗緑色	密	良	内面：指頸痕	
75図	816	2溝	70・弥シ264	灰釉陶器		—	—	—	灰白色	密	良		
75図	817	2溝		灰釉陶器	片口	—	—	—	灰白色	密	良		
75図	818	2溝	77	土師器	壺?	—	—	<15.6>	灰色	密	良	須恵器	
75図	819	2溝	102	須恵器		—	—	—	灰色	密	良		
75図	820	2溝	134・501	須恵器		—	—	—	灰色	密	良		
75図	821	H19G	1	土師器	坏	10.1	3.2	5.4	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
75図	822	H20G	13・15	土師器	坏	<15.0>	3.5	6.0	赤褐色	白色粒子多数含	良	底部：糸切り痕	
75図	823	H20G	11	土師器	坏	9.3	2.5	4.7	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
75図	824	H20G	11・15・38	土師器	坏	9.4	2.4	4.7	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
75図	825	H20G	28	土師器	坏	9.7	2.5	5.1	赤褐色	密	良	底部：糸切り痕	
75図	826	H20G	29	土師器	坏	9.4	2.3	5.0	赤褐色	黒曜石	良	底部：糸切り痕	
75図	827	H20G	31	土師器	坏	9.4	2.6	5.0	明褐色	密	良	底部：糸切り痕	
75図	828	H20G	3	土師器	坏	<9.8>	2.1	<5.2>	暗褐色	密	良	底部：糸切り痕	
76図	829	H19G	2	土師器	高台付 皿	10.8	—	—	褐色	金粒子	良	糸切り後貼り付	高台部欠損
76図	830	H19G	6・7	土師器	脚高高 台付坏	14.6	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
76図	831	H19G	H19G	土師器	脚高高 台付坏	—	—	—	赤褐色	密	良		
76図	832	H19G	3	土師器	脚高高 台付坏 ：脚部	—	—	6.5	明褐色	密	良		
76図	833	H19G	11・12	土師器	壺	28.6	—	—	暗褐色	金雲母	良	内外面：ハケメ・ヘラナデ	
76図	834	H19G	16	土師器	壺	<29.0>	—	—	暗褐色	密	良	内外面：ハケメ	
76図	835	H20G	4・14・19・21・22・23 ・37	土師器	壺	<31.4>	—	—	暗褐色	金雲母	良	内外面：ハケメ	
77図	836	H20G	1・9・16・18・8・2・32 ・7?・40・41	土師器	鉢	<39.8>	—	—	暗褐色	やや粗	良		
77図	837	H19G	13	土師器	鉢	<33.4>	—	—	暗褐色	密	良		
77図	838	H20G	32・33・34・35・36・39 ・42	土師器	鉢	<31.0>	19.8	13.0	暗褐色	やや粗	良	内外面：ヘラ削り	
77図	839	I29・30G	I29-74+I30-24・26+I29-8	土師器	置きカ マド	<31.0>	—	—	褐色	金雲母	良		
78図	840	8住	S-1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	841	8住	S-2	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	842	10住	S-1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	843	18住	S-1	石器	磨石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	844	18住	S-5	石器	磨石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	845	24住	S2	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	846	24住	S3	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	847	25住	S1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	848	25住	S1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	849	28住	S1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	850	37住	S-1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	851	1土	7・S-1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	852	グリッド	E-16	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	853	グリッド	G8・9	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	854	グリッド	I-31	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	855	グリッド	I-30・28 S-1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	856	グリッド	G8・9・12	石器	磨石	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	857	弥生集中	K26	石器	石皿	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	858	8住	F-1	鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	859	8住	F-4	鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	860		F-1	鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—
78図	861	24住	F-1	鉄製品	刀子	—	—	—	—	—	—	—	—

# 第4章 横町遺跡の自然科学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社

## 第1節 目的

分析を行う遺構は、弥生時代末の焼失住居(18号住居)と平安時代末のカマドである。焼失住居には多くの炭化材がみられることから、当時の木材利用に関する情報を得るために樹種同定を実施する。また焼失住居とカマド試料は、微細物同定を行い、当時の植物利用に関する情報を得る。

## 第2節 試料

樹種同定用試料は、18号住居から検出された17点である。微細物同定には、18号住居から2点、4号住居などのカマドから5点、弥生時代の土坑内土から1点の計8点である。試料の詳細は、結果とともに表に示す。

## 第3節 分析方法

### (1) 樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

### (2) 微細物分析

試料約1kgを秤量し、数%の水酸化ナトリウム水溶液を加えて放置し、試料を泥化させる。0.5mmの篩を通して水洗し、残渣を集める。双眼実体顕微鏡下で観察し、種類が特定できそうな微細物を抽出・同定する。ただし、試料番号4、5は試料が少なかったため、分析量を減らした。

## 第4節 結果

### (1) 樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。C-16の炭化材のうち2点は、道管が認められることから広葉樹であるが、保存が悪いために種類の同定には至らなかった。またC-9の炭化材のうち1点は木材組織が観察できず不明とした。その他の試料は、いずれも落葉広葉樹で3種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) プナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組

表2 横町遺跡の樹種同定結果

遺構名	試料番号	点数	樹種(点数)
18号住	C-1	4	ケヤキ(4)
	C-2	4	ケヤキ(4)
	C-3	4	コナラ属コナラ亜属コナラ節(4)
	C-4	4	ケヤキ(4)
	C-5	4	ケヤキ(4)
	C-6	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2) ケヤキ(2)
	C-7	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-8	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-9	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(3) 不明(1)
	C-10	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-11	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-12	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-13	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-14	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-15	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-16	4	コナラ属コナラ亜属コナラ節(2) 広葉樹(2)
	C-17	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)

織は同性、単列、1～20細胞高のものと同放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同放射組織とがある。

・ケヤキ(*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高で、しばしば結晶を含む。

## (2) 微細物分析

結果を表2に示す。分析の結果、同定可能な微細物は、試料番号2から検出されたタデ属1個体のみで、他からは検出されない。炭化物の数は比較的多く、特に試料番号2で多い。また、炭化材同定が可能な材片もいくつか見られたが、別の試料で樹種同定を行っているため、ここでは分析を行わなかった。

表3 横町遺跡の微細物同定結果

番号	試料名	種実	材(g)	土器(g)
1	18号住居跡 床直C		1.22	
2	18号住居跡 土サンプル	タデ属(1)	7.77	
3	24号住居跡 カマド内		1.58	
4	K-26G P-23内土		+	
5	4号住居跡 カマドC1		2.43	
6	7号住居跡 カマド土		2.02	1.84
7	22号住居跡 カマド土		0.21	
8	4号住居跡 カマド土		5.82	

番号は便宜上つけた + : 0.01g以下

## 第5節 考察

18号住は、火災住居跡であり、柱が倒れこむような状態で出土している。炭化材は、いずれも住居構築材などの一部が炭化・残存したものと考えられる。樹種は、いずれも落葉広葉樹で、3種類が認められ、とくにクヌギ節が多い。この結果から、18号住では、住居構築材としてクヌギ節を中心とした落葉広葉樹を選択していたことが推定される。

一方微細遺物同定では、微細な炭化材片は多いが、種実は試料番号2から検出されたタデ属1個体のみである。タデ属は炭化していなかったことから、機能していた当時に由来するのではなく、遺構が廃絶され、埋積の途中に紛れ込んだものと考えられる。

## 第5章 調査の成果と課題

### 第1節 弥生時代の集落と遺物について

今回の調査では、調査前には予想もしなかった弥生時代の集落にあたり、調査できたことが幸運であった。

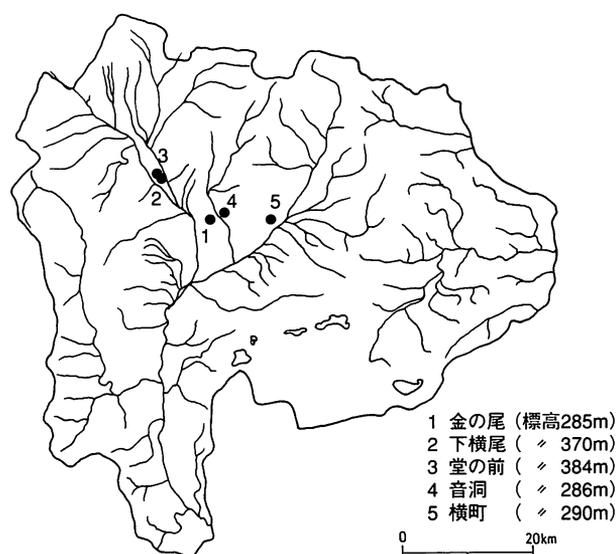
春日居町内では、これまで弥生時代の集落はもちろん、遺物もほとんどない状況であったため、今回の調査で春日居町の歴史の新たな一面が確認できたことになる。町内の弥生時代に関しては、鎮目地区の上町田遺跡から、それらしき破片が採取されたと報告されている。昭和46年の分布調査では弥生土器採取は報告されておらず、昭和54年の山梨県遺跡地名表では上町田遺跡の時代に弥生が加わっていることから、この間に弥生土器らしき破片が採取されたものと思われるが、昭和63年の町誌では上町田遺跡のそれについては「弥生式土器ではないかと推定される細片が得られたにすぎない」と書かれており、きわめてあやふやな資料であったことが窺われる。確実な資料は、1986年度の春日居町教育委員会による寺本地区の寺本廃寺(遺跡)トレンチ調査で、Tトレンチ、Pトレンチからそれぞれ1点ずつの弥生土器が出土した例である。1点は胴部下半の無文であるが、もう1点は櫛描波状文と同一工具による胴部への鋸歯文が施文された甕で、後期前半でも古く位置づけられるものである<sup>(1)</sup>。

今回の調査では弥生時代後期前半の住居跡12軒と同時代の遺物集中区1カ所が確認された。遺物も非常に多く、今回は1～253までの土器・土製品と843・844・857の3点の石器を示した。土器は後期前半に限られる。

住居はほとんどすべてが同時期と考えても差し支えないほどであり、その中で主体を成すのは中部高地系櫛描波状文土器である。本県でこれまでこの時期を調査した例は非常に少ない。わずかに敷島町金の尾遺跡と韮崎市下横屋遺跡・堂の前遺跡でこの時期の集落が確認されているにすぎない。なお、集落の様相までは明らかにされていないものの、甲府市音羽遺跡でも当該期の住居跡2軒が調査されている。この時期の住居跡複数が調査された例は上記4例に限られる。

金の尾遺跡は、これまで数次の調査が行われているが、集落としての姿が浮かび上がったのは、遺跡発見の契機ともなった昭和53年の県教育委員会による中央自動車道建設に伴う事前調査である。約8000m<sup>2</sup>を対象としたこの調査で、それまで本県では全く未確認であった後期前半の住居跡32軒と周溝墓17基、集落を区分けする溝などが確認された<sup>(2)</sup>。下横屋遺跡は平成元年に宅地造成工事に伴う事前調査として約1200m<sup>2</sup>が調査され、この時期の住居跡8軒が調査された<sup>(3)</sup>。金の尾遺跡に比べ調査面積が少ないが、住居の密度はむしろ濃いものと思われる。また、近接の堂の前遺跡でも同時期の住居跡が4軒調査されている<sup>(4)</sup>。下横屋遺跡と堂の前遺跡とは直線で800m程度の距離であり、極めて近接していることや、これらの遺跡の立地する、塩川の氾濫源である通称藤井平には該期を含め前後の時期の集落が広く分布することなど弥生時代後期の集落の大きな拠点となっていることから、これらの遺跡周辺にさらに多くの当該期集落が存在しているものと思われる。音羽遺跡は盆地中央部を南流する荒川の氾濫源に位置する。調査では2軒だけが確認された<sup>(5)</sup>が、この付近でも当該期を含み前後の時期の住居跡が何カ所かで確認されており、今後さらに確認されることが予想される。

これらの遺跡で確認された住居跡の様相や出土遺物を一覧表に示した。金の尾、下横屋、堂の前、音羽の4遺跡と、今回調査した横町遺跡の比較を行ってみるこ



第79図 弥生時代後期の集落分布

表4 金の尾・下横屋・堂の前・音羽・横町遺跡住居跡遺構遺物比較一覧

住居	形態	規模(m)	柱穴	梯子受	貯蔵穴	土器								石器						その他				
						壺	甕	鉢	高坏	椀	器台	甑	その他	打斧	磨斧	石包丁	磨石	石皿	磨製鎌		石鎌	その他		
1	隅丸方形	4.0×3.8					○								○			○						
2	隅丸長方形	5.8×4.2	4	○		○	○		○						○			○				○		
3	隅丸方形	5.8×5.7	4			○	○		○						○				○					凹石
4	隅丸長方形	6.8×6.0	4	○	○		○		○			○			○				○					凹石
5	楕円形?	不明																						
6	隅丸方形	5.2×3.6	4			○	○	○				○	台付甕	○						○	○			
8	隅丸長方形	4.6×3.1	4		○	○	○		○					○			○		○					
9	隅丸長方形	4.6×4.1	4			○	○					○			○							○		
12	楕円形?	不明				○																		
14	隅丸方形	4.7×4.4	4				○																○	
15	不整隅丸方形	3.5×3.3				○	○																	
16	隅丸長方形	6.2×4.8	4	○	○	○	○							○						○	○			火災住居
17	隅丸長方形	6.6×4.8	4		○	○	○		○			○	手捏ね			○				○	○			環状斧
18	楕円形	6.4×5.0	4	○	○	○	○		○			○								○	○			砥石
19	隅丸長方形	5.6×4.6	4	○	○	○	○		○											○				
20	隅丸長方形	8.4×5.8	4		○	○						○	○	○	○	○	○							凹石
21	隅丸長方形	5.2×4.5	4	○	○	○				○	○				○		○	○						
22	楕円形?	不明																						
24	楕円形	6.1×3.5	4	○	○	○	○								○									多孔石
25	隅丸方形	5.0×3.8	4	○	○	○		○	○														○	多孔石
26	隅丸長方形	4.4×3.2	4	○		○	○																○	
28	楕円形	6.2×5.2	4	○	○			○	○				手捏ね											
29	楕円形	7.3×6.5	4	○	○	○	○		○				手捏ね					○						凹石
30	楕円形	5.0×3.4	4	○	○	○	○		○					○										
31	楕円形	4.7×3.4	4		○		○	○																
32	楕円形	4.4×3.8	4			○			○								○						○	
33	楕円形	7.2×5.0	4	○	○	○	○	○	○						○			○					○	
34	隅丸長方形	6.2×5.0	4	○	○	○	○		○				片口	○										
35	楕円形	6.2×4.2	4	○	○	○	○				○		台付甕	○		○						○		凹石
36	楕円形	8.1×6.6	4	○	○	○	○		○				手捏ね			○	○					○		凹石
37	隅丸方形	3.1×2.4																						
38	隅丸長方形	5.5×3.9	4		○	○	○											○				○		

住居	形態	規模(m)	柱穴	梯子受	貯蔵穴	土器								石器							その他					
						壺	甕	鉢	高坏	椀	器台	甌	その他	打斧	磨斧	石包丁	磨石	石皿	磨製鏃	石鏃		その他				
下 横 屋	1	楕円形	7.2×6.0	4			○	○						台付甕	○											
	2	隅丸長方形	不明																							
	3	隅丸長方形	7.5×5.5	4			○	○						台付甕											火災住居	
	4	楕円形	5.4×4.2	4				○																		
	5	隅丸長方形	4.8×3.7	4		○	○	○	○				○					○							火災住居	
	6	隅丸長方形	6.6×5.3	4			○	○					○													
	7	隅丸長方形	5.5×	4				○	○																	
10	隅丸長方形	6.0×5.1	4			○								○		○								火災住居		
堂 の 前	6	隅丸長方形	3.8×3.5				○	○																		
	16	隅丸長方形	5.0×3.4				○	○						紡錘車												
	19	隅丸長方形	7.0×5.7	4		○	○	○	○				○	紡錘車・匙	○										火災住居	
	20	隅丸長方形	7.6×6.6	4			○	○					○				○								ガラス玉	
音 羽	A-2	楕円形	5.7×3.9	4		○	○	○						編み物圧痕				○			○					
	A-3	隅丸長方形	4.7×4.3	4	○		○	○	○					紡錘車	○			○			○			凹石		
横 町	1	隅丸長方形	5.0×4.5					○																		
	2	隅丸長方形	3.8×3.5	6				○						台付甕												
	3	隅丸長方形	4.4×3.5				○	○						蓋												
	13	隅丸長方形	4.6×3.8					○						片口												
	14	隅丸長方形	5.0×4.5					○						手捏ね											火災住居	
	15	隅丸長方形	4.6×3.9	6			○	○		○				蓋												
	16	隅丸長方形	5.8×5.0				○	○																		
	18	隅丸長方形	5.2×4.5	6			○	○						蓋・紡錘車				○							火災住居	
	26	不明	不明				○	○		○																
	27	円形?	2.8×2.8					○																		
32	円形?	3.2×3.2				○	○		○				片口													
35	隅丸長方形	4.2×3.9				○	○		○				片口													

とする。

まず住居跡であるが、4遺跡は、平面形は長軸5～6m前後の隅丸長方形もしくは楕円形を呈するものが一般的である。柱穴は4本柱穴で、入り口部に梯子受穴・貯蔵穴を有することが共通項として挙げられる。

遺物についてみると、土器は壺・甕と甑を日常の生活用具の基本として、それに供献形態の高坏や器台が加わることとなる。石器で目に付くのは打製石斧である。また、石包丁もみられるが、そのほとんどは打製であり、報告書では横刃形とされたものを含んでいる。この時期の確実な磨製石包丁は下横屋遺跡10号住居跡と堂の前遺跡20号住居跡例の2点のみであるが、むしろこれら県内では一般的とは考えにくい。穂積みという想定からは打製でも十分であり、打製石斧と報告された一群をさらに検証することも必要であろう。その意味でこの時期の打製石斧は慎重に扱う必要がある。それに対し、磨製鎌は片寄りがあり特徴的である。韭崎市の2遺跡では全く出土していないのに対し、盆地に下った金の尾、音羽の両遺跡からはかなりの割合で出土していることが特徴である。

これに対し、本遺跡の今回の調査で得られた資料からはどのような比較ができるであろうか。まず、住居跡であるが、規模・形状などは4遺跡とそれほど違いがあるとは思われない。しかし、内部施設に目を向けると、柱穴配置は6本が主流で、4遺跡とは全く異なる状況を示し、さらに、梯子受穴や住居内貯蔵穴などの施設も全く確認されていない。本遺跡については、あえて言えば甲府盆地東部という地域分けが可能かと思われるが、本遺跡と、盆地西部およびさらに西部の台上の遺跡群との間にはっきりとした一線を画してもよいのではないかと思いたくなるような相違である。

次に遺物であるが、土器では壺・甕・高坏は共通であるものの、日常用具の柱の一つである甑が全く確認されていない点が挙げられる。もちろん調査区域の制約上の問題もあろうが、甑という器種の性格上、食料の加工方法と密接にかかわるものであり、その有無の意味するところは大きい。石器では、さらに大きな違いが挙げられる。今回の調査を通じて、総じて遺物の量の少なさが気になってはいしたが、ともかく石器の極端なまでの少なさが大きな特徴である。12軒の住居跡内で確認された石器は磨石1点のみである。また、弥生集中区内でも石皿1点が確認されただけであった。一覧表の石器の項目からもその違いは一目瞭然であろう。ここに挙げた石器類は生産・加工に直接かかわるものである。当然、何らかの生業がムラを支えていた訳であろうから、生業にかかわる何かしらの痕跡がなければならぬはずであるが、ここまで石器が確認されない現状では、その手掛かりすらつかめない。

現在、甲府盆地で出土する土器の様相からは、中部高地系が主である地域と東海系が主である地域に分けられることが指摘されている。今回の本遺跡の土器は明らかに中部高地の系統を主とする地域に入るものである。しかし、住居内施設や極端に貧弱な石器の状況等から、甲府以西の遺跡群とは明瞭な相違を指摘せざるを得ない。このように狭い甲府盆地という範囲内でも、その東と西とで大きな相違を想定する必要があるのかもしれない。

以上のように、遺構と遺物の比較を行ったが、次に土器について述べてみたい。

中部高地系統の土器では、後期前半の櫛描波状文が最も発達する時期として、5-(2)期(=金の尾Ⅱ式期)が、中山誠二・坂根和博らによって設定されている<sup>6)</sup>が、本遺跡の資料はまさにここに位置づけられるものであろう。

しかし、これらの中でも、さらに細分化が進められており、山梨県史では5-(2)期のなかでもさらに古い様相を示すものを分ける試みがなされている。それは前段階である5-(1)期(=金の尾Ⅰ式期)の文様施文部位が器面の口縁部から胴部下半にまで及んでいるのに対し、5-(2)期段階では口縁部から肩部に施文部位が狭まっているという、文様施文部位の変化を時期的変遷と捉える考え方によるものである。つまりそれらの中間段階を一つの時期として捉えようというもので、その考えからすると、波状文・簾状文の施文された甕というなら73・153などをこの一群として括ることが可能であろう。

一方、壺の79・86・131・132・196～200などは、頸部に横方向の沈線を縦の沈線で区分けするT字状文を施文したもので、これらは中期後半から引き継がれる手法であり、5-(2)期段階まで存在する。したがってこれらについては73・153などと同様に5-(2)期段階の古い時期に位置づけられることも考えられよう。また、107・108・195などは、同じ壺であっても施文が特徴的な円弧文である。これらは長野県下で散見される資料で、後期でも最も古い部分に確実に存在するようである。したがってこれらは79などの一群より一段階古く、本県の編年では5-

(1)期にまで溯らせることも可能であろう。

同じ中部高地系でも124・125などは口縁部形態が“くの字”状を呈しており、明らかに伊那谷など南信地域の系譜に属するものである。後期前半という時期からは、座光寺原式の影響を想定するのが妥当であろう。また、いわゆる“赤い土器”が何点か出土している。44・71・72・85・88・117・118・154・155・156・159・160・161などである。これらは従前は広く箱清水式の範疇で括られていたものであるが、最近の資料では、とくに諏訪地域を中心とする橋原式が甲府盆地まで広がっていると考えられており、その中で捉えるべき一群なのであろう。

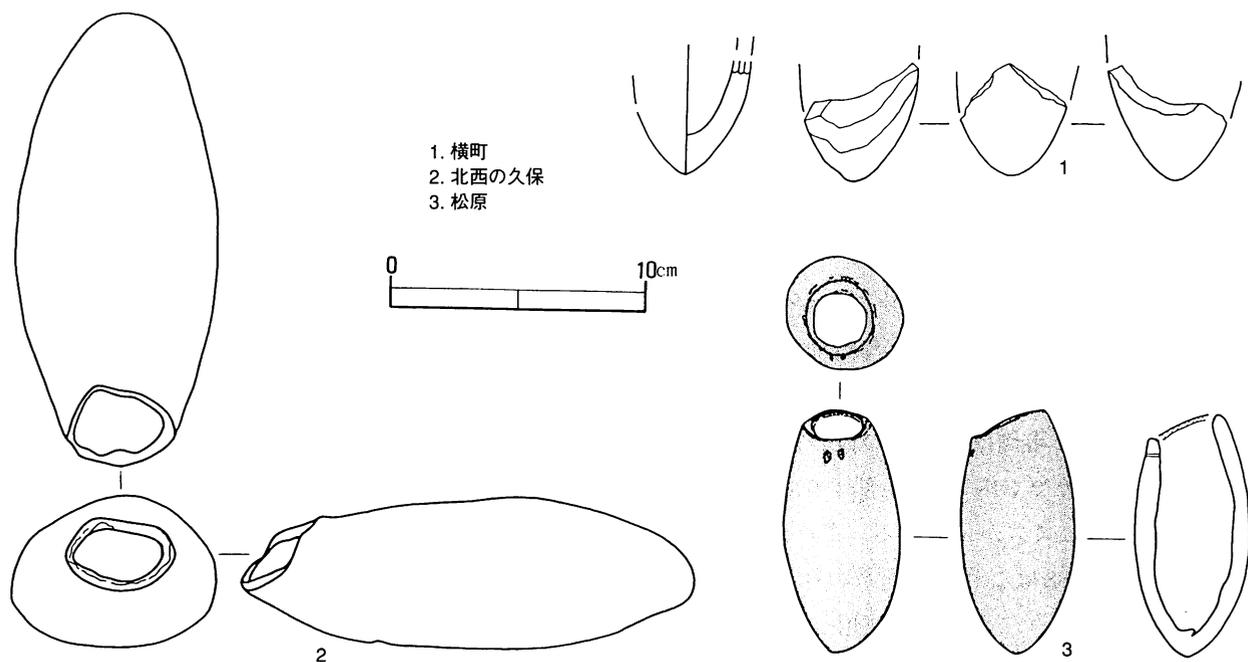
一方、東海東部地域の影響下にある資料としては、複合口縁や折り返し口縁と口縁部に棒状浮文が付く壺である11・19・64・80・110・126などや、円形浮文の貼付される49・133などが挙げられる。これらは今回の調査で確認された範囲内ではあくまで客体である。

以上、今回出土した土器について述べてみた。時期は後期前半に限られるが、金の尾遺跡で主体となる時期と同じ時期を中心に、若干それに先行する時期が認められ、それらがその時期の資料的空白を埋める資料たり得ることが確認されたことは大きな成果である。

## 第2節 249の土製品について

今回の調査で、特殊遺物として挙げなければならないのが、249に示した土製品である。本文中では笛の可能性が大きいとしておいたが、それについて述べてみたい。5cm程の破片であるが、底部は砲弾型で、外面にはところどころに、いわゆる赤い土器と同様の製法と推定される赤色の化粧土(焼成後に塗布するのではなく、焼き込んだものである)が残存するため、おそらく全面が赤であったと推定される。この赤彩部分は丁寧に磨かれている。

このような資料はこれまで山梨県内では全く確認されていなかった。小型の土製品であることや砲弾型の底部から、当初は山陰地方に分布する陶埴(笛)を想定してみた<sup>(7)</sup>。破片部分の形状は似ているものの、陶埴は砲弾型の底部にちかい部分に指孔と思われる小孔が存在するはずであるが本資料にはそれがみられず、また推定した器形が7・8cm程度で卵形に収束していくとは考えにくいこと、さらに陶埴の分布が九州～山陰地方で丹後半島が東限である(例外的に静岡県浜松市伊場遺跡資料が陶埴とされた<sup>(8)</sup>が、正報告では陶埴の可能性は否定されている)こと、時期的にも前期に限られていることなど、現状では今回の出土品とはあまりに時間・空間ともに掛け離れているこ



第80図 笛状土製品

とから直ちに陶埴と結び付けることは困難と判断した。しかし、前期の陶埴はともかく、このような形態の土製品が周辺地域に存在するのかが調査したところ、同じ中部高地系櫛描波状文土器の分布域である長野県内で類似する資料が2例確認できた。

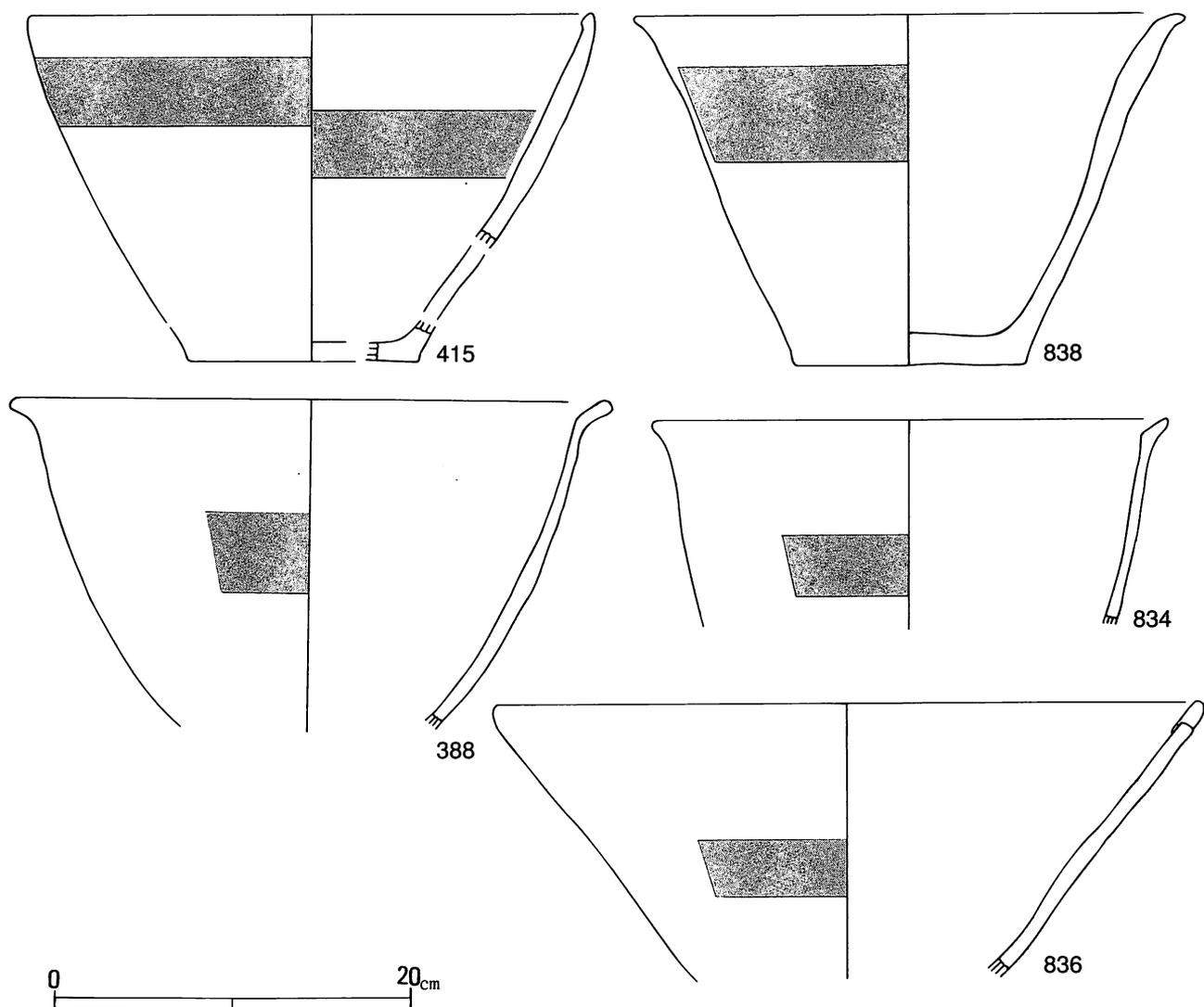
一例は佐久市北西の久保遺跡のY2号住居跡出土品で中期後半に位置づけられる<sup>(9)</sup>。報告書では異形土器とされており、長さ17.5cm、最大幅8.0cm、最大厚6.0cmを計る。中期後半に位置づけられるもので、本遺跡例より一時期古く位置づけられる。卵を極端に細長くしたような形態で、片方が吹口となっている。この部分は垂直に切った状況ではなく斜めに切ったように整形してある。孔は吹口部分の一カ所だけで、指孔と思われる小孔は全く存在しない。磨きは丁寧であるが、焼き付けにせよ塗布にせよ赤彩は行われていなかったらしい。この製品が笛であると断定できないが、口の部分が斜めに整形されていることから、吹くには都合がよいものと思われる。ちなみに吹けば、ジュースのピンを吹いたのと同じようなポーポーと低くこもった音がすることになるのであろう。比較可能な部分である底部(この表現は適切ではないが)の状況は、本遺跡資料に比べ丸くかつ平べったい。大きさも含めこれを同じ性格のものとして判断することには躊躇せざるを得なかった。しかし、このような土製品が同じ文化圏に存在することが確認できたことは収穫であった。そこでさらに別の類例を教示いただいたのが、もう一例の長野市松原遺跡資料であった。

松原遺跡資料も中期後半の可能性が大きく本遺跡例より先行するものである<sup>(10)</sup>。しかし、この資料は本遺跡例と極めて類似する。まず、大きさであるが、長さ9.5cm、最大幅・厚さともに4.5cmであり、本遺跡例の推定される大きさと合致すること、胴部の大きさもほぼ同様で、また偏平ではなく胴部は断面円形に近い状況であることなどが共通する。また、焼き付けと思われる赤彩が外面全面にみられ、しかも丁寧に磨かれていることも同じである。さらに底部の整形状況も類似しており、同一の性格の製品であると判断した。この土製品は、やはり反対側端部を斜めに切ったように整形しており、しかも口縁部(吹口)の直下に二つの小孔が穿たれている。報告書では他に類例がないことからか、この資料については筒形土器と呼称、口縁部下の小孔を紐孔として紐をかけることを想定したようである。しかし、通常の土器であれば端部を斜めに整形する必要はないのであって、そのことだけをとっても土製品と考えるべきであろう。

松原遺跡資料は、指孔の数や位置、あるいはその有無、さらにはより細長いという形態上の違いはあるものの、それでもあえて山陰地方の陶埴に類似した形態であると言っておきたい。それほど他に類似資料がないのである。現状では、笛の可能性を指摘しておきたい。ただし、仮にこれが笛であっても、陶埴と中部高地の中期後半～後期前半の資料を結ぶ資料が皆無な現状では、両者のかかわりを推定することは困難である。あくまで中部高地系の櫛描波状文土器圏内の中期後半から後期前半にかけて確認される資料中に笛らしき資料が存在するという提示に止めておきたい。

### 第3節 415の鉢に付着するスス・オコゲについて

この鉢には内面にスス、外面にオコゲが付着しており、形状は鉢であるもののカマドに掛けて使用したことが明らかである。その模式図を示したが、外面は口縁部下2cmから4.6cmの幅でススが一周する。内面は口縁部下5.2cmから4.1cmの幅で一周する。外面下部の一部に赤変らしき痕跡が確認されるが、内外面とも熱による剥離は確認されない。このような事例は本遺跡の他の鉢にも、これ程顕著ではないものの確認されている。図に示した例では388(=8号住居跡カマド内)は口縁部下6.3cmから4.5cmの幅で、838(=H-20グリッド)は口縁部下2.9cmから5.4cmの幅で外面にススが付着する。また、834(=H-19グリッド)、836(=H-20グリッド)にも外面に同様のススが付着する。388はこれまで甕系の鉢と称してきたものの典型的な例であるが、カマド内からの出土ということからも明らかかなようにカマドで使用したと考えられるのである。415や838はこれまでの甲斐型甕系の鉢とは明らかに違うものであるが、このような2種類の系統の存在とこれらに共通して煮沸という用途が確認できたことになる。



第81図 鉢付着のススとオコゲ

以上の例から、鉢と分類してきたこれらの一群も、すでに指摘されているようにかなりの頻度で甕と同じ使われ方、すなわち煮沸用具として用いられてきたと考えられる。とすれば、形態から鉢としている呼称も、本来の用途から鍋と呼ぶことが妥当であろう。また、当時、同じ煮沸であっても甕と鉢でどのような使い分けがなされていたか知る由もないが、とくに内面に付着するオコゲ自体が分析できればその用途上の違いについても言及できるかもしれない。今後の調査と整理段階での取り扱いにも注意が必要となつてこよう。同時に、カマドにおいては甕を掛けるかけ口に円形に焼土が形成されている事例があることから、甕は一度掛けたら取り外さないのではないかという解釈がなされているが、その一方で形態上鉢である鍋が掛けられる場合も同様の想定をしなければならぬことになる。言うまでもなく、甕と鍋では口径が全く違うことになり煮沸の内容についても使い分けを想定する方が自然であると考えられるからである。いずれにせよ、今後これらの疑問についての検証作業を行う必要があり、ススやオコゲの付着状況の観察は重要な視点となろう。

## 註

- (1) 内田裕一ほか 1988『寺本廃寺 第1・2・3次発掘調査報告書』春日居町教育委員会
- (2) 末木 健ほか 1987 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第25集『金の尾遺跡 無名墳』山梨県教育委員会
- (3) 山下孝司ほか 1991『下横屋遺跡』韮崎市教育委員会
- (4) 山下孝司ほか 1987『中本田遺跡 堂の前遺跡』韮崎市教育委員会
- (5) 高野玄明ほか 1997 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第125集『音羽遺跡』山梨県教育委員会
- (6) 中山誠二・保坂和博 2000「山梨県」『東日本弥生時代後期の土器編年』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会  
中山誠二 2000「弥生時代の編年」『山梨県史 資料編2』山梨県
- (7) 江川幸子 1997「弥生の土笛」『古代文化研究5』島根県古代文化センター
- (8) 大野勝美ほか 1997『伊場遺跡遺物編7』浜松市教育委員会
- (9) 林 幸彦ほか 1984『北西の久保遺跡』佐久市教育委員会
- (10) 青木一男ほか 1998 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書36『松原遺跡 弥生・総論3 弥生時代中期土器本文』長野県教育委員会  
青木一男ほか 1998 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書36『松原遺跡 弥生・総論4 弥生時代中期土器図版』長野県教育委員会

# 版 图



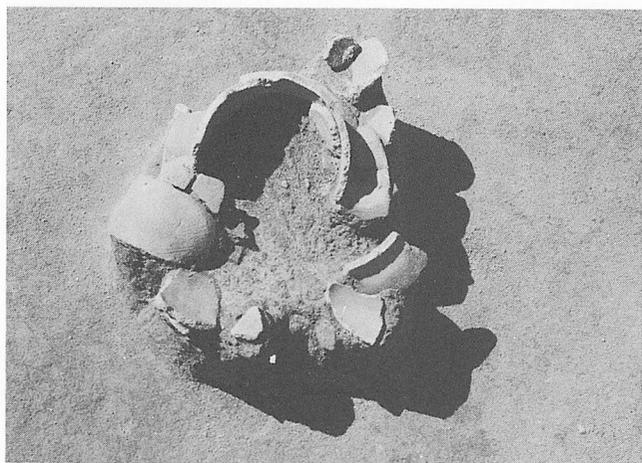
遺跡全景



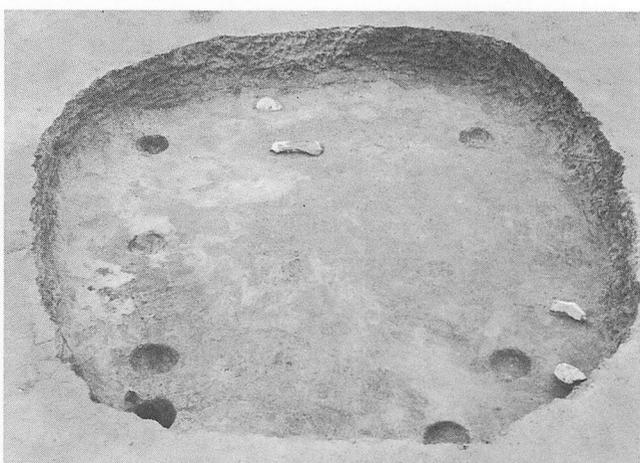
遺跡遠景



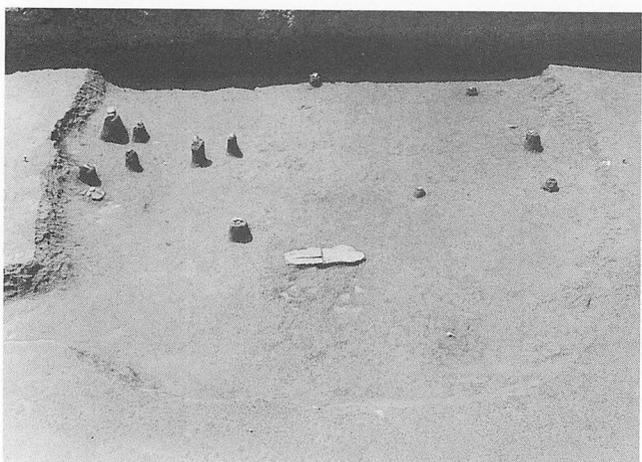
1号住居跡



1号住居跡遺物



2号住居跡



3号住居跡



15号住居跡



15号住居跡遺物



同左



同上



18号住居跡



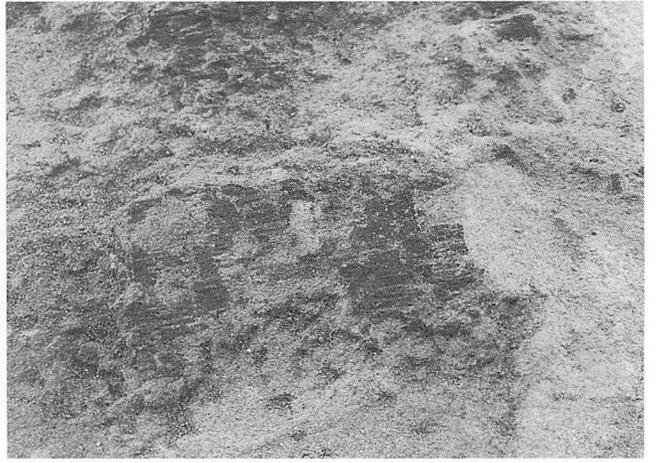
18号住居跡遺物



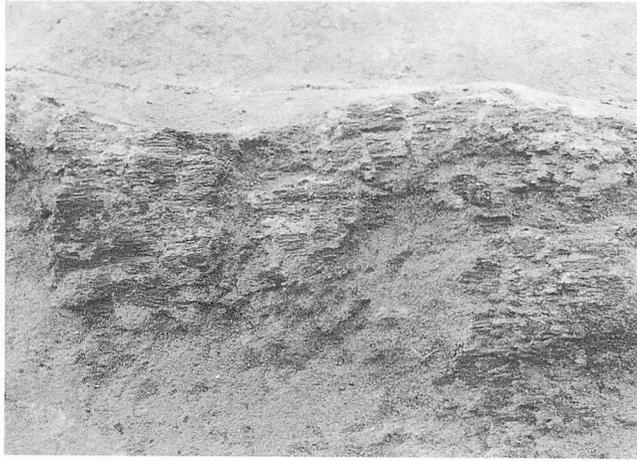
同左



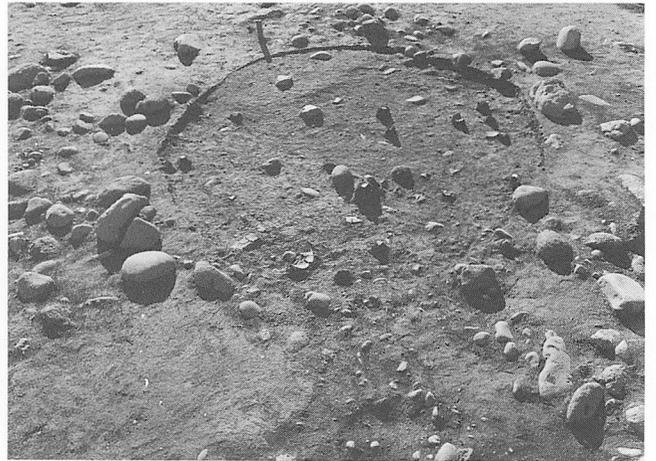
18号住居跡炭化材



同左



同上



26号住居跡



26号住居跡遺物



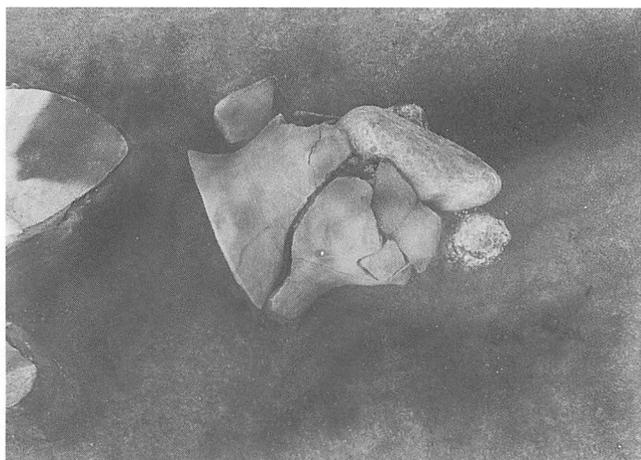
同左



35号住居跡



弥生時代遺物集中区



弥生時代遺物集中区



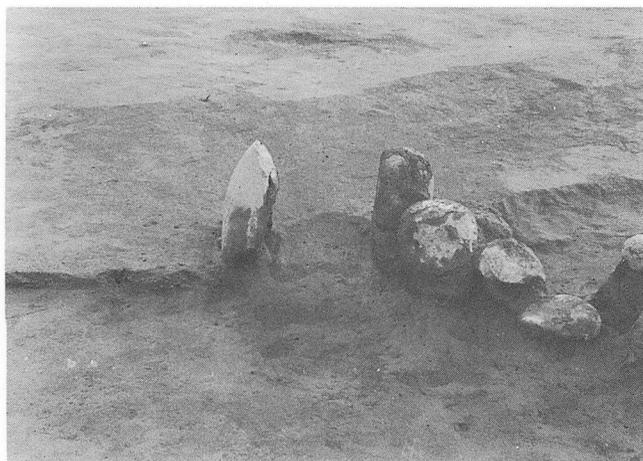
同左



同上



4号住居跡



4号住居跡カマド



5号住居跡



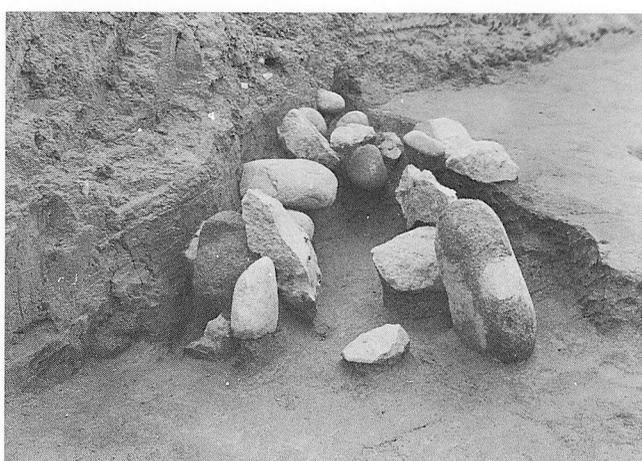
5号住居跡遺物



同左



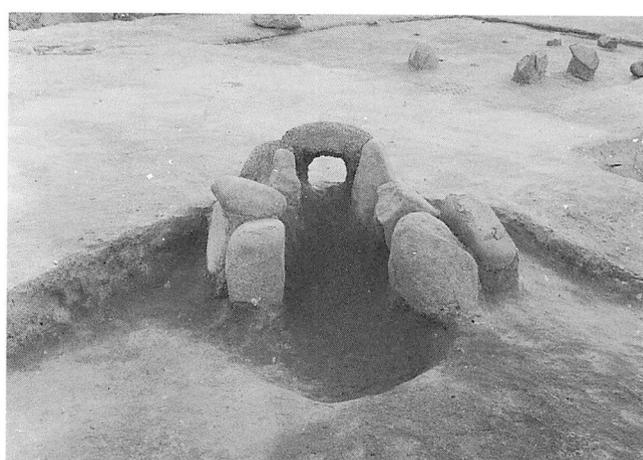
同カマド



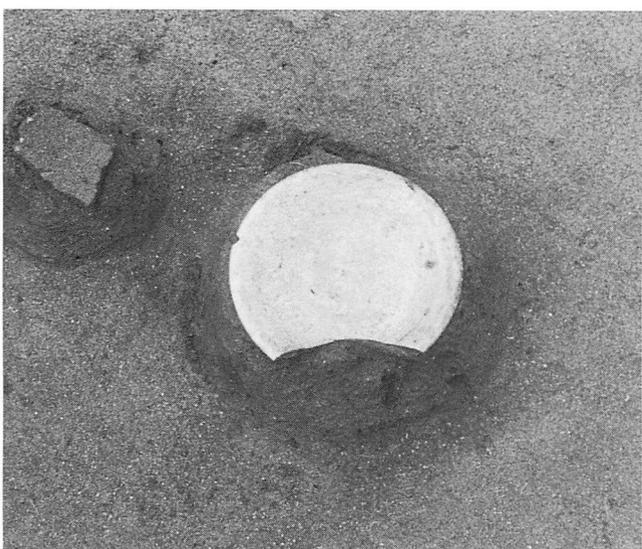
同左



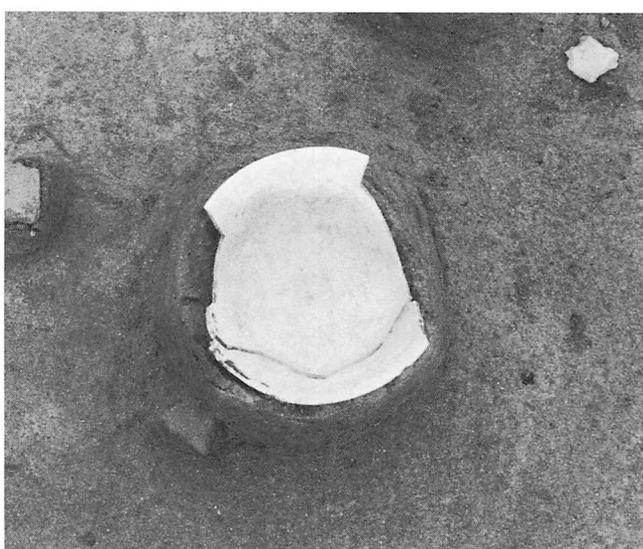
5号住居跡カマド



7号住居跡カマド



7号住居跡遺物



同左



10号住居跡



11号住居跡遺物



11号住居跡遺物



同左



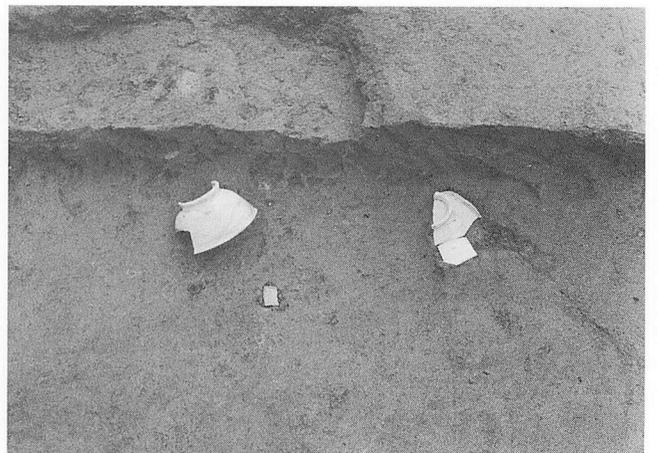
同上



21号~23号住居跡



24号・25号住居跡



25号住居跡遺物



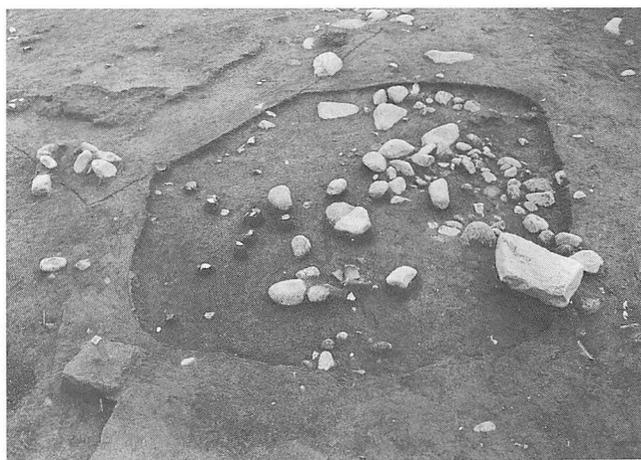
24号住居跡



同左カマド



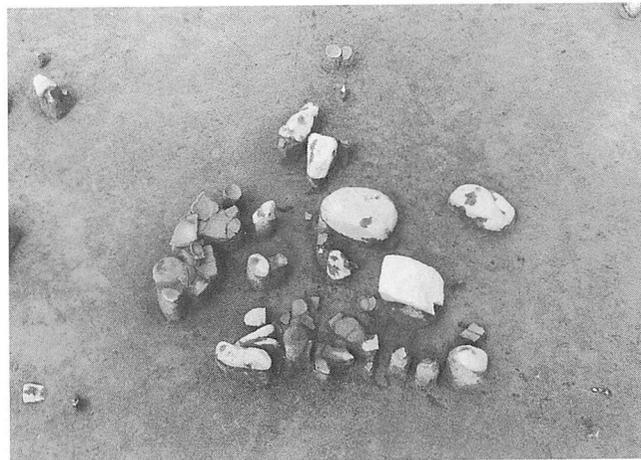
29号住居跡



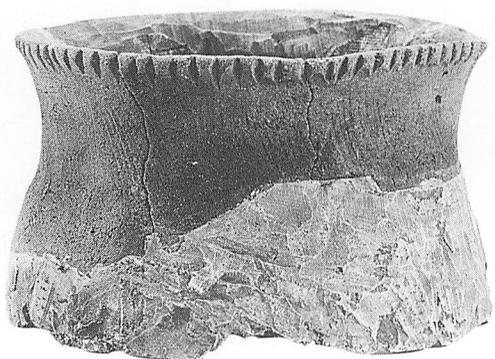
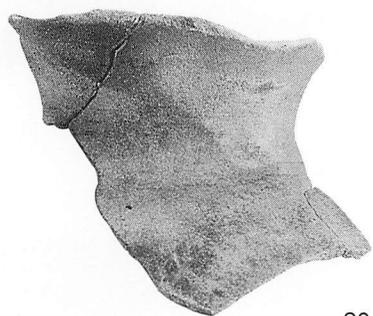
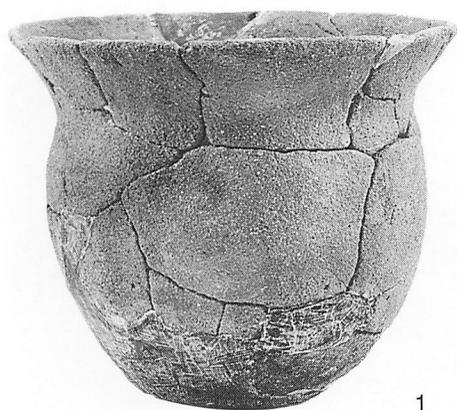
30号住居跡



H-20 グリッド遺物



同左



13

9

1

18

16

19

20

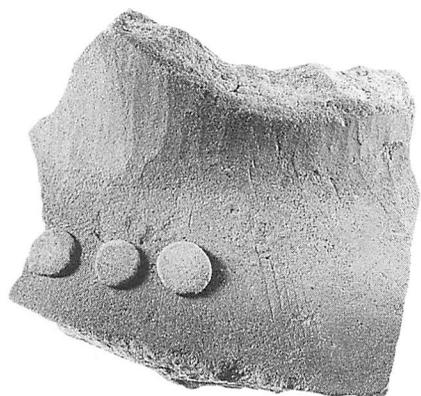
21

26

27

31

35



49



64



66



73



90



91



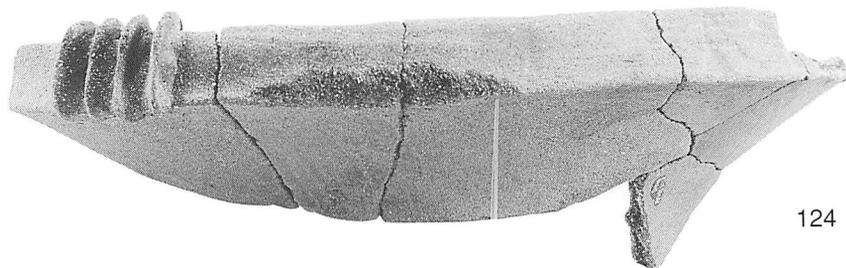
94



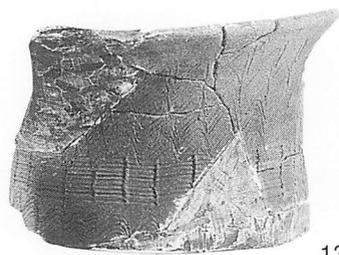
116



118



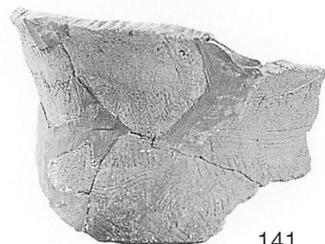
124



139



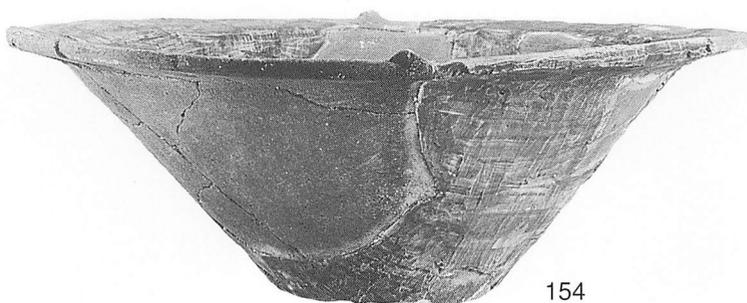
140



141



152



154



155



163



165

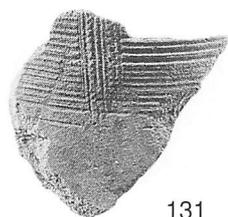


167



249





131



132



142



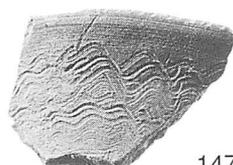
144



145



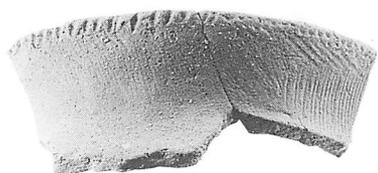
146



147



148



150



185



187



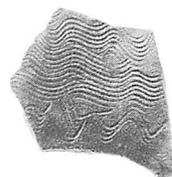
195



201



203



212



250



251



252



253



251



256



259



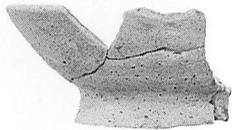
258



287



291



293



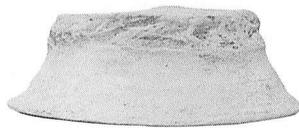
294



307



341



361



365



370



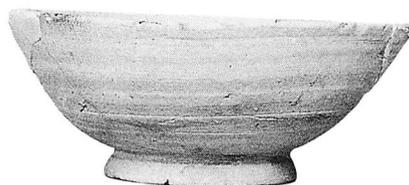
371



388



392



395



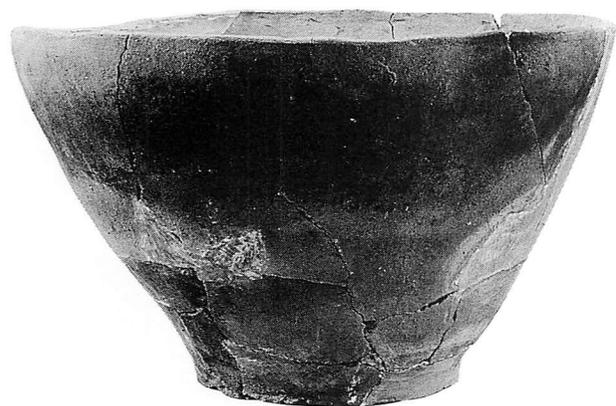
400



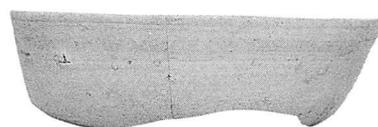
401



402



415



429



433



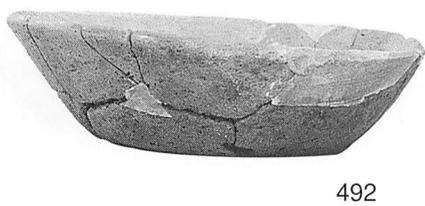
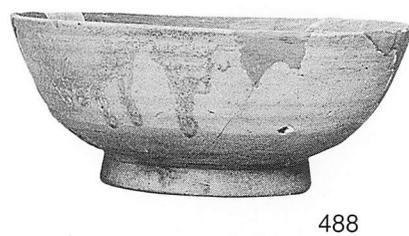
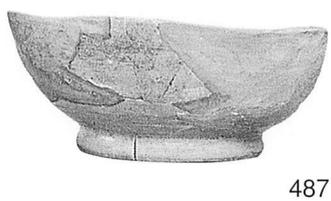
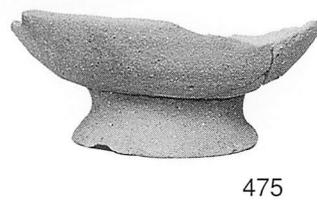
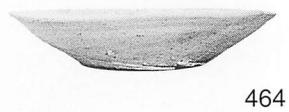
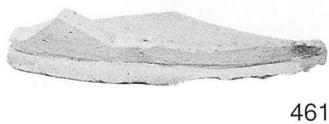
434



440

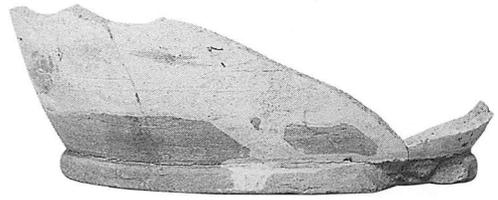


458





592



596



598



602



625



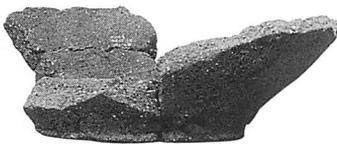
629



627



655



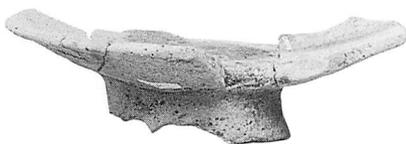
661



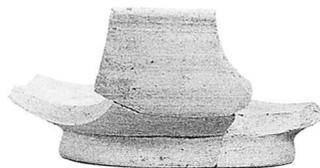
670



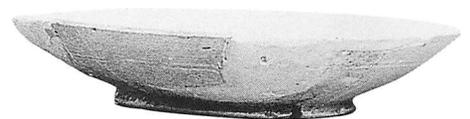
731



743



773



805



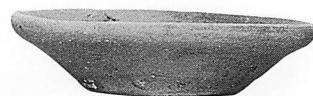
811



812



825



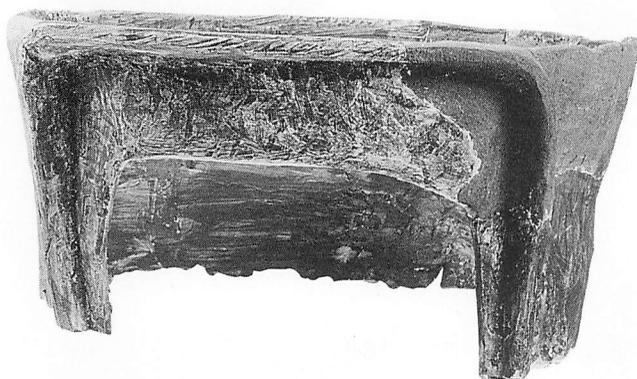
826



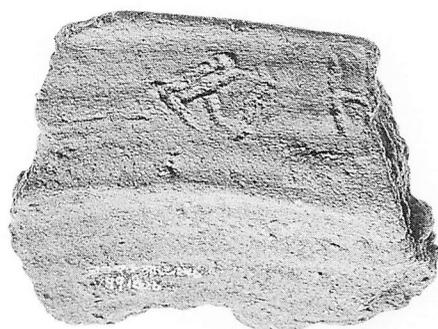
836



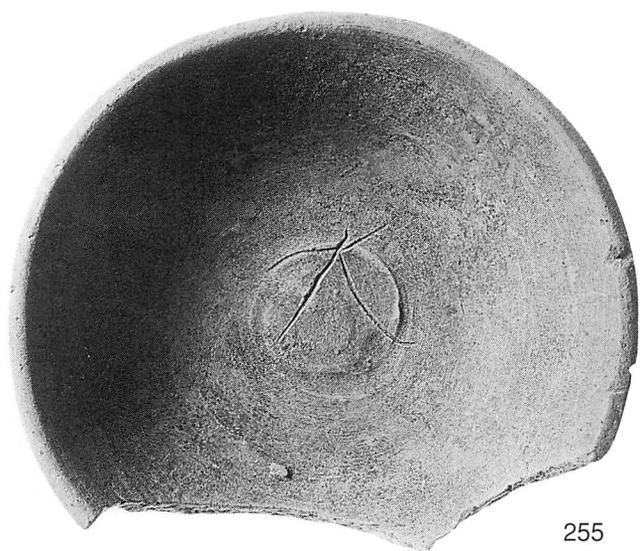
838



839



254



255



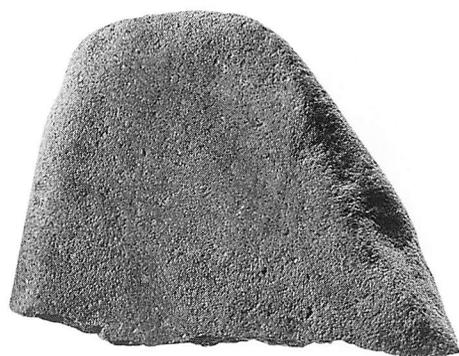
772



844



856



857



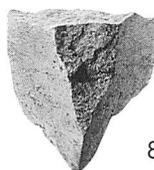
840



841



842



847



848



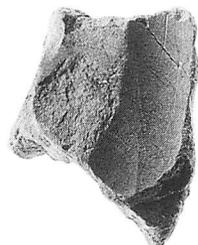
850



851



852



853



854



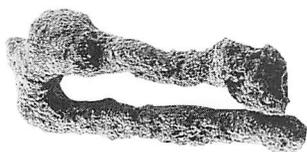
855



858



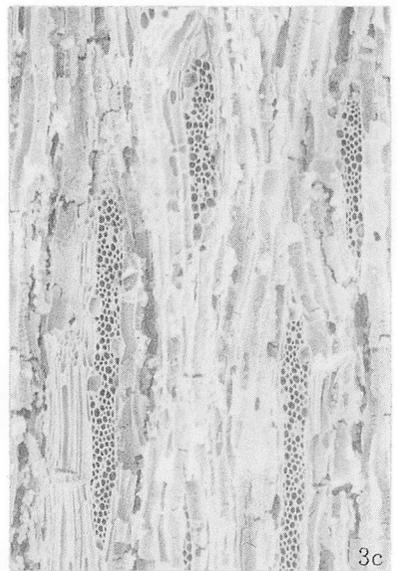
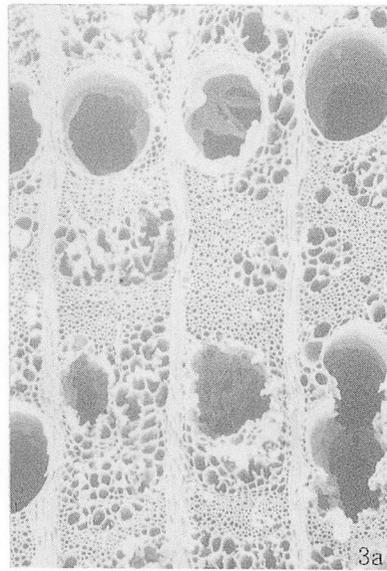
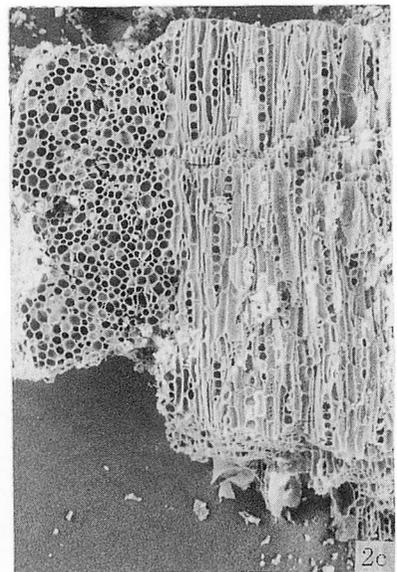
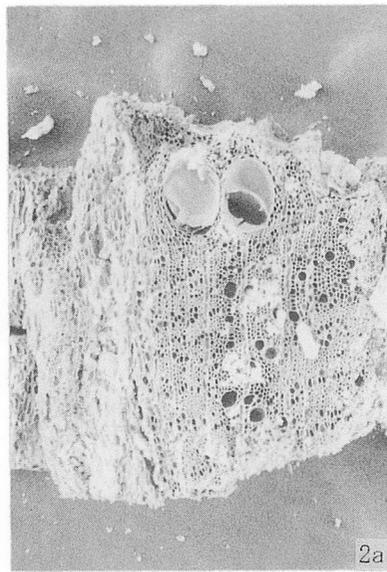
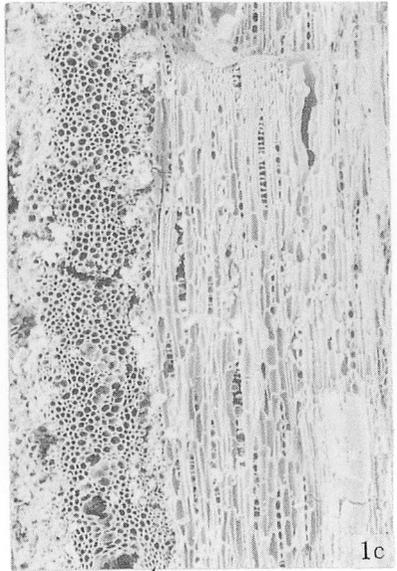
859



860



861



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (18号住 C-12)  
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (18号住 C-16)  
 3. ケヤキ (18号住 C-1)  
 a: 木口, b: 柃目, c: 板目

200 μm : a  
 200 μm : b, c

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	よこまちいせき							
書名	横町遺跡							
副書名	新環状・西関東道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第200号							
編著者名	長沢宏昌・三森鉄治							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町923番地 TEL 055-266-3881							
発行年月日	西暦 2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° , ' , ''	東経 ° , ' , ''	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よこまちいせき 横町遺跡	やまなしけんかすがい ちょうしもいわした 山梨県春日居町下岩 下字横町281-1番地外	19301		35° 40' 30''	138° 39' 12''	平成11年 7月1日～ 平成14年 3月29日	5,000m <sup>2</sup>	新環状・西関東 道路建設工事に 伴う埋蔵文化財 調査
		種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
		畑地	弥生時代 平安時代	弥生時代の住居跡 12軒、平安時代の 住居跡23軒、溝4 条、土坑		土器（弥生土器、平安時代 土師器、灰釉陶器）、土製 品（土笛）		

## 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第200集

# 横 町 遺 跡

— 新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

印刷日 2002年3月20日  
 発行日 2002年3月29日  
 編集 山梨県埋蔵文化財センター  
<http://www.yokogawa.co.jp/Measurement/Yamanashi/maibun/maibun.htm>  
 発行 山梨県教育委員会・山梨県土木部  
 印刷 横河グラフィックアーツ(株)  
 TEL 055(243)0548  
<http://www.yokogawa.co.jp/YGA/>

